

年報

平成30(2018)年度

Annual Report of Tokyo Metropolitan Industrial Technology Research Institute



企業ニーズを的確に捉え、進化するものづくりを支援

2018（平成 30）年度は、第三期中期計画（2016（平成 28）年度～2020 年度）の 3 年目として、重点研究分野である「環境・エネルギー」、「生活技術・ヘルスケア」、「機能性材料」、「安全・安心」の研究開発事業体制を強化し、中小企業の皆さまにご活用いただける技術シーズの創出に努めてまいりました。また、都産技研内の複数の組織を横断したチームを構成し、中小企業の課題を統合的に解決するプロジェクトである「協創的研究開発」を開始するなど、企業ニーズに応じたさまざまな事業に注力しました。

2018（平成 30）年 10 月、中小企業の IoT 化を支援するための「IoT 支援サイト」を開設しました。「東京都 IoT 研究会」のワーキンググループでは、IoT を導入した製品試作や製造工程管理などで成果が出始めています。障害者スポーツ研究開発推進事業も加速しており、製品化を目指した取り組みを行っています。航空機産業支援事業では、一貫生産した企業との共同試作品を海外展示会に出展し、高評価を得ています。ロボット産業活性化事業では、公募型共同研究開発事業において複数の案件が製品化を達成し、鉄道会社や商業施設と連携した実証実験を実施しました。

2018（平成 30）年度は、主要事業である依頼試験は約 14 万 9 千件、機器利用は約 15 万 8 千件、技術相談は約 14 万件と、前年度を上回る高い実績となりました。

ものづくりを取り巻く環境は、今後もこれまで以上に急速に進化していきます。中小企業がそのスピードに柔軟に対応できるよう、都産技研は「中小企業こそがイノベーションを起こす」を信念に支援体制を整え、技術相談や依頼試験、機器利用、研究開発など技術面でのサポートに引き続き注力いたします。中小企業の皆さま、関係機関の皆さまには、一層のご利用・ご支援をいただきますようお願い申し上げます。

2019 年 9 月

地方独立行政法人東京都立産業技術研究センター
理事長 奥村 次徳

平成 30 (2018) 年度 東京都立産業技術研究センター年報 目 次

1. 概要	
1.1 概要	1
1.2 組織	2
2. 研究開発の推進	
2.1 基盤研究・協創的研究開発	3
2.1.1 基盤研究	3
2.1.2 協創的研究開発	8
2.2 共同研究	9
2.3 外部資金導入研究・調査	13
2.3.1 提案公募型研究	13
2.3.2 受託研究	15
2.4 プロジェクト事業	15
2.4.1 ロボット産業活性化事業	15
2.4.2 中小企業への IoT 化支援事業	18
2.4.3 障害者スポーツ研究開発推進事業	20
2.4.4 航空機産業への参入支援事業	21
2.5 生活関連産業支援	23
2.6 外部発表	25
2.7 職員の受賞	47
3. 中小企業の製品・技術開発、新事業展開を支える技術支援	
3.1 技術相談	49
3.1.1 技術相談	49
3.1.2 総合支援窓口	50
3.1.3 専門相談員	51
3.1.4 実地技術支援事業	51
3.2 依頼試験	53
3.2.1 依頼試験	53
3.2.2 オーダーメイド試験	57
3.2.3 校正事業者および試験所認定制度への取り組み	57
3.2.4 環境計量証明事業の登録	58
3.3 機器整備	59
3.3.1 機器整備一覧	59
3.3.2 経済産業省平成 29 年度補正予算事業による機器整備 およびその取り組み	60
3.4 機器利用	62
3.4.1 機器利用ライセンス制度	63

3.4.2	機器利用可能情報およびインターネット経由での 予約申し込み受け付けの提供	64
3.5	災害復興支援	65
3.5.1	都内中小企業および被災地企業の利用料金の減免	65
3.5.2	工業製品等の放射線量測定試験	66
3.5.3	東京都との協定に基づく放射線量測定試験	66
3.5.4	公設試験研究機関との震災復興に関する連携事業	66
3.6	高付加価値開発支援	67
3.6.1	3Dものづくりセクター	67
3.6.2	先端材料開発セクター	68
3.6.3	複合素材開発セクター	69
3.6.4	オーダーメイド開発支援	70
3.6.5	製品開発支援ラボ	70
3.6.6	共同研究開発室	71
3.7	品質評価支援（実証試験セクター）	72
3.8	技術経営支援	73
3.8.1	知的財産権の取得	73
3.8.2	技術審査	107
3.8.3	海外展開技術支援	108
4.	多様な主体による連携	
4.1	産学公金連携	114
4.1.1	東京イノベーションハブの活用	114
4.1.2	マッチングの場の提供	115
4.1.3	異業種交流事業	116
4.1.4	業種別交流会	117
4.1.5	技術研究会	118
4.2	行政等支援機関連携	119
4.2.1	協定・覚書締結一覧	119
4.2.2	区市町村などとの連携	120
4.2.3	金融機関との連携	123
4.2.4	大学・研究機関等との連携	124
4.2.5	首都圏公設試験研究機関との連携	126
4.2.6	公益財団法人東京都中小企業振興公社等との連携	128
4.2.7	産業技術連携推進会議	130
4.2.8	学協会連携事業	133
5.	東京の産業を支える産業人材の育成	
5.1	技術セミナー・講習会	135
5.2	オーダーメイドセミナー	141
5.3	講師・委員等の派遣	142

5.3.1	委員等の派遣	142
5.3.2	講師等の派遣	142
5.4	インターンシップなどの受け入れ	143
5.4.1	インターンシップの受け入れ	143
5.4.2	研修学生の受け入れ	143
6.	情報発信・情報提供の推進	
6.1	イベント開催	145
6.1.1	TIRI クロスミーティング	145
6.1.2	施設公開	148
6.1.3	産業交流展	150
6.1.4	その他イベント	150
6.2	見学	151
6.3	展示会出展およびセミナーの開催	151
6.3.1	展示会出展	151
6.3.2	ものづくりセミナー	154
6.4	刊行物	155
6.4.1	刊行物	155
6.4.2	年報	155
6.4.3	TIRI NEWS	155
6.5	都産技研ウェブサイト	156
6.6	都産技研メールニュース	157
6.7	マスコミ報道	157
6.8	図書室	159
7.	業務運営	
7.1	組織運営	160
7.1.1	都産技研戦略ロードマップ	160
7.1.2	業務改革	160
7.1.3	人材育成	161
7.2	都産技研情報システム	162
7.2.1	概要	162
7.2.2	業務運営	162
7.3	業務実績報告書と業務実績評価	163
7.3.1	業務実績報告書の提出	163
7.3.2	業務実績評価	163
7.4	施設整備	164
7.4.1	本部	164
7.4.2	城東支所	165
7.4.3	墨田支所 生活技術開発セクター	165
7.4.4	城南支所	165

7.4.5	多摩テクノプラザ	165
7.5	安全衛生管理	166
7.5.1	放射線安全管理	166
7.5.2	安全衛生管理	168
7.5.3	リスクマネジメント	170
7.5.4	化学物質等管理	170
7.6	情報開示	170

資料

1	沿革	171
2	施設	172
3	東京都地方独立行政法人評価委員会試験研究分科会	180
4	地方独立行政法人東京都立産業技術研究センター憲章	181
5	環境方針	182
6	リスクマネジメントに関する基本方針	183
7	第三期中期計画	184
8	平成30年度計画	197
9	職員名簿	209

1. 概 要

1.1 概要

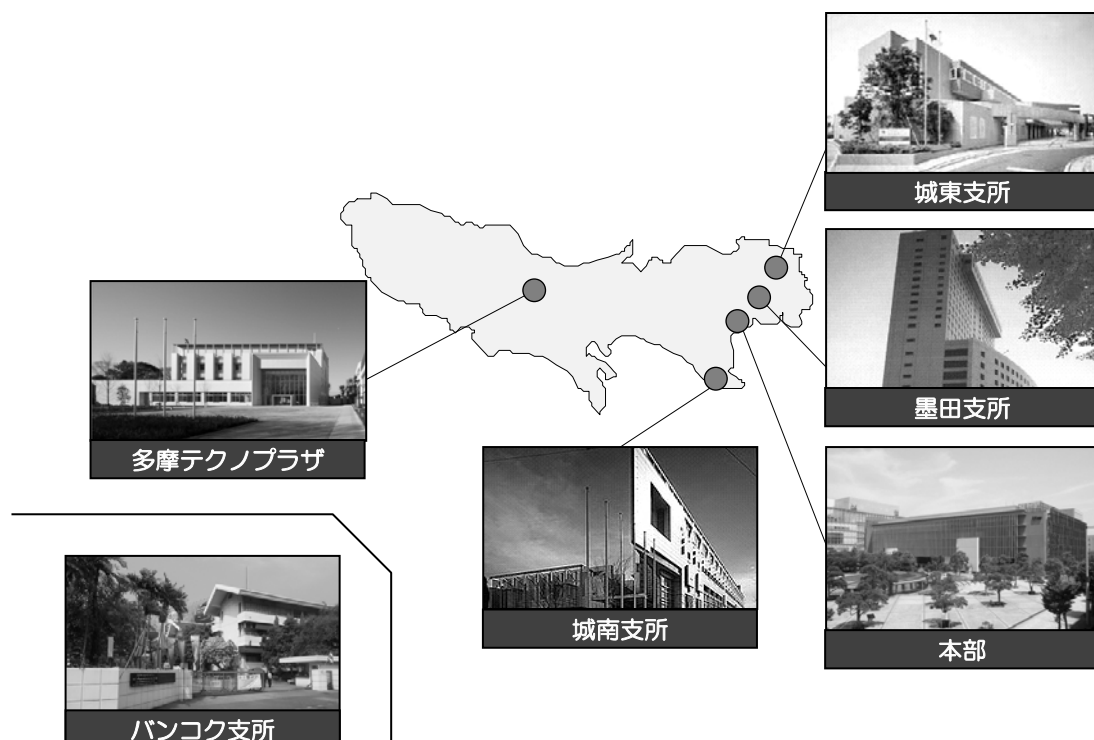
東京都立産業技術研究センター（以下、「都産技研」という。）は、2006（平成 18）年 4 月に全国に先駆けて地方独立行政法人へ移行した公設試験研究機関（以下、「公設試」という。）である。2016（平成 28）年度から第三期中期計画期間を開始し、2018（平成 30）年度は 3 年目にあたる。第三期では、第二期で得られた事業成果を有効活用しつつ、研究開発活動によって東京の成長産業支援を図るとともに、開発型中小企業支援をより充実させる。この第三期においては、従来以上に都内中小企業の技術支援を強化すべく、5 つの方針に基づき活動している。

- (1) 研究開発活動による東京の成長産業支援
- (2) プロダクトイノベーションの推進による開発型中小企業の支援
- (3) 中小企業の海外展開を支える技術支援
- (4) 多様な機関との交流連携の推進
- (5) 高度な産業人材の育成

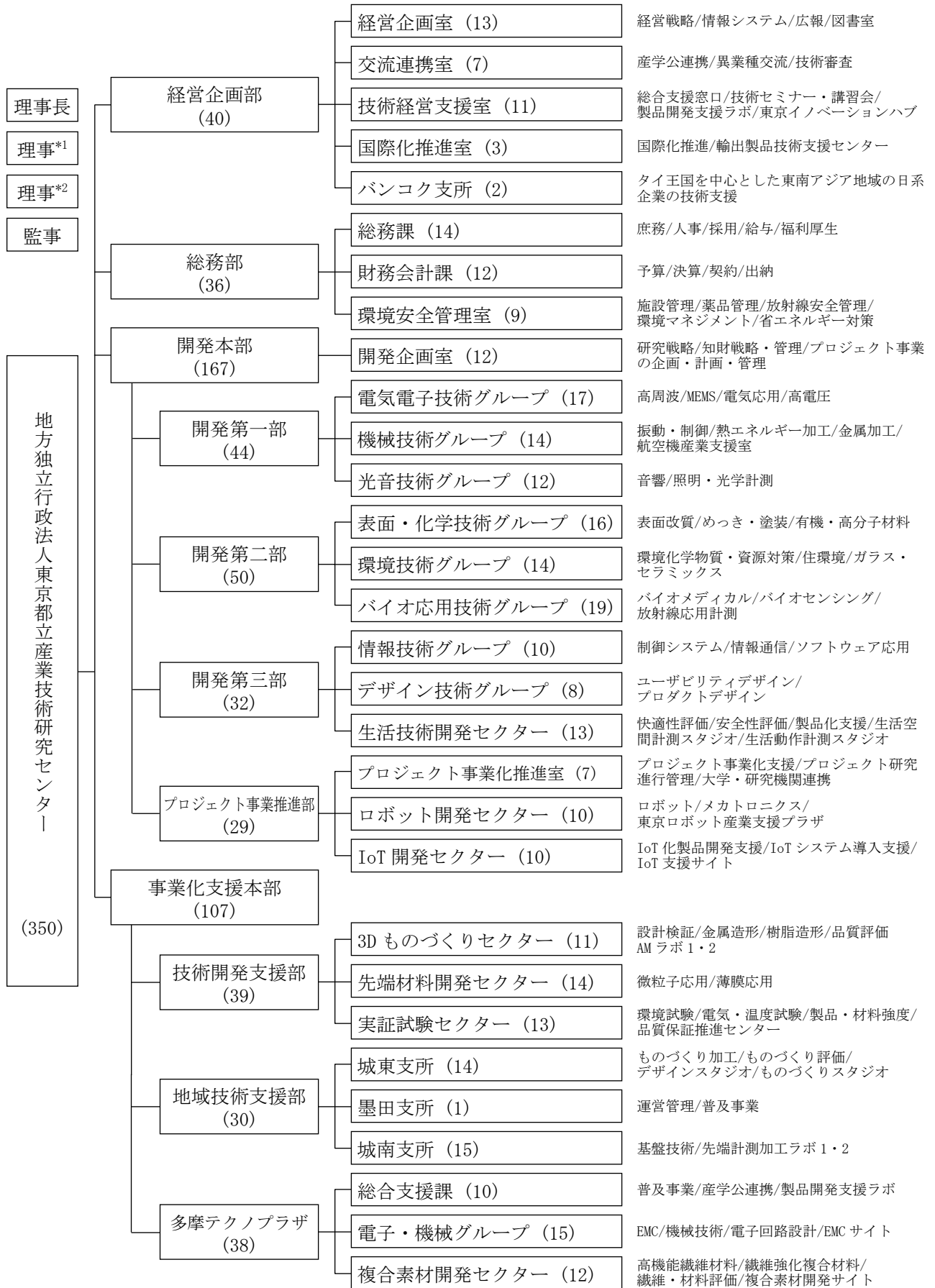
2018（平成 30）年度は、「中小企業への IoT 化支援事業」として、IoT を活用した製品・サービスの開発支援の拠点となる「IoT 支援サイト」を 10 月 15 日に開設した。また、人間の特性、生活空間・環境を活かしたものづくり支援を拡充すべく墨田支所に「生活動作計測スタジオ」を整備した。

新規プロジェクトである「協創的研究開発」では、製品展開を意識した中小企業のものづくり支援を強化するため、専門分野や所属部署の垣根を越えた横断的な研究開発を 2 件実施した。

都産技研は都民の期待に応えつつ、中小企業に対する事業化支援、研究開発、技術移転、人材育成などの総合的な技術支援によって、東京の産業発展と都民生活の向上を目指している。



1.2 組織



注1：()内の数字は職員数。ワイドキャリア (12日型、時間型)を含む。(2019年3月31日現在)

注2：理事*1は開発本部長を兼務。理事*2は事業化支援本部長を兼務。

経営企画部長は国際化推進室長、多摩テクノプラザ所長は地域技術支援部長をそれぞれ兼務。

2. 研究開発の推進

2016（平成 28）年度から始まった第三期中期計画では、東京の将来の活力を支える成長産業分野である「環境・エネルギー」、「生活技術・ヘルスケア」、「機能性材料」、「安全・安心」の4つの技術分野を重点として、研究開発活動によって都内中小企業の新事業への展開などを促進する。

2018（平成 30）年度は、基盤研究 94 テーマ、協創的研究開発 2 テーマ、共同研究 70 テーマ、提案公募型研究 39 テーマ、受託研究 19 件を実施した。これらの研究成果については、国内外の学協会などにおいて公表と普及に努めた。

2.1 基盤研究・協創的研究開発

2.1.1 基盤研究……………94 テーマ

中小企業の技術ニーズを踏まえ、付加価値の高い新製品・新サービス開発や技術的課題の解決に必要なシーズの蓄積、今後発展が予想される技術分野の強化、都市課題の解決や都民生活の向上に資する都産技研独自の研究である。

2018（平成 30）年度開始分

No.	テーマ名	所属	研究者名	期間
① 環境・エネルギー分野				
1	洗浄槽内における油脂の再付着防止システムの開発	表面・化学技術 G バイオ応用技術 G	石田祐也、村井まどか、 佐熊範和 畑山博哉	2018.4～2019.3
2	環境低負荷型黒色ニッケルめっきの開発	表面・化学技術 G	桑原聡士、竹村昌太、 土井 正	2018.4～2019.3
3	天然芳香族化合物資源を用いた新規材料への変換の検討	表面・化学技術 G	木下健司	2018.4～2019.3
4	ファインバブルを用いた環境負荷低減めっき洗浄技術の確立	環境技術 G 表面・化学技術 G 生活技術開発 S	森久保 諭、榎本大佑、 田熊保彦 小坂幸夫 西田 葵	2018.4～2019.3
5	亜鉛含有排水処理スラッジの有効利用を目指した陰イオン類吸着剤の設計	環境技術 G 表面・化学技術 G	榎本大佑、森久保 諭、 田熊保彦 小坂幸夫	2018.4～2019.3
6	化合物系(CIS系)太陽電池パネルの有価物分離・回収方法の検討	環境技術 G	平井和彦、中澤亮二、 亀崎 悠	2018.4～2019.3
7	LowE ガラスからの銀・ガラス回収技術の開発	環境技術 G	亀崎 悠、中澤亮二、 平井和彦	2018.4～2019.3
8	新規エネルギー製造法に関する研究	環境技術 G バイオ応用技術 G 3D ものづくり S	小林真大、小沼ルミ、 田熊保彦、森久保 諭、 平井和彦 月精智子、中川朋恵、 瀧本悠貴、木下真梨子 紋川 亮	2018.4～2019.3
9	有価金属回収システムの基礎検討	環境技術 G 城南支所	梶山哲人 井上 潤	2018.4～2019.3
10	ソフトセンサーによる化学プロセス管理技術の開発	環境技術 G	田熊保彦	2018.4～2019.3

2018(平成30)年度 年報

No.	テーマ名	所属	研究者名	期間
11	基幹化合物と電気エネルギーの同時生産を可能とするフローセル型バイオ燃料電池の構築	バイオ応用技術 G	中川朋恵	2018. 4～2019. 3
12	安定かつ高効率な酵素担持体の開発	バイオ応用技術 G 3D ものづくり S	木下真梨子、瀧本悠貴、 月精智子 紋川 亮	2018. 4～2019. 3
13	OPV 材料としての非対称ポルフィリン錯体の創製	先端材料開発 S	小汲佳祐	2018. 4～2019. 3
14	第一原理計算を用いた熱電材料の探索及び物性評価とデバイス構築	先端材料開発 S 電気電子技術 G 機械技術 G	並木宏允、林 孝星 太田優一 岩岡 拓	2018. 4～2019. 3
15	ドライプレス金型を用いた温間・熱間領域における塑性変形挙動の解明	城南支所	玉置賢次	2018. 4～2019. 3
② 生活技術・ヘルスケア分野				
16	スポーツ競技における打音の快音化評価方法の開発	光音技術 G	宮入 徹、服部 遊	2018. 4～2019. 3
17	青色光網膜障害の実用的な測定方法の開発	光音技術 G	秋葉拓也、澁谷孝幸	2018. 4～2019. 3
18	有機ハロゲンパーオキシドによるヨウ素酸化反応を利用した新規ゲル線量計の開発	バイオ応用技術 G	中川清子	2018. 4～2020. 3
19	3次元微小力学制御による幹細胞の分化制御培養システムの開発	バイオ応用技術 G 交流連携室	大藪淑美、柚木俊二 藤井恭子	2018. 4～2019. 3
20	ゲル配向紡糸技術の改良研究	バイオ応用技術 G 光音技術 G	柚木俊二 海老澤瑞枝	2018. 4～2019. 3
21	電子線照射による瞬発的ゲル化技術を利用した水溶性高分子配向化技術の開発	バイオ応用技術 G 光音技術 G	永川栄泰、柚木俊二 海老澤瑞枝、磯田和貴	2018. 4～2019. 3
22	人体解剖学及び生理学に基づいた体温調整モジュール構築のための 3D カutting 技術の開発	デザイン技術 G バイオ応用技術 G 生活技術開発 S	平山明浩 八谷如美 山口隆志	2018. 4～2019. 3
23	感性価値デザインのための評価手法の検討	デザイン技術 G	橋本みゆき、森 豊史	2018. 4～2019. 3
24	コンピュータシミュレーションと AI を融合した自動構造設計技術の開発	生活技術開発 S 情報技術 G デザイン技術 G	山口隆志 大平倫宏 酒井日出子	2018. 4～2020. 3
25	呈色反応を利用したヒト由来不快臭気成分の定量化技術の検討	生活技術開発 S	佐々木直里	2018. 4～2019. 3
26	接触圧力計測システムの開発	生活技術開発 S	後濱龍太、添田 心、 山田 巧	2018. 4～2019. 3
③ 機能性材料分野				
27	粉末冶金法を用いた軽量HEA焼結体の創製	機械技術 G	岩岡 拓、猿渡直洋	2018. 4～2019. 3
28	航空機用難削材の高速切削加工のための刃先冷却法の開発	機械技術 G	國枝泰博、齋藤庸賀、 奥出裕亮、中村健太	2018. 4～2019. 3
29	超音波探傷法による加工変質層評価用小型探触子の開発	機械技術 G	西村信司、伊藤 清、 青沼昌幸	2018. 4～2019. 3
30	絞り加工における耐凝着性、極圧性に与えるポリマー型極圧剤と従来型極圧剤の組合せ効果	機械技術 G	中村健太、齋藤庸賀	2018. 4～2019. 3
31	Ti合金の高精度塑性加工法の開発	機械技術 G	奥出裕亮、岩岡 拓	2018. 4～2019. 3
32	微細粒子添加摩擦攪拌プロセスを用いたマグネシウム合金鋳造材の熱処理の効率化	機械技術 G	猿渡直洋、岩岡 拓、 中村 勲、青沼昌幸	2018. 4～2019. 3

No.	テーマ名	所属	研究者名	期間
33	Drop Tube法を用いた多元系高機能性材料のためのマイクロ組織制御技術の検討	機械技術G	小林 旦	2018. 4～2019. 3
34	従動型ロータリー切削加工におけるNi基耐熱合金の加工特性及び最適加工条件等の解明	機械技術G	片桐 嵩	2018. 4～2019. 3
35	位相シフトデジタルホログラフィによる薄膜材料における破損モニタリングシステムの開発	光音技術G 先端材料開発S	平 健吾、海老澤瑞枝、 磯田和貴 並木宏允	2018. 4～2019. 3
36	生産性に優れた生物模倣フィルムに関する研究	表面・化学技術G	安田 健	2018. 4～2020. 3
37	撥水木材表層形成技術の開発	表面・化学技術G 生活技術開発S 実証試験S	樋口智寛 西田 葵 松原独歩	2018. 4～2019. 3
38	スーパーエンジニアリングプラスチック材料に適しためっき技術の開発	表面・化学技術G	竹村昌太、桑原聡士、 土井 正、寺西義一	2018. 4～2019. 3
39	高透過性レーザと吸収剤による造形品の高精細化に関する研究	3DものづくりS 城南支所 光音技術G バイオ応用技術G	山内友貴 古杉美幸 磯田和貴 月精智子	2018. 4～2019. 3
40	AMによる三次元回路部品の開発	3DものづくりS 表面・化学技術G 電気電子技術G	小林隆一 竹村昌太、桑原聡士 新井宏章	2018. 4～2019. 3
41	金属積層造形の割れ防止のための評価および予測技術の確立	3DものづくりS	千葉浩行、藤巻研吾、 大久保 智	2018. 4～2019. 3
42	金属AMにおける内部欠陥抑制と金属組織制御プロセスの開発	3DものづくりS 城南支所 実証試験S	大久保 智、千葉浩行、 藤巻研吾、村上祐一、 横山幸雄 古杉美幸 新垣 翔	2018. 4～2019. 3
43	金属AMにおける複雑形状の造形を可能にするサポート技術の開発	3DものづくりS	藤巻研吾、千葉浩行、 大久保 智	2018. 4～2019. 3
44	酸化スズ系透明導電膜の新規電気分解技術の開発	先端材料開発S	小川大輔、森河和雄、 並木宏允	2018. 4～2019. 3
45	有機分子内包ナノポーラスシリカを使用した蛍光材料の開発	先端材料開発S 城南支所	林 孝星、渡辺洋人 藤巻康人	2018. 4～2019. 3
46	機能性セラミックスのコンポジット作製技術の開発	先端材料開発S 表面・化学技術G	小林宏輝、並木宏允、 立花直樹 佐熊範和	2018. 4～2019. 3
47	非金属メタリック顔料の開発	城南支所 先端材料開発S 光音技術G	藤巻康人 小汲佳祐 海老澤瑞枝	2018. 4～2019. 3
48	タンタル二次電極マスクを用いたパルス放電GD-MSによるセラミックス焼結体中の微量不純物分析	城南支所	山田健太郎	2018. 4～2019. 3
49	天然由来ポリアミド系複合材料のトライボロジー特性向上に関する研究	城南支所	井上 潤	2018. 4～2019. 3
50	疑似体液中でのマグネシウム合金材料の溶出挙動評価	城南支所 先端材料開発S	湯川泰之、山田健太郎 森河和雄	2018. 4～2019. 3
51	吸水性データ補正のための標準布の提案	複合素材開発S	小柴多佳子、岩崎謙次、 池田善光	2018. 4～2019. 3
52	金属-炭素繊維複合体によるスケール除去技術の開発	複合素材開発S	杉森博和	2018. 4～2019. 3

2018(平成30)年度 年報

No.	テーマ名	所属	研究者名	期間
53	形状追従性に優れた複合材用基材の開発	複合素材開発S 電子・機械G	唐木由佑、窪寺健吾、 武田浩司 高橋俊也	2018.4～2019.3
④ 安全・安心分野				
54	28GHz帯OAM波給電回路の開発	電気電子技術G	渡部雄太、藤原康平、 山岡英彦	2018.4～2019.3
55	マイクロダイのハンドリング技術の開発	電気電子技術G バイオ応用技術G	山岡英彦、永田晃基 八谷如美	2018.4～2019.3
56	部分放電試験における模擬サンプルを用いた放電特性の検討	電気電子技術G	黒澤大樹	2018.4～2019.3
57	AM造形物における絶縁評価・設計技術の検討	電気電子技術G 3DものづくりS 城東支所	新井宏章 山内友貴 木暮尊志	2018.4～2019.3
58	超広帯域変調帯域を有するW帯ミリ波デバイスの特性抽出方法の開発	電気電子技術G	藤原康平	2018.4～2019.3
59	第一原理計算による無鉛圧電性半導体材料の探索とデバイス応用	電気電子技術G	太田優一	2018.4～2020.3
60	低比速度遠心ポンプの新たな羽根車形状による不安定特性の一解決法	機械技術G 城南支所	小西 毅 平野康之	2018.4～2019.3
61	工業用デジタルラジオグラフィにおける散乱線影響	バイオ応用技術G	河原大吾	2018.4～2019.3
62	スペクトル解析に基づくX線インライン検査の高識別度化の実証	バイオ応用技術G	河原大吾、片岡憲昭	2018.4～2019.3
63	電子線照射を用いた卵殻層の殺菌と内部線量低減法の開発	バイオ応用技術G	片岡憲昭、関口正之、 河原大吾	2018.4～2019.3
64	広角カメラ映像からの人物行動解析手法に関する研究	情報技術G	三木大輔	2018.4～2019.3
65	属性ベース暗号を利用した安全かつ効率的なファイルシステムの開発	情報技術G	大平倫宏	2018.4～2019.3
66	電氣的適合試験向け試験デバイスの開発	情報技術G	岡部 忠	2018.4～2019.3
67	訪日外国人向け観光情報検索システムの開発	情報技術G	阿部真也	2018.4～2019.3
68	AutoEncoderによる次元圧縮を用いた高速類似検索手法の提案	情報技術G	鈴木 聡	2018.4～2019.3
69	製品開発におけるカラーユニバーサルデザインの研究	デザイン技術G	角坂麗子	2018.4～2019.3
70	希少元素を含まない光学デバイス用色素材料の開発	先端材料開発S	三柴健太郎	2018.4～2019.3
71	低温域校正のための抵抗温度計校正技術の確立	実証試験S	佐々木正史、沼尻治彦、 倉持幸佑	2018.4～2019.3
72	異方性材料における強度設計指針の検討	実証試験S	小船論史、新垣 翔	2018.4～2019.3
73	被締結部材剛性の異なるボルト締結体へのトルク法の適用	実証試験S	松原独歩	2018.4～2019.3
74	金属粉末積層造形材料の超音波疲労試験による疲労特性評価	実証試験S 3DものづくりS	新垣 翔、松原独歩、 小船論史、倉持幸佑 大久保 智	2018.4～2019.3
75	電気計測器一般校正試験への不確かさ表記拡大に向けた不確かさ評価技術の確立	実証試験S	倉持幸佑、佐々木正史、 沼尻治彦	2018.4～2019.3
76	工場等における熱電対校正試験技術の確立	実証試験S	沼尻治彦、佐々木正史、 倉持幸佑	2018.4～2019.3

No.	テーマ名	所属	研究者名	期間
77	結露・流速環境に向けた熱伝導式湿度センサの繰り返し測定における安定化の検討	城東支所	豊島克久	2018.4～2019.3
78	ナットを用いないねじ締結体における締付特性評価試験方法の確立	城東支所	櫻庭健一郎	2018.4～2019.3
79	X線CT装置を用いた寸法測定技術の高度化	城南支所	竹澤 勉、樋口英一	2018.4～2019.3
80	電子伝導型塗膜を活用した電波抑制シートの開発	電子・機械G	福田純子	2018.4～2019.3
81	無線LAN用薄型電波吸収体の開発	電子・機械G 電気電子技術G	小畑 輝、高橋文緒 渡部雄太	2018.4～2019.3
82	殿部組織厚み推定方法の高精度化のための殿部コンピュータモデル構築	生活技術開発S 情報技術G	村上知里 金田泰昌	2018.4～2019.3
⑤ ものづくり要素技術				
83	金属部品を対象とした内部欠陥検出技術の開発	情報技術G	富山真一	2018.4～2019.3
84	量子ドット複合光触媒の開発と環境浄化材料への応用	先端材料開発S	渡辺洋人、染川正一	2018.4～2019.3
85	非接触三次元形状測定器の試験評価手法としての適用についての研究	城東支所 3DものづくりS	木暮尊志、小野澤明良、 櫻庭健一郎、豊島克久 村上祐一	2018.4～2019.3
86	難加工材用ダイヤモンド工具の高効率共擦り研磨法の開発	城南支所	平野康之	2018.4～2019.3
87	静電植毛加工の高品質化を目指した静電場解析の活用	電子・機械G	長谷川 孝、小畑 輝、 鈴木悠矢	2018.4～2019.3
88	現場環境における三次元測定機の温度補正の評価	電子・機械G 3DものづくりS	大西 徹 村上祐一	2018.4～2019.3
89	可視光全光・分光を用いた閾値処理による特徴抽出	複合素材開発S 電子・機械G	宇井 剛 高松聡裕	2018.4～2020.3

※ G:「グループ」の略、S:「セクター」の略

2017 (平成 29) 年度開始分 (継続課題)

① 環境・エネルギー分野				
90	超低摩擦摺動の発現とその実用技術開発	表面・化学技術G 先端材料開発S	徳田祐樹、木下健司、 川口雅弘 渡邊禎之	2017.4～2019.3
② 生活技術・ヘルスケア分野				
91	改良型レーザーマイクロダイセクターと酵母由来可溶化因子 Unfoldin による加齢性蛋白凝集疾患群早期確定診断システムの開発とその波及効果	バイオ応用技術G 3DものづくりS	八谷如美 紋川 亮	2017.4～2019.3
③ 機能性材料分野				
92	銀ナノ粒子ペーストの光学的機能の探索と応用	光音技術G 先端技術開発S 生活技術開発S	海老澤瑞枝、平 健吾、 磯田和貴 小林宏輝 山口隆志	2017.4～2019.3
93	フィラー充填材料の物性評価と構造解析	生活技術開発S	飛澤泰樹	2017.4～2019.3
94	ナノファイバーを用いた粒子設計による機能性材料の創製	先端材料開発S 城南支所	柳 捷凡 玉置賢次	2017.4～2019.3

※ G:「グループ」の略、S:「セクター」の略

2.1.2 協創的研究開発……………2 テーマ

産業構造の変化などを背景に生まれた課題を都産技研内の組織の垣根を乗り越え、複数の組織を横断したチームを構成し、統合的に解決する理事長提唱のプロジェクトである。

都産技研内の事業活性化や職員の意識改革を促す一方、魅力ある製品への展開を意識した中小企業のものづくり支援を一層強化することを目指している。

No.	テーマ名	所属	研究者名	期間
1	AM材料のデータベース化とその連携に関する協創的研究	3Dものづくり S 先端材料開発 S 実証試験 S 城東支所 複合素材開発 S バイオ応用技術 G 情報技術 G	山内友貴、小林隆一、村上祐一、藤巻研吾、大久保 智、千葉浩行、三浦由佳 林 英男、小汲佳祐 福田良司、小船諭史、新垣 翔 木暮尊志、上野明也 杉森博和、唐木由佑 月精智子、中川朋恵、瀧本悠貴 富山真一	2018.5～2020.3
2	材料化学・情報科学・物理学・細胞生物学のデータ連携による革新的3D bioprinting 技術の創出	バイオ応用技術 G 機械技術 G デザイン技術 G 3Dものづくり S	畑山博哉、成田武文、永川栄泰、大藪淑美 奥出裕亮 橋本みゆき、福原悠太 藤巻研吾	2018.5～2019.3

※ G:「グループ」の略、S:「セクター」の略

2.2 共同研究……………70 テーマ

企業や業界団体、大学、他の試験研究機関などと協力し、それぞれが持つ技術とノウハウを融合して、応用研究や一歩進んだ技術の事業化・製品化に向けた実用研究を共同で推進することにより、効果的かつ効率的な研究成果の実現を図る研究である。

No.	テーマ名	所属	研究者名	期間
1	超広帯域変調信号を取り扱うミリ波デバイスの非線形歪補正の研究開発	電気電子技術G	藤原康平	2018.11～2019.9
2	光学計測用フィルターの試作	電気電子技術G 光音技術G 3DものづくりS	宮下惟人、永田晃基、 山岡英彦、小宮一毅、 伊達修一 磯田和貴 千葉浩行、三浦由佳、 紋川 亮	2018.11～2019.9
3	簡易聴力測定および聴覚ケアアプリケーションの開発	光音技術G デザイン技術G	服部 遊、宮入 徹 角坂麗子	2018.11～2019.9
4	有害物を含まない実用的な暖色系ガラスフリットの製品開発	環境技術G 城南支所	宮宅ゆみ子、吉野 徹 田中 実	2018.11～2019.9
5	空調機ドレンパンにおける微生物汚染の現状把握と遠隔点検による清掃要否の判断基準の確立	環境技術G	小沼ルミ、小林真大、 田熊保彦	2018.11～2019.9
6	移植用細胞シート製品評価系の開発	バイオ応用技術G	八谷如美	2018.11～2019.9
7	サプリメント内に含まれる有効成分ルンブルキナーゼの定量および比活性分析	バイオ応用技術G	八谷如美、月精智子、 瀧本悠貴、奥 優	2018.11～2019.9
8	中性子・X線デュアルビームCT開発に向けた探索研究	バイオ応用技術G 3DものづくりS 情報技術G	月精智子、瀧本悠貴、 河原大吾、片岡憲昭 山内友貴、三浦由佳 富山真一	2018.11～2019.9
9	外乱環境下における高精度充填制御システムの開発	情報技術G 生活技術開発S	金田泰昌、鈴木 聡 村上知里	2018.11～2019.9
10	災害危険度を考慮した避難経路の導出	情報技術G	吉次なぎ、阿部真也	2018.11～2019.9
11	木質バイオマスと天然糊を用いた複合材料の実用化に関する研究	デザイン技術G 実証試験S 城南支所 表面・化学技術G 城東支所	酒井日出子 松原独歩 藤巻康人 安田 健、樋口智寛 横山俊幸	2018.11～2019.9
12	人間工学に基づくカトラリーの開発	デザイン技術G	橋本みゆき、福原悠太	2018.11～2019.9
13	重力天体への着陸衝撃吸収用3D積層造形ポラス金属の開発	3DものづくりS	大久保 智、小林隆一、 紋川 亮	2018.11～2019.9
14	金属積層造形での構造最適化によるスポーツ義足用高機能アダプターの開発	3DものづくりS	千葉浩行、横山幸雄	2018.11～2019.9
15	計測における測定結果の解析及び不確かさ評価システムの開発	実証試験S	佐々木正史、沼尻治彦、 倉持幸佑	2018.11～2019.9
16	多様なデザイン形状を製作するための積層金型とバイオマス材料「サスティモ®」の成型技術の開発	城東支所 開発第二部 表面・化学技術G	上野明也、横山俊幸、 小金井誠司 木下稔夫 村井まどか、石田祐也	2018.11～2019.9
17	D-アミノ酸酸化酵素の活性を蛍光検出可能な新規プローブ分子の創製	城南支所	藤巻康人	2018.11～2019.9

2018(平成30)年度 年報

No.	テーマ名	所属	研究者名	期間
18	ニトロ多芳香族化合物の蛍光増強効果を利用した分析前処理装置の開発	城南支所 城東支所	藤巻康人 小金井誠司	2018.11～2019.9
19	非接触三次元測定機の精度チェック用ゲージの評価手法および標準化に向けた検討	城南支所 3DものづくりS 複合素材開発S	樋口英一 中西正一、三浦由佳、 村上祐一 窪寺健吾	2018.11～2019.9
20	現場環境における三次元測定機のレーザー干渉測長器を用いた評価法の確立	電子・機械G 3DものづくりS	大西 徹 村上祐一	2018.11～2019.9
21	ガラス繊維プラスチック製サンドイッチコアの開発	電子・機械G 複合素材開発S	高橋俊也 窪寺健吾、唐木由祐	2018.11～2019.9
22	O&M自動化のための屋外用自律走行ロボット開発	電子・機械G ロボット開発S	秋山美郷、佐野宏靖、 井原房雄 中村佳雅	2018.11～2019.9
23	水分センサの小型化・腐食対策の検討	電子・機械G 複合素材開発S	佐野宏靖、秋山美郷、 井原房雄 杉森博和	2018.11～2019.9
24	高速移動体向けミリ波帯超広帯域無線通信および高精度レーダの為に光・ミリ波変換装置の研究開発	電気電子技術G	藤原康平、時田幸一	2018.5～2019.3
25	セラミックス製ガス電子増幅器を用いた中性子検出器の開発	電気電子技術G	小宮一毅、武内陽子、 上野武司	2018.5～2019.3
26	ビスマステルライドナノ構造化による高効率な熱電変換素子の研究開発	電気電子技術G 先端材料開発S	太田優一 並木宏允	2018.5～2019.3
27	高密度・長尺フレキシブル基板の量産化に向けた技術開発	電気電子技術G	近藤 崇、藤原康平	2018.5～2019.3
28	業務用カメラに適用する振動制御装置の開発	機械技術G 実証試験S 経営企画室	岩田雄介 福田良司 志水 匠	2018.5～2019.3
29	分光放射輝度値を付与したハイパースペクトルカメラの開発	光音技術G	秋葉拓也、澁谷孝幸	2018.5～2019.3
30	広周波数帯域用吸音ユニット	光音技術G	渡辺茂幸、西沢啓子	2018.5～2019.3
31	炭酸ガス吸収硬化型カルシウムセラミックスのガラスコーティング技術の開発	表面・化学技術G 実証試験S	樋口智寛 松原独歩	2018.5～2019.3
32	セルロースナノファイバー強化プラスチック複合材料の応用研究	表面・化学技術G	佐野 森、安田 健	2018.5～2019.3
33	透明系の木材用屋外塗料の開発	表面・化学技術G	村井まどか、石田祐也、 佐熊範和	2018.5～2019.3
34	大電力パルススパッタ法による金型への薄膜形成技術の開発	表面・化学技術G	寺西義一	2018.5～2019.3
35	時計用文字盤の加飾方法の開発	環境技術G バイオ応用技術G 表面・化学技術G	吉野 徹、榎本大佑 片岡憲昭、関口正之 村井まどか	2018.5～2019.3
36	VOC処理触媒への高機能性の付与	環境技術G 先端材料開発S	井上研一郎 染川正一	2018.5～2019.3
37	土質分析手法の簡素化に関する研究	バイオ応用技術G	柚木俊二	2018.5～2019.3
38	ブルーゲル転移ポリマーの医薬品への応用	バイオ応用技術G	柚木俊二、大藪淑美	2018.5～2019.3
39	新規人工真皮の開発	バイオ応用技術G	柚木俊二	2018.5～2019.3
40	天然物エキスに含まれる微量タンパク質のアッセイプロトコルの開発	バイオ応用技術G	大藪淑美、柚木俊二	2018.5～2019.3
41	配向コラーゲンの医療機器への応用	バイオ応用技術G	柚木俊二	2018.5～2019.3

No.	テーマ名	所属	研究者名	期間
42	臓器内部に再生組織を移植するための新規医療デバイスの試作	バイオ応用技術G 電気電子技術G 3DものづくりS	八谷如美 山岡英彦 紋川 亮、山内友貴	2018.5～2019.3
43	現物CAEに必要な入力補正技術の開発	情報技術G 3DものづくりS	富山真一 山内友貴、村上祐一、 横山幸雄	2018.5～2019.3
44	豪雨警戒モニタリングシステムの開発	デザイン技術G	森 豊史、橋本みゆき	2018.5～2019.3
45	次世代自動車向け複雑形状鋳物の金属積層造形金型ガス抜きによる背圧制御および鋳造湯廻り性向上技術の開発	3DものづくりS	千葉浩行、藤巻研吾	2018.5～2019.3
46	パートケーキ冷却機構を搭載した積層造形装置の開発	3DものづくりS 城東支所	小林隆一、山内友貴 木暮尊志	2018.5～2019.3
47	座標測定器により測定された幾何偏差の不確かさ推定の信頼性検証	3DものづくりS	三浦由佳、中西正一	2018.5～2019.3
48	3D金属プリンタ工法が抱える品質保証の課題解決を目的とした研究	3DものづくりS	三浦由佳、藤巻研吾、 千葉浩行、大久保 智、 山内友貴	2018.5～2019.3
49	比較測定校正システムの高度化及び実用性の検討	3DものづくりS 電子・機械G	村上祐一 大西 徹	2018.5～2019.3
50	マグネシウム空気電池の放電特性の改善	先端材料開発S	立花直樹	2018.5～2019.3
51	遅延膨張性エトリンナイト生成の抑制メカニズムの検討および抑制材料の探索	先端材料開発S 環境技術G	渡邊禎之、三柴健太郎 吉野 徹	2018.5～2019.3
52	緩み止め機能を有する歯科用インプラント部品開発	実証試験S 電子・機械G	新垣 翔、松原独歩 佐野宏靖	2018.5～2019.3
53	一絨毛膜性双胎における双胎間輸血症候群の低侵襲外科治療用胎児鏡の開発	城南支所 表面・化学技術G 環境技術G	玉置賢次、井上 潤、 平野康之、田中 実 安田 健、徳田祐樹 梶山哲人	2018.5～2019.3
54	小型燃料電池の開発	複合素材開発S 開発企画室 技術経営支援室 城東支所	峯 英一 渡部友太郎 伊東洋一 小金井誠司	2018.5～2019.3
55	e テキスタイルを用いた燃料電池用集電材の開発	複合素材開発S 技術経営支援室	窪寺健吾、峯 英一 伊東洋一	2018.5～2019.3
56	ハイサイクルインサート成形のための新工程の開発	表面・化学技術G	安田 健、佐野 森	2017.11～2018.9
57	分光型耐光性試験機の製品化に向けた改良	環境技術G 表面・化学技術G 光音技術G	濱野智子 村井まどか、石田祐也 澁谷孝幸	2017.11～2018.9
58	ナノ薄膜表面加工技術を基にした新規培養基材の開発	バイオ応用技術G 3DものづくりS	八谷如美 紋川 亮	2017.11～2018.9
59	中性子・X線デュアルビームCT開発に向けた探索研究	バイオ応用技術G 3DものづくりS	月精智子、木下真梨子、 瀧本悠貴、河原大吾、 片岡憲昭 紋川 亮	2017.11～2018.9
60	局在プラズモン共鳴(LSPR)チップの量産化	3DものづくりS バイオ応用技術G 電気電子技術G	紋川 亮 月精智子、木下真梨子、 瀧本悠貴 永田晃基	2017.11～2018.9

2018(平成30)年度 年報

No.	テーマ名	所属	研究者名	期間
61	硫化水素および二酸化硫黄センサの開発	バイオ応用技術G 3DものづくりS 電気電子技術G 環境技術G	瀧本悠貴、月精智子、 木下真梨子 紋川 亮 永田晃基 小林真大	2017.11～2018.9
62	プログラマブルデバイスMRLDのアーキテクチャ評価基板の開発	情報技術G IoT開発S	岡部 忠 大原 衛	2017.11～2018.9
63	粘菌アルゴリズムによる到達可能性に優れた避難経路の導出	情報技術G	吉次なぎ、阿部真也	2017.11～2018.9
64	快適なコンプレッションウェア素材の開発	生活技術開発S	山田 巧	2017.11～2018.9
65	X線CT装置におけるソフトウェアの開発	3DものづくりS バイオ応用技術G	中西正一、三浦由佳、 中村弘史、小林隆一、 大久保 智、紋川 亮 月精智子	2017.11～2018.9
66	酵素の活性を蛍光検出可能な新規プローブ分子の創製	城南支所	藤巻康人	2017.11～2018.9
67	金属酸化物を活用した水素製造用ハニカム型Ni触媒の開発	先端材料開発S	染川正一、柳 捷凡	2017.11～2018.9
68	環境有害物質モニタリング装置の開発	環境技術G 城南支所	梶山哲人 井上 潤	2017.11～2018.9
69	土壌水分センサの開発	電子・機械G IoT開発S	佐野宏靖、高松聡裕、 秋山美郷、大森 学、 久慈俊夫 仲村将司	2017.11～2018.9
70	高速回転体用円盤形炭素織物の開発	複合素材開発S 電子・機械G	窪寺健吾、武田浩司 谷口昌平、高橋俊也	2017.11～2018.9

※ G:「グループ」の略、S:「セクター」の略

2.3 外部資金導入研究・調査

2.3.1 提案公募型研究……………39 テーマ

都産技研が保有する研究成果を基に、国などの公募に対し研究課題および研究内容を提案し、審査を経て採択された課題について、研究資金の交付を受けて実施する研究である。都産技研においてはその積極的な獲得に努めている。

2018（平成 30）年度に獲得・実施した研究は、文部科学省など「科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金／科学研究費補助金）」をはじめ、以下のとおりである。

No.	開始年度	事業名	研究費配布機関	G/S・室・支所	担当者
1	2014	SIP（戦略的イノベーション創造プログラム）/革新的設計生産技術	(国研)新エネルギー・産業技術総合開発機構	3DものづくりS 城東支所	横山幸雄 山内友貴 木暮尊志
2	2016	科学研究費助成事業 基盤研究(A) [分担]	(独)日本学術振興会	表面・化学技術G	川口雅弘 徳田祐樹
3	2016	科学研究費助成事業 基盤研究(B) [分担]	(独)日本学術振興会	先端材料開発S	森河和雄
4	2016	科学研究費助成事業 基盤研究(C)	(独)日本学術振興会	環境技術G	小沼ルミ
5	2016	科学研究費助成事業 基盤研究(C)	(独)日本学術振興会	バイオ応用技術G	佐野栄宏
6	2016	科学研究費助成事業 基盤研究(C)	(独)日本学術振興会	表面・化学技術G	樋口智寛
7	2016	科学研究費助成事業 基盤研究(C) [分担]	(独)日本学術振興会	先端材料開発S	林 英男
8	2016	科学研究費助成事業 基盤研究(C) [分担]	(独)日本学術振興会	バイオ応用技術G	柚木俊二 成田武文
9	2016	科学研究費助成事業 若手研究(B)	(独)日本学術振興会	環境技術G	吉野 徹
10	2016	科学研究費助成事業 若手研究(B)	(独)日本学術振興会	バイオ応用技術G	大藪淑美
11	2016	科学研究費助成事業 若手研究(B)	(独)日本学術振興会	情報技術G	金田泰昌
12	2016	科学研究費助成事業 若手研究(B)	(独)日本学術振興会	生活技術開発S	大島浩幸
13	2016	科学研究費助成事業 挑戦的萌芽研究	(独)日本学術振興会	機械技術G	奥出裕亮
14	2017	科学研究費助成事業 基盤研究(B) [分担]	(独)日本学術振興会	先端材料開発S	渡邊禎之
15	2017	科学研究費助成事業 基盤研究(C) [分担]	(独)日本学術振興会	環境技術G	梶山哲人
16	2017	科学研究費助成事業 基盤研究(C) [分担]	(独)日本学術振興会	生活技術開発S	山口隆志
17	2017	科学研究費助成事業 研究活動スタート支援	(独)日本学術振興会	環境技術G	小林真大
18	2017	科学研究費助成事業 若手研究(A)	(独)日本学術振興会	バイオ応用技術G	干場隆志
19	2017	科学研究費助成事業 若手研究(B)	(独)日本学術振興会	先端材料開発S	小西敏功
20	2017	科学研究費助成事業 若手研究(B)	(独)日本学術振興会	電気電子技術G	武内陽子

2018(平成30)年度 年報

No.	開始年度	事業名	研究費配布機関	G/S・室・支所	担当者
21	2017	科学研究費助成事業 若手研究(B)	(独) 日本学術振興会	電気電子技術 G	宮下惟人
22	2018	科学研究費助成事業 基盤研究(A) [分担]	(独) 日本学術振興会	先端材料開発 S	林 英男
23	2018	科学研究費助成事業 基盤研究(A) [分担]	(独) 日本学術振興会	表面・化学技術 G	川口雅弘 徳田祐樹
24	2018	科学研究費助成事業 基盤研究(B) [分担]	(独) 日本学術振興会	バイオ応用技術 G	柚木俊二 畑山博哉
25	2018	科学研究費助成事業 基盤研究(C)	(独) 日本学術振興会	先端材料開発 S	渡辺洋人 染川正一
26	2018	科学研究費助成事業 基盤研究(C)	(独) 日本学術振興会	3Dものづくり S バイオ応用技術 G 電気電子技術 G	紋川 亮 瀧本悠貴 永田晃基
27	2018	科学研究費助成事業 基盤研究(C)	(独) 日本学術振興会	3Dものづくり S	藤巻研吾
28	2018	科学研究費助成事業 基盤研究(C)	(独) 日本学術振興会	バイオ応用技術 G 光音技術 G バイオ応用技術 G	柚木俊二 海老澤瑞枝 畑山博哉
29	2018	科学研究費助成事業 基盤研究(C) [分担]	(独) 日本学術振興会	バイオ応用技術 G	永川栄泰 柚木俊二
30	2018	科学研究費助成事業 若手研究	(独) 日本学術振興会	機械技術 G	猿渡直洋
31	2018	新エネルギーベンチャー技術革新支援事業	(国研) 新エネルギー・産業技術総合開発機構	ロボット開発 S プロジェクト 事業化推進室	村上真之 小林祐介
32	2018	医薬品等規制調和・評価研究事業	(国研) 日本医療研究開発機構	城南支所	藤巻康人
33	2016	研究成果最適展開支援プログラム(A-STEP)	(国研) 科学技術振興機構	バイオ応用技術 G	大藪淑美 柚木俊二
34	2018	戦略的基盤技術高度化支援事業(サポイン事業)	経済産業省	3Dものづくり S	藤巻研吾 紋川 亮 山内友貴 小林隆一 千葉浩行 大久保 智
35	2018	COI 若手連携研究ファンド	(国研) 科学技術振興機構	バイオ応用技術 G	干場隆志 大藪淑美 畑山博哉
36	2018	産業競争力を強化する基盤技術開発の助成	(一社) 日本機械学会	表面・化学技術 G	徳田祐樹 川口雅弘
37	2018	調査・研究開発助成	(一社) 内藤泰春科学技術振興財団	3Dものづくり S	大久保 智
38	2018	研究調査助成	(公財) 電気通信普及財団	電気電子技術 G	渡部雄太
39	2018	一般研究開発助成	(公財) 天田財団	表面・化学技術 G 実証試験 S 生活技術開発 S	樋口智寛 松原独歩 西田 葵

※ G:「グループ」の略、S:「セクター」の略

2.3.2 受託研究……………19件

受託研究は企業からの委託に基づいて都産技研職員が短期の研究・調査を行う事業である。受託研究の受け付けは常時行っており、企業の緊急な技術課題に対して即応できるという特徴がある。また、研究費は企業の負担となるが、非公開が原則となっており、秘密保持性の高いこともこの研究の特徴の一つである。

2018（平成30）年度は、19件の研究・調査を実施し、9,481,380円の受託研究費を受け入れた。

2.4 プロジェクト事業

2.4.1 ロボット産業活性化事業

中小企業のロボット産業への参入を支援するため、2015（平成27）年4月から「ロボット産業活性化事業」を開始した（事業推進根拠：東京都長期ビジョン）。

本事業では、案内支援、産業支援、点検支援、介護支援の4分野におけるロボットの実用化を推進するための支援を行うとともに、2020年東京オリンピック・パラリンピックにおいて東京のロボット技術を発信する契機とし、中小企業のロボット産業への参入を後押しする。

(1) 技術開発

1) 基盤研究および実証研究

ロボット開発に関する基盤的で汎用性の高い技術開発や実証環境を求めてロボットを試作開発するための研究開発に取り組んだ。

2018（平成30）年度開始 基盤研究および実証研究テーマ一覧

種別	テーマ名	主担当者名	期間
基盤	AIによる自律移動用地図の特徴抽出	吉村僚太	2018.6～2019.5
基盤	痛覚耐性基準による移動ロボットの衝突安全性評価のための圧力測定システムの開発	森田裕介	2018.6～2019.5
実証	移動案内ロボットLibraのハードウェア改良とその評価	村上真之	2018.6～2019.5
実証	AI技術を活用した環境変動にロバストな自動位置復旧の開発	中村佳雅	2018.6～2019.5
実証	AI技術を活用した多言語案内ロボット向け音声言語識別と応答文生成技術の開発	武田有志	2018.6～2019.5

2) 共同研究

企業や業界団体などと協力し、それぞれが持つ技術とノウハウを融合して、ロボットの実用化や事業化に向けた研究開発に取り組んだ。

2018（平成30）年度開始 共同研究テーマ一覧

テーマ名	主担当者名	期間
T型ロボットベースの最適化による走行安定性能向上	坂下和広	2018.6～2019.5
排気管内部清掃ロボットの改良・開発	佐藤 研	2018.11～ 2019.10

テーマ名	主担当者名	期間
メカナムホイールを用いたT型ロボットベースの事業化	坂下和広	2018.12～ 2019.11
カルバート点検用ロボットの実用化に向けた開発	益田俊樹	2018.12～ 2019.11

3) 公募型共同研究開発事業

日本国内からロボットを開発・活用して事業化を目指す中小企業を公募し、都産技研が開発経費を負担（委託）して、共同で開発を行う「公募型共同研究開発事業」を実施した。

2018（平成30）年度開始 事業テーマ一覧

短期展開型（開発期間：1年 委託上限額：1,000万円）

分野	事業者名（所在地）	事業テーマ名
産業支援	花岡車輛(株) 〈東京都江東区〉	自律移動型AGVの事業化
産業支援	(株)サステクノ 〈青森県八戸市〉	農作業用パワーアシストスーツの高機能化
産業支援	日菱インテリジェンス(株) 〈東京都目黒区〉	ロボットによる業務用エアコン洗浄事業の展開
産業支援	(株)Doog 〈茨城県つくば市〉	H/W サウザーを用いた物流センター効率運用システムの開発
産業支援	TechShare(株) 〈東京都江東区〉	ビジョンナビゲーション付小型ロボットアームシステムの開発

テーマ設定型（開発期間：1年 委託上限額：3,000万円）

分野	事業者名（所在地） [実証実験場所]	事業テーマ名
産業支援 (物流)	(株)寺岡精工（東京都大田区） [旭食品株式会社]	先導および追従型自律移動型ピッキングカート
産業支援 (食品)	(株)ショウワ（兵庫県尼崎市） [都内ファーストフード店舗]	調理支援ロボットシステム

実証検証型（開発期間：9か月 委託上限額：200万円）

分野	事業者名（所在地） [実証実験場所]	事業テーマ名
案内支援	(株)プラネックス（東京都墨田区） [葛西臨海水族園]	葛西臨海水族園来園者向けエンターテイメント案内ロボットの実証検証
案内支援	iPresence(同)（兵庫県神戸市） [(株)ミマモルメ主催 ロボットプログラミング教室]	イベントや教育現場への遠隔参加における iTOUR®の検証

(3) 事業化支援

1) サービスロボット事業化交流会の設立

サービスロボットを製造・開発する企業と、利用する企業（ユーザー企業）、サービスロボットのシステムインテグレーターなど、サービスロボット産業への参入を希望する企業間の交流や情報交換、開発に必要な技術習得の場を提供することを目的として2018（平成30）年4月に「サービスロボット事業化交流会」を設立した（会員企業数149社、全体会議3回、技術講習会2回実

施)。

また、サービスロボット事業化交流会会員企業向けに、交流会会員が開発したロボットの情報をデータベース化し、交流会会員が希望する技術やニーズを持つ企業を検索することが可能なマッチングサイトを立ち上げた。

2) 研究成果のPR

都産技研の研究開発成果や試作開発ロボットを広く周知し、事業への参画を促すとともに、共同開発企業の拡販を支援するために「Japan Robot Week 2018」ほか 10 件の展示会に出展した。都産技研試作ロボットのほか、共同研究開発ロボットの展示、デモンストレーションを行った。また、ロボット産業活性化事業ウェブサイトにて、各共同研究開発ロボット（開発中を含む）の利用事例を紹介するとともに、ユーザー企業開拓のためのロボット導入相談ページを運営し 30 件の相談があった。

(4) ロボット産業人材育成

1) セミナー・講習会の開催

ロボット開発や導入への興味喚起、ロボットに関する最新の技術情報を提供するため、「ロボット産業活性化事業セミナー」を開催した。また、より実践的なサービスロボットのための人材育成プログラムとして、ロボット向けソフトウェアの講習会を行った（5.1 技術セミナー・講習会参照）。

2) サービスロボット SIer 人材育成事業

ロボット活用を検討するユーザーに対し、中小企業の保有する技術力やビジネスプランを含んだロボットの活用方法の提案、設計および構築を行う、「サービスロボットシステムインテグレーター（サービスロボット SIer）」の創出を目的とするため、都産技研と企業が共同でサービスロボットの事業化を目指す、サービスロボット SIer 人材育成事業企画提案募集を実施した。

企画提案募集採択企業（開発期間：1 年間 委託上限額：2,000 万円）

事業者名（所在地） [ユーザー企業]	事業テーマ名
(株)日立システムズ〈東京都品川区〉 [(株)神明]	準天頂対応大型LTE ドローンの開発
GROUND(株)〈東京都江東区〉 [ダイヤモンドヘッド(株)]	物流分野でのサービスロボットを利用した省人化の実証～事業化
(有)ソリューションゲート〈東京都荒川区〉 [(株)中萬学院]	個別指導塾の講師役となる先生ロボットの開発とサービスの構築

(5) 外部機関との連携

1) 自治体・産業支援機関等

ロボット産業における情報共有や実用化に向けた課題解決を図るため、日本ロボット工業会の各種専門委員会、ベイエリアおもてなしロボット研究会などの活動に参加し、意見交換を行った。また、自治体などが主催する見学会やセミナーなどに協力し、本事業や東京ロボット産業支援プラザの紹介を行った。

ふちゅうテクノフェア（10月）、品川情報クラスターフェア（1月）

2.4.2 中小企業へのIoT化支援事業

中小企業におけるIoT活用による生産性の向上や業務の効率化、IoT関連製品の開発や新たなサービス・ソリューションの提供によるビジネス創出を支援するため、2017（平成29）年度から「中小企業へのIoT化支援事業」を開始した（事業推進根拠：都民ファーストでつくる『新しい東京』～2020年に向けた実行プラン～）。

本事業では、研究開発および人材育成を軸とした、さまざまな取り組みを行うことで、IoT活用による中小企業の事業活動を支援する。

(1) 技術開発

1) 基盤研究

IoT分野において、中小企業への支援強化につながる技術開発や技術の習得のための基盤となる研究に取り組んだ。

2018（平成30）年度開始 基盤研究および実証研究テーマ一覧

種別	テーマ名	主担当者名	期間
基盤	ウェルビーイング志向のIoTシステム設計に向けた方法論構築と実践	根本裕太郎	2018.10～2019.9

2) 共同研究

企業や業界団体などと協力し、それぞれが持つ技術とノウハウを融合して、IoT関連技術や製品の実用化に向けた研究開発に取り組んだ。

2018（平成30）年度開始 共同研究テーマ一覧

テーマ名	主担当者名	期間
「生産設備の見える化」に関する実証実験	横田浩之	2019.1～2019.11

3) 公募型共同研究

中小企業のIoT活用による生産性の向上やIoT関連の製品開発を支援するため、都産技研が開発経費を負担（委託）して、共同で開発を行う「公募型共同研究」を実施した。

2018（平成30）年度開始 研究テーマ一覧

IoTソリューション研究（研究開発期間：2年または3年間 委託上限額：3,000万円）

事業者名（所在地）	テーマ名
白山工業(株) 〈東京都府中市〉	多点観測実証による地震防災サービスの事業化開発
(株)コスモ計器 〈東京都八王子市〉	気密検査計測データの収集および遠隔監視システムの開発
(株)セカンドファクトリー 〈東京都府中市〉	IoTを活用したデジタルエリアマネジメントの研究

事業者名〈所在地〉	テーマ名
(株)ワイヤレスコミュニケーション研究所 〈東京都調布市〉	介護施設向け見守りビッグデータ利活用システム

IoT 共同開発研究 (研究開発期間：1 年間 委託上限額：500 万円)

事業者名〈所在地〉	テーマ名
Dari K(株) 〈東京都渋谷区(本社：京都府京都市)〉	IoT を活用したカカオ豆需要予測システム開発
エヌエスティ・グローバリスト(株) 〈東京都豊島区〉	画像解析技術を用いて設備監視を IoT で効率化
(株)名取製作所 〈東京都江東区(本社：埼玉県上尾市)〉	生産プロセスのばらつき見える化システムの開発
(株)コミクリ 〈東京都三鷹市〉	図書館 IoT による IoT センサービジネス研究開発

テーマ設定型 AI 活用実証型研究 (研究開発期間：2 年間 委託上限額：3,000 万円)

事業者名〈所在地〉	テーマ名
(株)ウオールナット 〈東京都立川市〉	AI による土木構造物の非破壊調査診断技術研究
(株)エイシング 〈東京都港区〉	AI による化学製造プロセス解析支援ツール

(2) IoT 支援サイト

中小企業の IoT 化を促進するための総合支援拠点として、2018 (平成 30) 年 10 月 15 日、テレコムセンタービル (江東区青海 2-5-10) 内に IoT 支援サイトを開設した。IoT 支援サイトには、さまざまな IoT 活用事例や普遍的に理解すべき IoT のしくみを紹介する展示室と、公募型共同研究などで開発した IoT 機器の試験・評価を行う試験評価室、中小企業における IoT システム・製品の試作を支援する試作支援室を備えている。2019 (平成 31) 年 3 月末日までに 823 名の見学者が来訪した。

(3) 東京都 IoT 研究会

IoT に関する情報の収集・発信、普及・啓発を行うとともに、IoT に関する新しいビジネスモデルの創出への取り組みを促すことを目的に、2017 (平成 29) 年 11 月、「東京都 IoT 研究会」を設立した (会員数 360 社 422 名、2019 (平成 31) 年 3 月末日現在)。2019 (平成 31) 年 2 月 13 日、法政大学西岡靖之教授を座長とする第 2 回総会を開催した。

(4) 人材育成

中小企業への IoT 導入、新製品開発に関し、国の施策や先行導入事例などのさまざまな情報を提供するため、IoT セミナーを開催した。一部のセミナーは、公益財団法人東京都中小企業振興公社、総務省関東総合通信局などと協力して実施した。

セミナータイトル	開催日	参加者数
クラウド&セキュリティセミナー	2018年 7月19日	35名

セミナータイトル	開催日	参加者数
IoT×観光ワーキングオープンセミナー	2018年 8月27日	38名
工場向けワイヤレス IoT 講習会（総務省関東総合通信局共催）	2018年12月14日	62名
中小企業を強くするための AI 活用法セミナー（東京都中小企業振興公社共催）	2018年12月25日	104名
製造現場のデジタル化による新たな価値創出セミナー	2019年 2月13日	93名

また、IoT の概要から基本的なしくみを学び、簡単な IoT システムのプロトタイプ構築を体験する「IoT 導入ハンズオン講習会」を1回開催した（受講者 15名）。

さらに、IoT ビジネスの実施に必要な知識、技術を学ぶ全 4 回の講義からなる「人材育成プログラム」を開発し、2回開催した（受講者 65名）。

(5) IoT 有識者会議

中小企業への IoT 化支援事業の推進にあたり、公平で客観的な観点から事業全体への有意義な意見を聴取することで、より実効的な事業運営を行うことを目的に、有識者会議を設置した。2018（平成 30）年 5 月 16 日および 2019（平成 31）年 2 月 15 日に有識者会議を開催した。

2.4.3 障害者スポーツ研究開発推進事業

(1) 基礎研究

障害者スポーツの振興、競技力の向上や普及促進を目的として、都産技研が主体となり実施する研究である。

2018（平成 30）年度実施基礎研究テーマ一覧

テーマ名	所属	研究者名	期間
子供用歩行（走行）支援機器の開発	電子・機械G デザイン技術G 生活技術開発S 複合素材開発S	西川康博 酒井日出子 大島浩幸 武田浩司	2017.6～2020.3
さわれるスポーツ観戦 ～Tangible Sports～	生活技術開発S	島田茂伸、大島浩幸	2017.6～2020.3

※ G：「グループ」の略、S：「セクター」の略

(2) 公募型共同研究

障害者スポーツの競技力向上を目指し、障害者スポーツ用具の新製品開発を目的として、都産技研が必要経費（限度額内）を負担（委託）して実施する共同研究である。

2018（平成 30）年度実施研究テーマ一覧（研究開発期間：2年半 委託上限額：4,500万円）

研究開発対象	事業者名（所在地）	テーマ名
競技用「車いす」	(株)オーエックスエンジニアリング 〈千葉県若葉区〉	新素材を活用したバドミントン用車いす開発
競技用「義足」	(株)Xiborg 〈東京都渋谷区〉	世界最速を目指したスポーツ用義足および関連技術の開発

2.4.4 航空機産業への参入支援事業

東京都が推し進める航空機産業参入支援事業と連携し、TMAN（ティーマン・Tokyo Metropolitan Aviation Network）に参画している中小企業に対する技術支援を目的に、2017（平成29）年4月から「航空機産業への参入支援事業」を開始した（事業推進根拠：東京都長期ビジョン）。

本事業では、組織人員・施設強化による支援体制整備、テーマ設定型共同研究、試作・実証実験支援、国際規格認証技術支援により、東京都およびTMAN事務局と連携し、中小企業の航空機産業への参入を支援する。

(1) 組織人員・施設強化による支援体制整備

1) 特任技術アドバイザーの招聘

都産技研において航空機産業支援を実施するにあたり、航空機の製造技術と航空機ビジネスの理解、航空機部品試作および ASTM 規格に対応した職員の育成を目的に、特任技術アドバイザーを3名招聘した。2018（平成30）年4月から2019（平成31）年3月までに、延べ165回の技術指導がなされ、航空機産業支援を推進する職員の育成に取り組んだ。

2) 航空機産業支援室の拡充

2017（平成29）年度、航空機産業への参入に向けた試作部品開発および必要な国際規格にのっとった評価に対応する「航空機産業支援室」を都産技研本部2階に開設し、2018（平成30）年度には同フロアにさらに1室を増設し、支援機能を強化した。増設した支援室内には、航空機部品の加工品質評価に対応した評価装置、表面処理の状態評価に対応した測定機器、および製品の評価に使用する非破壊検査装置の3種類計4機種を設置した。また、航空機部品製造に必要な3D-CADシステムを追加導入し、試作支援機能の強化充実を図った。

(2) テーマ設定型共同研究

東京都が支援する TMAN への参加企業から、航空機部品製造、開発、評価に関する研究課題を募集し、生産技術、製品性能の向上や、製造工程のコストダウンなど、航空機産業参入支援と航空機部品製造・開発における課題解決を目的に12件の研究開発に取り組んだ。研究成果は2019（平成31）年3月27日に開催された研究成果報告会において、TMAN参加企業に公開し情報共有を行った。

2018（平成30）年度テーマ設定型共同研究一覧

事業者名（所在地）	研究テーマ
(株)名取製作所 (埼玉県上尾市)	航空機用チタン合金の低温成形加工法による高精度塑性加工
(株)コバヤシ精密工業 (神奈川県相模原市)	クーリングユニット付エンジンを搭載したドローンの開発
(株)ニッチュー (東京都台東区)	航空機用アルミニウム合金の条件最適化による高精度ピーンフォーミング手法
多摩冶金(株) (東京都武蔵村山市)	ブラスト処理による航空機部品用窒化鋼のガス窒化層深さにおよぼす表面状態の検討と前処理法の開発
多摩冶金(株) (東京都武蔵村山市)	ガス窒化処理安定化のための酸化処理法の開発

事業者名 (所在地)	研究テーマ
大和合金(株) (東京都板橋区) 三芳合金工業(株) (埼玉県入間郡三芳町)	航空機用アルミ青銅合金の強化機構の明確化と製造工程の確立
立川精密工業(株) (東京都羽村市)	Ni 基超耐熱合金のフライス加工におけるエンドミルの長寿命化と加工効率の向上
コスモ精機(株) (東京都羽村市)	航空機用難削材へのタップ加工における加工効率の向上
菅澤製機(株) (神奈川県横浜市) (株)スガサワ (山形県寒河江市)	磁粉探傷試験における窒化処理した窒化鋼の適切な磁化条件と脱磁条件の導出及び後処理工程の簡略化
(株)吉増製作所 (東京都あきる野市)	航空機用チタン合金の3次元プレス成型法の開発
(株)吉増製作所 (東京都あきる野市)	通電加熱成形を応用した炭素繊維強化樹脂のプレス成型法の開発
(株)上島熱処理工業所 (東京都大田区)	航空機部品への金属 AM 造形 17-4PH 鋼の適用を目的とした最適熱処理条件と微細構造の解明

(3) 試作・実証実験支援

TMAN および AMATERAS (アマテラス・Advanced Manufacturing Association of Tokyo Enterprises for Resolution of Aviation System) 参加企業との共同による航空機部品一貫試作について、特任技術アドバイザーの支援を受け、米国 PMA (Parts Manufacturer Approval) 航空機部品 6 点の試作に取り組んだ。完成した試作品は、2018 (平成 30) 年 11 月 28 日から 30 日に東京ビッグサイトにて開催された国際航空宇宙展 2018 東京において、東京都 TMAN ブース内の都産技研展示スペース内に、2017 (平成 29) 年度完成の試作品とともに計 7 点を展示し、TMAN・AMATERAS 参加企業の技術力をアピールした。

(4) 国際規格認証技術支援

航空機部品の性能確認試験に適用するため、2017 (平成 29) 年度に開始した米国 ASTM 規格および FAR 規格などの航空機産業に対応した国際規格試験を 12 件実施した。また、RTCA/DO-160G 規格に準拠した振動試験を 2018 (平成 30) 年 10 月から開始し、2018 (平成 30) 年度の航空機産業に対応した国際規格試験は、全試験合計で 36 件であった。

(5) 展示会出展および調査

本事業のプロモーションと取り組みの周知および航空機産業への参入に必要な情報収集と人材育成を目的とした展示会への出展と、市場・技術動向の把握を目的とした調査に取り組んだ。出展した TMAN 参加企業の商談に同席しての技術説明などにより、国内外の航空機部品メーカー、自治体、航空機クラスターおよび研究所などに対して技術 PR を行った。

2018 (平成 30) 年度参加展示会等一覧

	展示会	会期	開催場所
出展	ベルリン国際航空宇宙ショー 2018	2018年 4月25～27日	ドイツ連邦共和国 ベルリン・エキスポセンター
	国際航空宇宙展 2018 東京	2018年11月28～30日	日本 東京ビッグサイト

	展示会	会期	開催場所
調査	ファーンボロー国際航空ショー 2018	2018年 7月16～22日	イギリス ファーンボロー国際展示・会議場
	MARPA アニュアル・カンファレンス 2018	2018年10月24～25日	アメリカ合衆国 オーランド
	アビエーションフォーラム ハンブルク 2018	2018年11月 5～ 7日	ドイツ連邦共和国 ハンブルグ・メッセ

(6) セミナー

航空機産業へ参入を目指す企業への情報提供を目的としたセミナーを 2019（平成 31）年 3 月 15 日に開催し、都内企業を中心に 75 名が参加した。また、米国 MARPA (Modification and Replacement Parts Association) との共同セッションを、2018（平成 30）年 11 月 27 日に開催し、国内航空会社の部品調達部門関係者など 22 名が参加した。

(7) 報道

本事業に関連する記事掲載は以下のとおりである。

2018（平成 30）年度記事掲載

報道内容	報道日	媒体
Browsing around JA2018	2018年11月30日	Show Daily (SAP MEDIA WORLDWIDE LTD.)

(8) TMAN 交流会

TMAN 参加企業との交流を目的に、東京都（TMAN）との交流会に参加した。

2018（平成 30）年度交流会一覧

交流会	実施日	開催場所
平成 30 年度 TMAN 事業説明会	2018年 4月19日	航空会館
平成 30 年度 第 1 回 TMAN 交流会	2018年 9月25日	航空会館
平成 30 年度 第 2 回 TMAN 交流会	2018年12月12日	航空会館
平成 30 年度 第 3 回 TMAN 交流会	2019年 2月 6日	航空会館

2.5 生活関連産業支援

人間工学、感性工学、情報技術、デザイン技術を活用して、ユーザー本位の製品開発手法を普及することにより、健康・医療・福祉機器産業や生活関連産業の製品開発力を強化した。

(1) 技術開発

人間の運動特性、生理情報、感覚などを客観的データとして計測し、製品開発、評価技術に展開する研究を実施した。

1) 基盤研究

- ・ 広角カメラ映像からの人物行動解析手法に関する研究
- ・ 感性価値デザインのための評価手法の検討
- ・ 製品開発におけるカラーユニバーサルデザインの研究
- ・ コンピュータシミュレーションと AI を融合した自動構造設計技術の開発 ほか

2) 共同研究

- ・ 豪雨警戒モニタリングシステムの開発
- ・ 人間工学に基づくカトラリーの開発 ほか

3) プロジェクト推進研究

- ・同調制御を用いた歩行支援ロボティックウェア curara[®]の実用化（ロボット産業活性化事業公募型共同研究）
- ・さわれるスポーツ観戦（障害者スポーツ研究開発推進事業基礎研究） ほか

(2) 技術支援

1) 情報技術グループの主な取り組み

オーダーメイド試験などで LED 製品や半導体製造装置、食品パッケージなどにおける熱流解析、家電などの電気信号測定に関する試験、幅広い分野の製品に対し電氣的適合性評価などを実施した。

日本発の産業用映像国際規格（CoaXPress）における依頼試験機関として支援を行ったほか、中小企業のサイバーセキュリティ対策支援のためのワークショップを実施した。

2) デザイン技術グループの主な取り組み

「使いやすさ」「楽しさ」「潜在ニーズ」などをキーワードとして、生活用品や医療機器のオーダーメイド開発支援、日用品の受託研究などを実施した。

2017（平成 29）年度に発行したデザイン成果事例集を増刷するとともに、都産技研ウェブサイトにウェブブックとして公開した。

3) 生活技術開発セクターの主な取り組み

生活動作計測スタジオを新設し、筋骨格解析シミュレータなどの機器を新規に導入して、人間の特性、生活空間・環境を生かしたものづくり支援体制を拡充した（3月1日より運用開始）。

2018（平成 30）年度も全国の公設試が所有する人間生活工学関連機器を横断的に検索可能なウェブサイト、人間生活工学機器データベース DHuLE を継続運営し、企業支援に活用した。

(3) 人材育成

感性工学や人間工学を取り入れた製品開発のための技術セミナー・講習会を実施した。

- ・景品表示法・医薬品医療機器等法を踏まえた生体計測による生活製品評価入門
- ・におい分析と官能評価
- ・感性工学による製品評価法[入門編]筋電・心電図～表情分析 ほか

2.6 外部発表……………431 件

基盤研究などの成果普及は、各種学協会などの外部機関への論文投稿、口頭発表などを通じて行っている。また、依頼原稿や依頼講演を通じても成果普及を行い、中小企業の技術課題の解決や製品開発に寄与している。

2018（平成 30）年度の外部発表実績は以下のとおりである。なお、執筆者、発表者には共同執筆者および共同発表者の場合も掲載している。

論文発表 53 件

No.	発表タイトル	執筆者	学会等の名称	誌名
1	Non-linear Tone Control Method by ThACE for Evaluation of Minute Sounds	服部 遊 ほか3名	日本感性工学会	International Journal of Affective Engineering (日本感性工学会 英文論文誌)
2	Finite-Difference Complex-Frequency-Domain Method for Optical and Plasmonic Analysis	山口隆志 ほか4名	IEEE	IEEE Photonics Technology Letters
3	Angle-selective reflection surface for energy efficiency	磯田和貴 永田晃基 海老澤瑞枝 ほか1名	SPIE	Proceedings of SPIE
4	摩擦・摩耗試験による静電植毛加工品の植毛強さ評価とその問題点	宇井 剛 長谷川 孝 殿谷保雄	日本繊維製品消費科学会	繊維製品消費科学
5	Numerical analysis of angle-selective one-dimensional periodic structure for building energy management	磯田和貴 永田晃基 海老澤瑞枝 ほか1名	SPIE	Proceedings of SPIE
6	熱型絶対湿度センサの高湿度・結露環境に向けた要素技術開発	豊島克久	(一社)電気学会	電気学会論文誌 E
7	静電植毛加工の高品質化を目指した静電場解析の導入	長谷川 孝 ほか2名	(一社)色材協会	色材協会誌
8	既存規格における LED 照明の出力安定度評価方法の検証	澁谷孝幸 岩永敏秀 横田浩之	(一社)照明学会	照明学会誌
9	Distribution of Sterigmatocystin-producing Aspergilli in Japan	小沼ルミ ほか9名	Food Safety Commission	Food Safety
10	Evaluation of Relative sensitivity factors for elemental analysis of Aluminum and Magnesium using Glow Discharge Mass Spectrometry with a Fast-Flow Grimm-type ion source	山田健太郎 ほか1名	(公社)日本分析化学会	Analytical Sciences
11	Regeneration of Co ₃ O ₄ -CeO ₂ catalyst used for odor elimination in an offset printing factory	井上研一郎 染川正一 篠田 勉 ほか2名	Rangsit University Research Institute	Journal of Current Science and Technology
12	Effect of PTFE and some additives of engine oil on tribological properties between polyamide and carbon steel	中村健太 ほか2名	(一社)日本トライボロジー学会	日本トライボロジー学会英文誌 「Tribology Online」
13	非線形モデル推定を用いた走査速度適応型放射線モニタリング計測手法	中川善継 村上知里 ほか2名	(一社)電気学会	電気学会論文誌 C (電子・情報・システム部門誌) / 「データの計測・解析と制御技術への応用」特集
14	日本における普通鋼中の Cu 濃度を決定する要因の同定	林 英男 ほか4名	(一社)日本鉄鋼協会	鉄と鋼
15	Effect of Addition of Styrene-Ethylene/Butylene-Styrene and type of Mica on the Mechanical Properties of Mica-filled Polyethylene/Polypropylene Blends	梶山哲人 安田 健 山中寿之 清水研一 ほか6名	Polymer Processing Society	International Polymer Processing
16	Effect of Boron incorporation on structural and optical properties of AlN layers grown by metal-organic vapor phase epitaxy	太田優一 ほか6名	Wiley	Physica Status Solidi (a) - Applications and Materials Science

2018(平成30)年度 年報

No.	発表タイトル	執筆者	学会等の名称	誌名
17	Relationship between laser scanning parameters and solidification depth in low temperature laser sintering process	木暮尊志 山内友貴 ほか1名	International Solid Freeform Fabrication Symposium	2018 Annual International Solid Freeform Fabrication Symposium (SFF Symp 2018)
18	Tensile properties of AZX612 alloy sheets processed by Friction Assisted Extrusion	小船諭史 ほか1名	Trans Tech Publications, Switzerland	Defect and Diffusion Forum
19	Evaluation of Seismic Performance of Structure Combining Wood Friction Wall and Common Walls of Wooden House	松原独歩 ほか5名	Korea Forest Service National Institute of Forest Science	Proceedings of the world conference on timber engineering
20	Improvement of Region-Wide Collaborative Database	阿部真也 富山真一 中川朋恵 ほか1名	Global Academic-Industrial Cooperation Society	Proceedings of 2018 International Conference on Engineering, Science and Applications
21	A simple-structure FMCW radar test system using PLL-Gunn oscillator and fundamental mixer in 79 GHz band	藤原康平 山岡英彦 ほか4名	IEEE	International conference on radar 2018 (RADAR 2018)
22	小集団向け設計思考法「ミニマムシンキング (MT) メソッド」の提案	森 豊史	日本感性工学会	日本感性工学会論文誌
23	Forming limit diagram with anisotropy considering of Ti-6Al-4V sheets and prediction of ductile fracture by experiment and FEA	奥出裕亮 齋藤庸賀 岩岡 拓	Elsevier	Procedia Manufacturing
24	Adsorption of Rare-Earth Metal Ions on Natural Banana Fiber	梶山哲人 ほか7名	日本イオン交換学会	Journal of Ion Exchange
25	積層セラミック技術を用いたガスセンサの開発	小宮一毅 山岡英彦	(一社)電気学会 センサ・マイクロマシン部門	第35回「センサ・マイクロマシンと応用システム」シンポジウム
26	亜鉛排水処理におけるめっき用薬品の影響と対策	森久保 諭 田熊保彦 西田 葵 小坂幸夫	(一社)表面技術協会	表面技術
27	Pull-out stress relaxation behavior of lag screw timber joints under indoor environment	松原独歩 ほか5名	(一社)日本木材学会、Society of Wood Science and Technology (USA)	Proceedings of the 2018 SWST/JWRS International Convention
28	低温焼結セラミックスを応用したガス電子増幅器の開発	小宮一毅 武内陽子 藤原康平 ほか4名	(公社)精密工学会	精密工学会誌
29	大気中光電子収量分光分析を用いた有機半導体材料の薄膜状態でのエネルギー準位の測定	小汲佳祐 藤巻康人 ほか2名	(公社)日本分析化学会	分析化学
30	ナノグラフェンのHOMO-LUMO 準位における π 共役面の歪みの影響 -大気中光電子分光法による分析-	藤巻康人 林 孝星 小汲佳祐 渡辺洋人	(公社)日本分析化学会	分析化学
31	IEEE802.11ad packet transmission based SSB optical modulation on Radio-over-Fiber in 90 GHz band	藤原康平 時田幸一 ほか1名	The European Microwave Association (EuMA), IEEE MTT-S	IEEE Xplore
32	木材の海水浸透性と塩素抽出方法	安藤恵理 田熊保彦 杉森博和 荒川 豊 瓦田研介 ほか1名	(公社)日本木材加工技術協会	木材工業
33	Time-Division Parallel FDTD Algorithm	山口隆志 ほか3名	IEEE	IEEE Photonics Technology Letters
34	Effect of Carbon Diffusion on Friction and Wear Behaviors of Diamond-Like Carbon Coating Against Cr-Plating in Boundary Base Oil Lubrication	川口雅弘 ほか7名	Japanese Society for Tribologist (JAST)	Tribology online
35	装着しやすい歩行支援ロボット“curara®”パンツタイプの構造試作	加藤貴司 ほか2名	日本感性工学会	日本感性工学会論文誌
36	Comparative evaluation of estimation of step gauge measurement uncertainty via Monte Carlo simulation	三浦由佳 中西正一 樋口英一 ほか3名	Elsevier Science Ltd.	Precision Engineering

No.	発表タイトル	執筆者	学会等の名称	誌名
37	Treatment of Volatile Organic Compounds with a Pt/Co ₃ O ₄ -CeO ₂ Catalyst	井上研一郎 染川正一	Wiley	Chemical Engineering & Technology
38	Ex-vivo assessment of anchoring force of covered biflanged metal stent and covered self-expandable metal stent for interventional EUS	永川栄泰 柚木俊二 ほか11名	Wiley	Journal of Gastroenterology and Hepatology
39	Development of Zero-Shrinkage-LTCC Substrate for Millimeter-Wave Applications	時田幸一 藤原康平 山岡英彦 ほか3名	Institute of Electrical and Electronics Engineers	IEEE Xplore
40	Friction and Wear Properties of Recycled Natural Fiber Reinforced Plants-Derived Polyamide1010 Biomass Composites	梶山哲人 ほか5名	AIP Publishing	AIP Conference Proceedings
41	屋外暴露における混練型 WPC 表面の菌類汚染	小沼ルミ ほか3名	(公社)日本木材保存協会	木材保存
42	Star-shaped Magnesium Tetraethynylporphyrin Bearing Four Peripheral Electron-accepting Diketopyrrolophyrrole Functionalities for Organic Solar Cells	小波佳祐 ほか9名	Royal Society of Chemistry	Journal of Materials Chemistry A
43	Automatic bias control for radio-over-fiber-based train communication network system with single-sideband modulation	藤原康平 時田幸一 ほか1名	The international society for optics and photonics	SPIE Photonics West OPTO 2019
44	Effect of Addition of PP-g-MA on the Tribological Properties of Hemp Fiber Reinforced Plant-Derived Polyamide1010 Biomass Composites	梶山哲人 ほか2名	AIP Publishing	AIP Conference Proceedings
45	Comparison of radioactive and stable cesium uptake in aquatic macrophytes affected by the Fukushima Dai-ichi nuclear power plant accident	永川栄泰 ほか6名	Springer	Journal of Radioanalytical and Nuclear Chemistry
46	Halogen Heterogeneity in the Lithosphere and Evolution of Mantle Halogen Abundances Inferred From Intraplate Mantle Xenoliths	小林真大 ほか10名	American Geophysical Union	Geochemistry, Geophysics, Geosystems
47	Fluorescence enhancement of ethanolic solution of nitroarenes and its analytical application	藤巻康人 ほか3名	(公社)日本分析化学会	Analytical Sciences
48	Radiation-induced debromination of 1, 2-dibromotetrafluoroethane (Halon2402) in alcohols followed by Br ₂ ^{·-} formation- A pulse radiolysis study -	中川清子 他2名	Elsevier	Radiation Physics and Chemistry
49	Enhanced quantum yield of nanographenes incorporated in supermicroporous silicas and the co-adsorption effect of water molecules	渡辺洋人 藤巻康人 林孝星 ほか1名	The Chemical Society of Japan	Bulletin of the Chemical Society of Japan
50	Selective fluorination of perovskite iron oxide/ruthenium oxide heterostructures via a topotactic reaction	小川大輔 ほか6名	Royal Society of Chemistry	Chemical Communications
51	トポロジー最適化を利用したキッチンカーの開発	上野明也	(一社)日本デザイン学会	2018年度作品集
52	Color appearance evaluation of LED lightings by principal component analysis	岩永敏秀 澁谷孝幸 横田浩之 ほか4名	(一社)照明学会	Journal of Science and Technology in Lighting
53	情報検索システムの言語バリアフリー化	阿部真也 吉次なご 三木大輔 ほか1名	(一社)情報システム学会	情報システム学会誌
『平成29年度年報』未掲載分				
1	Influence of Initial Fiber Length on the Mechanical and Tribological Properties of Hemp Fiber Reinforced Plants-Derived Polyamide 1010 Biomass Composites	梶山哲人 山中寿行 ほか3名	AIP Publishing	AIP Conference Proceedings
2	Effect of phosphorous ion implantation on the mechanical properties and bioactivity of hydroxyapatite	寺西義一 ほか2名	Springer Science	Journal of Materials Science: Materials in Medicine

2018(平成30)年度 年報

論文発表 (査読なし) 0 件

口頭発表 (学協会など) 155 件

No.	発表タイトル	発表者	年月日	場所	大会などの名称
1	難聴者にも健聴者にも聞きやすい聴こえ支援スピーカシステムの開発とその利用について	服部 遊 宮入 徹 ほか1名	2018年 4月14日	キャンパス・イノベーションセンター東京	日本福祉工学会 福祉用具機器・福祉情報 合同研究会
2	Alkali Uptake Evaluations of C-A-S-H with Structure Analys by NMR and of Degradated OPC Paste	渡邊禎之 ほか3名	2018年 4月24日	スイス連邦 デューベンドルフ	2nd Workshop Calcium-Silicate Hydrates Containing Aluminium: C-A-S-H II
3	Numerical analysis of angle-selective one-dimensional periodic structure for building energy management	磯田和貴 永田晃基 海老澤瑞枝 ほか1名	2018年 4月26日	フランス共和国 ストラスブール	SPIE Photonics Europe
4	工業的焼結マグネシウム合金のエアトマイズ法と諸性質の基礎検討	岩岡 拓 ほか1名	2018年 4月30日	京都大学 百周年時計台記念館	(一社)粉体粉末冶金協会 平成30年度春季大会 (第121回講演大会)
5	材齢50年を経た中熟フライアッシュダムコンクリートのC-A-S-H	渡邊禎之 ほか3名	2018年 5月8日	ホテルメトロポリタン	第72回セメント技術大会
6	フライアッシュによるDEF抑制効果に関する検討	渡邊禎之 ほか3名	2018年 5月10日	ホテルメトロポリタン	第72回セメント技術大会
7	確率分布の事前情報を必要としない粒子フィルタの開発	金田泰昌 入月康晴	2018年 5月16日	京都テルサ	第62回システム制御情報学会研究発表講演会
8	SSB光変調方式による90GHz帯RoFにおけるIEEE802.11ad実信号の伝送実験	藤原康平 時田幸一 ほか1名	2018年 5月18日	機械振興会館	マイクロ波・ミリ波フォトニクス研究会
9	DLC膜の摩擦フェイドアウトを発現するトライボフィルムの膜質評価	川口雅弘 ほか3名	2018年 5月21日	青少年オリンピックセンター(代々木)	トライボロジー会議2018 春東京
10	ZrO ₂ の摩擦触媒作用によるDLC膜の摩擦フェイドアウト技術	川口雅弘 ほか2名	2018年 5月22日	青少年オリンピックセンター(代々木)	トライボロジー会議2018 春東京
11	無水マレイン酸処理CF/PA6複合材料の摩擦摩耗特性	井上 潤 梶山哲人 竹澤 勉 ほか2名	2018年 5月23日	国立オリンピック記念 青少年総合センター	トライボロジー会議2018 春東京
12	スマートデバイス連動型シニアカートにおける自動運転に向けた知能化技術	中村佳雅 ほか2名	2018年 5月23日	パシフィコ横浜	(公社)自動車技術会春季 大会学術講演会2018
13	木目の色差を考慮した屋外暴露木材表面色の経年変化予測	村井まどか ほか16名	2018年 5月23日	メルパルク東京	日本木材保存協会第34 回年次大会
14	模擬エアトマイズ法によるマグネシウム合金粉末の諸性質	岩岡 拓 ほか1名	2018年 5月27日	熊本大学 黒髪南キャンパス	(一社)軽金属学会第134 回春期大会
15	摩擦攪拌プロセスによりMA粉末を添加したAZ91Dマグネシウム合金のミクロ組織	猿渡直洋 岩岡 拓 中村 勲 青沼昌幸	2018年 5月27日	熊本大学 黒髪南キャンパス	(一社)軽金属学会第134 回春期大会
16	ゲル法シリカ充填非架橋EPDMの折り曲げ部の構造に及ぼす配合組成の影響	飛澤泰樹 ほか2名	2018年 6月1日	埼玉会館	(一社)日本ゴム協会2018 年次大会
17	酸化被膜を施した純チタンの円筒深絞り加工における酸化膜剥離に及ぼす加工条件の影響	奥出裕亮 岩岡 拓 中村 勲	2018年 6月2日	国立オリンピック記念 青少年総合センター	平成30年度塑性加工春 季講演会
18	SAFETY AND USABILITY OF TEMPERATURE-RESPONSE COLLAGEN-GENIPIN SOLS AS A NOVEL SUBMUCOSAL INJECTION MATERIAL FOR ENDOSCOPIC RESECTION	成田武文 柚木俊二 ほか4名	2018年 6月2日	アメリカ合衆国 ワシントンD.C.	Digestive Disease Week 2018
19	SUCCESSFUL ENDOSCOPIC CLOSURE USING A TEMPERATURE-RESPONSIVE, BIODEGRADABLE AND INJECTABLE COLLAGEN SOL FOR PERFORATION DURING ENDOSCOPIC SUBMUCOSAL DISSECTION	成田武文 柚木俊二 ほか5名	2018年 6月2日	アメリカ合衆国 ワシントンD.C.	Digestive Disease Week 2018
20	テラヘルツ連続波2次元イメージングによる欠陥検出	時田幸一	2018年 6月6日	(一社)日本非破壊検査 協会 亀戸センター	平成30年度非破壊検査 総合シンポジウム
21	IoT向けストリーム暗号のプロトタイピングとハードウェア実装	岡部 忠	2018年 6月6日	東京ビッグサイト	JPCashow2018 アカデミック プラザ

No.	発表タイトル	発表者	年月日	場所	大会などの名称
22	各種天然繊維強化植物由来PA1010 バイオマス複合材料の機械的特性と繊維分散性の関係	井上 潤 梶山哲人 竹澤 勉 ほか3名	2018年 6月22日	タワーホール船堀	プラスチック成形加工学会第29回年次大会
23	繊維製品の機器測定による感覚的消臭性評価	佐々木直里	2018年 6月23日	金城学院大学	繊維製品消費科学会2018年次大会
24	光硬化性樹脂 AM モデルへの塗装技術の開発	小野澤明良 峯 英一 村井まどか 木下稔夫 石堂 均	2018年 6月24日	大阪工業大学 梅田キャンパス	日本デザイン学会第65回春季研究発表大会
25	光硬化性樹脂 AM モデルへのめっき技術の開発	竹村昌太 桑原聡士 土井 正 浦崎香織里 高橋俊也	2018年 6月24日	大阪工業大学 梅田キャンパス	日本デザイン学会第65回春季研究発表大会
26	亀裂検知用 e テキスタイルの開発	窪寺健吾	2018年 6月29日	首都大学東京	首都大学東京第10回施策提案発表会
27	広角監視カメラ映像からの人物動作認識手法	三木大輔	2018年 6月29日	首都大学東京	首都大学東京第10回施策提案発表会
28	メタカオリンと水ガラスから作成したジオポリマーのセシウム保持能	渡邊禎之 ほか4名	2018年 7月 3日	タワーホール船堀	(一社)環境・放射能除染学会第7回研究発表会
29	Influence of test speed on folding angle and folded-part structure of non-crosslinked EPDM composites	飛澤泰樹 ほか2名	2018年 7月 3日	オーストラリア連邦 クイーンズランド州 ケアンズ	macro2018
30	低エネルギー電子線を用いた卵殻の殺菌処理と内部線量の寄与ーモンテカルロシミュレーションの利用ー	片岡憲昭 関口正之 河原大吾	2018年 7月 6日	東京大学 弥生講堂	第55回アイソトープ・放射線研究発表会
31	木製摩擦ダンパー付き耐力壁を用いた木造軸組構法住宅の損傷制御	松原独歩 ほか5名	2018年 7月 8日	金沢工業大学	2018年度日本建築学会北陸支部大会
32	A study on correction methods for improving accuracy of dimensional measurement using X-ray computed tomography	竹澤 勉 樋口英一	2018年 7月10日	アメリカ合衆国 ハワイ州 オアフ島 ホノルル	The 6th JAPAN-US NDT Symposium
33	Basic Study of Blind Football Play-by-Play System for Visually Impaired Spectators using Quasi-Zenith Satellites System	島田茂伸 ほか2名	2018年 7月11日	オーストリア共和国 リンツ	16th International Conference on Computers Helping People with Special Needs (ICCHP2018)
34	接触を有する機械構造物のFEMによる振動音響モデル構築と解析に関する研究	宮入 徹 ほか2名	2018年 7月12日	早稲田大学 西早稲田キャンパス	第28回環境工学総合シンポジウム2018
35	熱伝達向上を目的とした自己強制空冷システムのヒートシンクの開発	富山真一	2018年 7月19日	日本教育会館	第48回信頼性・安全性シンポジウム
36	複素周波数領域有限差分法による表面プラズモンの時間応答解析 ～ 三次元問題への拡張 ～	山口隆志 ほか3名	2018年 7月19日	洞爺観光ホテル	エレクトロニクスシミュレーション研究会(信学技法 EST2018-12)
37	メモリベースド・リコンフィギャラブルロジックデバイスの経路合成の検討	大原 衛 岡部 忠 ほか2名	2018年 7月20日	かんぼの宿 栃木喜連川温泉	第79回FTC研究会
38	Time-Frequency Analysis of Electromagnetic Wave Using a Perfectly Parallel Algorithm	山口隆志 ほか3名	2018年 8月 2日	富山国際会議場	PIERS 2018 Toyama
39	Magnesium Porphyrin Complexes as Electron Donor for Organic Solar Cells with Near IR Light Absorption	小波佳祐 ほか3名	2018年 8月 3日	東北大学	The 43th International Conference on Coordination Chemistry
40	EM Analysis of Electromagnetic Devices Using Finite-difference Complex-Frequency-Domain Method	山口隆志 ほか2名	2018年 8月 3日	富山国際会議場	PIERS 2018 Toyama
41	Relationship between laser scanning parameters and solidification depth in low temperature laser sintering process	木暮尊志 山内友貴 ほか1名	2018年 8月15日	アメリカ合衆国 テキサス州 オースティン	2018 Annual International Solid Freeform Fabrication Symposium (SFF Symp 2018)
42	Halogens in subcontinental lithospheric mantle beneath Southern Patagonia	小林真大 ほか4名	2018年 8月15日	アメリカ合衆国 マサチューセッツ州 ボストン	Goldschmidt 2018

2018(平成30)年度 年報

No.	発表タイトル	発表者	年月日	場所	大会などの名称
43	Tensile properties of AZX612 alloy sheets processed by Friction Assisted Extrusion	小船論史 ほか1名	2018年 8月19日	ロシア連邦 サンクトペテルブルク	13th International Conference on Superplasticity in Advanced Materials
44	油脂の洗浄度評価に用いる観察手法の検討	石田祐也 畑山博哉 村井まどか ほか1名	2018年 8月27日	山梨大学	日本実験力学学会 2018 年度年次講演会
45	A simple-structure FMCW radar test system using PLL-Gunn oscillator and fundamental mixer in 79 GHz band	藤原康平 山岡英彦 ほか4名	2018年 8月28日	オーストラリア連邦 クイーンズランド州 ブリスベン	International conference on radar 2018 (RADAR 2018)
46	極細熱電対の開発と多点式温度センサへの応用	沼尻治彦 佐々木正史 倉持幸佑 河原大吾 ほか6名	2018年 8月29日	横浜国立大学	電気学会平成30年産業応用部門大会
47	Magnesium Tetraethynylporphyrin Derivatives for Molecule Organic Solar Cells	小汲佳祐 ほか3名	2018年 9月3日	イタリア共和国 エミリア=ロマーニャ 州 ボローニャ	69th Annual Meeting of the International Society of Electrochemistry
48	ポータブル植毛装置に適用できる植毛評価治具の作製	長谷川 孝 ほか2名	2018年 9月4日	イーグレひめじ	電気学会平成30年基礎・材料・共通部門大会
49	木製摩擦ダンパー付き耐力壁及び合板壁、石膏ボードから構成される木質構造の耐震性能評価 その3 2層振動台実験	松原独歩 ほか5名	2018年 9月4日	東北大学	2018年度日本建築学会大会(東北)
50	木製摩擦ダンパー付き耐力壁を用いた木造軸組構法住宅の損傷制御	松原独歩 ほか5名	2018年 9月4日	東北大学	2018年度日本建築学会大会(東北)
51	国際標準指定色を用いた色の抽出方法	角坂麗子	2018年 9月5日	東京大学	第20回日本感性工学会大会
52	木製摩擦ダンパーの初期軸力管理法に関する研究 その2 ラグスクリュアの締付け速度が締付け特性に及ぼす影響	松原独歩 ほか4名	2018年 9月5日	東北大学	2018年度日本建築学会大会(東北)
53	感性評価を基準にしたコモディティ製品の開発事例	森 豊史	2018年 9月5日	東京大学	第20回日本感性工学会大会
54	未来のユーザーの感性に響くものづくり	森 豊史	2018年 9月5日	東京大学	第20回日本感性工学会大会
55	スリット型チップレス RFID タグのトポロジー最適化	渡部雄太	2018年 9月5日	北海道大学 工学部	電気学会平成30年電子・情報・システム部門大会
56	長期材齢フライアッシュセメントの水和物の評価	渡邊禎之 ほか5名	2018年 9月6日	岡山大学 津島キャンパス	日本原子力学会 2018 年秋の大会
57	セメント水和物への Cs、Sr イオンの吸着に及ぼすアルカリイオンの影響	渡邊禎之 ほか3名	2018年 9月6日	岡山大学 津島キャンパス	日本原子力学会 2018 年秋の大会
58	TiO ₂ と WO ₃ 量子ドットの表面増強 Raman スペクトルによる構造解析	渡辺洋人 ほか1名	2018年 9月6日	名古屋工業大学 鶴舞キャンパス	(公社)日本セラミックス協会第31回秋季シンポジウム
59	マイクロチャネルを有するメソポーラスシリカの合成	渡辺洋人 ほか3名	2018年 9月6日	名古屋工業大学 鶴舞キャンパス	(公社)日本セラミックス協会第31回秋季シンポジウム
60	時系列センサデータを対象としたフィルタ挿入による非線形モデル推定の改善	中川善継 ほか2名	2018年 9月6日	北海道大学 工学部	電気学会平成30年電子・情報・システム部門大会
61	原子核実験のための長尺・高密度フレキシブル基板の開発	近藤 崇 藤原康平 ほか5名	2018年 9月7日	大阪大学 吹田キャンパス	第28回マイクロエレクトロニクスシンポジウム
62	静電植毛加工の高品質化を目指した静電場解析の活用	長谷川 孝 ほか2名	2018年 9月7日	近畿大学 東大阪キャンパス	2018年度色材研究発表会
63	放射性セシウム固定化用ジオポリマーの組成最適化	渡邊禎之 ほか4名	2018年 9月7日	岡山大学 津島キャンパス	日本原子力学会 2018 年秋の大会
64	スーパーマイクロポーラスシリカ担体とした酸化チタン-酸化タングステン複合体の合成とその光触媒活性評価	渡辺洋人 染川正一 ほか3名	2018年 9月7日	名古屋工業大学	(公社)日本セラミックス協会第31回秋季シンポジウム
65	多孔質羽根車を用いた遠心ポンプの設計と性能予測	小西 毅 平野康之 ほか1名	2018年 9月10日	関西大学 千里山キャンパス	日本機械学会 2018 年度年次大会

No.	発表タイトル	発表者	年月日	場所	大会などの名称
66	Study on difference among the THz spectra obtained from commercial Caffeine and Sodium Benzoate (CSB) on the market	藤巻康人 ほか4名	2018年 9月10日	名古屋国際会議場	IRMMW THz 2018 (The International Society of Infrared, Millimeter, and Terahertz Waves)
67	平面電波吸収体の活用法に関する検討	小畑 輝 高橋文緒 渡部雄太	2018年 9月11日	金沢大学 角間キャンパス	2018年電子情報通信学会 ソサイエティ大会
68	E級インバータを用いた挟み込み構造型非接触給電システムの検討	秋山美郷 佐野宏靖 大森 学	2018年 9月11日	金沢大学 角間キャンパス	2018年電子情報通信学会 ソサイエティ大会
69	付加製造バイオリンの設計と製作	横山幸雄	2018年 9月12日	大分大学 旦野原キャンパス	日本音響学会 2018年秋季研究発表会
70	金属球による電磁波散乱の時間一周波数応答解析 -三次元複素周波数領域有限差分法-	山口隆志 ほか2名	2018年 9月13日	金沢大学 角間キャンパス	2018年電子情報通信学会 ソサイエティ大会
71	火山ガスモニタリングを目指したLSPRセンサの開発	瀧本悠貴 木下真梨子 月精智子 小林真大 永田晃基 紋川 亮 ほか2名	2018年 9月13日	琉球大学 千原キャンパス	2018年度日本地球化学会 第65回年会
72	広帯域EMI簡易測定用アンテナの開発	高橋文緒 大森 学 佐野宏靖 村上祐一	2018年 9月13日	金沢大学 角間キャンパス	2018年電子情報通信学会 ソサイエティ大会
73	球体への静電植毛加工における静電場解析の活用	長谷川 孝 小畑 輝	2018年 9月14日	東京工業大学 大岡山キャンパス	第42回静電気学会全国 大会
74	電磁界解析における有限領域差分法の比較	山口隆志 ほか3名	2018年 9月14日	金沢大学 角間キャンパス	2018年電子情報通信学会 ソサイエティ大会
75	LTCC-GEMを用いた中性子イメージング	小宮一毅 武内陽子 上野武司 ほか1名	2018年 9月14日	信州大学 松本キャンパス	(一社)日本物理学会2018 年秋季大会
76	Friction properties of chlorine-doped amorphous carbon films sliding against various counter parts	徳田祐樹 川口雅弘 他2名	2018年 9月17日	マレーシア サラワク州 クチン	6th asia international conference on tribology
77	Forming limit diagram with anisotropy considering of Ti-6Al-4V sheets and prediction of ductile fracture by experiment and FEA	奥出裕亮 齋藤庸賀 岩岡 拓	2018年 9月17日	ロワジュールホテル 豊橋	Metal Forming 2018
78	首都圏に飛来した福島原発事故由来の放射性エアロゾル中の ¹²⁹ I/ ¹³¹ I比	永川榮泰 櫻井 昇 ほか7名	2018年 9月18日	京都大学 吉田キャンパス	第62回放射化学討論会
79	非晶質炭酸カルシウムの結晶化温度に及ぼす圧力の影響	吉野 徹 佐野 森 ほか1名	2018年 9月19日	山形大学 小白川キャンパス	(一社)日本鉱物科学会 2018年年会
80	塗料スラッジのエネギーリサイクル可能性の検討	田熊保彦 榎本大佑 森久保 諭 小坂幸夫	2018年 9月20日	鹿児島大学 郡元キャンパス	化学工学会 第50回秋季大会
81	亜鉛めっき排水規制対応に向けた前処理洗浄方法の検討	森久保 諭 榎本大佑 田熊保彦 西田 葵 小坂幸夫	2018年 9月20日	鹿児島大学 郡元キャンパス	化学工学会 第50回秋季大会
82	四元系窒化物半導体 Zn _{1-x} Ge _{1-x} Ga _{2x} N ₂ の電子状態計算	太田優一	2018年 9月21日	名古屋国際会議場	第79回応用物理学会秋 季学術講演会
83	IEEE802.11ad packet transmission based SSB optical modulation on Radio-over-Fiber in 90 GHz band	藤原康平 時田幸一 ほか1名	2018年 9月26日	スペイン王国 マドリード	The 48th European Microwave conference 2018
84	窒素ドーブカーボンを用いた酸素電極の特性	立花直樹 湯川泰之 川口雅弘 ほか1名	2018年 9月26日	金沢大学 角間キャンパス	電気化学会 2018年電気化学秋季大会

2018(平成30)年度 年報

No.	発表タイトル	発表者	年月日	場所	大会などの名称
85	固体 NMR によるフェロシアン化遷移金属中のアルカリ金属イオンの吸着構造研究	渡邊慎之 ほか3名	2018年 9月28日	大阪市立大学	第 61 回放射線化学討論会
86	多点式温度センサの開発	倉持幸佑 沼尻治彦 佐々木正史 ほか1名	2018年 9月28日	東京ビッグサイト	INTERMEASURE2018
87	弾性率変化を用いた高効率研削砥石の検討	鈴木悠矢	2018年 10月 5日	中野サンプラザ	地域イノベ・技術連携交流会
88	商品展示用ディスプレイ向け静電植毛加工技術と評価方法の検討	長谷川 孝	2018年 10月 5日	中野サンプラザ	地域イノベ・技術連携交流会
89	Mg-9%Al-1%Zn-2%Ca 系焼結合金の Sn 添加による Al-Ca 相の分散	岩岡 拓 ほか1名	2018年 10月10日	芝浦工業大学 豊洲キャンパス	軽金属学会 第 135 回秋季大会
90	動脈硬化の指標としての LDL 粒子径自動測定と LDL 粒子マーカの作成	柳 捷凡 ほか7名	2018年 10月12日	神戸国際会議場	日本臨床検査自動化学会 第 50 回大会
91	一対比較法による背景騒音下で聴感される異音に対する印象評価	宮入 徹 服部 遊	2018年 10月14日	神奈川大学 横浜キャンパス	(公社)日本騒音制御工学会 会秋季研究発表会
92	In situ gelatin properties of collagen-genicin sol with a potential gastrointestinal endoscopic treatment	成田武文 柚木俊二 ほか1名	2018年 10月16日	ヒルトン福岡シーホーク	The 2nd International Biotechnology Congress (IBC-2018)
93	PLL ガン発振器と基本波ミキサを用いた自動車用ミリ波レーダ信号用テストシステムの開発	藤原康平 山岡 英彦 ほか4名	2018年 10月18日	八戸商工会館	マイクロ波研究会
94	デュボン衝撃試験機による熱強化ガラスの破壊の破面解析的研究	上部隆男 増田優子	2018年 10月19日	京都テルサ	第 15 回フラクトグラフィ イシンポジウム
95	粘菌アルゴリズムによる避難経路の導出と評価	吉次なぎ 阿部真也 ほか1名	2018年 10月21日	首都大学東京 南大沢キャンパス	第 27 回地理情報システム 学会研究発表大会
96	Comparison of Computational Accuracy for Finite-Difference Methods	山口隆志 ほか3名	2018年 10月24日	大韓民国 釜山広域市	ISAP2018
97	多摩テクノプラザにおける複合材料の研究・開発支援	西川康博	2018年 10月25日	日本大学理工学部 駿河台校舎 1 号館	63rd FRP CON-EX 2018
98	Ti-6Al-4V 合金板の温間プレス成形法の開発	奥出裕亮 岩岡 拓 中村 勲	2018年 10月28日	熊本大学	第 69 回塑性加工連合講 演会
99	集合組織を制御したマグネシウム合金板材の曲げ成形性	小船論史 ほか1名	2018年 10月28日	熊本大学	第 69 回塑性加工連合講 演会
100	ウェルビーイング志向の IoT サービス設計に向けて	根本裕太郎	2018年 11月 4日	沖縄県読谷村文化センター	日本機械学会第 28 回設 計工学・システム部門講 演会
101	ステンレス鋼板の絞り・しごき加工における潤滑剤の効果-第 1 報 往復動摩擦試験による凝着のシミュレーション-	中村健太 ほか1名	2018年 11月 7日	伊勢市観光文化会館	トライボロジー会議 2018 秋 伊勢
102	DLC 膜の摩擦フェイダアウトを発現するトライボフィルムの構造分析	徳田祐樹 川口雅弘 ほか3名	2018年 11月 8日	伊勢市観光文化会館	トライボロジー会議 2018 秋 伊勢
103	Development of Zero-Shrinkage-LTCC Substrates for Millimeter-Wave Applications	時田幸一 藤原康平 山岡英彦 ほか3名	2018年 11月 9日	国立京都国際会館	2018 Asia-Pacific Microwave Conference (APMC)
104	チタン合金の逐次プレス成形法の開発と肉厚制御	奥出裕亮 岩岡 拓 中村 勲	2018年 11月11日	芝浦工業大学 豊洲キャンパス	軽金属学会 第 135 回秋季大会
105	TP340 チタン板の円筒深絞り加工における凝着抑制技術の開発	奥出裕亮 岩岡 拓 中村 勲	2018年 11月11日	芝浦工業大学 豊洲キャンパス	軽金属学会 第 135 回秋季大会
106	経内視鏡的に導入可能なコラーゲンゲルによる胃穿孔の閉鎖と治癒: Ex vivo および In vivo 評価	柚木俊二 成田武文 ほか1名	2018年 11月12日	神戸国際会議場	第 40 回日本バイオマテ リアル学会大会
107	FILT 法による時間領域並列アルゴリズムの開発	山口隆志 ほか3名	2018年 11月16日	皆生グランドホテル 天水	第 47 回電磁界理論シ ンポジウム
108	複素周波数領域有限差分法による表面プラズモンの応答解析 -光アンテナ・導波路設計への応用-	山口隆志 ほか3名	2018年 11月16日	皆生グランドホテル 天水	第 47 回電磁界理論シ ンポジウム

No.	発表タイトル	発表者	年月日	場所	大会などの名称
109	観光情報を対象とした対話型検索システムの開発	阿部真也 吉次なぎ 三木大輔 ほか1名	2018年 11月17日	南山大学	日本観光学会第112回全国大会
110	データ駆動型カルマンフィルタと非線形時系列解析への応用	金田泰昌 入月康晴	2018年 11月17日	南山大学 名古屋キャンパス	第61回自動制御連合講演会
111	生卵への低エネルギー電子線照射処理 -内部線量の分布-	片岡憲昭 河原大吾 関口正之	2018年 11月20日	都産技研 本部	第54回日本食品照射研究協議会大会
112	多角的偏光イメージングシステムを用いた樹脂材料の可視化と分析	海老澤瑞枝 ほか5名	2018年 11月26日	グランドホテル浜松	成形加工シンポジウム'18
113	ジクロロメタン代替メタクリル樹脂用接着剤の検討	安田 健 藤巻康人	2018年 11月27日	グランドホテル浜松	成形加工シンポジウム'18
114	3成分系バイオマス複合材料(麻繊維/植物由来PA1010/植物由来PA11E)の機械的性質に及ぼすスクリュ構成の影響	井上 潤 竹澤 勉 梶山哲人 ほか4名	2018年 11月27日	グランドホテル浜松	成形加工シンポジウム'18
115	ポリビニルアルコールの膨潤性を駆動力とした自己拡張型ハイドロゲルステントの設計	永川栄泰 柚木俊二 ほか4名	2018年 12月11日	福井大学 文京キャンパス	日本バイオマテリアル学会北陸信越ブロック第7回若手研究発表会
116	LTCC-GEMの加工精度の測定	武内陽子 小宮一毅 ほか3名	2018年 12月14日	京都大学 理学部5号館北館	第15回Micro-Pattern Gas Detector 研究会
117	LTCC-GEMの中性子検出器への応用	小宮一毅 武内陽子 上野武司 ほか2名	2018年 12月14日	京都大学 理学部5号館北館	第15回Micro-Pattern Gas Detector 研究会
118	言葉の壁を除去した観光案内システムの開発	阿部真也	2018年 12月22日	宮城学院女子大学	日本観光研究学会東北支部大会
119	小児における歩行器使用の問題点ーヒヤリ・ハット・インシデントに着目してー	西川康博 大島浩幸 ほか2名	2018年 12月23日	大阪府立国際会議場 (グランキューブ大阪)	第5回日本小児理学療法学会学術大会
120	CIP法における異なる格子間の電磁界接続に関する一検討	山口隆志 ほか4名	2019年 1月18日	大阪大学 中之島センター	エレクトロニクスシミュレーション研究会
121	微小金属柱の直交配列に対する伝搬モード解析	山口隆志 ほか5名	2019年 1月18日	大阪大学 中之島センター	エレクトロニクスシミュレーション研究会
122	表面波による純チタンの加工変質層評価のための超音波伝搬経路の検討	西村信司 伊藤 清	2019年 1月30日	都産技研 本部	第26回超音波による非破壊評価シンポジウム
123	Automatic bias control for radio-over-fiber-based train communication network system with single-sideband modulation	藤原康平 時田幸一 ほか1名	2019年 2月5日	アメリカ合衆国 カリフォルニア州 サンフランシスコ	SPIE Photonics West OPTO 2019
124	次世代暗号を用いた安全・安心なファイル共有方法の開発	大平倫宏	2019年 2月14日	科学技術振興機構 東京本部	スマートQOL 新技術説明会
125	強化学習に基づく自律移動機械用地図の最適化	吉村僚太 佐藤 研 小林祐介 ほか2名	2019年 3月8日	熊本大学 黒髪キャンパス	第6回制御部門マルチンポジウム
126	乱雑性データに対するフィルタを搭載した非線形モデル推定の適用	中川善継 ほか2名	2019年 3月12日	北海道科学大学	平成31年電気学会全国大会
127	プログラマブルデバイス PSoC への軽量暗号の実装検討	岡部 忠	2019年 3月12日	北海道科学大学	平成31年電気学会全国大会
128	弾性率変化を用いた高効率研削砥石の開発	鈴木悠矢	2019年 3月14日	東京電機大学 東京千住キャンパス	2019年度精密工学会春季大会学術講演会
129	硫化銀薄膜を用いたフレキシブル光導電センサ	海老澤瑞枝 磯田和貴 平 健吾	2019年 3月14日	北海道科学大学	平成31年電気学会全国大会
130	青色光網膜障害の実用的な測定方法の開発	秋葉拓也 澁谷孝幸	2019年 3月14日	北海道科学大学	平成31年電気学会全国大会
131	Zn含有排水からのZn-Al系LDH合成の検討とその吸着性能の評価	榎本大佑 田熊保彦 森久保 諭 小坂幸夫	2019年 3月14日	芝浦工業大学 豊洲キャンパス	化学工学会第84年会

2018(平成30)年度 年報

No.	発表タイトル	発表者	年月日	場所	大会などの名称
132	LTCC-GEM の加工精度の評価	武内陽子 小宮一毅 ほか3名	2019年 3月14日	九州大学 伊都キャンパス	日本物理学会 第74回年次大会
133	高速摩擦処理木材表面における物理・化学的变化の検討	樋口智寛 西田 葵 松原独歩 ほか4名	2019年 3月14日	函館アリーナ	第69回日本木材学会大会 (函館大会)
134	再加熱時間がシアノアクリレート樹脂を用いた接着継手の接着強度に及ぼす影響	古杉美幸 ほか3名	2019年 3月14日	九州工業大学 戸畑キャンパス	第72期日本機械学会九州支部総会・講演会
135	低位相雑音ガン発振器と基本波ミキサを用いた60GHz IEEE802.11ad テストシステムの開発	藤原康平 山岡英彦 ほか4名	2019年 3月15日	大濱信泉記念館	マイクロ波研究会
136	金属積層造形体の表面粗さと密度に与える多段階溶融法の効果	大久保 智 村上祐一 千葉浩行 藤巻研吾	2019年 3月15日	東京電機大学 東京千住キャンパス	2019年度精密工学会春季 大会学術講演会
137	近赤外レーザを用いたレーザ焼結における透過深度が部品の凝固組織に及ぼす影響に関する研究	山内友貴 木暮尊志 ほか1名	2019年 3月15日	東京電機大学 東京千住キャンパス	2019年度精密工学会春季 大会学術講演会
138	レーザー焼結の粉末床温度が固化深さと透過深度に与える影響についての研究	木暮尊志 山内友貴 ほか1名	2019年 3月15日	東京電機大学 東京千住キャンパス	2019年度精密工学会春季 大会学術講演会
139	引張外力を受ける集成材引きボルト接合部の内力係数	松原独歩 ほか3名	2019年 3月16日	函館アリーナ	第69回日本木材学会大会 (函館大会)
140	促進処理と再締付けを併用した木材の緩和挙動	松原独歩 ほか5名	2019年 3月16日	函館アリーナ	第69回日本木材学会大会 (函館大会)
141	sPHENIX 実験用長尺高密バスエクステンダーの開発	近藤 崇 ほか8名	2019年 3月17日	九州大学 伊都キャンパス	日本物理学会第74回年次大会
142	タングステン酸ジルコニウム凝集体のピーズミルによる湿式微分散	小林宏輝 並木宏允 佐熊範和 立花直樹	2019年 3月17日	甲南大学 岡本キャンパス	日本化学会第99春季年会 (2019)
143	ファインバブルを用いためっき前処理洗浄技術の検討	森久保 諭 西田 葵 小坂幸夫 榎本大佑 田熊保彦	2019年 3月18日	神奈川大学 横浜キャンパス	表面技術協会第139回講演大会
144	脱脂処理後の金属表面における清浄度評価法の検討	西田 葵 森久保 諭 田熊保彦	2019年 3月18日	神奈川大学 横浜キャンパス	表面技術協会第139回講演大会
145	窒素ドーブポーラスカーボンを空気極触媒に用いたマグネシウム空気電池の開発	立花直樹 ほか1名	2019年 3月18日	甲南大学 岡本キャンパス	日本化学会第99春季年会 (2019)
146	改正 RoHS 指令に関わるフタル酸エステル類の移行性の検討	平井和彦 中澤亮二 亀崎 悠 木下健司 池田紗織	2019年 3月18日	甲南大学 岡本キャンパス	日本化学会第99春季年会 (2019)
147	コモンモードノイズによる誤動作発生の指標となる IC の波形観測の検討	佐々木秀勝 佐野宏靖	2019年 3月20日	早稲田大学 西早稲田キャンパス	2019年電子情報通信学会 総合大会
148	時間領域電磁界解析における完全並列計算法	山口隆志 ほか3名	2019年 3月20日	早稲田大学 西早稲田キャンパス	2019年電子情報通信学会 総合大会
149	弱教師付き学習による人物の不自然動作の検知	三木大輔 ほか2名	2019年 3月20日	早稲田大学 西早稲田キャンパス	2019年電子情報通信学会 総合大会
150	自律移動案内ロボットの狭圧安全性に関する設計と評価手法	森田裕介 村上真之 渡辺公一 益田俊樹 坂下和広	2019年 3月20日	早稲田大学 西早稲田キャンパス	2019年電子情報通信学会 総合大会
151	シート型圧力分布測定器を用いた軟部組織厚み推定の基礎検討	村上知里 金田泰昌 ほか1名	2019年 3月21日	早稲田大学 西早稲田キャンパス	2019年電子情報通信学会 総合大会

No.	発表タイトル	発表者	年月日	場所	大会などの名称
152	摩擦攪拌プロセスを用いたメカニカルアロイニング粉末添加が AZ91D マグネシウム合金のマイクロ組織と機械的性質に及ぼす影響	猿渡直洋 岩岡 拓 中村 勲 青沼昌幸	2019年 3月21日	東京電機大学 東京千住キャンパス	日本金属学会 2019年春期(第164回) 講演大会
153	ゼラチンゲルを用いた低侵襲細胞シート輸送の実証試験	大藪淑美 柚木俊二 ほか2名	2019年 3月22日	神戸国際会議場	第18回日本再生医療学会総会
154	パノラマ映像からの人物動作認識のための3DCGを用いた学習手法	三木大輔 阿部真也 ほか3名	2019年 3月22日	早稲田大学 西早稲田キャンパス	2019年電子情報通信学会 総合大会
155	‘菊池レモン’の放射線利用による突然変異育種における好適条件の検討および無核個体の選抜	関口正之 中川清子 ほか2名	2019年 3月23日	明治大学農学部 生田キャンパス	(一社)園芸学会平成31 年度春季大会
『平成29年度年報』未掲載分					
1	生卵への低エネルギー電子線照射処理 —卵殻内部への制動X線による線量寄与について—	片岡憲昭 河原大吾	2018年 1月23日	都産技研 本部	日本食品照射研究協議会 第53回教育講演会/研究 発表会
2	ISO18535 に向けた全国公設試のラウンドロビン試験	川口雅弘	2018年 1月26日	都産技研 本部	材料試験技術への掲載, 兼材試験第274回シンポ ジウムでの講演
3	周波数の異なるレイリー波を用いた純チタンの加工変質層の検出	西村信司 伊藤 清	2018年 1月26日	都産技研 本部	第25回超音波による非 破壊評価シンポジウム
4	医療従事者との共働を目指した非接触・感染症スクリーニングロボットの開発	益田俊樹 ほか3名	2018年 2月 3日	パシフィコ横浜	第23回日本集団災害医 学会総会・学術集会
5	大気浮遊塵試料中の I-129/I-131 比	永川榮泰 櫻井 昇 ほか7名	2018年 3月15日	高エネルギー加速器研 究機構	第19回環境放射能研究 会
6	加圧による非晶質炭酸カルシウムの結晶化温度の低下	吉野 徹 佐野 森	2018年 3月16日	東北大学 川内北キャンパス	(公社)日本セラミックス 協会2018年年会
7	ゼラチンゲルを用いた低侵襲細胞シート輸送システムの提案	藤井恭子 柚木俊二 ほか3名	2018年 3月22日	パシフィコ横浜	第17回日本再生医療学 会総会

ポスター発表(学協会など) 110件

No.	発表タイトル	発表者	年月日	場所	大会などの名称
1	Continuous Fabrication of Collagen Fibers Comprised of Uniaxially Aligned Fibrils: The Second Step for Mimicking Hierarchical Collagen Structure of Tendon	柚木俊二 畑山博哉 海老澤瑞枝 ほか2名	2018年 4月12日	アメリカ合衆国 ジョージア州 アトランタ	Society for Biomaterials 2018 Annual Meeting \$ Exposition
2	Angle-selective reflection surface for energy efficiency	磯田和貴 永田晃基 海老澤瑞枝 ほか1名	2018年 4月23日	フランス共和国 ストラスブール	SPiE Photonics Europe
3	ESD/EMRにおける粘膜下局注剤としての加温硬化性コーゲンソルの安全性と有用性の検討	成田武文 柚木俊二 ほか5名	2018年 5月11日	グランドプリンスホテル 新高輪 国際館パミ ール	第95回日本消化器内視 鏡学会総会
4	非線形変換テーブルS-Boxの高効率実装手法の提案	岡部 忠	2018年 5月14日	東京大学 生産技術研 究所 総合研究実験棟 (An棟)2階 コンベン ションホール	集積回路研究専門委員会 LSIとシステムのワーク ショップ2018
5	IoTデバイスセキュリティ: ISO/IEC29192-3 軽量ストリーム暗号のハードウェア実装性能評価	岡部 忠	2018年 5月17日	北九州国際会議場	第31回回路とシステム ワークショップ
6	テーブル参照回路の最適化実装手法	岡部 忠	2018年 5月17日	北九州国際会議場	第31回回路とシステム ワークショップ
7	訪日外国人向け観光情報システム	阿部真也	2018年 5月18日	アジアスタートアップ オフィス MONO	第12回臨海地区産学官 連携フォーラム
8	オオズラタケが放散する揮発性有機化合物がイエシロアリの触角応答電位に及ぼす影響	小沼ルミ 瓦田研介 ほか3名	2018年 5月23日	メルパルク東京	日本木材保存協会第34 回年次大会
9	Effect of Addition of PP-g-MA on the Tribological Properties of Hemp Fiber Reinforced Plant-Derived Polyamide1010 Biomass Composites	梶山哲人 ほか2名	2018年 5月23日	台湾 台北	PPS-34

2018(平成30)年度 年報

No.	発表タイトル	発表者	年月日	場所	大会などの名称
10	熱処理木材の塗装における塗膜の機械的性質と表面割れの関係	村井まどか 佐熊範和 石田祐也 ほか2名	2018年 5月23日	メルパルク東京	日本木材保存協会第34 回年次大会
11	鉄鋼リサイクル材におけるトランプエレメントの広域濃度分析とその統計的解析	林 英男 ほか3名	2018年 5月26日	山口大学 常盤キャンパス	日本分析化学会第78回 分析化学討論会
12	LA-ICP-MSによる電子基板上鉛フリーはんだの分析	林 英男 湯川泰之 ほか2名	2018年 5月27日	山口大学 常盤キャンパス	日本分析化学会第78回 分析化学討論会
13	セルロースナノファイバーシートの氷点下における機械的特性	佐野 森	2018年 6月 4日	サ・グランドホール (品川グランドセントラル タワー3階)	ナノセルロースフォーラム 総会・第12回技術セミナー
14	Development of a system to quantify the depth of tendon stimulus for the illusion of motion achieved by a vibrator	大島浩幸 島田茂伸	2018年 6月 4日	チェコ共和国 プラハ	IUPESM World Congress 2018
15	多目的行動調停を用いた案内ロボットの知的制御	中村佳雅 松本正雄 ほか2名	2018年 6月 4日	北九州国際コンベンション ゾーン	ロボティクス・メカトロ ニクス講演会 2018 in Kitakyushu
16	自律移動案内ロボットの静的安定性に関する設計評価手法	森田裕介 渡辺公一 小林祐介 村上真之 益田俊樹 坂下和広	2018年 6月 5日	北九州国際コンベンション ゾーン	ロボティクス・メカトロ ニクス講演会 2018 in Kitakyushu
17	力覚センサーを用いたサービスロボットの静的安定性評価	坂下和広 森田裕介 小林祐介 渡辺公一 益田俊樹 村上真之	2018年 6月 5日	北九州国際コンベンション ゾーン	ロボティクス・メカトロ ニクス講演会 2018 in Kitakyushu
18	追従運搬ロボットのリスクアセスメントと評価試験について	益田俊樹 森田裕介 村上真之 ほか1名	2018年 6月 5日	北九州国際コンベンション ゾーン	ロボティクス・メカトロ ニクス講演会 2018 in Kitakyushu
19	陶磁器の上絵層における有機物分析の試みー飛行時間型二次イオン質量分析および赤外放射光分析による焼成に伴う膠およびふのり成分の変化に関する検討ー	樋口智寛 ほか5名	2018年 7月 7日	奈良女子大学	日本文化財科学会第35 回大会
20	Does the limb position influence the motion illusion evoked by tendon vibration?	大島浩幸 島田茂伸	2018年 7月19日	アメリカ合衆国 ハワイ州 オアフ島 ホノルル	40th Annual International Conference of the IEEE Engineering in Medicine and Biology Society
21	Evaluation of Seismic Performance of Structure Combining Wood Friction Wall and Common Walls of Wooden House	松原独歩 ほか5名	2018年 8月21日	大韓民国 ソウル	WCTE 2018
22	電子線照射を用いた卵の表面殺菌と内部線量評価	片岡憲昭 河原大吾 関口正之	2018年 8月22日	いばらき量子ビーム研 究センター	第14回PHITS研究会/講 習会
23	Effect of microstructure on transport and optical properties of Nb-doped anatase TiO ₂ films: a transmission electron microscopy study	小川大輔 森河和雄 海老澤瑞枝 ほか3名	2018年 8月22日	メキシコ合衆国 キンタナ・ロー州 カンクン	XXVII INTERNATIONAL MATERIALS RESEARCH CONGRESS
24	Improvement of Region-Wide Collaborative Database	阿部真也 富山真一 中川朋恵 ほか1名	2018年 8月24日	早稲田大学	International Conference on Engineering, Science and Applications
25	比較測定用校正システムの開発	村上祐一 大西 徹 中村弘史	2018年 9月 5日	函館アリーナ	2018年度精密工学会秋季 大会学術講演会
26	現場環境における三次元測定機の高度化に関する研究ーレーザ干渉測長器を用いた温度補正の評価ー	大西 徹 ほか1名	2018年 9月 5日	函館アリーナ	2018年度精密工学会秋季 大会学術講演会

No.	発表タイトル	発表者	年月日	場所	大会などの名称
27	合金工具鋼円柱の熱処理による変形量に及ぼす寸法比の影響	木暮尊志 松原独歩 中村 勲 ほか1名	2018年 9月 5日	函館アリーナ	2018 年度精密工学会秋季 大会学術講演会
28	非接触三次元測定機の精度チェックゲージの開発	樋口英一 中西正一 村上祐一 三浦由佳	2018年 9月 5日	函館アリーナ	2018 年度精密工学会秋季 大会学術講演会
29	Minimally-invasive cell transportation method for cell sheet based regenerative medicine	大藪淑美 藤井恭子 柚木俊二 ほか3名	2018年 9月 5日	国立京都国際会館	5th TERMIS World Congress 2018
30	CMM における円筒スコヤの測定比較	中西正一 三浦由佳	2018年 9月 5日	函館アリーナ	2018 年度精密工学会秋季 大会学術講演会
31	微細構造の空間選択的な応答を用いた建築物内部の熱量制御	磯田和貴 永田晃基 海老澤瑞枝 ほか1名	2018年 9月 6日	函館アリーナ	2018 年度精密工学会秋季 大会学術講演会
32	モンテカルロシミュレーションによる CMM の測定不確かさの検証	三浦由佳 中西正一 樋口英一 ほか3名	2018年 9月 6日	函館アリーナ	2018 年度精密工学会秋季 大会学術講演会
33	微小ビーズを用いたビーズミルによる ZrW_2O_8 凝集体の分散	小林宏輝 並木宏允 佐熊範和 立花直樹	2018年 9月 6日	名古屋工業大学 舞鶴キャンパス	日本セラミック協会 第31 回秋季シンポジウム
34	レーザー焼結低温造形品の強度に対する造形方向依存性に関する研究	木暮尊志 山内友貴 ほか1名	2018年 9月 7日	函館アリーナ	2018 年度精密工学会秋季 大会学術講演会
35	複合材料の非破壊検査における X 線と中性子線イメージングの比較	月精智子 富山真一 瀧本悠貴 片岡憲昭 河原大吾 紋川 亮 ほか4名	2018年 9月 7日	函館アリーナ	2018 年度精密工学会秋季 大会学術講演会
36	めっきと樹脂粉末レーザー焼結部品を組み合わせた導電パターン作製	小林隆一 竹村昌太 桑原聡士	2018年 9月 7日	函館アリーナ	2018 年度精密工学会秋季 大会学術講演会
37	近赤外レーザーを用いたレーザー焼結低温造形における造形条件と粉末の熔融状態に関する考察	山内友貴 木暮尊志 ほか1名	2018年 9月 7日	函館アリーナ	2018 年度精密工学会秋季 大会学術講演会
38	レーザー熔融型金属積層造形体の残留応力に及ぼすスキャン長さの影響	大久保 智 千葉浩行 藤巻研吾	2018年 9月 7日	函館アリーナ	2018 年度精密工学会秋季 大会学術講演会
39	アウトラインパスによる金属積層造形品の表面平滑化	藤巻研吾 大久保 智 千葉浩行	2018年 9月 7日	函館アリーナ	2018 年度精密工学会秋季 大会学術講演会
40	高精度計測用 X 線 CT 装置を用いた金属 AM 造形品の品質評価	紋川 亮 中西正一 富山真一 千葉浩行 三浦由佳 月精智子	2018年 9月 7日	函館アリーナ	2018 年度精密工学会秋季 大会学術講演会
41	ガラス発泡体のリン吸着反応の物理化学的機構	中澤亮二	2018年 9月12日	名古屋大学 東山キャンパス	第29 回廃棄物資源循環 学会研究発表会
42	Adsorption of Rare-Earth Metal Ions on Natural Banana Fiber	梶山哲人 ほか7名	2018年 9月12日	インドネシア共和国 ジャワ島 ジャカルタ	ICIE2018
43	Solvent Extraction of Lanthanide Ions with a Hexane-1, 6-diylbis(4, 4, 4-trifluoro-3-oxobutanoate) into Chloroform	梶山哲人 ほか7名	2018年 9月12日	インドネシア共和国 ジャワ島 ジャカルタ	ICIE2018

2018(平成30)年度 年報

No.	発表タイトル	発表者	年月日	場所	大会などの名称
44	分光放射輝度値を付与したハイパースペクトルカメラの開発	秋葉拓也 澁谷孝幸 ほか4名	2018年 9月12日	神戸大学 六甲台第2キャンパス	2018年度(第51回)照明 学会全国大会
45	ナノグラフェンのバンド構造と π 共役面の歪みの影響 —大気中光電子分光法による分析—	藤巻康人 小汲佳祐 林 孝星 渡辺洋人	2018年 9月12日	東北大学 川内北キャンパス	日本分析化学会第67年 会
46	分光光度計及びHPLCを用いた3-ニトロベンズアントロン の分析法の開発	藤巻康人 ほか3名	2018年 9月12日	東北大学 川内北キャンパス	日本分析化学会第67年 会
47	大気中光電子収量分光装置を用いた有機半導体材料の固体・ 薄膜状態でのエネルギー準位の測定法	小汲佳祐 藤巻康人 ほか2名	2018年 9月13日	東北大学 川内北キャンパス	日本分析化学会第67年 会
48	Zn-Al 系層状複水酸化物の形成とその吸着性能に対する 夾雑物質の影響	榎本大佑 田熊保彦 森久保 諭 小坂幸夫	2018年 9月20日	鹿児島大学 郡元キャンパス	化学工学会第50回秋季 大会
49	置換型セルロースゲル中でのトリクロロメチルパーオキシ ドによるヨウ化物イオンの酸化反応効率	中川清子	2018年 9月27日	大阪市立大学	第61回放射線化学討論 会
50	Band alignment of β -(Al _x Ga _{1-x}) ₂ O ₃ and β -(In _x Ga _{1-x}) ₂ O ₃	太田優一	2018年 10月11日	ホテル&リゾーツ長浜	第37回電子材料シンプ ジウム(EMS37)
51	How tramp elements in carbon steel are increased by repeated recycling	林 英男 ほか3名	2018年 10月11日	KFC Hall & Rooms	EcoBalance 2018
52	Can fish collagen be used as a gel matrix for 3D cell culture?	畑山博哉 柚木俊二 大藪淑美 杉本清二 成田武文 ほか2名	2018年 10月14日	ヒルトン福岡シーホー ク	BIT's 2nd International Biotechnology Congress-2018 (IBC- 2018)
53	ラグスクリュー木材接合部の初期軸力緩和挙動に及ぼす 増し締めの影響	松原独歩 樋口智寛	2018年 10月19日	東京大学 弥生講堂	日本木材加工技術協会第 36回年次大会
54	耐火集成材に用いるスギラミナへのインサイジングード リルとレーザによる穴周辺のX線CT観察—	松原独歩 ほか2名	2018年 10月19日	東京大学 弥生講堂	日本木材加工技術協会第 36回年次大会
55	木粉と天然糊によるAM(3Dプリンタ)造形への試み	酒井日出子 松原独歩 島田勝廣	2018年 10月19日	東京大学 弥生講堂	日本木材加工技術協会第 36回年次大会
56	挟み込み構造型非接触給電システムの検討	秋山美郷 佐野宏靖 大森 学	2018年 10月21日	東京理科大学 葛飾キャンパス	第27回日本AEM学会 MAGDA コンファレンス
57	マイクロチャネル構造を持つメソポーラスシリカ膜の合 成	染川正一 渡辺洋人 ほか3名	2018年 10月24日	タワーホール船堀	CSJ 化学フェスタ
58	二重の粒径分布を持つTiO ₂ 光触媒の合成と活性評価	染川正一 渡辺洋人 ほか3名	2018年 10月24日	タワーホール船堀	CSJ 化学フェスタ
59	CFRPとアルミニウムの接合強化に向けたコーティング 剤の開発	小野澤明良 西川康博	2018年 10月25日	日本大学理工学部 駿河台校舎1号館	63rd FRP CON-EX2018
60	CFRP製緩み止めナットの開発	西川康博 小船諭史 ほか2名	2018年 10月25日	日本大学理工学部 駿河台校舎1号館	63rd FRP CON-EX2018
61	The Effect of Ca/(Si+Al) of C-(A-)S-H Characterized by NMR on the Sorption of Alkali Metal Ions	渡邊禎之 ほか2名	2018年 10月25日	フランス共和国 アビニョン	International Symposium on Cement- based Materials for Nuclear Wastes
62	金属編地を用いた耐熱性複合材の特性評価	唐木由佑	2018年 10月25日	日本大学理工学部 駿河台校舎1号館	63rd FRP CON-EX2018
63	プリント技術を用いた炭素繊維強化プラスチックの機械 的物性制御	武田浩司 西川康博	2018年 10月25日	日本大学理工学部 駿河台校舎1号館	63rd FRP CON-EX2018
64	複合材料のX線と中性子線イメージングの比較	月精智子 紋川 亮 富山真一 河原大吾 片岡憲昭 ほか4名	2018年 10月26日	東京電機大学 千住キャンパス	VCAD システム研究会第 50回定例研究会

No.	発表タイトル	発表者	年月日	場所	大会などの名称
65	Optimization Design of Slit Type Chipless RFID Tag Comprising Fractal Structure	渡部雄太	2018年 10月29日	中華人民共和国 杭州	The Eighteenth Biennial IEEE Conference on Electromagnetic Field Computation
66	積層セラミック技術を用いたガスセンサの開発	小宮一毅 山岡英彦	2018年 10月30日	札幌市民交流プラザ	第35回「センサ・マイ クロマシンと応用システ ム」シンポジウム
67	Experimental Study of Comfortable Outdoor Space Formation at High Temperature Season	石田祐也 ほか5名	2018年 10月31日	台湾 高雄	The 13th International Symposium on Advanced Science and Technology in Experimental Mechanics
68	Radiation-induced debromination of 1, 2-dibromotetrafluoroethane (Halon2402) in alcohols	中川清子 ほか2名	2018年 11月6日	中華人民共和国 上海	The 7th Asia-Pacific Symposium on Radiation Chemistry
69	Dynamic Viscoelastic Properties of Ternary Biomass Composites (Hemp Fiber/Plant-Derived PA1010/PP-g-MA) in Molten State	梶山哲人 ほか2名	2018年 11月6日	アメリカ合衆国 マサチューセッツ州 ボストン	PPS 2018 America
70	Pull-out stress relaxation behavior of lag screw timber joints under indoor environment	松原独歩 ほか5名	2018年 11月7日	名古屋大学	2018 Joint Convention
71	Measurement of checks at artificially weathered heat-treated wood surfaces	村井まどか 石田祐也 佐熊範和 ほか3名	2018年 11月7日	名古屋大学	2018 Joint Convention
72	生理条件で活発に線維化する魚由来コラーゲン	畑山博哉 柚木俊二 大藪淑美 杉本清二 成田武文 ほか2名	2018年 11月12日	神戸国際会議場	第40回日本バイオマテ リアル学会大会
73	Band alignment of wurtzite BN related alloys	太田優一 ほか3名	2018年 11月13日	石川県立音楽堂、ANA クラウンプラザホテル 金沢	International Workshop on Nitride Semiconductors
74	物理架橋ポリビニルアルコールを用いた自己拡張型ハイドロゲルスメントの設計	永川栄泰 柚木俊二 ほか4名	2018年 11月13日	神戸国際会議場	第40回バイオマテリアル 学会大会
75	Synthesis of Asymmetric Tetraethynylporphyrin Derivatives and Application for Solution-processed Organic Solar Cells	小波佳祐 ほか3名	2018年 11月13日	リーガロイヤルホテル 京都	IKCOC-14
76	住宅室内真菌叢におけるアレルゲン多様性に関する分子生物学的検討	小沼ルミ ほか8名	2018年 11月14日	タワーホール船堀	日本防菌防黴学会第45 回年次大会
77	e テキスタイルを用いた疲労亀裂検知手法の開発	窪寺健吾 ほか1名	2018年 11月15日	大阪大学 中之島センター	日本繊維機械学会第25 回秋季セミナー
78	スクリーンプリントを用いたCFRPの機械的物性制御	武田浩司	2018年 11月15日	大阪大学 中之島センター	日本繊維機械学会第25 回秋季セミナー
79	腱振動刺激による運動錯覚を用いた新規運動学習手法の確立に向けた基礎的検討	大島浩幸 島田茂伸	2018年 11月17日	機械振興会館	ニューロリハビリシンポ ジウム2018「介入研究の フロンティア」
80	高次倍音領域の近赤外スペクトルを用いた光学活性医薬品製剤の迅速定量分析	藤巻康人 小金井誠司 ほか3名	2018年 11月21日	北海道大学 学術交流会館	第34回近赤外フォーラ ム
81	低エネルギー電子線による卵殻の殺菌技術と内部線量の評価	片岡憲昭 河原大吾 関口正之	2018年 11月21日	東京大学 弥生講堂	第17回放射線プロセス シンポジウム
82	「菊池レモン」の放射線を利用した突然変異育種	関口正之 中川清子 ほか2名	2018年 11月21日	東京大学 弥生講堂	第17回放射線プロセス シンポジウム
83	市場流通医薬品の品質確認のための分光分析 第6報 光学活性化合物を含有する錠剤の非破壊迅速分析への高次倍音近赤外スペクトルの活用	藤巻康人 小金井誠司 ほか2名	2018年 11月22日	北海道大学 学術交流会館	第34回近赤外フォーラ ム
84	ゲル法シリカ充填非架橋EPDMの折り曲げ性に及ぼす素材特性の影響	飛澤泰樹 ほか2名	2018年 11月29日	名古屋中小企業振興会 館	第29回エラストマー討 論会

2018(平成30)年度 年報

No.	発表タイトル	発表者	年月日	場所	大会などの名称
85	Dithizone を導入した樹脂による酸性溶液からの白金の吸着挙動	梶山哲人 ほか6名	2018年 11月30日	上智大学 四ツ谷キャンパス	第31回イオン交換セミナー
86	各種麻繊維強化植物由来 PA1010 バイオマス複合材料の機械的性質に及ぼすシランカップリング剤の影響	井上 潤 竹澤 勉 梶山哲人 ほか2名	2018年 12月1日	日本大学工学部 駿河台キャンパス	材料技術研究会「2018 討論会」
87	寝室ハウスダスト中の真菌およびダニ叢の網羅的解析における手法の比較検討	小沼ルミ ほか12名	2018年 12月06日	東京工業大学 大岡山キャンパス	平成30年室内環境学会 学術大会
88	木材表面の高速摩擦処理における化学成分の変化	樋口智寛 西田 葵 松原独歩 ほか3名	2018年 12月18日	北九州国際会議場・西 日本総合展示場	第28回日本MRS年次大会
89	摩擦処理した木材表面における表面性状とその力学的性質	松原独歩 樋口智寛 西田 葵 ほか3名	2018年 12月19日	北九州国際会議場・西 日本総合展示場	第28回日本MRS年次大会
90	内視鏡による早期消化管癌治療の安全性・確実性を追求する生体吸収性インジェクタブルゲルの開発	成田武文 柚木俊二 ほか1名	2019年 1月23日	慶應義塾大学病院	第4回橋渡し研究戦略的 推進プログラムシンポジウム
91	小型中性子源 RANS を用いた複合材料の非破壊検査	月精智子 片岡憲昭 河原大吾 富山真一 紋川 亮 ほか4名	2019年 2月20日	理化学研究所 鈴木梅太郎ホール	平成30年度理研シンポジウム 安全・安心を未来に繋ぐ小型中性子源 RANS・RANS II
92	3Dプリンターでバイオリン、その設計と製作	横山幸雄	2019年 2月22日	東京都市大学 横浜キャンパス	VCAD システム研究会 第51回定例研究会
93	ウェルビーイング志向のサービス設計に向けたフレームワークの提案	根本裕太郎	2019年 3月3日	東京工業大学 大岡山キャンパス	サービス学会第7回国内大会
94	ソルボサーマル法による $(\text{Bi}_2\text{Se}_3)_x(\text{Bi}_2\text{Te}_3)_{1-x}$ ナノプレート薄膜の作製及び第一原理計算による物性評価	太田優一 並木宏允 ほか5名	2019年 3月9日	東京工業大学 大岡山キャンパス	第66回応用物理学会春季 学術講演会
95	Ag クラスタ構造を有する $\text{Ag}_6\text{Ge}_{10-x}\text{Sn}_x\text{P}_{12}$ の熱電特性	並木宏允 太田優一	2019年 3月9日	東京工業大学 大岡山キャンパス	第66回応用物理学会春季 学術講演会
96	4つのDPP テトラエチニル基で架橋されたマグネシウムポルフィリンの合成とその太陽電池特性	小汲佳祐 ほか9名	2019年 3月10日	東京工業大学 大岡山キャンパス	第66回応用物理学会春季 学術講演会
97	$\alpha\text{-Ir}_2\text{O}_3$ のバンド構造	太田優一	2019年 3月12日	東京工業大学 大岡山キャンパス	第66回応用物理学会春季 学術講演会
98	温湿度変動を受けるスギ材の応力緩和とクリープ	松原独歩 ほか5名	2019年 3月15日	函館アリーナ	第69回日本木材学会大会 (函館大会)
99	木材のレーザインサイジング-耐火集材材に用いた穴の形成過程-	松原独歩 ほか2名	2019年 3月15日	函館アリーナ	第69回日本木材学会大会 (函館大会)
100	熱処理木材の塗装における塗膜の動的粘弾性と表面割れの関係	村井まどか 佐熊範和 石田祐也 ほか3名	2019年 3月15日	函館アリーナ	第69回日本木材学会大会 (函館大会)
101	Improvement Solubility in Asymmetric Tetraethynylporphyrin Derivatives for Solution-processed Organic Solar Cells	小汲佳祐 ほか3名	2019年 3月16日	甲南大学 岡本キャンパス	日本化学会第99春季年会
102	スーパーマイクロポーラスシリカ細孔内で加熱して得られた蛍光を有するピロン誘導体	林 孝星 渡辺洋人 藤巻康人 ほか2名	2019年 3月16日	甲南大学 岡本キャンパス	日本化学会第99春季年会
103	塗料スラッジのエネルギーリサイクルにおける含有成分の影響	田熊保彦 榎本大佑 森久保 諭 小坂幸夫	2019年 3月18日	神奈川大学 横浜キャンパス	表面技術協会第139回講演大会
104	止まり穴を有するクロムめっき製品に対応した新規六価クロム抽出法の提案	安藤恵理 小野澤明良 中澤亮二 桑原聡士	2019年 3月18日	神奈川大学 横浜キャンパス	表面技術協会第139回講演大会

No.	発表タイトル	発表者	年月日	場所	大会などの名称
105	カルシウムアルミネートの水和反応を利用した担体の作製とメタン分解による水素生成用 Ni 触媒への応用	染川正一 柳 捷凡 ほか2名	2019年 3月21日	大阪市立大学 杉本キャンパス	触媒学会第 123 回触媒討論会
106	ロボット用移動プラットフォーム(T型ロボットベース)の重心位置とサスペンション位置の検討	小林祐介	2019年 3月21日	東洋大学 川越キャンパス	IIP2019 情報・知能・精密機器部門 (IIP 部門) 講演会
107	悪性度の異なるがん細胞外マトリックスモデルを用いた抗がん剤耐性発現機構の解析	干場隆志	2019年 3月22日	神戸国際会議場	第 18 回日本再生医療学会総会
108	大気中光電子収量分光法による医薬品のエネルギー準位測定	藤巻康人 小金井誠司 ほか1名	2019年 3月23日	幕張メッセ・ホテルニューオータニ幕張	日本薬学会第 139 年会
109	市場流通医薬品の品質確認のための分光分析 第7報 テラヘルツ分光法、中・近赤外分光法及びラマン分光法を用いた塩複合体医薬品の振動分光解析	藤巻康人 ほか3名	2019年 3月23日	幕張メッセ・ホテルニューオータニ幕張	日本薬学会第 139 年会
110	非晶質炭酸カルシウムの赤外吸収スペクトルに見られる不可逆的な圧力応答	吉野 徹 佐野 森 ほか1名	2019年 3月24日	工学院大学	(公社)日本セラミックス協会 2019 年年会
『平成29年度年報』未掲載分					
1	非金属系導電被膜による金属材料のコーティング	峯 英一 伊東洋一	2017年 11月22日	都産技研 多摩テクノプラザ	日本繊維機械学会関東支部主催 講演会・見学会
2	水生植物を指標とした放射性及び非放射性 Cs の動態－2015-2016 年の結果－	永川榮泰 櫻井 昇 ほか5名	2018年 3月13日	高エネルギー加速器研究機構	第 19 回「環境放射能」研究会
3	木材腐朽菌が放散する揮発性有機化合物がイエシロアリの触角応答電位に及ぼす影響	小沼ルミ 瓦田研介 ほか3名	2018年 3月15日	京都府立大学 下鴨キャンパス 国立京都国際会館	第 68 回日本木材学会大会 (京都大会)

座長 11 件

No.	大会等の名称	職員名	年月日	場所	学会などの名称
1	プラスチック成形加工学会第 29 回年次大会	山中寿行	2018年 6月22日	タワーホール船堀	(一社)プラスチック成形加工学会
2	日本蛋白質科学大会	八谷如美	2018年 6月28日	朱鷺メッセ	日本蛋白質科学会
3	第 6 回日本アミロイドーシス研究会学術集会	八谷如美	2018年 8月25日	信州大学	日本アミロイドーシス研究会
4	2018 年度日本建築学会大会(東北)	松原独歩	2018年 9月 5日	東北大学	(一社)日本建築学会
5	日本感性工学会大会「感性に響くものづくり、デザインの魅力と機能」セッション	森 豊史	2018年 9月 5日	東京大学	日本感性工学会
6	ヒューマンインタフェースシンポジウム	島田茂伸	2018年 9月 7日	筑波大学	(特非)ヒューマンインタフェース学会
7	一般社団法人日本鉱物科学会 2018 年年会	吉野 徹	2018年 9月19日	山形大学 小白川キャンパス	(一社)日本鉱物科学会
8	第 91 回日本生化学会大会	八谷如美	2018年 9月24日	京都国際会館	日本生化学会
9	63rd FRP CON-EX 2018	清水研一	2018年 10月25日	日本大学理工学部 駿河台校舎 1 号館	(一社)強化プラスチック協会
10	トライボロジー会議 2018 秋 伊勢 (表面処理・コーティング 2)	徳田祐樹	2018年 11月08日	伊勢市観光文化会館	(一社)日本トライボロジー学会
11	組込み技術とネットワークに関するワークショップ ETNET2019	大原 衛	2019年 3月18日	西之表市民会館	電子情報通信学会 情報処理学会

依頼講演－研究成果－ 23 件

No.	発表タイトル	発表者	年月日	場所	大会などの名称
1	メモリーベースド・リコンフィギュラブルロジックデバイスの検討と開発	大原 衛 岡部 忠 ほか2名	2018年 4月20日	機械振興会館	集積回路研究会
2	観光情報システムの言語バリアフリー化	阿部真也	2018年 5月16日	都議会議事堂	ラボネット 2018

2018(平成30)年度 年報

No.	発表タイトル	発表者	年月日	場所	大会などの名称
3	亀裂検知用 e テキスタイルの開発	窪寺健吾	2018年 5月17日	科学技術振興機構 東京本部	JST 新技術説明会
4	Efficient Near-Field Analysis Based on Finite-Difference Scheme and Fast Inverse Laplace Transform	山口隆志 ほか2名	2018年 5月28日	スペイン王国 グラン・カナリア島	2nd URSI Atlantic Radio Science Conference (URSI AT-RASC)
5	先端 ICT の利活用による観光支援	阿部真也	2018年 6月23日	調布市文化会館たづくり	東京五輪に向けての ICT フォーラム in 調布
6	基礎と臨床を繋ぐ蛋白質ミスフォールディング病解析システムの開発	八谷如美	2018年 6月28日	朱鷺メッセ	第 18 回日本蛋白質科学会年会
7	東京都立産業技術研究センターのロボット技術開発における RT ミドルウェアの活用	佐々木智典	2018年 7月31日	産業技術総合研究所 つくばセンター中央第二	RT ミドルウェアサマーキャンプ 2018
8	レーザーを用いた 3D ものづくり	千葉浩行	2018年 9月4日	都産技研 本部	マテリアルライフ学会 表面-界面物性研究会 2018 年秋期講演会
9	漆成形材料サスティモの開発	村井まどか 木下稔夫	2018年 9月21日	メルパルク京都	漆を科学する会 30 周年 記念講演会
10	細胞「内」の構造物を単離できるレーザーマイクロダイセクション法の開発	八谷如美	2018年 9月24日	京都国際会館	日本生化学会大会
11	現場環境における三次元測定機の高度化（直角誤差補正および回転式プロービングシステムの評価）	大西 徹	2018年 11月5日	東京ビッグサイト	JIMTOF2018「精密測定機器活用セミナー」
12	IoT デバイス向けセキュリティ技術～軽量暗号技術の動向～	岡部 忠	2018年 11月6日	東京理科大学 神楽坂キャンパス	システム/スマートファシリティー合同研究会
13	桐たんすのかび汚染と対策事例	小沼ルミ	2018年 11月14日	タワーホール船堀	日本防菌防黴学会 第 45 回 年次大会
14	Molecular Biology of Neurodegenerative Diseases and Dementia-New analytical method by laser micro dissection-	八谷如美	2018年 11月29日	ポーランド共和国 ワルシャワ	Psychogeriatrics2018
15	A New era of protein analysis-Advanced Laser Micro Dissection System and Unfoldin-	八谷如美	2018年 12月4日	スウェーデン王国 ストックホルム	Department Seminar on December
16	都産技研での静電植毛加工技術の最新研究	長谷川 孝	2018年 12月11日	北とびあ	第 21 回「北区技術懇話会」
17	ワイヤレス給電研究への挑戦	秋山美郷	2018年 12月11日	北とびあ	第 21 回「北区技術懇話会」
18	レーザー焼結の露光と熔融についての考察	木暮尊志 山内友貴 ほか1名	2019年 1月12日	東海大学 高輪キャンパス	レーザー学会学術講演会 第 39 回年次大会
19	都産技研における FPGA を活用した製品開発支援	岡部 忠	2019年 1月18日	都産技研 本部	東京 FPGA コンファレンス 2019 with プログラマブルデバイスプラザ
20	東京都立産業技術研究センター 先端材料開発セクターの研究開発	小川大輔	2019年 1月25日	日本弘道会ビル	(社)電気化学会 電解科学技術委員会 平成 31 年度総会ならびに第 107 回委員会
21	塩素含有 DLC 膜の摩擦摩耗特性に関する研究	徳田祐樹 川口雅弘 ほか2名	2019年 2月22日	理化学研究所 和光本所	第 21 回「トライボコーティングの現状と将来」シンポジウム
22	熱分解 GC/MS を活用した異物分析 ～混合物・複雑成分へのアプローチとして～	木下健司	2019年 2月22日	北とびあ ペガサスホール	第 363 回ガスクロマトグラフィー研究懇談会 総会と研究会
23	DLC 膜の超低摩擦化現象に関する研究	徳田祐樹	2019年 3月5日	都産技研 本部	マテリアルライフ学会 表面-界面物性研究会 2019 年春期講演会
『平成 29 年度年報』未掲載分					
1	東京都立産業技術研究センターのロボット技術開発における RT ミドルウェアの活用	佐々木智典	2017年 8月1日	産業技術総合研究所 つくばセンター中央第二	RT ミドルウェアサマーキャンプ 2017

依頼原稿—研究成果— 29 件

No.	発表タイトル	執筆者	学会等の名称	誌名など
1	3 次元画像からの空隙率測定方法の開発	大平倫宏	日本工業出版(株)	月刊検査技術

No.	発表タイトル	執筆者	学会等の名称	誌名など
2	沈み込み帯の火山岩中かんらん石斑晶とマントルかんらん岩のハロゲン・希ガスからみた水の沈み込み過程	小林真大 ほか1名	海洋出版(株)	月刊地球
3	マグネシウム合金切削屑の無加圧焼結による再生	岩岡 拓	(国研)科学技術振興機構	平成30年度 JST 新技術説明会
4	MVOC による腐朽検出への試み	小沼ルミ	(公社)日本木材保存協会	木材保存
5	ドライプレス加工に用いる導電性セラミックス型の加工技術	玉置賢次	(公社)砥粒加工学会	砥粒加工学会誌 Abrasive Technology
6	油性ポリマーの最新技術	中村健太 ほか1名	(株)潤滑通信社	日本トライボロジー学会学会誌 「トライボロジスト」
7	人間・製品・環境の特性を包括した高付加価値な生活製品の開発・評価の支援拠点を目標して	大島浩幸 山田 巧	(公財)大原記念労働科学研究 所	労働の科学
8	輸送振動の低減を目指した紙製ばね	岩田雄介	日本ばね学会	日本ばね学会会報
9	施設園芸向け無線統合環境制御システムの開発	仲村将司	(一社)首都圏産業活性化協会	大学技術工房 70 Vol. 8
10	めっきによるナイロン樹脂 AM (3D プリント) モデルへの意匠性付与	竹村昌太	日本鍍金材料協同組合	鍍金の世界
11	紙のばねによる輸送振動の低減	岩田雄介	(一社)首都圏産業活性化協会	大学技術工房 70 Vol. 8
12	挟み込み構造のワイヤレス給電アンテナの開発	秋山美郷	(一社)首都圏産業活性化協会	女性研究者シーズ集 Vol. 2 大学技術工房 70 Vol. 8
13	ノッチフィルタとスイッチ回路を用いた放射ノイズ発生源探査手法の提案	佐野宏靖 佐々木秀勝 金田泰昌	(一社)首都圏産業活性化協会	大学技術工房 70 Vol. 8
14	低エネルギー照射によるナノ粒子の凝集制御法	海老澤瑞枝	(一社)首都圏産業活性化協会	女性研究者シーズ集 Vol. 2 大学技術工房 70 Vol. 8
15	広角監視カメラ映像からの人物動作認識手法	三木大輔	(一社)首都圏産業活性化協会	大学技術工房 70 Vol. 8
16	金属空気電池および燃料電池のための窒素ドーパド多孔性カーボンナノ粒子触媒を用いた高出力酸素電極	立花直樹	(一社)首都圏産業活性化協会	大学技術工房 70 Vol. 8
17	亜鉛めっき排水中のアンモニア成分の除去方法の検討	森久保 諭	(一社)首都圏産業活性化協会	大学技術工房 70 Vol. 8
18	3次元画像からの空隙率測定方法の開発	大平倫宏	(一社)首都圏産業活性化協会	大学技術工房 70 Vol. 8
19	酵素分解イオン液体法によるセルロース抽出の高効率化	濱野智子	(一社)首都圏産業活性化協会	女性研究者シーズ集 Vol. 2 大学技術工房 70 Vol. 8
20	止まり穴を有するクロムめっき製品に対応した新規六価クロム抽出法の提案	安藤恵理	(一社)首都圏産業活性化協会	女性研究者シーズ集 Vol. 2 大学技術工房 70 Vol. 8
21	キノコの菌体を利用したレアメタルの吸着・回収技術	小沼ルミ	(一社)首都圏産業活性化協会	女性研究者シーズ集 Vol. 2 大学技術工房 70 Vol. 8
22	微生物を使ったカレット汚泥の処理技術	田中真美	(一社)首都圏産業活性化協会	女性研究者シーズ集 Vol. 2 大学技術工房 70 Vol. 8
23	Research and development of very long and dense data bus for sPHENIX INTT detector	近藤 崇 ほか11名	(国研)理化学研究所 仁科加速器研究センター	RIKEN Accelerator Progress Report
24	Development of long multi-layered flexible cable of silicon sensor detector for sPHENIX experiment	近藤 崇 ほか13名	(国研)理化学研究所 仁科加速器研究センター	RIKEN Accelerator Progress Report
25	多角的偏光イメージングシステムによる歪み・異方性の数値化	海老澤瑞枝 ほか1名	日本工業出版(株)	プラスチックス
26	第5節 90 GHz 帯用平面回路の開発と周波数変換器への応用	藤原康平 山岡英彦	(株)技術情報協会	ミリ波向け材料、デバイスの開発動向と5G、ミリ波レーダへの応用
27	フライアッシュによる DEF 抑制効果に関する検討	渡邊禎之 ほか2名	(一社)セメント協会	セメント・コンクリート
28	天然物を利用した金属イオン捕集法の検討	木下健司	(一社)首都圏産業活性化協会	大学技術工房 70 Vol. 8
29	FPGA の内部リソースを使った高性能 A/D 変換器の開発	岡部 忠	(一社)首都圏産業活性化協会	大学技術工房 70 Vol. 8

2018(平成30)年度 年報

No.	発表タイトル	執筆者	学会等の名称	誌名など
『平成29年度年報』未掲載分				
1	ISO18535 に向けた全国公設試のラウンドロビン試験	川口雅弘	材料試験技術協会	材料試験技術 第274回材料試験技術シンポジウム シンポジウム

コンテスト応募 1件

No.	大会等の名称	応募者	年月日	コンテストの名称
1	難聴者向け対話支援システム comuoon (コミュニケーション)	服部 遊 宮入 徹 ほか2名	2018年 11月24日	日本福祉工学会 技術賞

依頼講演—技術解説— 12件

No.	発表タイトル	発表者	年月日	場所	大会などの名称
1	テキストにないカビ標本作りのコツ	小沼ルミ	2018年 5月15日	きゅりあん	第44回生活環境とカビ管理対策セミナー
2	架橋速度を調整したゲニピン/コラーゲン・ゼラチンゲルの開発	成田武文	2018年 5月17日	科学技術振興機構 東京本部	JST 新技術説明会
3	木材塗装の欠陥と対策-塗装欠陥の内容と対策について不具合を無くするための解説-	村井まどか	2018年 6月21日	都産技研 本部	第30回木材塗装基礎講座
4	ICP-MS について	林 英男	2018年 7月23日	環境省 環境調査研修所	平成30年度特定機器分析研修 I (ICP-MS) (第2回)
5	化学分析の基礎知識	林 英男	2018年 8月30日	東京理科大学 神楽坂キャンパス	第32回分析化学基礎実習-化学分析実習コース-
6	測定値の取扱い	林 英男	2018年 8月31日	東京理科大学 神楽坂キャンパス	第32回分析化学基礎実習-化学分析実習コース-
7	フタル酸エステル類の測定法～公定法と簡易分析法による日常管理～	萩原利哉	2018年 9月6日	幕張メッセ	“リスクの想定とリスクマネジメント”～フタル酸エステル類を中心に～(JASIS2018)
8	フタル酸エステル類規制への対応 ～中小企業支援・工業試験所の立場から～	萩原利哉	2018年 9月27日	中央大学 駿河台記念館	JAIMA 環境委員会 環境規制関連セミナー
9	傷評価試験方法における可視化技術に関する JIS、ISO の解説	海老澤瑞枝	2018年 11月5日	都産技研 本部	第6回フィルム物性研究会
10	低酸素環境における鋳物の溶解と鉄の酸化～先カンブリア時代の酸素濃度増加を考える～	杉森博和	2018年 11月8日	都産技研 城南支所	第18-5回水処理・淡水腐食小委員会
11	化学分析の基礎：ガラス器具などの取り扱い	林 英男	2018年 11月22日	東京大学 生産技術研究所	平成30年度日本分析化学会関東支部若手セミナー
12	めっき事業所のほう素排水処理の現状と課題	小坂幸夫	2018年 11月22日	理窓会会議室 PORTA 神楽坂	表面技術環境部会第71回講演会
『平成29年度年報』未掲載分					
1	巡回指導の結果からみた亜鉛めっき排水処理の対策	小坂幸夫	2018年 2月15日	東京ビッグサイト	SURTECH2018

依頼原稿—技術解説— 12件

No.	発表タイトル	執筆者	学会等の名称	誌名など
1	亜鉛めっき排水処理の課題と対策	小坂幸夫	日本鍍金材料協同組合	鍍金の世界
2	X線透過観察およびCT観察	竹澤 勉	(株)日刊工業新聞社	プレス技術
3	熱分解ガスクロマトグラフィー質量分析法～品質管理・クレーム解析への応用～	木下健司	(一社)強化プラスチック協会	強化プラスチック
4	機械加工と計測・測定機器システムの利活用ガイド	樋口英一	(株)日刊工業出版プロダクション	機械技術
5	振動試験とは	岩田雄介	(株)イブロス	モノづくり情報サイト Tech Note
6	生活環境におけるにおい分析	佐々木直里	(株)R&D 支援センター	においを“見える化”する分析・評価技術
7	未来について若手研究者に聞きました	窪寺健吾	(一社)繊維学会	繊維学会誌
8	ファッション流行情報 (29) 2018-2019 年秋冬傾向	嶋 明 ほか1名	(一財)洗濯科学協会	洗濯の科学

No.	発表タイトル	執筆者	学会等の名称	誌名など
9	ファッション流行情報 (30) 2019 年春夏傾向	嶋 明 ほか1名	(一財)洗濯科学協会	洗濯の科学
10	高分子制振材料・応用製品の最新動向Ⅲ「第3章 制振特性の評価試験法」	渡辺茂幸	(株)シーエムシー出版	高分子制振材料・応用製品の最新動向
11	ねじ締付け試験とは	新垣 翔	(株)イブロス	モノづくり情報サイト Tech Note
12	硬さ試験とは	小船論史	(株)イブロス	モノづくり情報サイト Tech Note
『平成29年度年報』未掲載分				
1	放射線透過試験用透過度計及び像質計に関する JIS 制定及び改正について	河原大吾 ほか2名	(一社)日本非破壊検査協会	日本非破壊検査協会機関誌

依頼講演－事業紹介－ 7 件

No.	発表タイトル	発表者	年月日	場所	大会などの名称
1	都産技研における表面分野の技術支援動向	川口雅弘	2018年 5月24日	首都大学東京 日野キャンパス	第3回表面力研究会
2	めっき製品の RoHS2 指令対応におけるリスクマネジメントの基礎と実践	中澤亮二	2018年 6月22日	神田淡路町二丁目ビル HORIBA グループプレミア アホール	表面技術環境部会第70回 講演会
3	東京都立産業技術研究センターの機器の活用、共同研究の推進 -城南支所の取組みについて-	田中 実	2018年 10月25日	大田区産業プラザ PiO	第8回おおた研究・開発 フェア
4	共同研究による医療機器開発の試み	田中 実 玉置賢次 井上 潤 平野康之 石上知子 梶山哲人 安田 健 徳田祐樹	2018年 12月 1日	大田区民ホール アプリコ	第16回日本胎児治療学 会学術集会
5	地方独立行政法人東京都立産業技術研究センター紹介	梶山哲人	2018年 12月 6日	都産技研 本部	第3回イオンクロマトグ ラフィー討論会
6	ロボット産業活性化事業における技術開発・事業化支援について	益田俊樹	2018年 12月 7日	都産技研 本部	平成30年度トライボ コーティング技術研究会 第4回研究会
7	東京都立産業技術研究センターの事業紹介	池田紗織	2019年 2月18日	都産技研 本部	日本化学機器協会講演会 および研究者と会員の交 流会 (第8回)
『平成29年度年報』未掲載分					
1	ロボット産業活性化事業と T 型ロボットベース	坂下和広	2017年 8月24日	東京都中小企業会館	制振工学研究会定期総会 特別講演会

2018(平成30)年度 年報

ポスター発表—事業紹介— 3件

No.	発表タイトル	発表者	年月日	場所	大会などの名称
1	東京都立産業技術研究センターでの金属積層造形の実証	千葉浩行	2018年 5月30日	TKP ガーデンシティ品川	MSC Software 2018 User Conference
2	Additive Manufacturing を核とした新しいものづくり創出の研究開発	山内友貴	2018年 6月8日	東京大学 駒場リサーチキャンパス	東大駒場リサーチキャンパス公開2018
3	東京都立産業技術研究センター 有機・高分子分野	安田 健 佐野 森 篠田 勉	2018年 6月20日	タワーホール船堀	(一社)プラスチック成形加工学会第29回年次大会

依頼原稿—事業紹介— 6件

No.	発表タイトル	執筆者	学会等の名称	誌名など
1	ロボット産業活性化事業と対人サービスロボット	倉持昌尚	(一社)ロボット工業会	ロボット
2	製造企業からのカビ相談	小沼ルミ	NPO 法人カビ相談センター	かびと生活
3	研究機関の取組み：地方独立行政法人東京都立産業技術研究センター生活技術開発センター	大島浩幸	(一社)日本生活支援工学会	日本生活支援工学会誌
4	『3D ものづくり』で中小企業を支援	横山幸雄	(公社)精密工学会	精密工学会誌
5	人間生活工学機器データベース DHuLE へのお誘い	島田茂伸	(公財)大原記念労働科学研究所	労働の科学7月号
6	第13回「先端材料の超塑性に関する国際会議」	小船論史	(一社)軽金属学会	軽金属
『平成29年度年報』未掲載分				
1	中小企業による移動サービスロボットの製品化を容易にするT型ロボットベース	坂下和弘 村上真之 小林祐介 佐藤 研 増田俊樹 ほか3名	(一社)日本ロボット学会	日本ロボット学会誌

その他(規格策定・本執筆・書評等) 9件

No.	発表タイトル	発表者	学会等の名称	誌名など
1	技術解説_3点曲げ試験のひずみについて	篠田 勉	(一社)強化プラスチック協会	強化プラスチック
2	これからの「木材保存」の話をしよう	小沼ルミ	(公社)日本木材保存協会	日本木材保存協会第34回年次大会
3	中小企業の自社技術+αによる製品開発事例	酒井日出子	日本感性工学会	日本感性工学会第20回大会
4	金型分科会 第43回セミナー 型技術協会・次世代金型研究会 第2回金型コア技術セミナー「金型とIoT」実施報告	玉置賢次	(一社)日本塑性加工学会	ぷらすとす (日本塑性加工学会会報誌)
5	中小企業の試作評価時におけるIoT導入事例の紹介	横田浩之	(一社)電気学会	電気学会・東京都立産業技術研究センター連携セミナー
6	中小企業の試作評価時におけるIoT導入事例の紹介(講演後のHP掲載の件)	横田浩之	(一社)電気学会	電気学会・東京都立産業技術研究センター連携セミナー
7	LTCC μ -PICの開発に向けた性能シミュレーション	小宮一毅 武内陽子 ほか3名	京都大学、KEK 測定器開発室	第15回 Micro-Pattern Gas Detector 研究会
8	Asian Pacific Prion Symposium (APPS) 2018 President	八谷如美	Asian Pasific Prion Research	APPS 2018
9	z軸分光とライトフィールドカメラによる三次元分光顕微鏡～生体組織片の二次元分光イメージング～	宮下惟人 ほか2名	(公社)精密工学会	精密工学会2019年度春季大会
『平成29年度年報』未掲載分				
1	超スマート社会における情報教育カリキュラム標準の策定に関する調査研究	岡部 忠	(一社)情報処理学会	文部科学省先導的大学の改革推進委託事業
2	NIMS(分子物質合成プラットフォーム)共通機器の利用報告	柚木俊二 成田武文 藤井恭子	(国研)物質・材料研究機構(NIMS)	NIMS(分子物質合成プラットフォーム)共通機器の利用報告
3	レプリカ法によるガラス微小穴内部形状の間接測定	樋口英一 ほか2名	(公社)砥粒加工学会	砥粒加工学会誌

2.7 職員の受賞

国内外の学協会などから、研究成果の実用化、優れた研究、技術の普及・移転に対して、2018（平成30）年度は12件の賞を受けた。

2018（平成30）年度受賞実績

受賞名	第47期東京都鍍金工業組合 十日会賞
受賞者	土井 正（表面・化学技術グループ）
受賞名	日本トライボロジー学会 技術賞
件名	ZrO ₂ の摩擦触媒作用による DLC 膜の摩擦フェイドアウト技術
受賞者	川口雅弘（表面・化学技術グループ）
受賞名	(一社)エレクトロニクス実装学会 論文賞
件名	ノッチフィルタとスイッチ機構を用いた複数クロック動作時における放射ノイズ発生源探査手法の検討
受賞者	佐野宏靖、佐々木秀勝（電子・機械グループ）、金田泰昌（情報技術グループ）
受賞名	日本塗装技術協会賞 技能賞
受賞者	木下稔夫（開発第二部）
受賞名	(一社)日本繊維製品消費科学会 若手優秀発表賞
件名	繊維製品の機器分析による感覚的消臭性評価
受賞者	佐々木直里（生活技術開発セクター）
受賞名	(公社)計測自動制御学会 CPD ポイント賞
受賞者	金田泰昌（情報技術グループ）
受賞名	日本分析化学会第67回年会 若手ポスター賞
件名	大気中光電子収量分光装置を用いた有機半導体材料の固体・薄膜状態でのエネルギー準位の測定法
受賞者	小汲佳祐（先端材料開発セクター）
受賞名	2018年度日本実験力学会 優秀講演賞
件名	油脂の洗浄度評価に用いる観察手法の検討
受賞者	石田祐也（表面・化学技術グループ）
受賞名	第二十回日本福祉工学会 技術賞
件名	難聴者向け対話支援システム comuoon（コミュニケーション）
受賞者	服部 遊、宮入 徹（光音技術グループ）
受賞名	(一社)日本ゴム協会第29回エラストマー討論会 ポスター優秀発表賞
件名	ゲル法シリカ充填非架橋EPDMの折り曲げ性に及ぼす素材特性の影響
受賞者	飛澤泰樹（生活技術開発セクター）

2018(平成30)年度 年報

受賞名	2018年度材料技術研究協会 ゴールドポスター賞
件名	各種麻繊維強化植物由来 PA1010 バイオマス複合材料の機械的性質に及ぼすシランカップリング剤の影響
受賞者	井上 潤、竹澤 勉 (城南支所)、梶山哲人 (環境技術グループ)
受賞名	JXTG グループアクセラレーター 優秀賞
受賞者	森 豊史 (デザイン技術グループ)

3. 中小企業の製品・技術開発、新事業展開を支える技術支援

3.1 技術相談

3.1.1 技術相談

中小企業などから受ける技術支援の依頼に対して、職員の専門的な知識に基づく技術相談を実施し、製品開発支援や技術課題の解決を図った。生産現場での支援が必要な場合は、職員や外部専門家を現地に派遣して利用者の要望に応えた。

相談件数は、来所 27,751 件 (19.8%)、電話 53,004 件 (37.9%)、メール 47,172 件 (33.7%)、その他 11,908 件 (8.5%) であり、総相談件数は 139,835 件であった。企業規模別では中小企業 107,934 件 (77.2%) であり、技術分野別では材料が多かった。

企業規模別の技術相談件数 (件)

区 分	来所	電話	メール	その他	合計	比率 (%)
一般	5,790	8,089	11,000	2,373	27,252	19.5
中小企業	21,685	43,410	34,117	8,722	107,934	77.2
中小企業団体	82	543	379	128	1,132	0.8
公益法人等	194	962	1,676	685	3,517	2.5
合 計	27,751	53,004	47,172	11,908	139,835	100.0

技術分野別の技術相談件数 (件)

区 分	来所	電話	メール	その他	合計	比率 (%)
ナノテクノロジー	38	256	184	69	547	0.4
IT	733	2,345	4,249	52	7,379	5.3
エレクトロニクス	4,484	5,507	4,084	59	14,134	10.1
システムデザイン	1,895	3,626	2,854	1,767	10,142	7.3
環境	1,611	3,574	2,815	50	8,050	5.8
生活・少子高齢・福祉	1,175	1,904	1,674	94	4,847	3.5
バイオテクノロジー	159	360	582	77	1,178	0.8
材料	6,024	9,649	11,434	1,842	28,949	20.7
精密加工	2,063	2,020	2,805	557	7,445	5.3
光音・照明	603	1,829	3,006	90	5,528	4.0
繊維	1,681	2,274	1,464	915	6,334	4.5
放射線	455	2,327	3,133	304	6,219	4.4
評価技術	5,641	12,910	4,536	1,029	24,116	17.2
技術連携	30	202	365	206	803	0.6
ロボット	37	686	1,724	473	2,920	2.1
その他	1,122	3,535	2,263	4,324	11,244	8.0
合計	27,751	53,004	47,172	11,908	139,835	100.0

3.1.2 総合支援窓口

(1) ご利用カード発行状況

依頼試験・機器利用などの試験の受け付けをスピーディーに行うために、本部・支所のいずれかで登録すれば共通して使用できる「ご利用カード」を2006（平成18）年度から導入した。13年間で約5万5千枚のカードを発行し、お客さまへのサービス向上を実現した。

「ご利用カード」発行枚数（枚）

事業所	累計枚数	2018年度	2017年度	2016年度	2015年度	2014年度	2006～2013年度
本部	39,434	2,107	2,324	2,406	3,294	3,200	26,103
本部（旧駒沢支所）	372	—	—	—	—	—	372
城東支所	2,764	315	265	232	181	201	1,570
墨田支所	2,653	141	135	168	296	273	1,640
城南支所	2,606	565	106	64	98	77	1,696
多摩テクノプラザ	7,650	762	685	753	732	694	4,024
合計	55,479	3,890	3,515	3,623	4,601	4,445	35,405

*本部は旧西が丘本部分、多摩テクノプラザは旧多摩・八王子支所分を含む。

(2) 料金収納状況

料金収納方法について、お客さまの利便性を考慮して2006（平成18）年度より現金以外にコンビニ収納や銀行振込による取り扱いを開始した。2008（平成20）年度よりクレジットカードおよびデビットカードによる支払いも可能とした。

料金収納状況

支払い方法	現金	コンビニ	銀行振込	クレジットカード	デビットカード	合計
支払い件数（件）	16,329	2,309	8,651	5,027	11	32,327
支払い金額（千円）	179,760	15,870	350,532	101,913	352	648,427
金額比率（%）	27.7	2.5	54.1	15.7	0	100.0

3.1.3 専門相談員

本事業は、本部総合支援窓口専門相談員を置き、中小企業の製品化実現に向けて幅広く対応し支援するものである。2018（平成 30）年度は、2 名の専門相談員を増員し、10 名体制で実施した。2018（平成 30）年度の相談実績は 257 件であった。各専門相談員の技術分野は次のとおりである。

専門相談員氏名	技術分野
朝比奈 奎一	機械
安城 泰雄	環境マネジメント、生産管理
生島 博	知的財産
金田 光範	通信、情報、機能安全
高村 悦夫	自動車、技術経営
田中 敬三	計測分析システム
野口 英明	工業デザイン
原島 なほみ	マーケティング
大沼 敦 *	プロダクトデザイン
畑 義和 *	有機材料、プラスチック成型

*2018（平成 30）年度新規の専門相談員

<主な相談事例>

- ・新規事業のための量産化計画について
- ・自社特許を活用した生産ラインの改善について
- ・新製品販売に向けた販売戦略について
- ・製品強度設計の考え方について
- ・成型部品の破損原因について

3.1.4 実地技術支援事業

都内中小企業の要請により、職員や外部専門家（エンジニアリングアドバイザー・技術指導員）が現地に出向き、現場が抱えている技術的諸問題について 3 種類の方法で技術支援を実施した。

2018（平成 30）年度は、エンジニアリングアドバイザーによる支援（実地技術支援 A）49 社 226 日、エンジニアリングアドバイザーまたは技術指導員と職員による支援（実地技術支援 B）57 日、職員による支援（実地技術支援 C）942 件であった。技術分野別では、IT、システムデザイン、材料が多かった。目的別では、製品開発、技術開発が多かった。

<実地技術支援 A の主な支援内容>

- ・効果的なマーケティング・営業方法に関する支援
- ・揮発性有機化合物処理装置の性能評価に関する支援
- ・超音波発生装置開発に関する支援
- ・産業用製造機器用組込みシステムのソフトウェア開発に関する支援
- ・ダイカスト金型の寿命向上に関する支援

技術分野別の実地技術支援日数（日）

区 分	実地 A	実地 B	実地 C	合計	比率 (%)
ナノテクノロジー	0	0	7	7	0.6
IT	4	0	173	177	14.4
エレクトロニクス	17	7	76	100	8.2
システムデザイン	90	8	56	154	12.6
環境	6	1	108	115	9.4
少子高齢・福祉	32	7	36	75	6.1
バイオテクノロジー	0	0	37	37	3.0
材料	17	12	153	182	14.9
精密加工	1	2	82	85	6.9
光音・照明	6	4	25	35	2.9
繊維	11	1	29	41	3.3
放射線	0	0	2	2	0.2
評価技術	13	2	48	63	5.1
技術連携	0	1	12	13	1.1
ロボット	0	2	15	17	1.4
その他	29	10	83	122	10.0
合 計	226	57	942	1,225	100.0

目的別の実地技術支援日数（日）

区 分	実地 A	実地 B	実地 C	合計	比率 (%)
品質証明	9	1	25	35	2.9
品質管理	10	8	86	104	8.5
性能評価	6	3	84	93	7.6
製品開発	142	32	415	589	48.1
技術開発	6	3	184	193	15.8
事故関連	5	3	30	38	3.1
その他	48	7	118	173	14.1
合 計	226	57	942	1,225	100.0

3.2 依頼試験

3.2.1 依頼試験

中小企業の生産活動に必要な製品、部品、材料などについて、各種の試験、測定、分析、設計を実施し、成績証明書を発行した。製品開発に関わる工業デザインの依頼にも対応した。さらに、これらの試験を通して、企業における技術開発、製品開発、品質改善および事故品の原因究明などの技術支援を実施した。

2018（平成 30）年度の依頼試験の実績を以下の表に、試験件数の目的別構成比および地域別構成比を図 1 および図 2 に示す。

2018（平成 30）年度依頼試験（試験項目別）実績

試験項目	試験件数	金額（円）
一 材料試験		
(一) 強度試験 引張試験、製品の荷重試験、静的強度試験、硬さ試験ほか	14,300	37,182,008
(二) 特性試験 金属材料の疲れ試験、材料の熱膨張試験、耐熱試験ほか	286	3,399,359
(三) 組織試験 光学式顕微鏡によるもの、透過型電子顕微鏡によるもの	1,956	5,735,112
(四) 非破壊検査 エックス線透過試験、エックス CT スキャン試験、 透過写真判定、線量測定	27,127	33,883,597
(五) 塗料の物性試験 基盤目試験、鉛筆引っかき試験、テーバ式摩耗試験ほか	765	2,033,498
(六) 表面処理皮膜試験 皮膜厚さ測定、色彩測定、ボールディスク乾燥摩擦試験ほか	1,747	4,621,033
(七) 照射試験 イオン注入装置によるイオン注入、セシウム 137 によるガンマ線 照射	558	1,482,227
(八) 成形性試験 絞り試験、高温絞り試験、エリクセン試験、球頭張出し試験	232	443,382
小 計	46,971	88,780,216
二 精密測定		
(一) 機械・器具等の精密測定 長さ測定、表面粗さ・形状測定機による測定、歯車の測定、 走査型白色干渉測定器による測定ほか	3,674	8,750,251
(二) 核種等の測定 放射線計数装置、液体シンチレーション計数装置によるものほか	1,601	2,587,470
小 計	5,275	11,337,721
三 化学試験		
(一) 化学分析 容量法による試験、重量法による試験ほか	38	233,304

2018(平成30)年度 年報

試験項目	試験件数	金額 (円)
(二) 機器分析 赤外線分光光度計、スパーク放電発光分光分析装置、 エネルギー分散型エックス線分析装置、走査型電子顕微鏡、 イオンクロマトグラフによるものほか	8,627	81,734,133
(三) 窯業試験 ひずみ観察、表面応力測定、ガラスの破損事故解析ほか	233	492,108
(四) 化学製品等の性能試験 製品の防かび試験、耐薬品試験ほか	2,278	11,351,806
小 計	11,176	93,811,351
四 機械器具・装置等の性能試験		
(一) 性能試験 耐久試験、応力・ひずみ測定、振動測定・解析ほか	4,163	6,472,910
(二) メカトロニクス・ロボット性能試験 高速度撮影、落下試験ほか	266	27,308
(三) ロボットによる耐久性試験 低頻度、中頻度、高頻度	1,695	262,269
小 計	6,124	6,762,487
五 電気試験		
(一) 校正試験 電圧計、電流計、抵抗計、抵抗箱、標準電圧電流発生器、 デジタル計器ほか	1,175	804,513
(三) 測温素子の温度特性試験 熱電対、測温抵抗体	500	1,488,811
(五) 絶縁試験 絶縁抵抗試験、耐電圧試験、衝撃耐電圧試験、衝撃電流試験、 絶縁破壊試験、漏れ電流試験ほか	4,084	13,092,095
(六) 構造および性能試験 機能的強度試験、温度上昇試験、開閉試験、誘電率・誘電正接試 験、消費電力試験ほか	2,233	8,985,152
(七) 部品および材料の電気特性試験 動作特性試験、磁気特性試験ほか	4	5,758
(九) 電子機器・電子部品試験 電子機器特性試験、電子部品試験	3,750	6,695,213
(十一) 電波暗室試験 10m電波暗室、3m電波暗室、電波ノイズ試験室ほか	1,878	16,952,155
小 計	13,624	48,023,697
六 音響試験		
(一) 材料の音響特性試験 残響室法吸音率測定、音響透過損失測定、制振性能測定、 垂直入射吸音率測定ほか	4,651	12,138,275
(二) 材料および装置の音響特性試験 音圧・騒音・振動レベル測定、オクターブバンド分析ほか	1,850	8,314,938

試験項目	試験件数	金額 (円)
小 計	6,501	20,453,213
七 照明試験		
(一) 材料試験 反射率・透過率測定、赤外分光放射測定ほか	1,587	11,014,871
(二) 機器および光源の試験 光度・光束測定、照度、輝度測定、配光測定、分光放射照度測定、 分光透過率・反射率測定ほか	590	5,648,553
小 計	2,177	16,663,424
八 環境試験		
(一) 振動試験 動電形振動試験機によるもの(加振、共振、伝達特性、衝撃試験)	1,863	12,034,883
(二) 腐食試験 塩水噴霧試験、ガス腐食試験	23,330	20,316,625
(三) 耐候性試験 促進耐候試験(サンシャインカーボンアーク灯式、キセノン アーク灯式)、促進耐光試験(紫外線カーボンアーク灯式)ほか	7,961	54,640,708
(四) 温湿度試験 恒温試験、恒温恒湿試験、冷熱衝撃試験、温湿度サイクル試験	3,962	7,384,534
小 計	37,116	94,376,750
九 材料および製品の加工		
(一) 機械加工 油圧プレス加工、フライス盤加工、旋盤加工ほか	287	1,493,102
(二) 冶金加工 粉末冶金	5	63,205
(三) 金属粉末積層造形品の後加工 熱処理、ビルドプレート、サポート処理、バレル研磨	583	668,295
小 計	875	2,224,602
十 デザイン		
(一) 工業デザイン	2,239	417,548
(三) グラフィックデザイン	22	39,138
(四) プロモーションデザイン	0	0
小 計	2,261	456,686
十一 繊維製品試験および試験的加工		
(一) 繊維工業用原料および材料・繊維製品等の試験 繊維製品等の物性試験(質量、密度、番手・繊度、引張強さ・伸 び率、寸法変化、防水性等)、染色仕上げ加工試験(染色堅ろう度 試験、浸染試験等)、ホルムアルデヒド試験、光学的試験、クレ ーム解析試験ほか	6,156	7,788,728
(二) 繊維製品のデザイン 繊維製品デザイン、織物・ニットの設計・分解ほか	44	45,354

2018(平成30)年度 年報

試験項目	試験件数	金額 (円)
(三) 繊維・編織物等の試験的加工 編織準備(ねん糸、繰り返し、整経等)、 編織(編成)コンピュータ制御編機、染色仕上げ加工	678	165,258
(四) 繊維・複合材料の非破壊検査試験 エックス線透過試験、エックス線 CT スキャン試験	1,058	1,206,629
小 計	7,936	9,205,969
十二 航空機規格試験		
(一) 航空機規格・組織試験 航空機規格・自動画像解析による結晶粒度測定、 航空機規格・鉄鋼の介在物含有量測定	0	0
(二) 航空機規格・強度試験 航空機規格・ロックウェル硬さ試験、 航空機規格・マイクロビッカース硬さ試験	10	79,300
(三) 航空機規格・環境試験 航空機規格・塩水噴霧試験、航空機規格・振動試験、 RTCA / DO-160G Section8 振動試験	24	128,151
(四) 航空機規格・特性試験 航空機規格・燃焼試験、FAR Part 25 Appendix F Part I (b)	2	21,392
小 計	36	228,843
十三 サービスロボット評価試験	0	0
(一) サービスロボットの強度・耐久性試験 サービスロボットの耐久試験、サービスロボットの耐荷重試験	0	0
(二) サービスロボットの安定性試験 サービスロボットの静的安定性試験	0	0
小 計	0	0
十四 成績証明書の交付		
成績証明書および成績証明書(副本)の交付ほか	5,166	1,092,442
成績証明書および成績証明書(副本)等の交付に当たって 郵送する場合の手数料等	3,571	1,790,642
小 計	8,737	2,883,084
端数処理に伴う減額		▲55,473
急速料金 依頼試験料金の100%増額	(338)	938,120
震災復興技術支援 依頼試験料金の50%減額	(2,749)	▲3,862,560
総 合 計	148,809	392,228,130

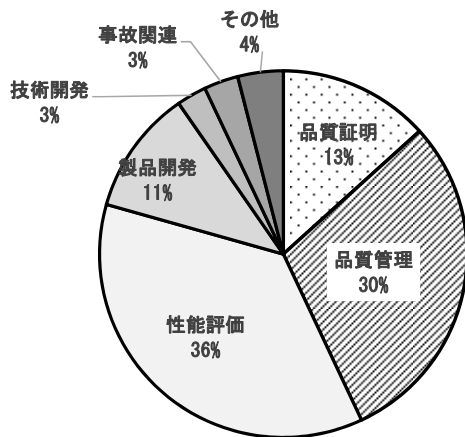


図1 依頼試験件数の目的別構成比

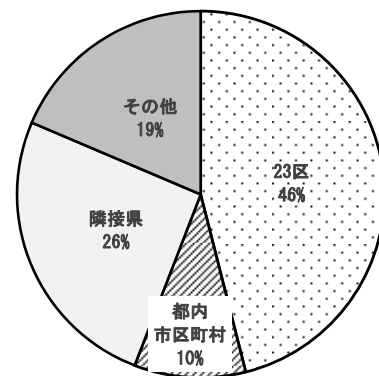


図2 依頼試験件数の地域別構成比

(※隣接県は、埼玉県、千葉県、神奈川県、山梨県)

3.2.2 オーダーメイド試験

依頼試験の実施要綱に定められていない試験項目あるいは JIS などの規定にない試験に関してはオーダーメイド試験として対応し、利用者の多様な要望に対応した。

2018（平成30）年度には、157 件、4,611,770 円を実施した。

オーダーメイド試験の依頼目的は、品質証明 10 件、品質管理 28 件、性能評価 82 件、製品開発 19 件、技術開発 9 件、事故関連 4 件、その他 5 件であった。

3.2.3 校正事業者および試験所認定制度への取り組み

2006（平成18）年度より、校正事業者登録制度による依頼試験業務を開始した。また、2008（平成20）年より、英文の校正証明書の発行を開始した。都産技研の発行する校正証明書および試験報告書は、ILAC/MRA(相互承認取決)に加盟する世界101国・地域（2018（平成30）年7月現在）で有効である。

これまで JCSS で3分野4区分、JNLA で2分野3区分、VLAC では EMC 電磁両立性試験として3項目の認定を取得していたが、産業界の情勢を鑑み、JNLA および VLAC を終了した。JCSS については、国際的な試験品質保証体系として引き続き事業を推進することで、都内中小企業の海外における事業展開を積極的に支援していく。

(1) 計量法校正事業者登録制度（JCSS）

本部は、電気（直流抵抗器）、温度（熱電対）、および長さ（一次元寸法測定器、形状測定器）の区分で国際 MRA 対応の JCSS 登録認定を受けており、国際相互承認の証である ILAC/MRA 認定シンボル(右図)を付与した JCSS 校正証明書の発行が可能である。



都産技研は、認定基準として ISO/IEC 17025(JIS Q 17025) を用い、認定スキームを ISO/IEC 17011 に従って運営されている JCSS の下で認定されています。JCSS を運営している認定機関 (IAJapan) は、アジア太平洋試験所認定協力機構 (APLAC) および国際試験所認定協力機構 (ILAC) の相互承認に署名しています。

都産技研は、国際 MRA 対応 JCSS 認定事業者です。JCSS 0184 は、当センターの認定番号です。

(2) 試験事業者登録制度 (JNLA)

本部は、電気分野で照明器具電气的特性試験（全光束、消費電力）および光源色試験（色彩）、鉄鋼・非鉄金属分野で金属材料引張試験での JNLA 登録認定を受け、ILAC/MRA 認定シンボルを付与した JNLA 試験報告書の発行が可能であった。しかし LED 電球トップランナー制度における JNLA 試験結果の表示義務が緩和されることを受け、LED 製造業への支援の役割を果たしたと判断し、2019（平成 31）年 3 月 31 日をもって JNLA 事業を終了した。



都産技研は、APLAC および ILAC の相互承認の署名者である IAJapan により認定された試験所であり、認定国際基準に対応しています。
JNLA 140361JP は当センターの認定番号です。

(3) 多摩テクノプラザ EMC サイトの試験所認定制度 (VLAC)

多摩テクノプラザ EMC サイトは、2012（平成 24）年度に株式会社電磁環境試験所認定センター (VLAC) より、ISO/IEC17025 試験所認定を受けた。認定範囲は、VCCI、FCC Part15 SubPartB、CISPR22、ICES-003、J55022（4 章）の規格に基づいた 10 m 法



電波暗室での放射妨害波測定、伝導妨害波測定（電源ポート）および伝導妨害波測定（通信ポート）の EMC 試験であった。2013（平成 25）年度から認定範囲における規格適合確認試験および英文の試験成績書の発行を開始した。これまでの利用実績から、EMC サイトにおいて信頼性の高い試験結果を出せることが十分に認知されたことより支援の役割を果たしたと判断し、2019（平成 31）年 2 月 26 日をもって本事業を終了した。

3.2.4 環境計量証明事業の登録

依頼試験などの測定分析業務において信頼性の高いデータを提供するため、2008（平成 20）年度に区分「濃度」、「音圧レベル」、「振動加速度レベル」の計量証明事業者登録を完了した。2011（平成 23）年 10 月の本部移転後も、試験実施体制を再整備し、事業を継続している。計量証明用設備の管理を徹底し、担当者のスキル向上に取り組むことで、充実した受け入れ態勢を継続している。

3.3 機器整備

3.3.1 機器整備一覧

2018（平成30）年度の主な機器整備は以下のとおりである。

2018（平成30）年度機器整備実績

	機器名	事業所	組織
1	接触式段差計	本部	電気電子技術 G
2	ミリ波帯デバイス雑音指数測定装置		電気電子技術 G
3	コロナカメラ		電気電子技術 G
4	3出力直流電源（正負極出力、正極出力）		電気電子技術 G
5	高電圧計		電気電子技術 G
6	X線残留応力測定装置		機械技術 G
7	ポータブル型 X線残留応力測定装置		機械技術 G
8	超音波探傷器		機械技術 G
9	渦電流式膜厚計		機械技術 G
10	垂直入射吸音率・音響透過損失測定用マイクロホン		光音技術 G
11	自動切断機		表面・化学技術 G
12	ポータブル色差計		表面・化学技術 G
13	引張試験用空気式つかみ具		表面・化学技術 G
14	一軸押出機		表面・化学技術 G
15	冷氣発生装置（サーモジェッター）		表面・化学技術 G
16	自動三点曲げ試験機 ※JKA 補助		表面・化学技術 G
17	高性能高温小型電気炉		環境技術 G
18	ガラス強度計		環境技術 G
19	歪検査器		環境技術 G
20	pH メーター		環境技術 G
21	紫外可視近赤外分光光度計システム		バイオ応用技術 G
22	電子スピン共鳴装置用温度可変装置		バイオ応用技術 G
23	マスコット解析システム		バイオ応用技術 G
24	3D バイオプリンター		バイオ応用技術 G
25	電離箱型線量計		バイオ応用技術 G
26	GPU ワークステーション		情報技術 G
27	装着型視線計測装置		デザイン技術 G
28	スタジオ撮影システム		デザイン技術 G
29	レーザー焼結装置		3D ものづくり S

	機器名	事業所	組織
30	解析機能付き白色干渉計		3D ものづくり S
31	ダクトレスヒュームフード		先端材料開発 S
32	ズームレンズ		先端材料開発 S
33	抵抗負荷装置		実証試験 S
34	高周波・フリッカ試験器アプリケーションシステム		実証試験 S
35	漏れ電流試験器		実証試験 S
36	冷熱衝撃試験機		実証試験 S
37	デザインスタジオシステムサーバー	城東支所	城東支所
38	ピンディスプレイ	墨田支所	生活技術開発 S
39	筋骨格解析シミュレータ		生活技術開発 S
40	機械的危険確認治具		生活技術開発 S
41	反発弾性試験機		生活技術開発 S
42	数値計算用ワークステーション		生活技術開発 S
43	キセノン耐候性試験機用コンプレッサー	城南支所	城南支所
44	映像編集装置	多摩 テクノ プラザ	総合支援課
45	簡易耐久試験機		電子・機械 G
46	アクティブ差動プローブ		電子・機械 G
47	磁界プローブ・磁界プローブアンプ		電子・機械 G
48	コンピュータ制御横編機		複合素材開発 S
49	紫外線オートフェードメーター付属純水装置		複合素材開発 S
50	熱プレス機		複合素材開発 S

※ G:「グループ」の略、S:「セクター」の略

※公益財団法人 JKA の公設工業試験研究所等における研究開発型機械設備拡充補助事業による。

3.3.2 経済産業省平成 29 年度補正予算事業による機器整備およびその取り組み

経済産業省平成 29 年度補正予算事業「地域新成長産業創出促進事業費補助金（地域における中小企業の生産性向上のための共同基盤事業）」による「関東地域における生産性向上のための成長ものづくり支援基盤強化事業」を実施した。

本事業は、首都圏公設試験研究機関連携体（以下、「TKF」という。）を構成している 5 公設試（東京都、埼玉県、千葉県、神奈川県、横浜市）が連携し、次世代自動車をはじめとした成長産業分野の進展に伴う産業構造の変化に、地域の中小企業が効率的に対応できる支援基盤を整備することを目的としている。

(1) 機器整備

TKF の 4 公設試に計 5 機種を導入した。うち都産技研では、解析機能付き白色干渉計を 3D ものづくりセクターに導入した。

(2) 導入機器の利用促進に向けた活動

1) 利用普及セミナー

本事業で整備した機器を効果的に活用するため、普及セミナーを開催した。

利用普及セミナーの開催状況

開催年月日	開催場所	タイトル	参加者数 (延べ人数)
2018 年 11 月 27 日	都産技研 本部	光学測定機セミナーおよび技術相談会	32

2) 利用促進活動

本事業で導入した機器の利用拡大を目的として、TIRI NEWS 2 月号（発行部数：5,600 部）の設備紹介ページに掲載した。また、展示会などにおいて本事業の紹介および各公設試の事業紹介を行った。

利用促進活動

開催年月日	開催場所	イベント名
2018 年 9 月 27 日	埼玉県産業技術総合センター	オープンラボ
2018 年 10 月 25 日	神奈川県立産業技術総合研究所 海老名本所	オープンイノベーション交流会× マッチングフォーラム～自動運転 ビジネスの可能性～

3.4 機器利用

中小企業が製品開発や新技術開発を行う際に、自ら保有・管理することが困難な各種の測定器や試験機器・設備などを設置し、新製品開発や品質管理などの生産活動を支援した。また、その使用法や試験データの解析法について技術的なアドバイスをを行った。2018（平成30）年度の機器利用の実績は以下のとおりである。

2018（平成30）年度機器利用（試験項目別）実績

No.	機器利用試験項目（機器例）	件数	金額（円）
1	指示計器（絶縁抵抗計）	173	102,912
2	定数測定器・測定用素子（ミリオームメータ）	532	472,302
3	電圧・周波数測定器（デジタルマルチメータ）	291	81,792
4	信号発生器および発振器（高周波ノイズシミュレータ）	2,097	2,027,559
5	校正装置（計器用変成器）	226	48,639
6	波形測定器・記録装置（温度記録計）	2,714	4,592,958
7	電源装置その他（電圧調整器）	1,616	859,646
8	試験機械（万能試験機）	4,433	4,221,566
9	測定機器（三次元測定機）	11,942	20,437,898
10	環境試験機器（恒温恒湿槽）	48,247	55,397,832
11	試験機器（耐電圧試験器）	625	919,279
12	記録解析装置（デジタルシリアルアナライザ）	173	338,344
13	観察機器（マイクロフォーカスX線CT）	2,897	6,737,628
14	クリーンルームおよび関連機器（クリーンルーム）	295	204,394
15	加工機器（プリント配線板試作装置）	0	0
16	切削加工機械（普通旋盤）	1,225	748,663
17	設計・生産支援装置（ナイロン粉末造形装置）	42,990	53,508,327
18	ナノテクノロジー加工装置（レーザーマーカ）	1,796	2,877,215
19	その他の加工機械（マイクロハイスコープ）	3,624	2,804,064
20	繊維計測・生産加工機器（インクジェットプリントシステム）	4,843	7,514,212
21	電波暗室・測定システム（シールドルーム）	5,043	10,136,901
22	メカトロニクス試験・ロボット開発支援機器・計測制御機器	5,493	712,593
23	生活科学計測機器	4,400	10,664,879
24	サービスロボット評価試験機器	170	652,083
25	機器および施設利用による技術指導	11,696	15,597,278
端数処理に伴う減額			▲63,434
震災復興技術支援 機器利用料金の50%減額			(2,144) ▲1,815,080
総合計		157,541	199,780,450

3.4.1 機器利用ライセンス制度

2012（平成 24）年 2 月から機器利用ライセンス制度を導入し、要望が多かった高性能で操作に習熟が必要な装置を対象機器とした。現在、対象機器は合計 19 機種である。利用希望者には利用方法習得セミナー受講後「機器利用ライセンスカード」を交付している。2018（平成 30）年度は 133 枚の機器利用ライセンスカードを発行し、累計発行枚数は 872 枚となった。

「機器利用ライセンスカード」発行枚数（累計）

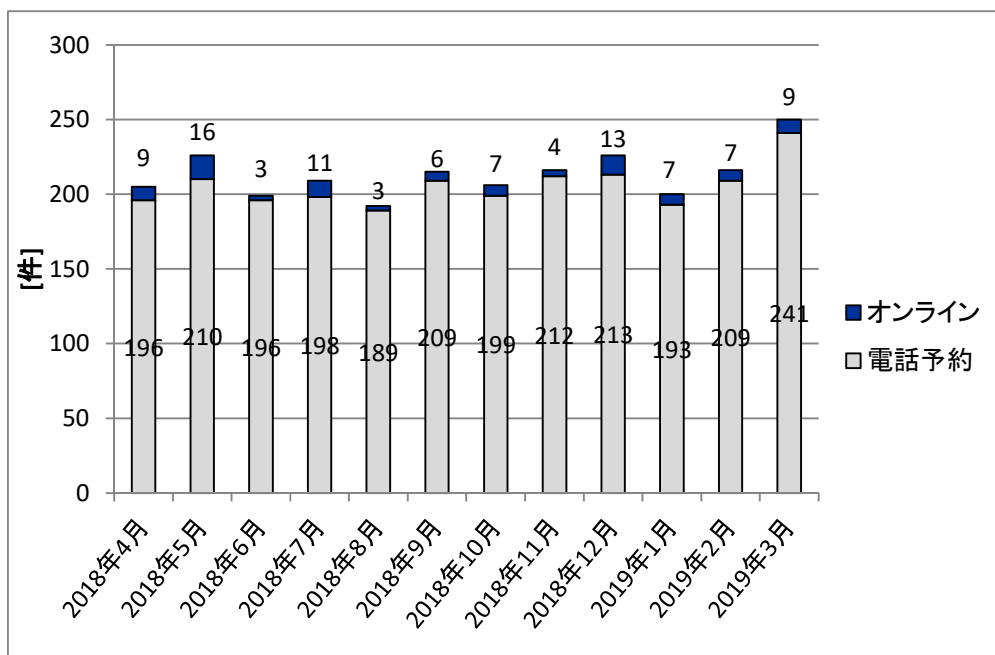
ライセンス制度対象機器	発行枚数（枚）
分析機能付き走査電子顕微鏡（本部）	285
キセノンフラッシュアナライザー	92
スタジオ撮影システム	16
蛍光 X 線分析装置（波長分散型）	47
X 線回折装置	126
マグネトロンスパッタ	22
スクラッチ試験機	7
万能試験機（20kN）	44
万能試験機（100kN）	44
絶対 PL 量子収率測定装置	5
音響管	57
ハイパワーキセノンフラッシュアナライザー	23
フーリエ変換赤外分光分析	1
分析機能付き走査電子顕微鏡（多摩テクノプラザ）	18
走査型白色干渉測定機（多摩テクノプラザ）	48
分析機能付き走査電子顕微鏡（城南）	30
ダイシングソー	5
ナノインプリント装置	1
高速ディープエッチング装置 *	1

* 2018（平成 30）年度追加対象機器

3.4.2 機器利用可能情報およびインターネット経由での予約申し込み受け付けの提供

2011（平成 23）年度から、実証試験セクターの機器利用設備において、ウェブサイト上で機器利用可能情報、機器の仕様などの情報提供を開始した。2018（平成 30）年度は全 417 機種（本部：191 機種、多摩テクノプラザ：97 機種、城東支所：43 機種、墨田支所：54 機種、城南支所：32 機種）の情報提供を実施した。実証試験セクターの予約可能 28 台については、インターネット経由での予約申し込み受け付けを継続して行った。

環境試験機器年間月別予約件数
 (上段：オンライン予約分 下段：電話・メール等予約分)



3.5 災害復興支援

3.5.1 都内中小企業および被災地企業の利用料金の減免

東日本大震災および 2016（平成 28）年熊本地震に加え、2018（平成 30）年 7 月豪雨で直接的・間接的に大きな影響を受けた中小企業を支援するため、特定被災区域および都内の中小企業を対象として、依頼試験料金などの 50%減額を実施した。

<東日本大震災>

対象事業：依頼試験、機器利用、オーダーメイド試験、オーダーメイド開発支援

対象地域：東京都、岩手県、宮城県、福島県、栃木県、茨城県、青森県、千葉県、新潟県、長野県

対象企業：直接被害に関しては「り災証明」、業況の悪化（売上高などの減少）については「セーフティネット保証 5 号（ハ）」または「東日本大震災復興緊急保証」の認定を受けた対象地域の住所（本社、工場、事業所）で申し込まれた中小企業

減額期間：2018（平成 30）年 4 月 1 日から 2019（平成 31）年 3 月 31 日まで

2018（平成 30）年度利用実績：4,818 件（依頼試験＋機器利用件数合計）

1 件（オーダーメイド試験）

3 件（オーダーメイド開発支援）

<2016（平成 28）年熊本地震>

対象事業：依頼試験、機器利用、オーダーメイド試験、オーダーメイド開発支援

対象地域：東京都、熊本県、大分県、鹿児島県、長崎県、宮崎県、佐賀県、福岡県

対象企業：直接被害に関しては「り災証明」、業況の悪化（売上高などの減少）については「セーフティネット保証 4 号」の認定を受けた対象地域の住所（本社、工場、事業所）で申し込まれた中小企業

減額期間：2016（平成 28）年 8 月 1 日から 2021 年 7 月 31 日まで

2018（平成 30）年度利用実績：75 件（依頼試験＋機器利用件数合計）

0 件（オーダーメイド試験）

0 件（オーダーメイド開発支援）

<2018（平成 30）年 7 月豪雨>

対象事業：依頼試験、機器利用、オーダーメイド試験、オーダーメイド開発支援

対象地域：東京都、岐阜県、京都府、兵庫県、鳥取県、島根県、岡山県、広島県、山口県、愛媛県、高知県、福岡県

対象企業：直接被害に関しては「り災証明」、業況の悪化（売上高などの減少）については「セーフティネット保証 4 号」の認定を受けた対象地域の住所（本社、工場、事業所）で申し込まれた中小企業

減額期間：2018 年（平成 30 年）10 月 15 日から 2019（平成 31）年 3 月 31 日まで

2018（平成 30）年度利用実績：0 件（依頼試験＋機器利用件数合計）

0 件（オーダーメイド試験）

0 件（オーダーメイド開発支援）

3.5.2 工業製品等の放射線量測定試験

東京電力福島第一原子力発電所事故による都内工業製品の風評被害を防ぐために開始した放射線量測定と成績証明書の発行を継続実施した。また、都内中小企業の依頼試験手数料無料および大型試験品の出張測定についても継続した。2018（平成 30）年度の試験実績は以下のとおりである。

2018（平成 30）年度試験実績

	持ち込み試験		出張試験	
	実施件数	成績証明書 発行枚数	実施件数	成績証明書 発行枚数
都内中小企業	20	16	14	14
都内中小企業以外	3	3	0	0
都外企業	0	0	0	0
合計	23	19	14	14

3.5.3 東京都との協定に基づく放射線量測定試験

都産技研は 2007（平成 19）年 3 月に東京都と締結した「放射線物質等による災害時等対応に関する協定」に基づき、空間線量率測定および大気浮遊塵の放射線量測定を 2018（平成 30）年度も継続実施した。

(1) 空間線量率測定

本部に設置したモニタリングポストによりデータ収集を継続実施した。2012（平成 24）年 4 月 11 日から、測定結果は東京都健康安全研究センターのウェブサイトにて都内他地域の測定結果とともに公表している。

(2) 大気浮遊塵の放射能測定

都産技研では 1975（昭和 50）年から継続的に環境放射能の測定を旧駒沢支所（世田谷区深沢）で実施していた。本部移転後も継続実施している。I-131、I-132、Cs-134、Cs-137 の測定結果は、東京都産業労働局ウェブサイトにて毎日公表されている。なお、北朝鮮の地下核実験の際には、東京都との協定に基づき緊急測定体制を整備して測定結果を速やかに東京都に報告することとなっているが、2018（平成 30）年度については実施例はなかった。

3.5.4 公設試験研究機関との震災復興に関する連携事業

都産技研は全国 66 機関で構成される全国公立鉦工業試験研究機関長協議会の会長機関として、放射線・放射能の正しい理解を促す目的で 2011（平成 23）年度に作成した企業向けの放射線対策ガイドを 2018（平成 30）年度も無料で配布した。

・技術冊子の配付

書 名：「放射線・放射能の基礎と測定の実際」

※2011（平成 23）年 1 月 31 日発行

配布部数：91 部

3.6 高付加価値開発支援

3.6.1 3Dものづくりセクター

「3Dものづくりセクター」では、3D技術やリバースエンジニアリングを活用した製品開発を総合的に支援する。

(1) アディティブ・マニュファクチャリング（AM）設備による試作・製作支援

AM（3Dプリンター）ラボ 1では、金属粉末積層造形装置およびワイヤー放電加工機など、AM（3Dプリンター）ラボ 2では、主にナイロン粉末造形装置により、医療器具などの試作・製作支援を行った。

(2) 三次元CADデータ作成などのデジタルエンジニアリング支援

三次元CAD/CAEシステム、パターン投影式3Dデジタイザーなどによりさまざまな工業用製品の試作・製作支援を行った。

(3) 製品の品質評価支援

中小企業では評価が困難な1/1000 mmオーダーの寸法測定や形状測定などを依頼試験にて実施し、製品の品質向上・高付加価値化を支援した。また、長さ測定の試験（寸法測定器の校正）では、認定機関によりJCSS 4年ごとの登録更新審査が実施され、適切な対応により事業継続が認められた。2018（平成30）年度は、高精度な寸法測定のために解析機能付き白色干渉計を導入した。

(4) 情報発信・情報提供の推進

1) ウェブサイトの活用

動画「3Dプリンターでバイオリン、その設計と製作」を作成し、YouTubeに公開

2) 展示会出展

METALEX 2018（11月）、TCT Japan 2019（1月）

3) 広報誌掲載、マスコミ報道

AMバイオリン（8月、読売新聞）、TIRI NEWS（2月号特集）

4) 講演

- ① 「AMバイオリンの設計と製作」（産業技術連携推進会議 製造プロセス部会第8回3Dものづくり特別分科会）（10月）
- ② 「レーザーを用いた3Dものづくり」マテリアルライフ学会 表面-界面物性研究会（9月）
- ③ 「都産技研の3Dものづくりにおける支援事業と技術開発」トライボコーティング技術研究会（12月）

2018（平成30）年度の依頼試験および機器利用の合計利用実績は次のとおりである。

3Dものづくりセクター利用実績（件）

2018年度利用実績	28,209
------------	--------

3.6.2 先端材料開発セクター

「先端材料開発セクター」では、機能性材料、環境対応製品など先端材料製品の開発に用いる高度先端機器を集中配置し、中小企業による高度な研究開発や技術課題の解決を支援する。中でも以下を柱と位置付けている。

- ① 高度先端分析・特性解析機器を活用した技術支援・製品開発支援
- ② 分散・混合機を活用した技術支援・製品開発支援
- ③ スクリーン印刷機器を活用した技術支援・製品開発支援

2018（平成 30）年度は、機械技術グループより移管したスパーク放電発光分析装置による依頼試験を開始し、鉄鋼材料やアルミ合金材料の成分分析を通じて中小企業の製品開発の支援を推進した。また、実証試験セクターより光学顕微鏡、レーザー顕微鏡の機器利用業務を移管し、装置を走査電子顕微鏡と同じ部屋に設置することによって、各種顕微鏡の機器利用業務のワンストップサービス化を達成した。

(1) 研究開発成果の応用展開

- ・優れたガス拡散能と機械的強度を両立させた電極を作成する技術を応用展開し、中小企業との共同研究によって「非常用電源として利用可能な空気電池」の製品化を支援した。
- ・有機合成技術を応用展開し、溶媒への溶解性を向上させた非対称構造ポルフィリン錯体を開発・特許出願した。開発した有機材料の製品化に向けて、化学薬品の製造販売を生業とする中小企業に特許の実施許諾を行った。

(2) 先端材料製品の開発支援

- ・走査電子顕微鏡による試料断面観察技術と有機材料に係る知見を用いて、「プラスチックに代わる新素材」の改良品の開発を支援した。
- ・収束イオンビームによる微細加工技術と走査電子顕微鏡観察技術の知見を用いて、中小企業による「ナノ薄膜を有する製品」の事業化を支援した。

(3) ライセンス制度による機器利用

先端的な機器分析装置のうち、操作に習熟が必要な以下の機器については、利用方法習得セミナー受講者に対してライセンスを発行し、機器利用に供している。

- ・分析機能付き走査電子顕微鏡
- ・X線回折装置
- ・波長分散型蛍光X線分析装置

2018（平成 30）年度の依頼試験および機器利用の合計利用実績は次のとおりである。

先端材料開発セクター利用実績（件）

2018 年度利用実績	7,876
-------------	-------

3.6.3 複合素材開発セクター

多摩テクノプラザ複合素材開発セクターでは、高機能繊維材料や繊維強化材料による製品開発を支援している。2018（平成 30）年度は繊維技術や化学技術による支援を発展させ炭素繊維強化プラスチック（CFRP）や高機能繊維素材の研究・開発に取り組み、製品化を支援した。

(1) 利用促進に向けた活動

1) 事業紹介

- ・ JST 新技術説明会（5月17日）
- ・ ANEX2018 アジア不織布産業総合展示会（6月6～8日）
- ・ エヌプラス（9月26～28日）
- ・ 63rd FRP CON-EX2018（10月25～26日）
- ・ 西武信用金庫第19回ビジネスフェア（11月6日）
- ・ 日本繊維機械学会（11月15日）
- ・ 日本繊維学会被服科学研究委員会（11月30日）
- ・ JFlex2019（1月30日～2月1日）

2) 解説記事

- ・ 炭素繊維強化 CFRP 材料を開発「月刊スクリーン印刷」株式会社印刷紙業社、Vol. 54, No. 5, p45-48(2018)
- ・ 未来について若手研究者に聞きました「繊維学会誌」一般社団法人繊維学会、Vol. 75, No. 1, p. 22(2019)

3) 新聞等掲載

- ・ 日刊工業新聞（5月29日）「レーザー加工で染小紋型紙」
- ・ TIRI NEWS 研究紹介「金属編地を用いた耐熱性樹脂複合材の特性評価」（9月号）、設備紹介「生地用インクジェットシステム」（10月号）、新ブランド試験「繊維・複合材料評価試験」紹介（1月号）

(2) 支援事例

- ・ 高温プレス機により CFRP 製品の製品開発を支援
- ・ 高分解能 X 線 CT 装置により、FRP 材料・試作品の評価を実施
- ・ 編織準備（撚糸技術）を応用し、特殊糸を用いた衣料品の開発を支援 など

2018（平成 30）年度の依頼試験および機器利用の合計利用実績は次のとおりである。

複合素材開発セクター利用実績（件）

2018 年度利用実績	20,176
-------------	--------

3.6.4 オーダーメイド開発支援

中小企業の製品開発における上流工程・上流設計支援を目的に、オーダーメイド開発支援事業を2009（平成21）年6月に開始した。主にデザイン、設計、加工、試作などの分野で、開発過程でのデータ収集、測定、性能評価なども対象とした。複雑で高度化する企業のニーズに対し、依頼試験や受託研究での対応では支援内容がマッチしない事例について、オーダーメイド開発支援事業により、都産技研が保有する機器・設備と、職員の人的能力を最大限に活用して、中小企業の製品開発を有効に支援できる。成果において特許、実用新案が発生する場合は、必要に応じて都産技研・利用者で協議し、契約を結ぶことも可能である。

2018（平成30）年度は、504件、21,676,200円のオーダーメイド開発支援を実施した。

3.6.5 製品開発支援ラボ

新製品・新技術開発を目指す中小企業を支援する施設として、2006（平成18）年度より「製品開発支援ラボ」を旧西が丘本部に3室設置し運営を開始した。中小企業の事業化支援の充実と強化を目的に、2010（平成22）年2月多摩テクノプラザ開設時に5室設置、2011（平成23）年10月本部開設時には新たに18室設置し、2012（平成24）年10月からは増室により19室とし、合計24室を製品開発支援のために提供している。

製品開発支援ラボは、①都産技研の技術支援を得ながら効率的に技術開発できる、②24時間利用できる、③ラボマネージャーが各種相談に応じ製品開発、事業化をサポートする、などの特長がある。また、本部には機械加工機器、電気試験機器などを整備した共用の試作加工室、ドラフトチャンバーや精密天秤などを整備した共用の化学実験室を設置し、迅速に製品開発できるよう支援の充実に努めている。

入居者はウェブサイトやメールニュースなどで公募し、入居者選定審査会において審査の上、選定している。2019（平成31）年3月31日現在、本部ラボ（19室）は18室が入居中であり、多摩ラボ（5室）は満室状態を維持している。

本部

室番号	企業名	利用の概要	入居期間
301	アイリックス(株)	レーザーラマン分光装置の開発・製造	2013年 6月 1日 ～2018年 4月15日
	モダンデコ(株)	生活家電製品の改良・品質検査のスピード化と高品質な家電製品開発	2018年 8月 1日 ～2021年 7月31日(予定)
302	ハードロック工業(株)	宇宙航空機産業参入に向けた新製品開発とボルト締結体基礎物性の把握	2015年10月 1日 ～2019年 9月30日(予定)
303	クスノキ石灰(株)	地球温暖化の原因となるCO ₂ を新たなセラミックス製品へ利用した製品開発	2017年 5月 1日 ～2020年 4月30日(予定)
304	ヤマモトホールディングス(株)	ガラスコーティング剤の製品開発と利用範囲拡大	2017年 9月 1日 ～2020年 8月31日(予定)
305	カムイ・イノベーション(株)	画像処理技術の開発 (310室 2014年 4月 1日入居)	2016年 9月 1日 ～2019年 3月31日
306	(株)CICS	加速器を用いたホウ素中性子捕捉治療システムの実用化	2013年10月 1日 ～2018年 9月30日
	seven dreamers laboratories(株)	全自動衣類折りたたみ機の開発 (312室 2016年 9月 1日入居)	2018年12月17日 ～2019年 5月31日
307	ACA(株)	肌測定用のソフトウェア、アプリケーションの開発	2016年 9月 1日 ～2019年 5月31日

室番号	企業名	利用の概要	入居期間
308	(株)トリマティス	光通信技術と制御回路技術を基にレーザー光源と電源の開発	2016年 1月 1日 ～2018年12月31日
309	大和基礎設計(株)	地盤に関する新たな土質試験法としての評価技術の開発	2018年 5月28日 ～2021年 4月30日(予定)
310	クラリアントジャパン(株)	植物由来の原料を使用した新たな化粧品原料の開発と評価	2017年 9月 1日 ～2020年 8月31日(予定)
311	(株)アイテックシステム	CE マーキングの認証に向け良質な LED 照明器具の製品開発	2017年 5月 1日 ～2019年 5月31日
312	seven dreamers laboratories(株)	全自動衣類折りたたみ機の開発	2016年 9月 1日 ～2018年12月16日
313	(株)アルファ・プロダクト	コンクリート表面のクラック検出用画像処理装置、コンクリート内部の金属検出用超音波検査装置、ドラム缶内面のさび検出用超音波装置の開発	2016年12月 1日 ～2019年11月30日(予定)
314	デザミス(株)	農業・畜産分野における IoT 機器の開発	2017年 1月24日 ～2020年 1月23日(予定)
315	(株)名取製作所	2020 年パラリンピックに向けスポーツ用義足の開発	2016年 6月 1日 ～2020年 4月30日(予定)
316	2501(株)	スタジアムで行われるスポーツ向け多視点映像生成システムの開発	2017年10月 1日 ～2018年 6月13日
317	GROOVE X(株)	生活に自然に溶け込む、新世代の家庭用ロボットの開発	2017年12月 1日 ～2020年11月30日(予定)
318	(株)TBM	フィルター高充填シートの開発	2014年11月 1日 ～2018年 4月30日
	メイワフォーシス(株)	SEM 試料観察用コーティング装置の自動化と品質保証に必要なデータ取得	2018年 8月 1日 ～2021年 7月31日(予定)
319	ティエムファクトリ(株)	「透明な断熱性を有するエアロゲル」の製品開発	2017年 4月 1日 ～2019年 2月28日

多摩テクノプラザ

室番号	企業名	利用の概要	入居期間
ラボ 1	ineova(株)	防災用・非常用のアルミホイル電池の開発および大型非常用電池開発	2017年12月 1日 ～2019年 2月28日
ラボ 2	ナノコート・ティーエス(株)	真空・プラズマ技術を用いた薄膜作成技術の開発	2015年 9月15日 ～2020年 8月31日(予定)
ラボ 3	Cambwick Healthcare(株)	抗酸化ストレス治療用の治療器の開発	2015年 2月22日 ～2019年 7月31日
ラボ 4	(株)EVTD 研究所	知見を有す電動車両技術を踏まえ、家庭向け蓄電池事業の開発 (ラボ 1 2015年 8月 1日入居)	2017年11月 1日 ～2020年 7月31日(予定)
ラボ 5	(株)アспект	3D プリンターのアプリケーション開発	2016年10月 1日 ～2018年12月31日
	ineova(株)	防災用・非常用のアルミホイル電池の開発および大型非常用電池開発 (ラボ 1 2017年 12月 1日入居)	2019年 3月 1日 ～2020年11月30日(予定)

3.6.6 共同研究開発室

提案公募型研究や共同研究などのテーマで、中小企業と都産技研が共同で実施し迅速に成果を出せるよう、研究の実施場所として共同研究開発室を本部に 3 室提供している。共用を原則としている。ただし、共同研究開発室運営会議で審査し承認が得られた場合には、6 ヶ月を限

度に専用使用することができる。共同研究開発室の利用者は、研究の実施場所として試作加工室や化学実験室など製品開発支援ラボの共用利用施設も利用することができる。2018（平成30）年度は、随時、短期の利用として共同研究者、共同研究企業に提供した。

3.7 品質評価支援（実証試験セクター）

「実証試験セクター」では、中小企業が安全で信頼性の高い製品を開発するために必要な、温湿度・劣化、振動・衝撃、電気・耐ノイズの試験を行う際に、技術相談、依頼試験、機器利用をワンストップで効率的な技術支援ができるよう環境試験機器を集約している。

2018（平成 30）年度は、迅速かつ効率的な試験サービスの維持・拡充と、各種規格などに対応した質の高い試験業務を継続して行うとともに、利用の多い温湿度試験装置(恒温恒湿槽など)の大規模更新に着手した。

(1) 実証試験セクターのサービス拡充

実証試験セクターは、環境試験、電気・温度試験、製品・材料強度の各技術分野において製品の品質評価支援を行っている。

本部 2 階にある実証試験セクター窓口は、ワンストップの技術支援の相談窓口として機能させ、予約情報、稼働状況、装置仕様を 60 インチディスプレイなどにより表示・提供している。装置と機器利用の概要をまとめたハンドブックは、2018（平成 30）年 3 月に Q&A や新規導入機器の追記、写真の見直しなどを加えて更新し、継続して配布している。ウェブサイトでは、温湿度試験機や EMC 試験機など、49 機種 of 機器利用予約情報、機器仕様などの提供、ならびに 28 台のオンライン予約を行っている。また、利用者からの要望に応えるため、抵抗負荷装置を新たに導入するとともに、ご利用が多い高調波・フリッカ試験器、漏れ電流試験器を更新し、サービスの維持と充実を図った。

(2) 温湿度試験装置の大規模更新

2018（平成 30）年度から 2019 年度にかけて、20 台の温湿度試験装置を更新する。これにより、老朽化を要因とする故障などのリスクを回避するとともに、お客さまのニーズに合わせた装置のラインナップへ更新する。2018（平成 30）年度は 4 台の冷熱衝撃試験機を更新した。

(3) 利用促進 PR 活動

実証試験セクター、品質保証推進センターのパンフレットとハンドブックは、出展した展示会で来場者に配布するとともに、1 階相談窓口および各担当分野室に配架し、認知度向上と利用者増、事業目標達成につながる PR 展開を行った。2018（平成 30）年度の依頼試験および機器利用の合計利用実績は次のとおりである。

実証試験セクター利用実績（件）

2018 年度利用実績	70,891
-------------	--------

3.8 技術経営支援

3.8.1 知的財産権の取得

(1) 知的財産権総括

1) 知的財産権保有件数

		特許(件)		実用新案(件)		意匠(件)		商標(件)	
		登録	出願中	登録	出願中	登録	出願中	登録	出願中
国内 ^{※1}	今年度分	24	46	0	0	2	4	0	0
	累計	192	133	8	0	7	4	10	0
国外 ^{※2}	今年度分	1	11					0	0
	累計	13	30					2	0
PCT ^{※3}	今年度分		4						
	累計		7						

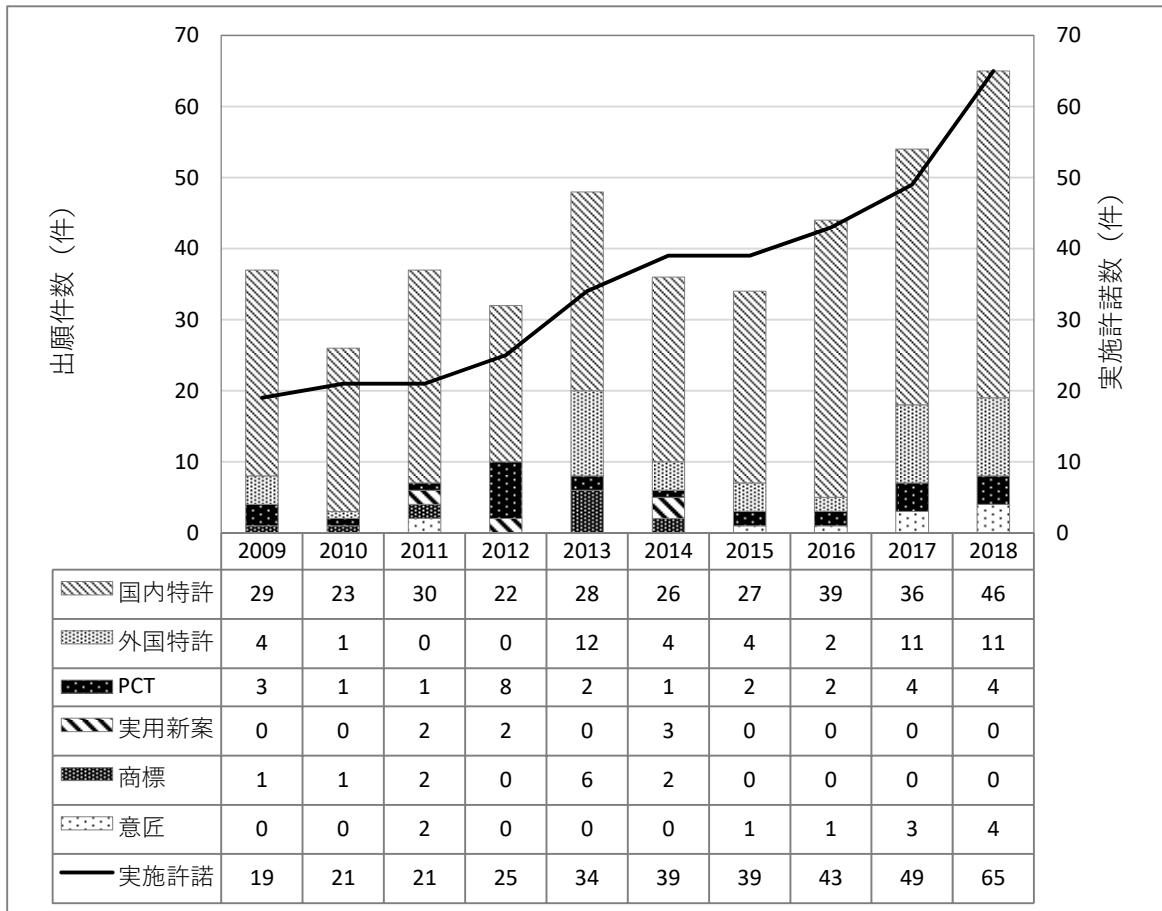
※1 国内優先権主張を利用したものは、原出願を件数から削除した。登録となった場合には、累計における「出願中」から削除した。「出願中」は、出願公開後に放棄等した件数は含まない。

登録累計は、前年度以前に権利終了した案件は含まない。

※2 自国(日本)指定は出願段階は国外に、登録後は国内の登録に計上した。

※3 PCT出願後、各国への移行が完了したものについては、PCTの「出願中」から削除した。

2) 出願案件数の推移 ※2009(平成21)年度～2018(平成30)年度まで



2018(平成30)年度 年報

(2) 保有する登録済み知的財産権

1) 国内登録特許

番号	登録番号 (出願番号)	名 称	登録年月日 (出願日)	発明者	内 容
1	第 3062813 号 (平 10-251835)	べっ甲基材の再生製造方法	2000. 5. 12 (1998. 8. 21)	横澤佑治 今津好昭 金谷公彦 浅見淳一 廣瀬徳豊	従来廃棄していた製造工程中に発生するべっ甲端材を再生し、有効利用することができる製造方法
2	第 3261676 号 (平 11-357480)	電気ニッケルめっき浴	2001. 12. 21 (1999. 12. 16)	土井 正 水元和成 茅島正資 田中慎一	めっき排水中のほう酸やほう素の除去処理を行わなくてもよい、ほう酸を使用しないめっき浴で、緻密で欠陥の少ないニッケルめっき皮膜が得られる電気ニッケルめっき浴
3	第 3292239 号 (平 10-084250)	鑄造用すず合金	2002. 3. 29 (1998. 3. 30)	佐藤健二 ほか 1 名	創造性、転写性に優れ鑄造した製品の色調が銀色に近いものが得られる鑄造用すず合金
4	第 3559727 号 (平 11-198208)	放射性核種吸収体とこれを用いた放射性核種の濃度測定法	2004. 5. 28 (1999. 7. 12)	齋藤正明	簡易で安全な放射能測定を実現するため、シンチレータと溶解しやすい発泡ポリスチレンを放射性気体の吸収材として規格化し、この吸収材を用いて放射能を測定する方法
5	第 3779290 号 (2003-322418)	漆および植物繊維を用いた成形用材料、前記成形用材料を用いて得られる漆/植物繊維成形体	2006. 3. 10 (2003. 9. 16)	木下稔夫 上野博志 瓦田研介 ほか 1 名	漆と植物繊維を混合して漆を植物繊維に含浸させた後、加熱して粉末化成用材料およびこの材料を金型で加熱圧縮成形した成形体
6	第 3812783 号 (平 10-066426)	超音波振動付加型摩擦試験機	2006. 6. 9 (1998. 3. 17)	片岡征二 加藤光吉 基 昭夫 中田高志 佐々木武三 ほか 1 名	一般的な汎用試験機に超音波振動装置を組み込み、摩擦低減に対する超音波振動付加の効果を簡便に試験できる摩擦試験機
7	第 3993784 号 (2002-106827)	多次元座標測定機の性能評価方法、多次元座標測定機の校正用ゲージ及び校正用ゲージの治具	2007. 7. 24 (2002. 4. 9)	澤近洋史 樋田靖広 浜島義明 ほか 1 名	反転法を利用して被測定物を多次元で測定するため、三次元座標測定機において、スケール誤差、真直度、および直角度を容易に評価するための方法および校正用ゲージ
8	第 4086241 号 (2004-035337)	水素吸蔵合金粉末	2008. 2. 29 (2004. 2. 12)	内田 聡 ほか 3 名	鉄とチタンを主成分とする金属原料粉末をボールミリングすることにより得られる水素吸蔵合金粉末
9	第 4222515 号 (2004-314637)	ダイヤモンドの研磨方法と装置	2008. 11. 28 (2004. 1. 22)	横澤 毅 基 昭夫 片岡征二 仁平宣弘	超音波で振動しているステンレス工具をダイヤモンドの表面に押しあてることにより、ダイヤモンドを研磨する方法
10	第 4233222 号 (2001-008685)	着色ガラスの製造方法	2008. 12. 19 (2001. 1. 17)	鈴木 蕃 大久保一宏 小山秀美 田中 実 陸井史子	一般的なソーダ石灰ガラスの原料に、重量割合で 2~50% の三宅島火山灰を配合することにより、清澄剤を使わなくてもガラス中に気泡が残留せず、また、着色剤を使用することなく美しい青色に発色する高品質の着色ガラスが製造できる
11	第 4359537 号 (2004-177562)	立体製織体、金属繊維立体製織体及びそれらの製造方法	2009. 8. 14 (2004. 6. 15)	樋口明久 吉野 学	立体製織体、金属繊維立体製織体の製造方法製織繊維の一部を屈曲させ立体製織体を得るための構造および製法の改良
12	第 4392719 号 (2004-036734)	母材表面の下地処理方法及びこの方法により下地処理された表面を持つ母材及び製品	2009. 10. 23 (2004. 2. 13)	片岡征二 基 昭夫 玉置賢次 ほか 3 名	プレス用金型や機械部品の摩擦面などにおける摩擦特性を改善し、DLC 膜を強固に密着させる加工方法
13	第 4394050 号 (2005-254626)	低摩擦性、耐摩耗性を向上させた金属板の製造方法	2009. 10. 23 (2005. 9. 2)	藤木 栄 ほか 1 名	金属板およびその製造方法に関して金属母材表面の低摩擦性、耐摩耗性を一層向上させた金属板
14	第 4568142 号 (2005-048669)	放電加工による素材の成形方法	2010. 8. 13 (2005. 2. 24)	山崎 実 鈴木岳美 國枝正典	放電加工法により任意の微細軸を高精度で成形する方法
15	第 4573174 号 (2005-226475)	放射線廃棄物の処理方法及びその焼結体	2010. 8. 27 (2005. 8. 4)	小山秀美 小林政行 ほか 1 名	低濃度放射線物質を含有する廃棄物の処分を行うにあたり、発生した排気物の減容化だけでなく安全性、安定性や取り扱いやすさを画期的に向上させる技術

番号	登録番号 (出願番号)	名 称	登録年月日 (出願日)	発明者	内 容
16	第 4599529 号 (2005-234849)	放射線照射判別方法および放射線照射判別システム	2010. 8. 11 (2005. 8. 12)	後藤典子 山崎正夫 ほか 3 名	食品や生薬に対する放射線照射の有無の判別を行うシステムと方法
17	第 4740439 号 (2000-008551)	塗装用ブラシ	2011. 5. 13 (2000. 1. 18)	木下稔夫 ほか 2 名	ブラシ本来の機能を失うことなく毛束部の含浸保水能力を著しく向上させ、従来不可能であった低粘度塗料の塗布を可能にしたブラシ
18	第 4764973 号 (2005-356870)	CRC 値の算出装置	2011. 6. 24 (2005. 12. 9)	坂巻佳壽美 乾 剛 高山匡正 ほか 4 名	誤り検出方式の一つである簡易なハードウェアにおいて実現できるシリアル伝送路における誤り検査等に広く用いられる回路規模の増大を極力抑え回路の高速化を実現
19	第 4776212 号 (2004-340549)	マルチ X 線の発生方法及びその装置	2011. 7. 8 (2004. 11. 25)	鈴木隆司	1 種類以上の金属元素から成るフィルターを用いて、X 線発生装置から出る連続 X 線を単色 X 線または 2 本以上のマルチ X 線にする方法および装置
20	第 4791746 号 (2005-094574)	無鉛硼珪酸塩ガラスフリット及びそのガラスペースト	2011. 7. 29 (2005. 3. 29)	田中 実 上部隆男 ほか 2 名	鉛加工物を用いずに、ほうけい酸塩系ガラス原料を利用して 580℃以下の温度でガラス基板等への焼付けができる実用的な低融点無鉛ガラスフリット
21	第 4827657 号 (2006-222746)	排ガス中のハロゲン化合物及び硫黄酸化物の分析方法と、排ガス中のハロゲン化合物及び硫黄酸化物の分析用前処理装置と、排ガス中のハロゲン化合物及び硫黄酸化物の分析用前処理キット	2011. 9. 22 (2006. 8. 17)	野々村 誠 栗田恵子	排ガス中のハロゲン化合物と硫黄酸化物を分析するための前処理装置と前処理キットを提供することにより、排ガス中のこれらの成分を簡便、迅速、安価に測定することができる
22	第 4828159 号 (2005-153290)	赤外線追尾装置	2011. 9. 22 (2005. 5. 26)	大畑敏美	パソコンや携帯電話に使われている赤外線通信技術を活用し、通信信号に新たに提案する振幅変調信号を付加することで、通信可能範囲や距離を感知し、信号発生方向に自動追尾する装置
23	第 4832785 号 (2005-114097)	表面改質された超高分子量ポリエチレン製成形品、およびその製造方法	2011. 9. 30 (2005. 5. 26)	谷口昌平	人工関節などに用いられる超高分子量ポリエチレンの低ポリエチレンの低摩擦化、耐磨耗性の向上を目的とする
24	第 4847931 号 (2007-211714)	揮発性有機物除去装置及び揮発性有機物検出方法	2011. 10. 21 (2007. 8. 15)	紋川 亮 石束真典 加澤エリト	ポリマーが VOC を吸収することで溶解し、その物性値が変化することを利用した VOC センサー等を組み込んだ揮発性有機物の除去装置およびその検出方法
25	第 4851432 号 (2007-320334)	揮発性有機物回収処理装置及びこれを有する揮発性有機物回収処理システム	2011. 10. 28 (2007. 12. 12)	紋川 亮	多孔質吸着剤が持つ VOC 吸着処理能力の高さと、揮発性有機物吸収材の持つ高い VOC 吸収能力を複合するという技術を用いた有用な揮発性有機物回収処理装置
26	第 4873617 号 (2006-093164)	低摩擦特性と耐剥離性を有する硬質膜の被覆部材	2011. 12. 2 (2006. 3. 30)	基 昭夫 後藤賢一 ほか 3 名	研磨した第一硬質膜の表面に DLC 膜をコーティングして第二硬質膜とし、表面を鏡面に研磨する硬質膜被覆工具および摺動材の製造方法
27	第 4920007 号 (2008-129932)	ガラス発泡体の製造方法、ガラス発泡体及びガラス発泡体の再生方法	2012. 2. 10 (2008. 5. 16)	中澤亮二 小山秀美	排水中のリン酸を回収し、リン酸肥料として再資源化するのに適した高いリン酸吸着能を有し、かつリン酸の再解離が容易なガラス発泡体の製造方法
28	第 4936349 号 (2005-161094)	金属内包カーボンナノカプセルの製造方法	2012. 3. 2 (2005. 6. 1)	基 昭夫 片岡征二 ほか 2 名	量産性に優れた金属内包カーボンカプセルの製造方法
29	第 4940464 号 (2005-271060)	ネットワーク機器試験装置	2012. 3. 9 (2005. 9. 16)	坂巻佳壽美 乾 剛 ほか 4 名	通信メディアチップを直接 FPGA の回路により制御することにより、高速な試験を行う。ハッシュ関数をパケットの一部検出に用いることで高速なフィルタリング試験を実現する
30	第 5019445 号 (2007-230736)	低摩擦摺動部材および低摩擦転動部材	2012. 6. 22 (2007. 9. 5)	基 昭夫 ほか 4 名	大気中、真空中、水中および潤滑剤中で低摩擦係数を有し、耐久性、耐荷重性に優れた摺動部材および転動部材
31	第 5022207 号 (2007-326851)	多層編地および多層編地の編成方法	2012. 6. 22 (2007. 12. 19)	飯田健一	5 層編地や 7 層編地など、3 層より多くの層を有する多層編地

2018(平成30)年度 年報

番号	登録番号 (出願番号)	名 称	登録年月日 (出願日)	発明者	内 容
32	第 5025209 号 (2006-262181)	絶縁層を形成するための無鉛 硼珪酸塩ガラスフリット及び そのガラスペースト	2012. 6. 29 (2006. 9. 27)	田中 実 上部隆男 ほか 3 名	絶縁層を形成するガラス組成物中に PbO を含まない絶縁層形成用のガラスフリット
33	第 5055617 号 (2007-139787)	分注装置	2012. 8. 10 (2007. 5. 25)	楊 振 ほか 3 名	従来の分注装置の高さを低くした、小型 の分注装置
34	第 5078002 号 (2007-124308)	ダイヤモンド膜被覆部材およ びその製造方法	2012. 9. 7 (2007. 5. 9)	玉置賢次 片岡征二 ほか 2 名	鉄基合金上に密着性よくダイヤモンド膜 が被覆されたダイヤモンド膜被覆部材お よびその製造方法
35	第 5083768 号 (2008-008191)	バイオセンサシステム	2012. 9. 14 (2008. 1. 17)	沢井正之 ほか 2 名	溶存酸素の影響を受けずに、NAD ⁺ また は NADP ⁺ を補酵素とする脱水素酵素の基 質を正確に定量することができ、安価に 製造することができ、かつ携帯性に優れ た、バイオセンサシステム
36	第 5105957 号 (2007-146932)	自動車燃料中の植物由来エタ ノール混合量の測定法	2012. 10. 12 (2007. 6. 1)	斎藤正明	植物由来のエタノールを含む炭化水素系 自動車燃料中のバイオエタノールの正確 で簡便な測定法
37	第 5107261 号 (2008-548357)	手術ナイフ、手術ナイフ用ブ レード及びその製造方法、並 びに手術ナイフ用ハンドル	2012. 10. 12 (2006. 12. 8)	加澤エリト ほか 1 名	単結晶シリコンの異方性エッチング技術 を用いて手術用ナイフを製造する技術
38	第 5107571 号 (2006-354819)	LED 制御方法	2012. 10. 12 (2006. 12. 28)	宮島良一 小林丈士 五十嵐美穂子	多数の多色 LED を均一に同時点灯可能な LED 制御回路
39	第 5116245 号 (2006-083377)	自動分析装置に用いる検量線 作成用化合物	2012. 10. 26 (2006. 3. 24)	上野博志 山本 真 石田直洋 金子真理奈 ほか 1 名	硫黄および主要なハロゲン (F、Cl、Br、 I) について同時に検量線を作成するこ とのできる新規な検量線作成用化合物
40	第 5135022 号 (2008-081958)	揮発性有機物分解菌用担持体 及び汚染土壌の浄化方法	2012. 11. 16 (2008. 3. 26)	紋川 亮	特定の高分子吸収材の持つ高い揮発性有 機物吸収能力を活用し、原位置処理で、 揮発性有機物を効率的に分解すること を可能とする揮発性有機物分解菌用担 持体、および、該揮発性有機物分解菌 担持体を利用した汚染土壌の浄化方法
41	第 5135341 号 (2009-520544)	燃料用電池用セパレータプレ ートの製造方法及びそれを利用 した燃料電池	2012. 11. 16 (2007. 6. 27)	伊東洋一 上野博志 ほか 1 名	燃料電池用セパレータプレートの製造方 法およびそれを利用した燃料電池。さら に詳しくは、低温駆動電源を必要とする 自動車用、家庭用、携帯電子機器等の固 体高分子型燃料電池用セパレータプレ ートの製造方法、前記製造方法によって得 られるセパレータプレート、および前記 セパレータプレートを用いた燃料電池
42	第 5137768 号 (2008-253593)	断面形態制御繊維およびその 製造方法	2012. 11. 22 (2008. 9. 30)	山本清志	減量加工用繊維、異形断面繊維、極細繊 維等の断面形態を制御されたポリエチ レンテレフタレート繊維およびその製造方 法
43	第 5140519 号 (2008-212839)	はんだの組成分析方法	2012. 11. 22 (2008. 8. 21)	林 英男 上本道久	鉛フリーはんだに含まれる全合金構成元 素と不純物元素とを同時に分析する方法
44	第 5147633 号 (2008-263687)	フッ素アパタイトの製造方法	2012. 12. 7 (2008. 10. 10)	渡辺洋人 仙名 保	高い活性の可視光応答型光触媒が得られ るように、ヒドロキシアパタイト粉体か らフッ素アパタイトを製造する
45	第 5175584 号 (2008-064141)	局所表面プラズモン共鳴イメ ージング装置	2013. 1. 11 (2008. 3. 13)	紋川 亮	金ナノパターン基板上で発生する局所表 面プラズモン共鳴 (LSPR) を利用して、 DNA およびタンパク質などの多検体試料 を基板上に配置し、蛍光などのタンパク 質標識を行うことなく検出する LSPR イ メージング装置
46	第 5177472 号 (2006-274408)	カット面を着色したダイヤモ ンド粒子の製造方法、および カット面に文様を描画したダ イヤモンド粒子の製造方法	2013. 1. 18 (2006. 10. 5)	谷口昌平 ほか 1 名	低価格の天然ダイヤモンドを着色する方 法であり、短時間に処理でき、照射後の 熱処理を必要としないカラーダイヤモンド 製造方法
47	第 5183301 号 (2008-139659)	成型型およびその製造方法	2013. 1. 25 (2008. 5. 28)	寺西義一 ほか 3 名	ガラス状炭素部材を用いた、離型性が高 く、しかも凹凸部のアスペクト比が大き い場合に適した成型型およびその製造方 法

番号	登録番号 (出願番号)	名 称	登録年月日 (出願日)	発明者	内 容
48	第 5183328 号 (2008-174673)	編成体及びその製造方法	2013. 1. 25 (2008. 7. 3)	樋口明久	無機繊維と収縮繊維との交差糸から編成されたものを用い、収縮繊維を収縮させたことにより無機繊維が不規則に変形した状態で編成されていることを特徴とする編成体
49	第 5203603 号 (2006-355457)	親水性熱可塑性共重合体	2013. 3. 5 (2006. 12. 28)	清水研一 篠田 勉 上野博志	芳香族ビニルジエン共重合体の二重結合部分のみにカルボキシル基を付加して、親水性の高分子材料を得る方法
50	第 5207669 号 (2007-165339)	再生繊維製造方法	2013. 3. 1 (2007. 6. 22)	樋口明久 ほか 2 名	塩ビ系壁紙を粉砕処理した後に得られる塩ビ樹脂粉体とパルプ繊維の混合物を液体中で攪拌や分離、濾過を行い良質なパルプ繊維を回収する装置およびその製造方法
51	第 5214290 号 (2008-071504)	食品用 X 線異物検査装置およびその方法	2013. 3. 8 (2008. 3. 19)	大平倫宏 周 洪鈞 ほか 2 名	ベルトコンベア上を流れる食品パックに X 線を透過し、異物の判定を行う装置で、従来では検出困難であった微小な樹脂やガラスなどの異物を検出する装置および方法
52	第 5231294 号 (2009-055710)	揮発性有機化合物吸着材とその製造方法	2013. 3. 29 (2009. 3. 9)	瓦田研介 井上 潤	廃木材を原料とするバイオエタノール製造で排出されるリグニン残渣を VOC 吸着材に転換する技術
53	第 5242289 号 (2008-207817)	揮発性有機物吸収材及びその製造方法	2013. 4. 12 (2007. 8. 15)	紋川 亮 田村和男	取り扱いが簡便で、VOC の吸収能が高く、さらに活性炭やメソポーラスシリカ等といった従来の VOC 吸着材よりも VOC の吸収能が極めて高い吸着材であるため、吸着材の交換や再生を頻繁に行う必要のない揮発性有機物吸収材およびその製造方法
54	第 5243222 号 (2008-322621)	粉体分離装置、粉体分離システム、及び粉体分離方法	2013. 4. 12 (2008. 12. 18)	樋口明久 ほか 8 名	異種の粉体の混合物を好適に分離可能な粉体分離装置、粉体分離方法、および、これを用いた粉体分離システム
55	第 5261690 号 (2008-131617)	高強度ダイヤモンド膜工具	2013. 5. 10 (2008. 5. 20)	横澤 毅 玉置賢次 寺西義一 片岡征二 ほか 2 名	気相法でダイヤモンド膜を合成する際に、合成雰囲気中にボロンを含むガスを積極的に導入することでポロンドープダイヤモンド膜を有する高強度ダイヤモンド膜工具
56	第 5268050 号 (2008-010369)	カーボンナノチューブ含有樹脂組成物、硬化物、成形体及びカーボンナノチューブ含有樹脂組成物の製造方法	2013. 5. 17 (2008. 1. 21)	柳 捷凡 ほか 2 名	機械強度（曲げ強度、曲げ弾性率）や導電性（特に均一性）に優れたカーボンナノチューブ含有樹脂組成物、硬化物、成形体およびカーボンナノチューブ含有樹脂組成物の製造方法
57	第 5281926 号 (2009-046676)	揮発性有機化合物吸着剤とその製造方法、並びに樹皮又はその成型体の利用方法	2013. 5. 31 (2008. 2. 28)	瓦田研介 井上 潤	樹皮またはその成型体を有効利用できる、揮発性有機化合物吸着材とその製造方法、ならびに樹皮またはその成型体の利用方法
58	第 5301140 号 (2007-286805)	ガラス状炭素材からなる微細成形型材料とその製造方法ならびにこれを用いた微細成形型	2013. 6. 28 (2007. 11. 2)	寺西義一 ほか 1 名	凹凸部の寸法を数 nm～数百 μm 程度とする微細な成形が行われた微細成形型の材料とその製造方法ならびにこれを用いた微細成形型
59	第 5302860 号 (2009-266467)	家畜骨残渣の処理方法	2013. 6. 28 (2009. 11. 24)	柳 捷凡	食肉と骨とを含む家畜骨材料からエキスを抽出した後の家畜骨残渣の処理方法
60	第 5308608 号 (2001-024519)	締結体締め付け力安定化剤、これを用いた締結力安定化法、安定化剤を付着した締結体構成部品	2013. 7. 5 (2000. 11. 27)	大久保一宏 石田直洋 ほか 2 名	締結体の締め付け力を安定化することができる安定化剤、およびこれを用いた締結体の締め付け力安定化方法、さらに、同安定化剤をあらかじめ付着させてなる締結体を構成する部品
61	第 5309354 号 (2006-052500)	高速パターンマッチング装置の探索方法	2013. 7. 12 (2006. 2. 28)	坂巻佳壽美 乾 剛 高山匡正 ほか 4 名	バイナリデータのパターンマッチングを高速に行う高速パターンマッチング装置の探索方法
62	第 5350866 号 (2009-096262)	皮革または革製品	2013. 8. 30 (2009. 4. 10)	飯田孝彦 瓦田研介 小沼ルミ 宮崎 巖 中村 宏	皮革および革製品の表面に付着した主に環境由来のかび孢子の発芽を抑制し、かびの発生を防止もしくは低減化できる皮革または革製品

2018(平成30)年度 年報

番号	登録番号 (出願番号)	名 称	登録年月日 (出願日)	発明者	内 容
63	第 5367341 号 (2008-283986)	アルミニウム合金鋳物およびアルミニウム合金鋳物の製造方法	2013. 9. 20 (2008. 11. 5)	渡部友太郎	Al-Si (Al-Si-Mg)系合金と Al-Mg 系合金を複合化したアルミニウム合金鋳物およびこの製造方法
64	第 5376669 号 (2010-070763)	金属部材のプレス加工方法およびプレス加工用金型	2013. 10. 4 (2010. 3. 25)	小金井誠司 ほか 6 名	ふっ素樹脂膜を潤滑皮膜としていても、プレス加工が繰り返し行えるように金型の耐久性を高めるとともに、チタン部材やマグネシウム合金部材といった難加工金属部材について、ドライ加工を行えるようにすることができるプレス加工方法等
65	第 5378024 号 (2009-075049)	揮発性有機物吸収材	2013. 10. 4 (2009. 3. 25)	紋川 亮 藤井 恭子	揮発性有機物の吸収能 (吸収量および吸収速度) が高く、また、熱処理により脱着が簡単にできるため吸収した揮発性有機物の処理が容易な揮発性有機物吸収材
66	第 5382638 号 (2008-014005)	マグネシウム合金部材の成形方法およびその成形用金型	2013. 10. 11 (2008. 1. 24)	基 昭夫 ほか 4 名	絞り、曲げ成形等のプレス加工によるマグネシウム合金部材の成形方法およびその成形用金型
67	第 5388304 号 (2010-074034)	掲示板のための照明装置	2013. 10. 18 (2010. 3. 29)	中村広隆 榎本博司 三上和正 長谷川 孝 西澤裕輔 ほか 3 名	掲示板のための照明装置、より詳細には掲示板に掲げられた情報 (掲示情報) についての視認性の改善に寄与する照明装置
68	第 5394132 号 (2009-134259)	揮発性有機化合物の浄化装置及びその浄化方法	2013. 10. 25 (2009. 6. 3)	紋川 亮 ほか 1 名	小型で設置が容易な、揮発性有機化合物に汚染された大気、土壌からその汚染化合物を吸着剤で除去して光触媒で分解する揮発性有機化合物の浄化装置、およびその浄化方法
69	第 5399034 号 (2008-246074)	微細成型型および微細成型型用基材並びに微細成型型の製造方法	2013. 11. 1 (2007. 9. 28)	寺西義一 三尾 淳 石束昌典	コート材や潤滑材を塗布することなく離型性を高めた微細成型型および微細成型型用基材ならびに微細成型型の製造方法
70	第 5404465 号 (2010-031649)	ポリアニリン半導体材料	2013. 11. 8 (2010. 2. 16)	中川清子 谷口昌平 山崎正夫	化学的操作では必要であった廃液の処理などが不要なポリアニリン半導体材料
71	第 5413939 号 (2007-198213)	タンパク質自動合成精製方法及び装置	2013. 11. 22 (2007. 7. 30)	楊 振 佐々木智典	ディスク内に微細流路および反応室等を形成して内部でタンパク質を自動合成し、精製したタンパク質を供給可能とするディスクを用いたタンパク質自動合成精製装置
72	第 5414719 号 (2011-052181)	揮発性有機化合物分解用無機酸化物成形触媒とその製造方法	2013. 11. 22 (2010. 3. 31)	染川正一 ほか 1 名	強度が強く保たれるとともに高い触媒活性が保持され、安価で簡便な押し出し成形法、低温での焼成が可能な無機酸化物成形触媒等
73	第 5422320 号 (2009-218022)	揮発性有機化合物分解用触媒と揮発性有機化合物の分解方法	2013. 11. 29 (2008. 9. 22)	染川正一 石川麻子 ほか 1 名	VOC 分解用触媒として用いられている貴金属担持触媒よりも材料コストを抑え、より低い温度で VOC を分解することができる触媒等
74	第 5425689 号 (2010-081190)	ネズミ誘引方法および装置、並びにネズミ捕獲装置	2013. 12. 6 (2010. 3. 31)	神田浩一 坂巻佳壽美 大原 衛 金田泰昌 加藤光吉 ほか 4 名	複数の音節からなるユニットが複数回繰り返される周波数特性を有する超音波を用いることによって、優れた誘引効果を得ることができ、ネズミを効率よく捕獲することができるネズミ誘引方法等
75	第 5435911 号 (2008-218293)	除放性製剤とその製造方法	2013. 12. 20 (2008. 8. 27)	飯田孝彦 瓦田研介 小沼ルミ 宮崎 巖	短時間で気化しやすい常温揮発性薬剤成分を緩やかに放出することができ、廃棄物量が少なく、薬剤成分の効果の消失を容易に判別することができ、人体への安全性も高い徐放性製剤とその製造方法
76	第 5438287 号 (2008-143107)	難溶性アミノ酸類含有混合組成物及びその製造方法、並びに皮膚外用剤	2013. 12. 20 (2008. 5. 30)	柳 捷凡 ほか 3 名	難溶性アミノ酸類微細粒子およびその製造方法に関わり、さらに皮膚外用剤
77	第 5439155 号 (2009-286011)	歯間清掃具及びその製造方法	2013. 12. 20 (2009. 12. 17)	許 琛 樋口明久	歯の表面に付着している歯垢等の汚れを除去するための歯間清掃具およびその製造方法
78	第 5441485 号 (2009-106510)	揮発性有機物処理装置及び揮発性有機物処理方法	2013. 12. 27 (2009. 4. 24)	紋川 亮	VOC の触媒分解処理を静的環境で行うことができ、触媒活性の低下が抑制される揮発性有機物処理装置および VOC 処理方法

番号	登録番号 (出願番号)	名 称	登録年月日 (出願日)	発明者	内 容
79	第 5448549 号 (2009-106520)	光イオン化検出器及び光イオン化検出方法	2014. 1. 10 (2009. 4. 24)	平野康之 加澤エリト 吉田裕道 原本欽郎	金属電極に交流電圧または交流電流を印加することで、汚染物質の存在下でもVOC 濃度の測定が可能な光イオン化検出器等
80	第 5460113 号 (2009-105359)	局在表面プラズモン共鳴測定基板及び局在表面プラズモン共鳴センサ	2014. 1. 24 (2009. 4. 23)	紋川 亮 加澤エリト	VOC 等の検出対象物を捕捉するために多孔質吸着材を備えているため、表面へのガス分子吸着による物性変化が大きく、極めて高感度なガス検出が可能な、局在表面プラズモン共鳴現象を利用した化学センサ
81	第 5479826 号 (2009-204833)	ガス浄化装置、プラズマ生成用電極、及びガス浄化装置	2014. 2. 21 (2009. 9. 24)	三尾 淳 ほか 2 名	低コストかつ短時間でガスの分解および処理を実現可能とする新規な構成のガス浄化装置およびガス浄化方法、ならびにこれに使用するプラズマ電極
82	第 5486790 号 (2008-263686)	多孔質アパタイトおよびその製造方法	2014. 2. 28 (2008. 10. 10)	渡辺洋人 仙名 保	天然骨等の廃棄物を原料とした、大きな比表面積のアパタイト微粒子を有する多孔質アパタイトであり、吸着剤として用いることが可能
83	第 5511523 号 (2010-129014)	二脚型移動装置	2014. 4. 4 (2010. 6. 4)	坂下和広	人間が暮らす住環境に存在する障害物をスムーズに跨ぎ越すことのできる二脚型移動装置
84	第 5548144 号 (2011-016517)	表示装置	2014. 5. 23 (2011. 1. 28)	豊島克久	液晶ディスプレイに比べ目の疲労が少なく、製造コストを抑えることができるという優れた効果を有する表示装置
85	第 5560065 号 (2010-047994)	防護服	2014. 6. 13 (2010. 3. 4)	加藤貴司	フード部を有する上衣とズボンとが一体に形成されたツナギ型の防護服であり、脇下近辺に開閉部があるため、脱衣しやすく、製造が容易で十分な防護性を確保できる
86	第 5560066 号 (2010-047997)	防護服	2014. 6. 13 (2010. 3. 4)	加藤貴司	フード部を有する上衣とズボンとが一体に形成されたツナギ型の防護服であり、前面に開閉部があるため脱衣しやすく、迅速に脱衣が可能
87	第 5564680 号 (2009-170391)	ガラス発泡体、ガラス発泡体を含むリン酸吸着剤、ガラス発泡体を含む植物育成用培地及びガラス発泡体の製造方法	2014. 6. 27 (2009. 7. 21)	中澤亮二 小山秀美	排水中のリン酸を回収するのに適した高いリン酸吸着能を有し、かつ排水処理に使用後のガラス発泡体の植物栽培への利用を容易にするため、植物に利用可能な水を保持できるガラス発泡体
88	第 5572459 号 (2010-152637)	4 種のハロゲン及び硫黄分析用の標準物質及びその製造方法	2014. 7. 4 (2010. 7. 5)	上野博志 菊池有加 峯 英一	試料中の微量な 4 種類のハロゲン（フッ素、塩素、臭素、ヨウ素）および硫黄の有機元素を、迅速に高精度で自動定量分析する際の検量線を作成する、4 種のハロゲンおよび硫黄分析用の標準物質およびその製造方法
89	第 5579644 号 (2011-059966)	赤色ガラス	2014. 7. 18 (2011. 3. 18)	大久保一宏 増田優子 上部隆男 ほか 2 名	有害元素であるカドミウムを着色剤として使用せずに、カドミウム含有の赤色ガラスと同じ赤い色を示すソーダ石灰の赤色ガラス
90	第 5604094 号 (2009-286822)	防かび剤組成物、およびそれを利用した木材および木製品	2014. 8. 29 (2009. 12. 17)	小沼ルミ 宮崎 巖 飯田孝彦 濱野智子 瓦田研介 ほか 1 名	木材および木製品にも適した防かび剤組成物、およびそれを使用した防かび加工方法、木材および木製品等
91	第 5632597 号 (2009-200679)	弦楽器、弦楽器の製造方法及び弦楽器製造装置	2014. 10. 17 (2008. 9. 2)	横山幸雄	積層造形法を活用した弦楽器、弦楽器の製造方法および弦楽器製造装置
92	第 5647669 号 (2012-503249)	多孔質シリカの製造方法	2014. 11. 14 (2011. 3. 3)	渡辺洋人 ほか 2 名	種々の形状に成型容易であり、透明性に優れ、ナノ粒子化が可能であり、かつ炭素数が 7 以下のカチオン性界面活性剤を使用しても高効率で得ることができる多孔質シリカの製造方法
93	第 5647836 号 (2010-198628)	導電紙及びその製造方法	2014. 11. 14 (2010. 9. 6)	上野武司 竹村昌太 島田勝広	無電解金属めっきにより金属で被覆された木材パルプを含む導電紙およびその製造方法

2018(平成30)年度 年報

番号	登録番号 (出願番号)	名 称	登録年月日 (出願日)	発明者	内 容
94	第 5650916 号 (2010-047999)	防護服	2014. 11. 21 (2010. 3. 4)	加藤貴司	フード部を有する上衣とズボンとが一体に形成されたツナギ型の防護服であり、一端の袖部から頭部近辺を跨ぎ、他端の袖部にかけて開閉部があるため、防護服の脱衣が容易で、短時間で迅速に脱衣できる
95	第 5660831 号 (2010-219707)	アルミニウム合金の材質判定方法	2014. 12. 12 (2010. 9. 29)	竹澤 勉 上本道久 伊藤 清	アルミニウム合金のリサイクルにおいてアルミニウム合金のグループ分けを行う場合に適用して好適なアルミニウム合金の材質判定方法
96	第 5660918 号 (2011-026993)	情報処理装置、コンピュータプログラム、および情報処理方法	2014. 12. 12 (2011. 2. 10)	大平倫宏	三次元図形を構成する複数の頂点に対応する複数の頂点データを有する三次元図形データに対する電子透かしなどの付加情報の埋め込みにおいて、データの改ざんが検出されやすくなるようにする情報処理装置、コンピュータプログラム、および情報処理方法
97	第 5667431 号 (2010-287832)	三次元座標測定機簡易検査用ゲージ	2014. 12. 19 (2010. 12. 24)	中西正一 西村信司 中村弘史	三次元座標測定機の寸法検査を短時間に簡便に行うことができ、マルチスタイラスの検査も実施可能な三次元座標測定機簡易検査用ゲージ
98	第 5690244 号 (2011-179367)	はんだの組成分析方法	2015. 2. 6 (2011. 8. 19)	林 英男	鉛フリーはんだに含まれる各種元素を分析する方法
99	第 5697309 号 (2009-053490)	局在プラズモン共鳴センサの製造方法	2015. 2. 20 (2009. 3. 6)	加澤エリト 紋川 亮	局在表面プラズモン共鳴現象を応用した化学センサの性能向上に関し、センサ性能低下の要因となっていた導電・密着層を熱処理により誘電体化することが特徴
100	第 5697852 号 (2009-073154)	揮発性有機物回収システム	2015. 2. 20 (2009. 3. 25)	紋川 亮	VOC を効率的に液化して回収することができる揮発性有機物回収システム
101	第 5698034 号 (2011-045449)	加熱補助器具及び加熱装置並びに化学的酸素消費量の測定方法及び加熱方法	2015. 2. 20 (2011. 3. 2)	荒川 豊	マイクロ波によって複数の試料を簡易かつ迅速に加熱することができるとともに、試料間の加熱むらを小さくすることができる加熱補助器具、加熱装置および加熱方法、ならびに、複数の試料水について簡易かつ迅速に加熱することができるとともに、試料間の測定精度のばらつきを小さくすることができる化学的酸素消費量の測定方法
102	第 5706069 号 (2009-024032)	ダイヤモンド研磨装置及びダイヤモンド研磨方法	2015. 3. 6 (2009. 2. 4)	横澤 毅 片岡征二 ほか1名	被研磨物にコーティングされたダイヤモンドを研磨する装置および方法
103	第 5711927 号 (2010-222197)	固体酸化物型燃料電池	2015. 3. 13 (2010. 9. 3)	樋口明久 ほか7名	MEA セルとセパレータの間に集電材が設けられる平板型の固体酸化物型燃料電池、および MEA セルの空気極と燃料極の内周面または外周面に集電材が設けられる円筒型の固体酸化物型燃料電池
104	第 5717491 号 (2011-065307)	揮発性有機化合物用の担体触媒及びその製造方法	2015. 3. 27 (2011. 3. 24)	染川正一 小島正行 藤井恭子 萩原利哉 堂免一成	VOC 用の触媒層を担体に担持するにあたって、触媒担持量を増やしても比表面積を大きくでき、かつ触媒層が担体から剥離しにくいので、触媒性能のアップを図ることができるとともに触媒燃焼法の装置設計がしやすくなる
105	第 5722736 号 (2011-202620)	流路形成用ガラス組成物、その組成物で形成される微細流路を備える石英ガラスマイクロリアクター及びその流路形成方法	2015. 4. 3 (2010. 9. 17)	田中 実 伊東洋一 上部隆男 ほか3名	一对の石英ガラス基板の両板の対向面に、スクリーン印刷法でガラスペーストを印刷して焼成により該両板間に微細流路を形成する流路形成用ガラス組成物、その組成物で形成される微細流路を備える石英ガラスマイクロリアクター、およびその石英ガラスマイクロリアクターの流路形成方法
106	第 5734589 号 (2010-162015)	水道用ゴムパッキン	2015. 4. 24 (2010. 7. 16)	清水研一 飛澤泰樹 ほか2名	バルブ、フランジ、その他各種の継手に使用する水密性に優れた水道用ゴムパッキン
107	第 5739125 号 (2010-201507)	人工骨部材	2015. 5. 1 (2009. 9. 10)	寺西義一 ほか1名	自家骨との接合強度を高くして自家骨との強固な接合を発現維持させて、しかも汎用性の高い人工骨部材

番号	登録番号 (出願番号)	名 称	登録年月日 (出願日)	発明者	内 容
108	第 5753568 号 (2013-240142)	局在プラズモン共鳴センサ及びその製造方法	2015. 5. 29 (2009. 3. 6)	加澤エリト 紋川 亮	金属微細構造を持つ局在プラズモン共鳴センサの製造方法であって、誘電体基板と金属微細構造の間に設けた導電層または密着層を誘電体化する、局在プラズモン共鳴センサ製造方法
109	第 5762151 号 (2011-126795)	数値データの圧縮システム及び方法	2015. 6. 19 (2011. 6. 6)	大原 衛 山口隆志	主にコンピューターによる科学技術計算や表計算のソフトウェアで一般的に採用されている浮動小数点形式の数値データの処理に関し、連続して入力される数値入力データを効率的に圧縮および伸長するためのシステム、方法およびその装置
110	第 5767076 号 (2011-227936)	熱型加速度センサー	2015. 6. 26 (2011. 10. 17)	豊島克久	加速度センサーに関し、三軸方向の加速度を同時に測定可能な熱型加速度センサー
111	第 5775326 号 (2011-041203)	LED 点灯回路	2015. 7. 10 (2011. 2. 28)	小林丈士 染谷克明 寺井幸雄	照明器具、照明装置関連技術分野における省エネルギー型で、比較的大きな動作電流を持つ LED (発光ダイオード) の点灯回路
112	第 5779038 号 (2011-175078)	揮発性有機物検出器及び揮発性有機物検出方法	2015. 7. 17 (2011. 8. 10)	平野康之 原本欽朗 吉田裕道	被測定対象に含まれる VOC を検出する VOC 検出器および VOC 検出方法、特に、VOC をイオン化させ、拡散定数の大きさを判別することで、被測定対象に含まれる VOC の種別を特定することが可能な VOC 検出器および VOC 検出方法
113	第 5780640 号 (2011-146285)	燃料電池、その駆動システム及び燃料電池組み立てキット	2015. 7. 24 (2011. 6. 30)	峯 英一 菊池有加 小野澤明良 上野博志 ほか 1 名	必要な部品数を少なくして組み立ておよび分解を容易にするとともに、良好な出力電圧を有する燃料電池、その駆動システムおよび燃料電池組み立てキット
114	第 5803003 号 (2011-150689)	熱フィラメント CVD 装置及び成膜方法	2015. 9. 11 (2011. 7. 7)	長坂浩志	基材の表面にダイヤモンド薄膜などの薄膜を形成するための熱フィラメント CVD 装置およびその装置を用いて薄膜を形成するための成膜方法
115	第 5812828 (2011-262112)	管内壁の研掃方法、管内壁の研掃方法に用いる偏向部材および管内壁研掃システム	2015. 10. 2 (2011. 11. 30)	小野澤明良 木下稔夫 ほか 1 名	鏽面 (付着物が付着した管内壁) への研削材の衝突エネルギーを高め、鏽除去のプラスト力とその効率をさらに向上させるとともに、円錐形部材の円錐面の摩耗を少なくすることができる。したがって、偏向部材を長時間使用可能であること、研掃効率がよいため同じ範囲をより短い時間で研掃できることから、大変経済性の高い偏向手段
116	第 5818619 号 (2011-220890)	スラリー状触媒液の付着装置	2015. 10. 9 (2011. 10. 5)	小島正行 藤井恭子 染川正一 萩原利哉	有害ガスを浄化するためのハニカム構造の触媒担持担体の製造において、担体にスラリー状触媒液を遠心力を利用して均一に付着させる技術
117	第 5827735 号 (2014-198975)	多孔質シリカの製造方法	2015. 10. 23 (2010. 3. 4)	渡辺洋人 ほか 2 名	種々の形状に成型容易であり、透明性に優れ、ナノ粒子化が可能である多孔質シリカを、炭素数が 7 以下のカチオン性界面活性剤を使用しても高効率で得ることができる多孔質シリカの製造方法
118	第 5840054 号 (2012-74775)	複合材料、培養容器及び細胞培養器用仕切り部材	2015. 11. 20 (2012. 3. 28)	大藪淑美 柚木俊二	細胞を通過させずに培養液成分などの物質を通過可能であるとともに、細胞の観察に適した透明性を有するコラーゲンゲル膜およびこれを用いた培養容器
119	第 5861177 号 (2011-228859)	有機溶剤の脱着方法および有機溶剤の脱着装置	2016. 1. 8 (2011. 10. 18)	杉森博和 ほか 3 名	活性炭やゼオライト等の吸着剤に吸着された有機溶剤を脱着して回収するための有機溶剤の脱着方法および有機溶剤の脱着装置
120	第 5861231 号 (2011-138440)	絹繊維品のプリーツ加工方法及び絹繊維品のプリーツ加工品	2016. 1. 8 (2011. 6. 22)	武田浩司 木村千明 小林研吾	絹繊維品のプリーツ加工に非常に有効であり、絹繊維品本来の特性を損なうことなく、プリーツの保持性にも優れるという効果を有する、プリーツ加工方法

2018(平成30)年度 年報

番号	登録番号 (出願番号)	名 称	登録年月日 (出願日)	発明者	内 容
121	第 5875761 号 (2010-280036)	コラーゲン線維ゲルおよびその用途	2016. 1. 29 (2010. 12. 16)	柚木俊二 ほか 2 名	コラーゲン線維を架橋してなり、接着・増殖した細胞の牽引力によって収縮しない硬さを持つコラーゲン線維ゲル、およびそのコラーゲン線維ゲルを用いた動物移植用培養基材
122	第 5876311 号 (2012-15800)	吸音率測定装置、吸音率測定方法および吸音率測定プログラム	2016. 1. 29 (2012. 1. 27)	西沢啓子 神田浩一 渡辺茂幸	試料の吸音率を測定する吸音率測定装置、吸音率測定方法および吸音率測定プログラム
123	第 5878294 号 (2011-2763)	チタン部材の曲げ加工方法および曲げ加工具	2016. 2. 5 (2011. 1. 11)	小金井誠司 ほか 4 名	チタン部材の曲げ加工方法および曲げ加工具において、チタン部材について、潤滑油を用いることなくドライ環境下での曲げ加工が行えるとともに、ふっ素樹脂膜を潤滑皮膜としても、曲げ加工が繰り返し行えるように、曲げ加工具の耐久性を高めることができる、加工方法と加工具
124	第 5883287 号 (2011-276326)	防護帽、防護帽の使用法、防護服及び防護装置	2016. 2. 12 (2011. 12. 16)	服部 遊 神田浩一 西沢啓子 渡辺茂幸 ほか 2 名	気体の供給によるフード部内の騒音を低減できるので、防護帽の装着者と他人との間で会話を適切に行うことができ、意思疎通を適切に図ることができる防護帽
125	第 5892485 号 (2011-282885)	降水降下物などの自動蒸発濃縮器	2016. 3. 4 (2011. 12. 26)	斎藤正明	簡素な構造によって、安全で大量の降水降下物の蒸発濃縮が行える降水降下物放射能測定などの試料水の自動蒸発濃縮器
126	第 5901156 号 (2011-144300)	無機有機複合粒子及びその製造方法	2016. 3. 18 (2011. 6. 29)	柳 捷凡	水難溶解性有機化合物を無機多孔質の細孔内に含有し、種々の分野で利用することができるナノレベルサイズの無機有機複合粒子およびその製造方法
127	第 5917139 号 (2011-287408)	ダイヤモンド膜の研磨方法および装置	2016. 4. 15 (2011. 12. 28)	藤巻研吾 横澤 毅	ダイヤモンド膜表面の平滑化による発熱量の低下を伴う研磨速度の減速を抑制できるダイヤモンド膜の研磨方法および装置
128	第 5917108 号 (2011-260878)	電解セル	2016. 4. 15 (2011. 11. 29)	斎藤正明	電解膜を用いて水を電気分解する電解セル、例えば重水、トリチウム水等の試料水中の純水を固体高分子電解質 (Solid Polymer Electrolyte) から成る電解膜を用いて電解し減容して該試料水を濃縮する電解セル
129	第 5989334 号 (2011-283724)	造粒体、造粒体の製造方法、水質浄化装置、リン酸肥料、及び、土壌改良資材	2016. 8. 19 (2011. 12. 26)	中澤亮二 佐々木直里 小山秀美 平井和彦	リン酸の吸着性に優れた造粒体、前記造粒体の製造方法、リン酸の吸着性に優れた水質浄化装置に関し、また、前記造粒体を用いたリン酸肥料および土壌改良資材
130	第 6029149 号 (2014-126615)	編針の製造方法	2016. 10. 28 (2008. 6. 3)	堀江 暁 森河和雄 川口雅弘 三尾 淳	金属糸などの難編成糸を編成可能とし、また、編成時に編針に発生するキズやさびを防止するために DLC 膜を施した編針の製造方法
131	第 6004528 号 (2012-186879)	多孔質シリカ内包粒子の製造方法および多孔質シリカ、多孔質シリカ内包粒子	2016. 9. 16 (2011. 8. 27)	渡辺洋人 ほか 2 名	多孔質シリカ内包粒子の製造方法および多孔質シリカ、多孔質シリカ内包粒子
132	第 6017431 号 (2013-533461)	イオン化ガス検出器及びイオン化ガス検出方法	2016. 10. 7 (2011. 9. 15)	平野康之 原本欽朗 吉田裕道	イオン化された被測定対象ガスを検出するイオン化ガス検出器およびイオン化ガス検出方法
133	第 6017175 号 (2012-103787)	尾てい骨保護下着	2016. 10. 7 (2012. 4. 27)	藤田薫子 ほか 1 名	尾てい骨を保護して、長時間の着用および着座が快適となる尾てい骨保護下着
134	第 6045273 号 (2012-214096)	リング撚糸機、撚糸製造方法、織物製造方法、撚糸、織物および押圧スイッチ	2016. 11. 25 (2012. 9. 27)	窪寺健吾 山本悦子 樋口英一 樋口明久	金属繊維と化学繊維等を撚り合わせてなる撚糸における金属繊維の張力の適切化を図ることができ、さらに金属繊維の張力が適切化された撚糸、そのような撚糸を製織してなる織物、そのような織物を使用した押圧スイッチ
135	第 6052958 号 (2012-151440)	相溶化剤、その相溶化剤により相溶されてなる複合体、相溶化剤の製造方法及びその相溶化剤により相溶されてなる複合体の製造方法	2016. 12. 9 (2011. 7. 6)	梶山哲人 清水研一 林 孝星 安田 健	脂肪族ポリエステルと天然繊維とを相溶せしめる際に用いる相溶化剤およびその相溶化剤により相溶されてなる複合体、そして、相溶化剤の製造方法さらに、その相溶化剤により相溶されてなる複合体の製造方法

番号	登録番号 (出願番号)	名 称	登録年月日 (出願日)	発明者	内 容
136	第 6059957 号 (2012-241704)	鳥獣識別装置、鳥獣識別方法、及びプログラム	2016. 12. 16 (2012. 11. 1)	大平倫宏 富山真一	特定の空間領域に存在する鳥獣のうち羽ばたいている状態の鳥獣を識別することができる鳥獣識別装置等
137	第 6057569 号 (2012-150881)	冷却シート	2016. 12. 16 (2012. 7. 4)	飛澤泰樹 清水研一 ほか 1 名	冷却シートに関するもので、物体を省エネルギー的に冷却する冷却シート
138	第 6061483 号 (2012-068325)	冷却シート及びネッククーラー	2016. 12. 22 (2011. 3. 23)	清水研一 飛澤泰樹 ほか 1 名	冷却シートおよびネッククーラーに関するもので、物体を省エネルギー的に冷却する冷却基材、冷却シートおよびネッククーラー
139	第 6066600 号 (2012-154100)	人体模型、衣服圧測定装置および衣服圧測定方法	2017. 1. 6 (2011. 7. 7)	菅谷紘子 岩崎謙次	人体模型、衣服圧測定装置および衣服圧測定方法に関し、特に、衣服圧測定用の人体模型、当該人体模型を用いた衣服圧測定装置および衣服圧測定方法
140	第 6071468 号 (2012-256802)	コラーゲン水溶液及びそれから得られるゲル	2017. 1. 13 (2012. 11. 22)	柚木俊二 大藪淑美 畑山博哉	室温での流動性を長い時間保持でき、かつ、生体温度で速やかにゲル化することが可能なコラーゲン水溶液と、そのゲル
141	第 6080762 号 (2013-531434)	成形体の製造方法	2017. 1. 27 (2011. 8. 31)	木下稔夫 村井まどか 神谷嘉美 清水研一 ほか 2 名	漆、植物繊維といった天然資源のみから形成される成形用材料であっても、外観により一層優れた成形体を製造することができる製造方法
142	第 6081156 号 (2012-251622)	ハイドロゲル	2017. 1. 27 (2012. 11. 15)	柚木俊二 大藪淑美 関口正之 ほか 1 名	持続的な抗菌作用を有し、かつ正常組織への刺激が少なく、生体適合性の高いハイドロゲル
143	第 6081781 号 (2012-255357)	高融点ゼラチン組成物、その製造方法、およびその用途	2017. 1. 27 (2012. 11. 21)	大藪淑美 柚木俊二 畑山博哉	一般的な細胞育成の温度条件においてゲル状態を維持することができる高融点ゼラチンと、その製造方法等
144	第 6108272 号 (2013-193718)	プラスチックのバイオマス由来判別方法	2017. 3. 17 (2013. 9. 19)	永川栄泰 柚木俊二 斎藤正明	固体プラスチックに含まれる放射性炭素(¹⁴ C)を、LSC法を用いて固体のまま測定するプラスチックのバイオマス由来判別方法
145	第 6122706 号 (2013-125803)	配光測定装置および配光測定方法	2017. 4. 7 (2013. 6. 14)	横田浩之	面発光体の配光分布の測定を精度よく行うことを可能にしつつ、装置の大型化を回避可能にする配光測定装置等
146	第 6129078 号 (2013-540845)	制御システム	2017. 4. 21 (2011. 10. 28)	佐藤 研 佐野宏靖 ほか 1 名	制御器と負荷とが電力線を介して接続された制御システム
147	第 6140607 号 (2013-531433)	成形用材料及びその製造方法並びに該成形用材料を用いた圧縮成形体	2017. 5. 12 (2011. 8. 31)	木下稔夫 神谷嘉美 上野博志 瓦田研介 ほか 2 名	漆、植物繊維といった天然資源（バイオマス）を主原料とした成形用材料に関し、また、この成形用材料から得られる圧縮成形体、圧縮成形体
148	第 6140608 号 (2013-531435)	成形用材料と、これを用いた成形体	2017. 5. 12 (2011. 8. 31)	木下稔夫 三尾 淳 高橋千秋 城 照彰	漆、植物繊維といった天然資源（バイオマス）を原料として用いた場合であっても、製造時の原料混合物の流動性が良好で、各原料が混合機に焼き付くことを防止でき、良好な粒度を有し、成形性により一層優れた成形用材料と、これを用いた成形体
149	第 6140999 号 (2012-275046)	骨結合性材料、人工骨並びに基材と自家骨との結合促進方法	2017. 5. 12 (2011. 12. 15)	寺西義一 ほか 1 名	所望の部位において自家骨との結合を促進させることができる骨結合性材料等
150	第 6157173 号 (2013-070640)	LED 照明の分光分布設計方法	2017. 6. 16 (2012. 6. 1)	岩永敏秀 中村広隆 ほか 4 名	基準光源との色みえの差が小さい分光分布を得ることができる、または、ある特定の色を鮮やかでかつ明るく見せる分光分布を得ることが可能となる LED 照明の分光分布設計方法
151	第 6158648 号 (2013-181647)	クロムフリー化成処理液および化成処理方法	2017. 6. 16 (2013. 9. 2)	浦崎香織里 ほか 1 名	クロムを用いずに、亜鉛や亜鉛合金の表面に耐食性のより高い化成皮膜を形成する化成処理液等
152	第 6163349 号 (2013-096087)	金属編地及びその製造方法	2017. 6. 23 (2013. 4. 30)	唐木由佑	通気性、光透過性に優れた金属編地およびその製造方法

2018(平成30)年度 年報

番号	登録番号 (出願番号)	名 称	登録年月日 (出願日)	発明者	内 容
153	第 6165937 号 (2016-141417)	多孔質シリカ内包粒子の製造方法	2017. 6. 30 (2011. 8. 29)	渡辺洋人 ほか 2 名	多孔質シリカ内包粒子の製造方法および多孔質シリカ、多孔質シリカ内包粒子に関し、特に、微細な孔を有する多孔質シリカを利用し、その孔の内部に微細な粒子を内包させる技術
154	第 6169896 号 (2013-119604)	重金属吸着剤及び重金属回収方法	2017. 7. 7 (2012. 6. 7)	小沼ルミ 杉森博和 飯田孝彦 瓦田研介	液体中の金属、特に廃水中の重金属を迅速に吸着した後、効率よく回収できる吸着剤およびそれを用いた重金属の回収方法
155	第 6194226 号 (2013-224629)	三次元測定装置及び三次元測定方法	2017. 8. 18 (2013. 10. 29)	紋川 亮 中西正一 阿部真也	測定対象物の三次元形状を測定する際の作業効率を格段に向上させることができる三次元測定装置
156	第 6195745 号 (2013-129077)	電気ニッケルめっき液および電気めっき方法	2017. 8. 25 (2013. 6. 19)	浦崎香織里 土井 正	ピット防止等のための添加剤やほう素を含まない、高速電気めっきのめっき液として用いた場合にも、耐食性および外観に優れためっき皮膜が得られる電気ニッケルめっき液
157	第 6199662 号 (2013-172143)	照明器具の測光量測定安定性評価方法、測光量測定安定性評価装置、測光量測定安定性評価プログラム、およびその記録媒体	2017. 9. 1 (2013. 8. 22)	澁谷孝幸 岩永敏秀 横田浩之	放熱構造が備えられた照明器具の光源特性を明確にすることができ、照明器具の測光量を測定する際の安定性の評価を精度よく行うことができる測光量測定安定性評価方法等に係る技術
158	第 6207132 号 (2012-181879)	補助布付きコート、補助布及びマフラー	2017. 9. 15 (2012. 8. 20)	加藤貴司	高い防寒性を確保でき、また、補助布をマフラーとして使用できるので、補助布を外しても邪魔にならず、防寒性をさらに向上できる補助布付きコート等
159	第 6210841 号 (2013-224627)	X 線三次元測定装置及び X 線三次元測定方法	2017. 9. 22 (2013. 10. 29)	紋川 亮 中西正一 阿部真也	X 線 CT 画像を補正して測定対象物のエッジを精確に特定することができる X 線三次元測定装置
160	第 6216605 号 (2013-218054)	光学部材および光源装置	2017. 9. 29 (2013. 10. 21)	横田浩之 ほか 1 名	面発光光源を発光体として用いた場合であっても、必要十分な平行度の出射光を得ることを実現可能とする光源装置
161	第 222982 号 (2013-100737)	光源装置	2017. 10. 13 (2013. 5. 10)	横田浩之 ほか 1 名	面発光光源を発光体として用いた場合であっても、点光源を形成することを実現可能とする光源装置
162	第 6228176 号 (2015-207399)	ゼラチンまたはその化学修飾体、それを含有する水性組成物および医療用積層体、ならびに医療用積層体の製造方法および細胞シートの単離方法	2017. 10. 20 (2015. 10. 21)	大藪淑美 柚木俊二 畑山博哉 ほか 2 名	ゼラチンまたはその化学修飾体、それを含有する水性組成物および医療用積層体、ならびに医療用積層体の製造方法および細胞シートの単離方法
163	第 6236245 号 (2013-159010)	飛行装置	2017. 11. 2 (2013. 7. 31)	益田俊樹 森田裕介 佐々木智典 島田茂伸 坂下和広	空気より軽い気体を充填した気嚢を用いた飛行装置の姿勢を自由に制御可能とするシステム
164	第 6245860 号 (2013-134031)	移動台車の制御装置及び移動台車の制御方法	2017. 11. 24 (2013. 6. 26)	坂下和広	移動台車上に配設された構造体の向きを所定方向に制御しつつ任意の方向に移動可能な移動台車の制御装置
165	第 6262401 号 (2017-508416)	ロッカーボギー	2017. 12. 22 (2015. 3. 24)	坂下和広 森田裕介 益田俊樹	機敏な動作と低コストを実現しつつ、なめるように障害物の踏破する機能も有する四輪構造のロッカーボギー
166	第 6270115 号 (2013-241895)	運動支援システム及び運動支援プログラム	2018. 1. 12 (2013. 11. 22)	後濱龍太 ほか 1 名	内発的動機付けを促進するとともに、運動強度および運動部位が適切な範囲にある運動を行うことができるようにユーザーを支援することができる運動支援システムおよび運動支援プログラム
167	第 6280544 号 (2015-519944)	X 線エネルギー別画像再構成装置及び方法並びに X 線三次元測定装置及び方法	2018. 1. 26 (2013. 5. 9)	紋川 亮 中西正一 阿部真也 近藤幹也 原田 晃	アーチファクト等を補正により除去してより高精度の画像再構成を実現することができる、X 線エネルギー別画像再構成装置および方法ならびに X 線三次元測定装置および方法
168	第 6308464 号 (2014-107600)	注意再獲得支援システム、訓練用画像生成装置及びそのプログラム	2018. 3. 23 (2014. 5. 23)	後濱龍太 ほか 1 名	半側空間無視患者に対するリハビリテーションを支援するための注意再獲得支援システム、訓練用画像生成装置およびそのプログラム

番号	登録番号 (出願番号)	名 称	登録年月日 (出願日)	発明者	内 容
169	第 6327601 号 (2013-256516)	反応物供給流路	2018. 4. 27 (2013. 12. 11)	峯 英一 窪寺健吾 ほか 2 名	液体燃料に用いた場合にも発電性能が高く、簡便に製造できる、反応物供給流路
170	第 6329744 号 (2013-194199)	ノード装置及びネットワークシステム	2018. 4. 27 (2013. 9. 19)	中川善継	データの収集と、データフレームの転送とを同時に行うことができ、このためスループットの低下を抑制することができるノード装置およびネットワークシステム
171	第 6339870 号 (2014-124534)	圧力測定用材料とその製造方法並びに圧力測定方法	2018. 5. 18 (2014. 6. 17)	吉野 徹 山中寿行 大久保一宏 渡邊禎之	非晶質炭酸カルシウムと、水と反応して呈色する呈色剤とを有することを特徴とする圧力測定用材料
172	第 6341704 号 (2014-052115)	塩化物イオンの定量方法及び塩化物イオンの定量装置、並びに、塩素の定量方法	2018. 5. 25 (2014. 3. 14)	杉森博和 安藤恵理 田熊保彦 瓦田研介 荒川 豊	現場で使用可能な小型の装置に適用でき、安価であって、短時間に塩化物イオンを定量することが可能であり、かつ指針値に対して十分な感度を有している塩化物イオンの定量方法および塩化物イオンの定量装置等
173	第 6357466 号 (2015-508824)	悪臭処理用担持触媒	2018. 6. 22 (2015. 8. 4)	染川正一 井上 潤 ほか 1 名	Co、Ce 系酸化物担持触媒のさらなる高性能化、安定性の向上を図ることができ、長時間活性を有効に保持することのできる悪臭処理用の担持触媒
174	第 6368092 号 (2014-001479)	リグノセルロースからのセルロース抽出方法	2018. 7. 13 (2014. 1. 8)	濱野智子 飯田孝彦 小沼ルミ 水越厚史 瓦田研介	多量の廃棄物を生じるような高温高压処理等を必要としない、簡便な、植物系バイオマスまたはリグノセルロースからのセルロースの溶解および/または抽出方法、特に簡便で高効率な植物系バイオマスの糖化前処理技術
175	第 6370595 号 (2014-092371)	マグネシウム粉末冶金焼結体の製造方法、そのマグネシウム粉末冶金焼結体およびマグネシウム粉末冶金材料	2018. 7. 20 (2014. 4. 28)	岩岡 拓	マグネシウム粉末冶金材料中のマグネシウム粉末同士間の結合力を強化し、当該材料の組織を維持したまま、その組織を緻密化したマグネシウム粉末冶金焼結体の製造方法等
176	第 6378079 号 (2014-259095)	成形材料、成形体の製造方法、及び成形体	2018. 8. 3 (2014. 12. 22)	上野明也 山中寿行	本物のべっ甲製品に近い独自の風合いを有する成形体を自由な形状で低コストで大量に製造することができる成形材料および成形体の製造方法、ならびに本物のべっ甲製品に近い独自の風合いを有する成形体
177	第 6382057 号 (2014-209085)	遅延量測定回路および遅延量測定方法	2018. 8. 10 (2014. 10. 10)	岡部 忠	測定することができる遅延量の大小を選択して広範な測定を実現でき、少ない回路リソースにより、省電力と小回路規模を実現することができる遅延量測定回路および遅延量測定方法
178	第 6385743 号 (2014-144888)	マイクロヒータ	2018. 8. 17 (2014. 7. 15)	山岡英彦	熱応力を抑制することができるマイクロヒータ
179	第 6338397 号 (2014-031747)	黒色の金・パラジウム合金メッキ用メッキ液およびメッキ方法	2018. 5. 18 (2014. 2. 21)	水元和成 ほか 2 名	亜硫酸金塩およびパラジウム錯塩を含むメッキ液を用いて深味のある黒色調の金・パラジウム合金皮膜
180	第 6407728 号 (2014-560827)	メカニカルシールおよびその製造方法	2018. 9. 28 (2014. 2. 7)	長坂浩志 渡部友太郎 寺西義一 ほか 1 名	メカニカルシールに要求される漏洩防止性能を満たしながら、優れた耐久性を有するダイヤモンド被膜面を有するメカニカルシールおよびその製造方法
181	第 6410574 号 (2014-233373)	多孔質シリカの製造方法	2018. 10. 5 (2014. 11. 18)	渡辺洋人 ほか 2 名	ケイ酸アルカリのケイ酸化により多孔質シリカを製造する方法
182	第 6417183 号 (2014-211950)	金属イオン捕集材	2018. 10. 12 (2014. 10. 16)	梶山哲人 ほか 1 名	水溶液中の金属イオンを捕集でき、金属イオンによっては選択的に捕集できる地球環境に優しい金属イオン捕集材
183	第 642223 号 (2014-048017)	信号検出装置及び信号検出方法	2018. 10. 26 (2014. 3. 11)	村上真之 志水 匠	電磁ノイズを検出対象信号として誤検出することを防止することができる信号検出装置および信号検出方法
184	第 6427387 号 (2014-223328)	量子ドット複合光触媒	2018. 11. 2 (2014. 10. 31)	渡辺洋人 染川正一 ほか 2 名	量子ドットを用いた反応効率の高い光触媒
185	第 6436881 号 (2015-172025)	造形材料	2018. 11. 22 (2015. 9. 1)	飛澤泰樹 小沼ルミ 村上祐一	常温で素手による造形が可能であり、硬化処理せずとも高い形状保持性を有する造形材料

2018(平成30)年度 年報

番号	登録番号 (出願番号)	名 称	登録年月日 (出願日)	発明者	内 容
186	第 64454934 号 (2015-116085)	廃棄汚泥の減少方法	2018. 12. 7 (2015. 6. 8)	田中真美 中澤亮二 小林宏輝 佐々木直里	原料ガラスからガラスカレットを製造する際に発生する廃棄汚泥を減少させる方法、特に微生物処理により廃棄汚泥を減少させる方法
187	第 6454125 号 (2014-210060)	コラーゲンゲルの作製方法	2018. 12. 21 (2014. 10. 14)	柚木俊二 畑山博哉 海老澤瑞枝	大きなスケールで立体的に成形された“線維束”を非破壊的に製造することができるコラーゲンゲルの作製方法
188	第 6456663 号 (2014-230504)	放熱性を向上させる塗装方法、塗装装置および塗料	2018. 12. 28 (2014. 11. 13)	木下稔夫 ほか 3 名	被塗装物の放熱性を向上させることができる新規な塗装方法
189	第 6472635 号 (2014-210057)	コラーゲン水溶液及びそれを用いたゲルの製造方法	2019. 2. 21 (2014. 10. 14)	柚木俊二 畑山博哉 大藪淑美	「その場調製」が可能なほどに線維化の体温応答性が高いコラーゲン水溶液
190	第 6481179 号 (2015-110645)	強度確知評価方法	2019. 2. 22 (2015. 5. 29)	川口雅弘 ほか 1 名	強化したガラスの色彩、平面形状、平滑性に左右されずに表面の強度および表面の深さ方向強度分布を直接確知評価できる強度確知評価方法
191	第 6483884 号 (2018-059081)	悪臭処理用担持触媒の製造方法	2019. 2. 22 (2014. 3. 31)	染川正一 井上 潤 ほか 1 名	Co、Ce 系酸化物担持触媒のさらなる高性能化、安定性の向上を図ることができ、長時間活性を有効に保持することのできる悪臭処理用の担持触媒の製造方法
192	第 6494992 号 (2014-250421)	ナノ粒子	2019. 3. 15 (2014. 12. 10)	川口雅弘 渡邊禎之 林 英男	組成を限定することなく、粒径が 100nm 以下のナノ粒子を簡便に製造することができるナノ粒子

2) 外国特許登録

番号	登録番号	名称 (和名)	登録年月日 (出願日)	発明者	内 容
1	韓国特許 第 10-1212393 号	無鉛硼珪酸塩ガラスフリット 及びそのガラスペースト	2012. 12. 7 (2006. 3. 28)	田中 実 上部隆男 ほか 2 名	鉛加工物を用いずに、ほうけい酸塩系ガラス原料を利用して 580℃以下の温度でガラス基板等への焼付けができる実用的な低融点無鉛ガラスフリット
2	米国特許 第 8729371 号	弦楽器、その製造方法及び装置	2014. 5. 20 (2008. 9. 2)	横山幸雄	積層造形法を適用した弦楽器、および弦楽器の製造作製方法等
3	中国特許 ZL 201180011994.1	多孔質シリカの製造方法および多孔質シリカ	2015. 6. 24 (2012. 9. 3)	渡辺洋人 ほか 2 名	多孔質シリカの製造方法および多孔質シリカ
4	韓国特許 第 10-1417009 号	絶縁層を形成するための無鉛硼珪酸塩ガラスフリット及びガラスペースト	2014. 6. 30 (2006. 9. 27)	田中 実 上部隆男 ほか 3 名	絶縁層を形成するガラス組成物中に PbO を含まない絶縁層形成用のガラスフリット
5	韓国特許 第 10-1502996 号	燃料電池用集電材	2015. 3. 10 (2010. 9. 30)	樋口明久 ほか 7 名	燃料電池用集電材
6	韓国特許 第 10-1609080 号	多孔質シリカ内包粒子の製造方法および多孔質シリカ、多孔質シリカ内包粒子	2016. 3. 29 (2011. 8. 29)	渡辺洋人 ほか 2 名	多孔質シリカ内包粒子の製造方法および多孔質シリカ、多孔質シリカ内包粒子
7	中国特許 ZL 201280042513.8	多孔質シリカ内包粒子の製造方法および多孔質シリカ、多孔質シリカ内包粒子	2016. 8. 24 (2011. 8. 29)	渡辺洋人 ほか 2 名	多孔質シリカ内包粒子の製造方法および多孔質シリカ、多孔質シリカ内包粒子
8	米国特許 第 9,480,117 号	電力線を介して負荷を制御するための制御システム	2016. 10. 25 (2011. 10. 28)	佐藤 研 佐野宏靖 ほか 1 名	制御器と負荷とが電力線を介して接続された制御システム
9	欧州特許 第 2757573 号	イオン化ガス検出器及びイオン化ガス検出方法	2016. 11. 4 (2011. 9. 15)	平野康之 原本欽朗 吉田裕道	イオン化された被測定対象ガスを検出するイオン化ガス検出器およびイオン化ガス検出方法
10	米国特許 第 9,645,113 号	イオン化ガス検出器及びイオン化ガス検出方法	2017. 5. 9 (2011. 9. 15)	平野康之 原本欽朗 吉田裕道	イオン化された被測定対象ガスを検出するイオン化ガス検出器およびイオン化ガス検出方法
11	韓国特許 第 10-1750584 号	多孔質シリカの製造方法および多孔質シリカ	2017. 6. 19 (2011. 3. 3)	渡辺洋人 ほか 2 名	多孔質シリカの製造方法および多孔質シリカに適用する有効な技術
12	欧州特許 第 2752460 号	成形用材料と、これを用いた成形体	2018. 1. 10 (2014. 2. 27)	木下稔夫 三尾 淳 高橋千秋 城 照彰	漆、植物繊維といった天然資源（バイオマス）を原料として用いた場合であっても、製造時の原料混合物の流動性が良好で、各原料が混合機に焼き付くことを防止でき、良好な粒度を有し、成形性により一層優れた成形用材料と、これを用いた成形体
13	米国特許 第 9,928,619 号 (14/894,325)	X 線エネルギー別画像再構成装置及び方法並びに X 線三次元測定装置及び方法	2018. 3. 27 (2015. 12. 8)	紋川 亮 中西正一 阿部真也 近藤幹也 原田 晃	従来問題になっていたアーチファクト等を補正により除去して、より高精度の画像再構成を実現することができる X 線エネルギー別画像再構成装置および方法ならびに X 線三次元測定装置および方法

3) 実用新案登録

番号	登録番号	名称	登録年月日 (出願日)	考案者	内 容
1	第 3149562 号	モバイル細工及びモバイル	2009. 3. 11 (2009. 1. 20)	秋山 正 ほか 1 名	立体性を有し、かつより複雑な動作を現出し得るモバイル細工
2	第 3170441 号	照明器具	2011. 8. 24 (2011. 7. 5)	上野明也 ほか 1 名	シェード部に設けられた模様板を光源が発する熱から保護し、インテリア性の高い照明器具
3	第 3171954 号	ブラジャー	2011. 11. 2 (2011. 3. 21)	藤田薫子 ほか 1 名	授乳者や、乳ガンにより乳房を切除した乳ガン患者などが使用する、各種パッドを装着可能な圧迫感の小さいブラジャー
4	第 3183799 号	注射器の針部取り外し器具ユニット	2013. 5. 8 (2013. 3. 21)	石堂 均 ほか 2 名	注射器使用の際の針刺し事故の防止と、自己注射器材のユーザビリティを追求するための注射器、特に、ペン型のインスリン自己注射器の針部材取り外し器具ユニット

2018(平成30)年度 年報

番号	登録番号	名称	登録年月日 (出願日)	考案者	内 容
5	第 3183939 号	炭素繊維強化樹脂製環状ばね	2013. 5. 15 (2013. 3. 27)	西川康博 佐野宏靖 小船論史 岩田雄介	炭素繊維で補強された樹脂を環状に巻回して成る炭素繊維強化樹脂製環状ばね
6	第 3194598 号	装飾品及び照明器具	2014. 11. 12 (2014. 7. 4)	上野明也	希少なベツ甲を有効に利用しつつ、ベツ甲が持つ風合いを活かした装飾品および照明器具
7	第 3195080 号	ブックスタンド、ブックエンド及びブックエンドユニット	2014. 12. 3 (2014. 10. 15)	秋山 正	立て掛けて保管した書籍等の水平面でのズレを防止するとともに、ブックスタンド一対を相互に向かい合わせで連結させてブックエンドを構成する際、その連結を安定させることができ、また、ブックスタンドとブックエンドや、ブックエンド同士をそれぞれ安定的に連結させていくことができ、さらに、本の収納領域の段階的な間隔調整も容易に行えるブックスタンド、ブックエンドおよびブックエンドユニット
8	第 3195171 号	パンツ型着用物	2014. 12. 10 (2014. 10. 16)	平山明浩 ほか 1 名	日常生活における着用者の動作に追従し着用者の肌と密着して、吸収パッドからの漏れを抑制するパンツ型着用物

4) 意匠登録

番号	登録番号	意匠に係る物品	登録年月日	創作者	内 容
1	第 1433084 号	ランプシェード	2012. 1. 6	上野明也 ほか 1 名	LED などの光源を内部に收容して使用するシェード
2	第 1439104 号	ランプシェード	2012. 3. 23	上野明也 ほか 1 名	LED などの光源を内部に收容して使用するシェードであり、六角形状の面の素材が透光性を有するもの
3	第 1546747 号	ランプシェード	2016. 2. 26	上野明也	LED などの光源を内部に收容して使用するランプシェードであり、大きさの異なる 3 つの六角形の枠（大枠、中枠、小枠）から形成され、大枠正面に透光性を有する素材が配設されてなるもの
4	第 1571378 号	ロボット	2017. 2. 10	小林祐介 村上真之 坂下和広	自律的に走行可能なロボットである。例えば、屋内または屋外の施設で、施設内巡回や施設利用者への案内等を行う
5	第 1596642 号	乗用自動車	2018. 1. 12	上野明也 ほか 1 名	マイクロ EV キッチンカー
6	第 1603264 号	ロボット	2018. 4. 6	小林祐介 益田俊樹	自律的に走行可能なロボット
7	第 1603265 号	ロボット	2018. 4. 6	小林祐介 益田俊樹	自律的に走行可能なロボット

5) 国内商標登録

番号	登録番号	商標	登録年月日	内容
1	第 5358694 号		2010. 10. 8	世界一高い電波塔東京スカイツリー、墨田区をモチーフにデザイン開発した墨田区発の子ども服中心のブランド
2	第 5424369 号	サスティーモ (標準文字)	2011. 7. 8	漆と植物繊維を混合して漆を植物繊維に含ませたのち加熱して粉末化成用材料、そして、この材料を金型で加熱圧縮成形した漆器のブランド
3	第 5466219 号		2012. 1. 27	有毒物を含まずに赤色の発色を実現したガラスのブランド
4	第 5492668 号	merilabo	2012. 5. 11	メリヤス(ニット)の使い方を研究するというコンセプトのもと、メリヤスの「メリ」とラボラトリー(実験室)の「ラボ」から生まれたニットブランド
5	第 5663387 号		2014. 4. 11	都産技研オリジナルのイメージキャラクター
6	第 5663388 号	チリン (標準文字)	2014. 4. 11	都産技研オリジナルのイメージキャラクター名
7	第 5680841 号		2014. 6. 27	介護服の新ブランド
8	第 5689214 号		2014. 7. 25	都産技研のロゴマーク
9	第 5689215 号	東京都立産業技術 研究センター (標準文字)	2014. 7. 25	都産技研の名称
10	第 5689216 号	TIRI (標準文字)	2014. 7. 25	都産技研の英語略称

6) 外国商標登録

番号	登録番号	商標	登録年月日	内容
1	171101900 【タイ王国出願】		2017. 1. 20	都産技研のシンボルマーク 区分：第 41 類
2	171108525 【タイ王国出願】		2017. 3. 15	都産技研のシンボルマーク 区分：第 42 類

2018(平成30)年度 年報

(3) 出願案件 ※公報が発行されていない出願の内容は「未公開」と表記

1) 国内出願

番号	出願番号	名 称	出願年月日 (優先日等)	発明者	内 容
2014 年度					
1	2014-168330	触媒	2014. 8. 21	渡辺洋人 ほか2名	触媒燃焼式で VOC、アンモニア、硫化水素、一酸化炭素等のガス状化合物の処理を行う際、触媒が熱触媒として活性を発揮する温度に達する前に触媒槽にガス状化合物が入って来ても処理することができる触媒
2	2014-189562 【優先権主張】 基礎出願 2013-195891	揮発性有機化合物検出センサ	2014. 9. 18 (2013. 9. 20)	紋川 亮 月精智子 城 照彰 ほか3名	酵素サイクリング反応による NADH 増幅によって生じるホルマザン色素の吸光度を測定することにより、測定対象ガスに含まれる揮発性有機化合物の成分量を選択的に高感度かつ、連続的に検出可能とする揮発性有機化合物成分量検出センサ
3	2014-192135	サンドイッチパネル用コア材、 サンドイッチパネル用コアおよびサンドイッチパネル	2014. 9. 22	高橋俊也 西川康博 阿保友二郎	曲げ剛性が大きく、スキン材との接着力が強く、また十分な型抜き勾配が得られるサンドイッチパネル用コア材
4	2014-202048 【優先権主張】 基礎出願 2014-000573	成形体	2014. 9. 30 (2014. 1. 6)	寺西義一 ほか2名	強度に優れた成形体に関し、さらに詳細には、生体親和性、生体分解性、および強度に優れた医療用成形体や各種締結部材に最適な強度を有する成形体
5	2015-006392	頭部装着体の製造方法、かつらの製造方法、及び、かつら	2015. 1. 16	唐木由佑 ほか2名	頭部装着体の製造方法、かつらの製造方法、およびかつらにおいて、頭部装着体の装着感を良好にする
6	2015-039192 【優先権出願】 基礎出願 2014-039680	周波数変換器、計測システム 及び計測方法	2015. 2. 27 (2014. 2. 28)	藤原康平 小林丈士	単純化した構成を有する周波数変換器、計測システムおよび計測方法
7	2015-060009	ダイヤモンド薄膜の製造方法、 熱フィラメント CVD 装置 及びメカニカルシール	2015. 3. 23	長坂浩志 ほか2名	ダイヤモンド薄膜を低コストで成膜するための、ダイヤモンド薄膜の製造方法
2015 年度					
1	2015-078027 【優先権主張】 基礎出願 2014-079717	局在表面プラズモン共鳴センサ、 ガスセンサ及び製造方法	2015. 4. 6 (2014. 4. 8)	加澤エリト 紋川 亮	LSPR を用いたガスセンサの光学配置に起因する信号変動の回避を図り、広範囲な VOC 濃度を適切に計測する
2	2015-080285	LED 照明の分光分布設計方法	2015. 4. 9	岩永敏秀 中村広隆	基準光との色みえの差が十分に小さく、また特定の色の鮮やかさと明るさが十分に大きく、かつ LED 照明の光源効率が最大となる分光分布設計方法
3	2015-115101	画像取得装置及び画像取得方法並びに 画像補正プログラム	2016. 6. 5	紋川 亮 中西正一 阿部真也	測定対象物の内外輪郭を高い精度で取得することができる画像取得装置および画像取得方法
4	2015-120886	光電変換装置	2015. 6. 16	太田優一	光電変換装置、特に、中間準位を有するワイドギャップ半導体を用いた光電変換装置に適用して有効な技術
5	2015-121205 【優先権主張】 基礎出願 2014-125217	多孔質シリカに内包された炭素粒子 蛍光体、炭素粒子蛍光体、多孔質シリカ に内包された炭素粒子蛍光体の製造方法 および炭素粒子蛍光体の製造方法	2015. 6. 16 (2014. 6. 18)	林 孝星 渡辺洋人 ほか2名	微細な孔を有する多孔質シリカを利用し、その孔の内部に炭素を内包させることにより得られる炭素粒子蛍光体
6	2015-132390	車輪構造体	2015. 7. 1	西川康博	所定の高さを有する段差等の障害物の乗り越えに労する力を低減でき、簡易な構造の車輪構造体
7	2015-140165	表面プラズモン共鳴測定装置 及びそのチップ	2015. 7. 14	紋川 亮	ウイルスを高感度かつ迅速に検出可能な測定装置
8	2015-168867	微粒子凝集制御装置、微粒子凝集体 生成方法、および微粒子凝集体	2015. 8. 28	海老澤瑞枝 山口隆志 寺西義一 磯田和貴	微粒子および溶媒・媒質に対して化学的な修飾をすることなく、凝集度を制御しつつ短時間に微粒子凝集体を生成する仕組みを安価かつ簡便に実現する
9	2015-196042	局在表面プラズモン共鳴センサ	2015. 10. 1	加澤エリト	複雑な光学系を必要とせず、小型化が可能で、さらには検出精度の高い局在表面プラズモン共鳴センサ

番号	出願番号	名 称	出願年月日 (優先日等)	発明者	内 容
10	2015-208371	ダイヤモンド結晶製造装置及びダイヤモンド結晶製造方法	2015. 10. 22	川口雅弘 ほか2名	小型であり、かつ所望の位置にダイヤモンドを製造できるダイヤモンド結晶製造装置およびダイヤモンド結晶製造方法
11	2016-008946	レーザーマイクロダイセクター及びレーザーマイクロダイセクション方法	2016. 1. 20	紋川 亮 ほか1名	試料の標的部分の周囲を正確に切断可能なレーザーマイクロダイセクターおよびレーザーマイクロダイセクション方法
12	2016-008947	レーザーマイクロダイセクター及びレーザーマイクロダイセクション方法	2016. 1. 20	紋川 亮 ほか1名	試料の標的部分の周囲を正確に切断可能なレーザーマイクロダイセクターおよびレーザーマイクロダイセクション方法
13	2016-019288 【優先権主張】 基礎出願 2015-019615	緊急停止方法、緊急停止システム及びその自己診断方法	2016. 2. 3 (2015. 2. 3)	村上真之	部品コストの増大と、機器全体の故障率の増加（すなわち、信頼性の低下）を最小限に抑え、緊急時に上位ユニットからの指令で下位ユニットを確実に停止させることができる緊急停止方法、緊急停止システムおよびその自己診断方法
14	2016-030300 【優先権主張】 基礎出願 2015-057992	積層造形装置を用いた積層造形方法	2016. 2. 19 (2015. 3. 20)	山内友貴	正確な変形のデータを算出するとともに、その算出したデータを設計データに反映させることで、造形させる造形パーツの変形を制御する積層造形装置を用いた積層造形方法
15	2016-068938	導電性繊維	2016. 3. 30	添田 心 古田博一 池田善光	繊維としての柔軟性を維持しながら、優れた導電性を有する導電性繊維
2016年度					
1	2016-091317	光学特性測定装置および光学特性測定方法	2016. 4. 28	横田浩之	被測定物の光学特性を測定する光学特性測定装置および光学特性測定方法
2	2016-107468	ガス流路構造および流量センサ	2016. 5. 30	山岡英彦 ほか1名	流量負荷を増加させることなく、ガス流の脈動を軽減することのできるガス流路構造、および、ガス流の脈動による影響を受けることなく、高い精度で流量測定を行うことのできる小型の流量センサ
3	2016-112634	情報処理装置、情報処理方法、及びプログラム	2016. 6. 6	大平倫宏 富山真一	3次元状の被検査対象物に含まれる特性が異なる領域の迅速な特定に寄与することができる情報処理装置、情報処理方法、およびプログラム
4	2016-113048	物体追跡装置、物体追跡方法、及び物体追跡プログラム	2016. 6. 6	中村佳雅 吉村僚太 佐々木智典 武田有志 坂下和広	物体追跡装置が運動する場合であっても、正確に物体を追跡する物体追跡装置、物体追跡方法、および物体追跡プログラム
5	2016-119770 【優先権主張】 基礎出願 2015-125324	めっき付き樹脂成形体	2016. 6. 16 (2015. 6. 23)	竹村昌太 浦崎香織里 土井 正 桑原聡士 小野澤明良	非導電性である樹脂成形体にめっき層を形成しためっき付き樹脂成形体
6	2016-120703	アシスト装置装着用のウェアおよびアシストウェアシステム	2016. 6. 17	加藤貴司 ほか1名	非外骨格型のアシスト装置を装着する作業を、装着者が一人で短時間のうちに簡単にできるアシスト装置装着用のウェア
7	2016-131911	非架橋ゼラチン、ゼラチン混合体、およびこれらを含む化粧料用または医薬用ゼラチン	2016. 7. 1	大藪淑美 柚木俊二 畑山博哉 ほか2名	30℃を超える程度の比較的高い融点を有し、かつ生体温度付近でゾルーゲル転移を起こすことのできる非架橋ゼラチン
8	2016-138685	6価クロム含有廃液の処理剤および処理方法	2016. 7. 13	杉森博和	処理工程中の pH 調整を1回とすることが可能で、処理設備を簡素化でき、処理中に危険な薬品を使用する回数を減らすことのできる六価クロム含有廃液の処理剤および処理方法
9	2016-138896	ハイドロゲル及びハイドロゲルの製造方法	2016. 7. 13	永川栄泰 柚木俊二 中川清子 関口正之	機械的強度を備え、かつ瞬発的吸水性に優れ、生体模倣モデルに適用可能なハイドロゲル

2018(平成30)年度 年報

番号	出願番号	名 称	出願年月日 (優先日等)	発明者	内 容
10	2016-151279	揮発性有機物検出器及び揮発性有機物検出方法	2016. 8. 1	平野康之 篠田 勉	揮発性有機物の濃度と拡散定数を判定し、揮発性有機物検出室の内壁における荷電粒子の移動量を制御することで、揮発性有機物を含むガスの判別精度を向上させる揮発性有機物検出器および揮発性有機物検出方法
11	2016-153201 【優先権主張】 基礎出願 2015-158143	温度補正方法、温度補正プログラム、温度補正装置、及び座標測定機	2016. 8. 3 (2015. 8. 10)	大西 徹 村上祐一	目盛誤差をより低減することができる温度補正方法、温度補正プログラム、温度補正装置および座標測定機
12	2016-155123	情報検索方法、情報検索プログラム、情報検索用端末および情報検索装置	2016. 8. 8	阿部真也 三木大輔 ほか2名	情報検索において非言語情報を入出力に活用することで、言語格差をほとんど感じさせることなくユーザーが所望する観光などの情報を適切に検索・提供可能なシステム
13	2016-170665 【優先権主張】 基礎出願 2015-225399	フローセンサ及びその製造方法	2016. 9. 1 (2015. 11. 18)	山岡英彦 ほか1名	より効率的に流体を加熱することができるフローセンサおよびその製造方法
14	2016-172301 【優先権主張】 基礎出願 2015-201498	ガス電子増幅器用電極、ガス電子増幅器及びガス電子増幅器用電極の製造方法	2016. 9. 2 (2015. 10. 9)	小宮一毅 藤原康平 小林丈士 ほか5名	ガス電子増幅器用電極、ガス電子増幅器およびガス電子増幅器用電極の製造方法
15	2016-172118	白金担持体とそれを用いた酸素還元触媒およびその製造方法ならびに燃料電池、金属空気電池	2016. 9. 2	立花直樹 池田紗織 湯川泰之 川口雅弘	優れた酸素還元触媒活性を有し、かつ、製造コストおよび材料コストの両面から望ましい燃料電池や金属空気電池の空気極用に好適な白金担持体の製造方法および、優れた酸素還元触媒活性を有する新規な白金担持体とそれを用いた酸素還元触媒ならびに燃料電池、金属空気電池
16	2016-175457 【優先権主張】 基礎出願 2015-196152	回転体、回転機械及びポンプ	2016. 9. 8 (2015. 10. 1)	小西 毅 平野康之	振動が少ない、低比速度の回転機械
17	2016-195995 【優先権主張】 基礎出願 2015-196039	通気性扉	2016. 10. 3 (2015. 10. 1)	渡辺茂幸 服部 遊 西沢啓子 宮入 徹 神田浩一	簡易な内部構造で高い遮音性能を発揮できる通気性扉
18	2016-197054	X線CT装置、画像補正方法及び画像補正プログラム	2016. 10. 5	紋川 亮	点光源式のX線源と、フラットパネル式の検出器とを備えるX線CT装置において、フラットパネル式の検出器の端部における投影画像の誤差を精度よく補正する
19	2016-213025	止血材用スポンジ及びその製造方法	2016. 10. 31	成田武文 柚木俊二	ゼラチンを含む止血材用スポンジに、ゲニピンを含有させることにより、吸水後に架橋剤によりゼラチンの架橋が行われる、すなわち、止血材用スポンジが拡張(膨潤)した後に硬化させる
20	2016-219377	ノイズ源探査システムおよびノイズ源探査方法	2016. 11. 10	佐野宏靖 佐々木秀勝 金田泰昌	同じ周波数の信号出力源が近接位置に複数設けられていても、ノイズ源となっている信号の出力源を明確に識別できるノイズ源探査システム
21	2016-219707	ガス電子増幅モジュール	2016. 11. 10	小宮一毅 小林丈士 藤原康平	容易に実装可能で、一体化したガス電子増幅モジュール
22	2016-224255	生体組織孔閉鎖用、血管腔状組織閉塞用及び潰瘍保護用ゾル	2016. 11. 17	柚木俊二 大藪淑美 成田武文 ほか2名	生体組織孔閉鎖、潰瘍保護、または血管塞栓療法に利用できる、カテーテルによる送達に適した生体注入用ゾル
23	2016-224258	粘膜下局注用コラーゲンゾル	2016. 11. 17	柚木俊二 大藪淑美 成田武文 ほか2名	消化管粘膜下に局注された場合にゲル化し、隆起高の維持率が高い膨隆を形成する、安全な、粘膜下局注用ゾル

番号	出願番号	名 称	出願年月日 (優先日等)	発明者	内 容
24	2016-231519	放射線量計測装置、放射線量計測方法及び放射線量計測システム	2016. 11. 29	中川善継 村上知里 ほか1名	移動しながら放射線検出器を走査し、静止計測時の放射線量計測と同等の結果を算出し推定することができる放射線量計測装置
25	2016-239628	車輪構造体及び車両	2016. 12. 9	益田俊樹	前進時及び後進時の両方において、荷台を安定させながら段差や斜面、凸凹道などの不整地の踏破性を向上させる車輪構造体および車両
26	2016-243600	導波管マイクロストリップ線路変換器	2016. 12. 15	藤原康平 小林丈士	低コストかつ容易に、ミリ波帯の広範囲にわたって共振が発生するのを抑えることが可能な導波管マイクロストリップ線路変換器
27	2017-015919	金属イオンを分離することのできる配位子とそれをを用いた分離材	2017. 1. 31	梶山哲人 ほか1名	金属イオン、特にGaやInを効率よく回収することができる金属イオンを分離することのできる配位子とそれをを用いた金属イオン分離材
28	2017-018226	熱伝導式センサ	2017. 2. 3	豊島克久	結露などの発生を防止し、より適切な測定をすることができる熱伝導式センサ
29	2017-021420	保存対象物の保存方法、ゾルゲル転移体およびこれを含む保存剤	2017. 2. 8	大藪淑美 柚木俊二 藤井恭子 ほか3名	短時間でゲルの内部に細胞などの保存対象物を包埋することができ、かつ包埋後もゲルの内部で保存対象物を安定的に保存する
30	2017-021470	温度補正方法、温度補正プログラム、及び座標測定機	2017. 2. 8	大西 徹 村上祐一	目盛誤差をより低減することができる温度補正方法、温度補正プログラム、および座標測定機
31	2017-030413	LA-ICP-MS 装置を用いた定量分析方法および LA-ICP-MS 装置	2017. 2. 21	林 英男 川口雅弘 渡邊禎之	固体標準試料を用いることなく、定量分析を可能とする、LA-ICP-MS装置を用いた定量分析方法
32	2017-037309	非接触給電構造およびこれを備える駐輪施設	2017. 2. 28	秋山美郷 佐野宏靖 大森 学	電動アシスト自転車(EAB)を駐輪充電する際に面倒な位置合わせが不要であり、屋内外どちらの使用でも構造的に安定した非接触給電構造
33	2017-040525 【優先権主張】 基礎出願 2016-041375	成形体の製造方法	2017. 3. 3 (2016. 3. 3)	峯 英一 伊東洋一 小野澤明良	変形可能な基材の表面上に固化可能な流動体を塗布して第一塗膜を形成する第一塗布工程と、上記第一塗膜を固化して第一固化膜を得る第一固化工程と、上記基材を変形させることにより、上記第一固化膜を上記基材から剥離する剥離工程と、を備える成形体の製造方法
34	2017-040986 【優先権主張】 基礎出願 2016-044667	ダイヤモンドライクカーボン膜、摺動部材、加工部材及びダイヤモンドライクカーボン膜の製造方法	2017. 3. 3 (2016. 3. 8)	徳田祐樹 川口雅弘 ほか2名	低摩擦性および耐摩耗性に優れたダイヤモンドライクカーボン膜、摺動部材、加工部材およびダイヤモンドライクカーボン膜の製造方法
35	2017-061293	移動ロボット及び制御回路	2017. 3. 27	村上真之 坂下和広 佐藤 研 森田裕介	移動ロボットの転倒を防止でき、かつ、車輪駆動部への動力を遮断せずに、制御部に故障等が発生し移動ロボットが暴走したとしても、低コストな方法で移動ロボットの移動速度が適切に制限される安全性の高い移動ロボットおよび制御回路
2017年度					
1	2017-082843	マグネシウム合金の製造方法	2017. 4. 19	岩岡 拓	強度と延性、熱的安定性を兼ね備えたマグネシウム合金
2	2017-098856	偏光光学特性の測定方法および偏光特性測定装置	2017. 5. 18	海老澤瑞枝	サンプリング数を抑制して演算処理の負荷を軽減するとともに、偏光特性を精度良く測定することができる偏光特性測定方法
3	2017-105517	画像補正装置、画像補正方法、注目点認識装置、注目点認識方法及び異常システム	2017. 5. 29	三木大輔 阿部真也	監視カメラ等で用いられる画像の歪みを解消する
4	2017-108148	音響信号処理装置、音響信号処理方法、音響信号処理プログラム	2017. 5. 31	鈴木 薫 武田有志	マイク入力にエコー以外の音声(利用者の音声等)が含まれているか否かを速やかに正しく判定することができる音響信号処理装置

2018(平成30)年度 年報

番号	出願番号	名 称	出願年月日 (優先日等)	発明者	内 容
5	2017-108698	パーソナルトレーナースーツ、姿勢計測装置、姿勢計測方法、及びトレーニングシャツ	2017. 5. 31	後濱龍太 平山明浩	筋力トレーニング機器の利用者が「胸をはり」かつ「肩をすくめない」姿勢であるかを計測するパーソナルトレーナースーツ
6	2017-118594	積層造形装置及び積層造形システム	2017. 6. 16	小林隆一	造形物配置の制限や、冷却効率の低下を引き起こす特殊な構造を必要とせず、造形物入りケーキの内部温度の冷却を促進させることで、樹脂を用いた粉末床熔融結合による積層造形において、造形物完成までの時間を短縮できる積層造形装置および積層造形システム
7	2017-131884	VOC 処理用触媒	2017. 7. 5	井上研一郎 染川正一	芳香族を含む VOC とそれを含まない VOC を 300℃より低い温度領域で同時に処理することのできる触媒
8	2017-115897	反射構造体	2017. 6. 13	磯田和貴 海老澤瑞枝 永田晃基	入射角に対する反射率変化の大きい反射構造体
9	2017-140249	光学特性測定装置および光学特性測定方法	2017. 7. 19	横田浩之	被測定物の光学特性の測定を高速かつ高精度に行いつつ、その場合であっても装置の小型化およびメンテナンス性向上に対応することのできる光学特性測定装置および光学特性測定方法
10	2017-157112	研削砥石及び研削装置	2017. 8. 16	鈴木悠矢	研削時の研削砥石の速度に応じて被加工物の加工後の表面粗さ Rz を変更することが可能となる研削砥石を提供すること、および、上記研削砥石を備えた研削装置
11	2017-169756	FRP 成形品及びその製造方法	2017. 9. 4	武田浩司 西川博康	高い強度と、高い弾性率と、優れた耐衝撃性とを同時に満たす FRP 成形品およびその製造方法
12	2017-119609	移動装置、駆動制御方法、及び駆動制御プログラム	2017. 6. 19	坂下和広 武田有志 益田俊樹	移動経路に沿って移動する移動装置であり、構造物が配置された領域の状況に応じて適切に移動することができる移動装置、駆動制御方法および駆動制御プログラム
13	2017-181140	複層ガラス剥離装置及び剥離方法	2017. 9. 21	小林宏輝 中澤亮二	複層ガラスからガラス板を短時間で分離することができる複層ガラス剥離装置と、複層ガラスからのガラス剥離方法
14	2017-183254 【優先権主張】 基礎出願 2016-202142	CT 装置用校正器	2017. 9. 25 (2016. 10. 13)	竹澤 勉	CT 装置による寸法測定と校正を同時に行うための校正器
15	2017-134886 【分割出願】 原出願 2013-159010	飛行装置及び駆動装置	2017. 7. 10 (2013. 7. 31)	益田俊樹 森田裕介 佐々木智典 坂下和広 島田茂伸	空気より軽い気体を充填した気囊を用いた飛行装置に搭載できる、簡素かつ軽量の駆動装置
16	2017-210101 【優先権主張】 基礎出願 2016-213024	高分子多糖類又はタンパク質架橋用架橋剤及びその製造方法、架橋高分子多糖類又は架橋タンパク質形成用ゾル及びその製造方法	2017. 10. 31 (2016. 10. 31)	成田武文 柚木俊二 ほか 1 名	高分子多糖類またはタンパク質架橋用架橋剤およびその製造方法、架橋高分子多糖類または架橋タンパク質形成用ゾルおよびその製造方法に関する
17	出願中特許	光暴露方法及び光暴露装置	2017. 11. 2	濱野智子 村井まどか 石田祐也 澁谷孝幸 ほか 3 名	未公開
18	出願中特許	炭酸カルシウム成形体の製造方法および炭酸カルシウム成形体	2017. 11. 2	吉野 徹	未公開
19	出願中特許	高配向コラーゲン繊維束及びその製造方法	2017. 11. 8	柚木俊二 海老澤瑞枝 ほか 1 名	未公開
20	出願中特許	暗号システム、ユーザーシステム、暗号方法、及び暗号プログラム	2017. 11. 10	大平倫宏	未公開

番号	出願番号	名 称	出願年月日 (優先日等)	発明者	内 容
21	出願中特許	デジタル処理、装置デジタル処理装置の製造方法及びプログラム	2017. 11. 17	岡部 忠	未公開
22	出願中特許	身体形状データ変換装置、身体形状データ変換方およびプログラム	2017. 11. 27	後濱龍太 島田茂伸 ほか3名	未公開
23	出願中特許	人体形状モデル可視化システム、人体形状モデル可視化方法およびプログラム	2017. 11. 27	後濱龍太 島田茂伸 ほか3名	未公開
24	出願中特許	チューブ状ハイドロゲル及び医療用ステント	2017. 11. 29	永川栄泰 柚木俊二 中川清子 ほか1名	未公開
25	出願中特許	亀裂検知センサー及び亀裂検知システム	2017. 12. 13	窪寺健吾 峯 英一 伊東洋一 ほか1名	未公開
26	出願中特許	撮影システム及び画像処理装置並びに画像処理方法	2017. 12. 28	海老澤瑞枝 磯田和貴 ほか1名	未公開
27	出願中特許	殺菌方法	2018. 1. 22	片岡憲昭 関口正之 河原大吾	未公開
28	出願中特許	演算装置、演算管理装置及びプログラム	2018. 1. 26	山口隆志 ほか1名	未公開
29	2018-019856 【優先権主張】 基礎出願 2017-162405	背景騒音下における対象音の近似官能評価方法および背景騒音下における対象音の近似官能評価システム	2018. 2. 7 (2017. 8. 25)	宮入 徹 服部 遊	背景騒音下で被評価物から生じる対象音に対する聴感印象の官能評価と相関性の高い近似的な官能評価を定量的に行うことができる背景騒音下における対象音の近似官能評価システム
30	出願中特許 【分割出願】 原出願 2015-508824	悪臭処理用担持触媒	2018. 3. 27 (2014. 3. 31)	染川正一 井上 潤 ほか1名	未公開
2018年度					
1	出願中特許	合金部材および合金部材の製造方法	2018. 5. 25	猿渡直洋 青沼昌幸 岩岡 拓 中村 勲	未公開
2	出願中特許	軽金属板材、及びその製造方法	2018. 5. 28	小船論史	未公開
3	出願中特許	繊維強化樹脂製ボルト及びナット、繊維強化樹脂製締結部材の製造方法	2018. 5. 30	西川康博 小船論史	未公開
4	出願中特許	積層造形装置、三次元形状造形物に対する加工方法、三次元形状造形物及び金型	2018. 5. 31	千葉浩行	未公開
5	出願中特許	摩擦ダンバおよび壁面体	2018. 6. 6	松原独歩 ほか5名	未公開
6	出願中特許	磁界検出コイル及びEMI アンテナ	2018. 6. 8	高橋文緒 佐野宏靖 大森 学 村上祐一	未公開
7	出願中特許	回転式レオメーター用乾燥防止具	2018. 6. 13	柚木俊二 杉本清二 大藪叔美	未公開
8	2018-117844 【優先権主張】 基礎出願 2017-122797	新規なポルフィリン誘導体、ポルフィリン誘導体の製造方法、ドナー材料、光電変換装置、および光電変換装置の製造方法	2018. 6. 21 (2017. 6. 23)	小汲佳祐 ほか1名	電荷輸送効率の向上や、長い励起寿命などの特性向上が可能な光電変換装置のドナー材料としてのポルフィリン誘導体、および光電変換装置の製造方法
9	出願中特許	光触媒機能を有する積層構造体の製造方法	2018. 6. 29	山岡英彦 伊達修一	未公開

2018(平成30)年度 年報

番号	出願番号	名 称	出願年月日 (優先日等)	発明者	内 容
10	出願中特許	組成物、成形体の製造方法及び成形体	2018. 6. 29	酒井日出子 松原独歩 島田勝廣	未公開
11	2018-126727 【優先権主張】 基礎出願 2017-131552	機能性薄膜及びその製造方法	2018. 7. 3 (2017. 7. 4)	寺西義一 ほか1名	機能性薄膜の組成の制御が可能な機能性薄膜の製造方法、ならびに組成が制御され、膜の厚さ方向において構成成分の組成比が異なる機能性薄膜
12	出願中特許	電波吸収構造	2018. 7. 4	小畑 輝 高橋文緒 渡部雄太	未公開
13	出願中特許	新規なポルフィリン誘導体、ポルフィリン誘導体の製造方法、ドナー材料、光電変換装置、および光電変換装置の製造方法	2018. 7. 11	小汲佳祐 ほか2名	未公開
14	2018-132635 【優先権主張】 基礎出願 2017-140244	センサ保持基板及びセンサモジュール	2018. 7. 12 (2017. 7. 19)	山岡英彦 小宮一毅	断熱性を向上することができるセンサ保持基板およびセンサモジュール
15	出願中特許	金属空気電池または燃料電池のガス拡散電極に使用されるガス拡散層とそれを用いたガス拡散電極およびその製造方法	2018. 7. 13	立花直樹 ほか1名	未公開
16	2018-150796 【優先権主張】 基礎出願 2017-159896	ダイヤモンド研磨装置及びダイヤモンド研磨方法	2018. 8. 9 (2017. 8. 23)	平野康之 中村健太 藤巻研吾 玉置賢次	研磨工具の長寿命化のために、研磨工具の摩耗を低減し、さらに、研磨の高効率化を可能とするダイヤモンド研磨装置およびダイヤモンド研磨方法
17	出願中特許	光触媒およびその製造方法	2018. 8. 17	染川正一 渡辺洋人	未公開
18	出願中特許	多孔質シリカ、機能材料および多孔質シリカの製造方法	2018. 8. 17	渡辺洋人 染川正一	未公開
19	出願中特許	比較測定機用校正ゲージ及び比較測定器の校正方法	2018. 8. 17	村上祐一 大西 徹	未公開
20	2018-153505 【優先権主張】 基礎出願 2017-167477	温度補正方法、温度補正プログラム、及び座標測定機	2018. 8. 17 (2017. 8. 31)	大西 徹	目盛誤差をより容易に低減することができる温度補正方法、温度補正プログラム、および座標測定機
21	出願中特許	校正ゲージ及び校正方法	2018. 8. 17	樋口英一 村上祐一 三浦由佳	未公開
22	出願中特許	電子製品の評価方法及び評価装置	2018. 8. 21	佐々木秀勝 佐野宏靖	未公開
23	出願中特許	圧力測定方法および圧力測定装置	2018. 8. 27	吉野 徹	未公開
24	出願中特許	無機ガス検出装置及び無機ガス検出システム	2018. 8. 28	永田晃基 瀧本悠貴 紋川 亮	未公開
25	出願中特許	ニトロ多環芳香族化合物の分析に用いる液体クロマトグラフ装置、ニトロ多環芳香族化合物の蛍光検出方法及びニトロ多環芳香族化合物の蛍光増強方法	2018. 8. 28	藤巻康人 ほか3名	未公開
26	出願中特許	体温調節衣服	2018. 8. 31	平山明浩 八谷如美 山口隆志	未公開
27	出願中特許	歩行支援装置	2018. 9. 10	酒井日出子	未公開
28	出願中特許	歩行支援装置	2018. 9. 10	酒井日出子	未公開
29	出願中特許	樹脂金属複合部材及び樹脂金属複合部材の製造方法	2018. 9. 28	小野澤明良 西川康博	未公開
30	出願中特許	マグネシウム合金部材、粉末材料、マグネシウム合金部材の製造方法	2018.10. 3	岩岡 拓 ほか1名	未公開

番号	出願番号	名 称	出願年月日 (優先日等)	発明者	内 容
31	出願中特許	絞り加工装置及び絞り加工方法	2018. 10. 4	奥出裕亮	未公開
32	出願中特許	チタン合金の絞り加工方法	2018. 10. 10	奥出裕亮	未公開
33	出願中特許	バラマンディ鱗由来コラーゲンを含む細胞培養基材	2018. 10. 12	畑山博哉 柚木俊二 成田武文 藤井恭子 ほか6名	未公開
34	出願中特許	白金族金属イオンの分離回収システム及び分離回収方法	2018. 10. 18	梶山哲人 井上 潤	未公開
35	出願中特許	内部構造推定装置、方法、及び、プログラム	2018. 11. 6	村上知里 金田泰昌 ほか1名	未公開
36	出願中特許	視覚障害者のためのスポーツ観戦装置	2018. 11. 9	島田茂伸 大島浩幸 近藤幹也	未公開
37	出願中特許	移動走行装置	2018. 11. 15	坂下和広 小林祐介	未公開
38	出願中特許	歩行支援装置	2018. 11. 15	西川康博	未公開
39	出願中特許	水分率測定装置および水分率測定方法	2018. 12. 13	佐野宏靖 秋山美郷 久慈俊夫 ほか3名	未公開
40	出願中特許	通気性扉	2018. 12. 27	渡辺茂幸 宮入 徹	未公開
41	出願中特許	ダイヤモンド研磨装置及びダイヤモンド研磨方法	2019. 1. 30	平野康之 中村健太 藤巻健吾 玉置賢次 横山俊幸	未公開
42	出願中特許	殺菌装置および殺菌方法	2019. 1. 31	片岡憲昭 関口正之 河原大吾	未公開
43	出願中特許	熱膨張係数の評価方法及び座標測定機の温度補正方法	2019. 2. 27	大西 徹	未公開
44	出願中特許	触媒担体および触媒の製造方法	2019. 3. 7	染川正一 柳 捷凡 ほか2名	未公開
45	出願中特許	支持体固定化触媒担体	2019. 3. 7	染川正一 柳 捷凡 ほか2名	未公開
46	出願中特許	暗号システム、ユーザ端末、ストレージ装置、認証方法、暗号プログラム、及び認証プログラム	2019. 3. 26	大平倫宏	未公開

2) 外国出願（自国指定も含む）

番号	出願番号	名称（和名）	出願年月日 (優先日等)	発明者	内 容
1	11750758.2 【欧州移行出願】 PCT/JP2011/054928	多孔質シリカの製造方法および多孔質シリカ	2012. 9. 27 (2010. 3. 4)	渡辺洋人 ほか2名	多孔質シリカの製造方法および多孔質シリカに適用する有効な技術
2	14/241589 【米国移行出願】 PCT/JP2012/071699	多孔質シリカ内包粒子の製造方法および多孔質シリカ、多孔質シリカ内包粒子	2014. 2. 27 (2011. 8. 29)	渡辺洋人 ほか2名	多孔質シリカ内包粒子の製造方法および多孔質シリカ、多孔質シリカ内包粒子に関し、特に、微細な孔を有する多孔質シリカを利用し、その孔の内部に微細な粒子を内包させる技術
3	12828428.8 【欧州移行出願】 PCT/JP2012/072214	成形用材料及びその製造方法並びに該成形用材料を用いた圧縮成形体	2014. 2. 27 (2011. 8. 31)	木下稔夫 神谷嘉美 上野博志 瓦田研介 ほか2名	漆、植物繊維といった天然資源（バイオマス）を主原料とした成形用材料に関し、また、この成形用材料から得られる圧縮成形体

2018(平成30)年度 年報

番号	出願番号	名称 (和名)	出願年月日 (優先日等)	発明者	内 容
4	12828401.5 【欧州移行出願】 PCT/JP2012/072216	成形体の製造方法	2014. 2. 27 (2011. 8. 31)	木下稔夫 村井まどか 神谷嘉美 清水研一 ほか2名	漆、植物繊維といった天然資源のみから形成される成形用材料であっても、外観により一層優れた成形体を製造することができる製造方法
5	12828309.0 【欧州移行出願】 PCT/JP2012/071699	多孔質シリカ内包粒子の製造方法および多孔質シリカ、多孔質シリカ内包粒子	2014. 3. 12 (2011. 8. 29)	渡辺洋人 ほか2名	多孔質シリカ内包粒子の製造方法および多孔質シリカ、多孔質シリカ内包粒子に関し、特に、微細な孔を有する多孔質シリカを利用し、その孔の内部に微細な粒子を内包させる技術
6	2015-508824 【自国指定出願】 PCT/JP2014/59526	悪臭処理用担持触媒	2015. 8. 4 (2013. 3. 29)	染川正一 井上潤 ほか1名	Co、Ce系酸化物担持触媒のさらなる高性能化、安定性の向上を図ることができ、長時間活性を有効に保持することのできる悪臭処理用の担持触媒
7	14/894,325 【米国移行出願】 PCT/JP2014/064330	X線エネルギー別画像再構成装置及び方法及びX線三次元測定装置及び方法	2015.12. 8 (2013. 5. 29)	紋川 亮 中西正一 阿部真也 近藤幹也 原田 晃	従来問題になっていたアーチファクト等を補正により除去して、より高精度の画像再構成を実現することができるX線エネルギー別画像再構成装置および方法ならびにX線三次元測定装置および方法
8	14804436.5 【欧州移行出願】 PCT/JP2014/064330	X線エネルギー別画像再構成装置及び方法及びX線三次元測定装置及び方法	2015.12.15 (2013. 5. 29)	紋川 亮 中西正一 阿部真也 近藤幹也 原田 晃	従来問題になっていたアーチファクト等を補正により除去して、より高精度の画像再構成を実現することができるX線エネルギー別画像再構成装置および方法ならびにX線三次元測定装置および方法
9	16180850.6 【欧州分割出願】 PCT/JP2014/064330 親出願 14804436.5	X線エネルギー別画像再構成装置及び方法	2016. 7. 22 (2013. 5. 29)	紋川 亮 中西正一 阿部真也 近藤幹也 原田 晃	従来問題になっていたアーチファクト等を補正により除去してより高精度の画像再構成を実現することができる、X線エネルギー別画像再構成装置および方法ならびにX線三次元測定装置および方法
10	15/674,396 【米国分割出願】 PCT/JP2014/064330 親出願 14/894,325	X線エネルギー別画像再構成装置及び方法及びX線三次元測定装置及び方法	2017. 8. 10 (2013. 5. 29)	紋川 亮 中西正一 阿部真也 近藤幹也 原田 晃	従来問題になっていたアーチファクト等を補正により除去して、より高精度の画像再構成を実現することができるX線エネルギー別画像再構成装置および方法ならびにX線三次元測定装置および方法
11	2016800011804.9 【中国移行出願】 PCT/JP2016/055825	周波数変換器、計測システム及び計測方法	2017. 8. 23 (2015. 2. 27)	藤原康平 小林丈士	単純化した構成を有する周波数変換器
12	16755691.9 【欧州移行出願】 PCT/JP2016/055825	周波数変換器、計測システム及び計測方法	2017. 8. 23 (2015. 2. 27)	藤原康平 小林丈士	単純化した構成を有する周波数変換器
13	15/553,365 【米国移行出願】 PCT/JP2016/055825	周波数変換器、計測システム及び計測方法	2017. 8. 23 (2015. 2. 27)	藤原康平 小林丈士	単純化した構成を有する周波数変換器
14	2,983,722 【カナダ移行出願】 PCT/JP2016/66539	画像取得装置及び画像取得方法並びに画像補正プログラム	2017.10.23 (2015. 6. 5)	紋川 亮 中西正一 阿部真也	測定対象物の内外輪郭を高い精度で取得することができる画像取得装置および画像取得方法
15	16803489.0 【欧州移行出願】 PCT/JP2016/66539	画像取得装置及び画像取得方法並びに画像補正プログラム	2017.10.27 (2015. 6. 5)	紋川 亮 中西正一 阿部真也	測定対象物の内外輪郭を高い精度で取得することができる画像取得装置および画像取得方法
16	10-2017-7034538 【韓国移行出願】 PCT/JP2016/66539	画像取得装置及び画像取得方法並びに画像補正プログラム	2017.11.29 (2015. 6. 5)	紋川 亮 中西正一 阿部真也	測定対象物の内外輪郭を高い精度で取得することができる画像取得装置および画像取得方法
17	201680032166.9 【中国移行出願】 PCT/JP2016/66539	画像取得装置及び画像取得方法並びに画像補正プログラム	2017.12. 1 (2015. 6. 5)	紋川 亮 中西正一 阿部真也	測定対象物の内外輪郭を高い精度で取得することができる画像取得装置および画像取得方法
18	MX/a/2017/015731 【メキシコ移行出願】 PCT/JP2016/66539	画像取得装置及び画像取得方法並びに画像補正プログラム	2017.12. 5 (2015. 6. 5)	紋川 亮 中西正一 阿部真也	測定対象物の内外輪郭を高い精度で取得することができる画像取得装置および画像取得方法
19	15/579,672 【米国移行出願】 PCT/JP2016/66539	画像取得装置及び画像取得方法並びに画像補正プログラム	2017.12. 5 (2015. 6. 5)	紋川 亮 中西正一 阿部真也	測定対象物の内外輪郭を高い精度で取得することができる画像取得装置および画像取得方法
20	2015680017191.X 【中国移行出願】 PCT/JP2016/059352	ロッカーボギー	2017. 9. 20 (2015. 3. 24)	坂下和広 森田裕介 益田俊樹	機敏な動作と低コストを実現しつつ、なめるように障害物を踏破する機能も有する四輪構造のロッカーボギー

番号	出願番号	名称 (和名)	出願年月日 (優先日等)	発明者	内 容
21	15/560,372 【米国移行出願】 PCT/JP2016/059352	ロッカーボギー	2017. 9. 21 (2015. 3. 24)	坂下和広 森田裕介 益田俊樹	機敏な動作と低コストを実現しつつ、なめるように障害物を踏破する機能も有する四輪構造のロッカーボギー
22	16768869.6 【欧州移行出願】 PCT/JP2016/059352	ロッカーボギー	2017. 9. 28 (2015. 3. 24)	坂下和広 森田裕介 益田俊樹	機敏な動作と低コストを実現しつつ、なめるように障害物を踏破する機能も有する四輪構造のロッカーボギー
23	15/769,362 【米国移行出願】 PCT/JP2016/080829	ゼラチンまたはその化学修飾体、それを含有する水性組成物および医療用積層体、ならびに医療用積層体の製造方法および細胞シートの単離方法	2018. 4. 19 (2015. 10. 21)	大藪淑美 柚木俊二 畑山博哉 ほか2名	ゼラチンまたはその化学修飾体、それを含有する水性組成物および医療用積層体、ならびに医療用積層体の製造方法および細胞シートの単離方法
24	16857430.9 【欧州移行出願】 PCT/JP2016/080829	ゼラチンまたはその化学修飾体、それを含有する水性組成物および医療用積層体、ならびに医療用積層体の製造方法および細胞シートの単離方法	2018. 5. 18 (2015. 10. 21)	大藪淑美 柚木俊二 畑山博哉 ほか2名	ゼラチンまたはその化学修飾体、それを含有する水性組成物および医療用積層体、ならびに医療用積層体の製造方法および細胞シートの単離方法
25	15/980,826 【米国出願】 2017-118594	積層造形装置及び積層造形システム	2018. 5. 16 (2017. 6. 16)	小林隆一	造形物配置の制限や、冷却効率の低下を引き起こす特殊な構造を必要とせず、造形物入りケーキの内部温度の冷却を促進させることで、樹脂を用いた粉末床熔融結合による積層造形において、造形物完成までの時間を短縮できる積層造形装置および積層造形システム
26	10-2018-207-732.0 【ドイツ出願】 2017-118594	積層造形装置及び積層造形システム	2018. 5. 17 (2017. 6. 16)	小林隆一	造形物配置の制限や、冷却効率の低下を引き起こす特殊な構造を必要とせず、造形物入りケーキの内部温度の冷却を促進させることで、樹脂を用いた粉末床熔融結合による積層造形において、造形物完成までの時間を短縮できる積層造形装置および積層造形システム
27	2018-520890 【自国指定出願】 PCT/JP2017/019888	多層グラフェン分散液および熱物性測定用黒化剤	2018. 7. 19 (2016. 5. 31)	柳 捷凡	試料表面に多層グラフェンを含む薄くて均一な塗膜を瞬時に作製できる多層グラフェン分散液、黒化効果に優れた熱物性測定用黒化剤、および離型・潤滑効果に優れた粉末焼結用離型剤・潤滑剤
28	17809694.2 【米国移行出願】 PCT/JP2017/019888	多層グラフェン分散液および熱物性測定用黒化剤	2018. 8. 2 (2016. 5. 31)	柳 捷凡	試料表面に多層グラフェンを含む薄くて均一な塗膜を瞬時に作製できる多層グラフェン分散液、黒化効果に優れた熱物性測定用黒化剤、および離型・潤滑効果に優れた粉末焼結用離型剤・潤滑剤
29	17806594.2 【欧州移行出願】 PCT/JP2017/019888	多層グラフェン分散液および熱物性測定用黒化剤	2018. 8. 9 (2016. 5. 31)	柳 捷凡	試料表面に多層グラフェンを含む薄くて均一な塗膜を瞬時に作製できる多層グラフェン分散液、黒化効果に優れた熱物性測定用黒化剤、および離型・潤滑効果に優れた粉末焼結用離型剤・潤滑剤
30	2017800202622 【中国移行出願】 PCT/JP2017/019888	多層グラフェン分散液および熱物性測定用黒化剤	2018. 9. 26 (2016. 5. 31)	柳 捷凡	試料表面に多層グラフェンを含む薄くて均一な塗膜を瞬時に作製できる多層グラフェン分散液、黒化効果に優れた熱物性測定用黒化剤、および離型・潤滑効果に優れた粉末焼結用離型剤・潤滑剤

3) PCT 出願

番号	出願番号	名 称	出願年月日 (優先日等)	発明者	内 容
1	PCT/JP2017/041238 【PCT 優先権出願】 基礎出願 2016-224255	生体組織孔閉鎖用、管腔状組織閉塞用及び潰瘍保護用ゾル	2017. 11. 16 (2016. 11. 17)	柚木俊二 大藪淑美 成田武文 ほか2名	生体組織孔閉鎖、潰瘍保護、または血管塞栓療法に利用できる、カテーテルによる送達に適した生体注入用ゾル
2	PCT/JP2017/041244 【PCT 優先権出願】 基礎出願 2016-224258	粘膜下局注用コラーゲンゾル	2017. 11. 16 (2016. 11. 17)	柚木俊二 大藪淑美 成田武文 ほか2名	消化管粘膜下に局注された場合にゲル化し、隆起高の維持率が高い膨隆を形成する、安全な、粘膜下局注用ゾル
3	PCT/JP2017/045536	マグネシウム合金粉末の製造方法	2017. 12. 19	岩岡 拓 ほか1名	未公開

2018(平成30)年度 年報

番号	出願番号	名 称	出願年月日 (優先日等)	発明者	内 容
4	PCT/JP2017/045538	マグネシウム合金粉末及びその焼結部品	2017. 12. 19	岩岡 拓 ほか1名	未公開
5	PCT/JP2017/045542	マグネシウム合金粉末及びその焼結部品	2017. 12. 19	岩岡 拓 ほか1名	未公開
6	PCT/JP2018/024929 【PCT 優先権出願】 基礎出願 2017-131884	VOC 処理用触媒	2018. 6. 29 (2017. 7. 5)	井上研一郎 染川正一	芳香族を含む VOC とそれを含まない VOC を 300℃より低い温度領域で同時に処理することのできる触媒
7	PCT/JP2018/041057 【PCT 優先権出願】 基礎出願 2017-215184	高配向コラーゲン繊維束及びその製造方法	2018. 11. 5 (2017. 11. 8)	柚木俊二 海老澤瑞枝 ほか1名	未公開

4) 実用新案登録出願

2018 年度はなし

5) 意匠登録出願

番号	出願番号	意匠に係る物品	出願年月日 (優先日等)	創作者	内 容
1	2018-018784	スタンド付き調味料容器	2018. 8. 29	上野明也 吉村 萌	専用のスタンド付きの調味料用容器
2	2018-020792	乗用自動車	2018. 9. 25	上野明也 吉村 萌	小型の乗用自動車
3	2018-023125	歩行器	2018. 10. 22	酒井日出子	拡張式の歩行支援装置
4	2018-023126	歩行器	2018. 10. 22	酒井日出子	折り畳み式の歩行支援装置

6) 商標登録出願

2018 年度はなし

(4) 出願実績 ※権利満了や出願中に権利化を断念および放棄したもの

1) 国内出願

番号	出願番号 (登録番号)	名 称	出願日 (登録日)	発明者	内 容
1	平 06-180964 (第 3406390 号)	重水素の濃縮方法及び装置	H 6. 7. 8 (2003. 3. 7)	斎藤正明 ほか3名	原子力・放射線施設の安全性の判断、地下水系の測定等の指標として利用されている天然水中の重水素の分析に必須な濃縮方法とその装置
2	平 06-324046 (第 3122870 号)	交流用 LED 点灯回路	H 6. 11. 21 (2000. 10. 27)	上野武司 吉田裕道 宮島良一 佐藤正利	電源電圧および周波数の変動に対し、明るさの変動が少なく、ちらつきの少ない交流用 LED 点灯回路
3	平 07-321057 (第 3326546 号)	コンピュータシステムの故障検知方法	H 7. 11. 15 (2002. 7. 12)	坂巻佳壽美	コンピュータシステムの故障を自動的に検知し、システムの信頼性を向上させる方法
4	平 08-047151 (第 3354377 号)	レーザ溶射法による高耐食性改質層の作製方法	H 8. 3. 5 (2002. 9. 27)	一色洋二 藤木 栄	レーザ溶射法を利用した、鉄鋼材料表面の耐食性の改善
5	平 08-327402 (第 3748304 号)	重水素の濃縮度算出決定装置	H 8. 12. 9 (2005. 12. 9)	斎藤正明	天然水中のトリチウムの分析に不可欠な濃縮法で、従来の方法と比較して測定作業を簡易化したうえ、正確な重水素濃縮度を算出する方法および装置
6	平 09-131548 (第 3520505 号)	ポリオレフィン系プラスチック廃棄物からの液体燃料回収方法	H 9. 4. 16 (2004. 2. 13)	山本 真 中澤 敏	ポリオレフィン系プラスチック廃棄物を、重油中固体触媒剤を使用して常圧で熱分解し、ガソリン、灯油等の軽質留分を生成しないで液体燃料を高収率で回収する方法

番号	出願番号 (登録番号)	名 称	出願日 (登録日)	発明者	内 容
7	平 09-131549 (第 3612659 号)	フミン酸の改質による吸水性材料の製造方法	H 9. 4. 16 (2004. 11. 5)	山本 真 中澤 敏 ほか 2 名	草炭からアルカリ抽出したフミン酸に、アクリロニトリルをグラフト重合させた後、加水分解させることを特徴とする吸水性材料の製造方法
8	平 09-273212 (第 3082911 号)	球状成型用凹凸金型盤による網目構造の球状繊維成型物及びその製造方法	H 9. 9. 1 (2000. 6. 30)	樋口明久	種々の繊維に低融点繊維を均等に混合し、球状に加熱加圧して得られた繊維成型物
9	平 10-131320 (第 3719847 号)	摺動性材料及びその製造方法	1998. 4. 24 (2005. 9. 16)	三尾 淳 仁平宣弘	チタン表面層にイオン注入法で塩素を添加することにより、潤滑材を使用しなくても低摩擦かつ耐磨耗性に優れた新しい硬質材料およびその製造方法
10	平 10-245288 (第 4126576 号)	鋳造用アルミニウム合金	1998. 8. 31 (2008. 5. 23)	佐藤健二 ほか 2 名	材料欠陥が少なく品質・強度が向上し、かつ塑性加工しても製品の割れが発生しにくくなり加工工数の低減化と製品歩留まりが向上する
11	平 10-347644 (第 3624394 号)	電解用活性陰極の製造方法	1998. 12. 7 (2004. 12. 10)	田中慎一 棚木敏幸 広瀬徳豊	水溶液の電気分解による生産過程での電力使用量の低減を可能とした電極の製法
12	平 11-325903 (第 4046450 号)	表面プラズモン共鳴センサ	1999. 10. 12 (2007. 11. 30)	上野武司 加澤エリト 佐々木智典 ほか 1 名	光の波長または光の入射角度を変化させることにより生じる表面プラズモン共鳴現象を利用し、物質の濃度あるいは物質の識別に用いられる、コンパクトで良好な感度を有するセンサ
13	2000-282652 (第 3590932 号)	EMI プローブ	2000. 8. 15 (2004. 9. 3)	大森 学 山田万寿雄	電子機器から放射されるノイズ(放射電磁界)を 3 つの検出面を同軸上に互いに 60 度の角度で配置した EMI プローブを用いて三次元方向の感度特性で検出するため、ノイズ源を高確度かつ迅速に探索できる
14	2001-024203 (第 3968413 号)	工作物に穴を形成する放電加工方法	2001. 1. 31 (2007. 4. 11)	山崎 実 森 紀年 武井健三郎 国枝正典	直径数十ミクロンという微細な穴あけに関する技術で、穿孔する穴径より太い電極を用い、電極を＋、加工物を－にし、電極を回転させながら送りつつ放電加工を行うと、電極の外周部が消耗しながら微細な穴が形成できる
15	2001-392816 (第 3970021 号)	デジタル回路実験・実習遠隔教育方法	2001. 11. 20 (2007. 6. 15)	森 久直 坂巻佳壽美 ほか 4 名	デジタル回路に関する実験・実習を回路を通じて行えるようにした遠隔教育システム
16	2002-138469 (第 3992536 号)	ラドン等の放射性核種の濃度測定方法とこの方法に用いる装置	2002. 5. 14 (2007. 7. 24)	斎藤正明	遮光したチャンバー内にプラスチックシンチレータおよび光電子増倍管を対面配置し、チャンバー内に連続的に流入させた試料水または試料空気に含まれるラドンをシンチレータに吸収させるラドンの放射線エネルギーでシンチレータの蛍光剤が発光し、その回数を増倍管で計数する
17	2002-312841 (第 4226875 号)	放電加工による素材の成形方法	2002. 10. 28 (2008. 12. 5)	山崎 実 鈴木岳美 森 紀年 国枝正典	放電加工により一度開けた穴を利用して、直径数 μm の細い電極や断面形状の複雑な電極を容易に作る事ができる
18	2003-116330 (第 3963859 号)	電動自転車用電源供給装置	2003. 3. 18 (2007. 5. 22)	三上和正 小林丈士	電動自転車の始動時にバッテリーからモーターに流れる大きな電流を制限し、必要な電流を補助電源である「電気二重層コンデンサ」から供給することによりバッテリーの長寿命化を図る
19	2003-436038 (第 4125671 号)	ノイズ測定用多素子アンテナ	2003. 11. 28 (2008. 5. 16)	寺井幸雄 天早隆志 清水康弘	屋外の都市空間ノイズを高感度に測定するための片手で持ち運びできる小型アンテナ
20	2005-016154 (第 4680612 号)	カーボンオニオンの製造方法	2005. 1. 24 (2011. 2. 10)	基 昭夫 片岡征二 後藤賢一 玉置賢次 ほか 8 名	容易な技術で、従来の方法に比べて簡便でかつ安易にカーボンオニオンを製造することができる実用的な方法

2018(平成30)年度 年報

番号	出願番号 (登録番号)	名 称	出願日 (登録日)	発明者	内 容
21	2005-104243	皮革のプリント方法	2005. 3. 31	吉田弥生 古田博一 池田善光 今井哲夫 福岡彰男	皮革製品のプリント加工において、油脂を含有しない皮革が、乾燥状態で硬化・収縮変形しない前処理方法、および染料固着の湿熱処理で硬化・収縮変形せず、洗浄工程で図柄が崩れることなく、色落ちしないプリント染色方法
22	2005-292828	粗紡機	2005. 10. 5	樋口明久 山本直文 橋本京子 ほか1名	バナナ繊維、カーボン、金属繊維などの硬繊維に対して、適切な粗紡を与える粗紡機の提供
23	2005-363983	草炭からの土壌改良材およびこれを用いた植物成長方法	2005. 11. 20	山本 真 陸井史子 ほか1名	環境保全のための屋上緑化に適した土壌改良用の吸水性にすぐれた土壌改良材を提供する
24	2006-003612	固体高分子電解質形燃料電池用の膜/電極接合体、その製造方法、および前記膜/電極接合体を用いた固体高分子電解質形燃料電池	2006. 1. 11	上野博志 ほか1名	固体高分子電解質膜の両面に触媒層およびガス拡散層をそれぞれ形成した固体高分子電解質形燃料電池用の膜/電極接合体において、カソード側触媒層をマイクロオーダーの耐酸性粒子からなる形成助剤の表面に Pt 系触媒粒子を配置・被覆して形成した触媒粒子塊によって構成する
25	2006-071794	鉄スクラップからのリサイクル圧延鋼材の粒界浸潤性の評価および抑制方法	2006. 3. 15	上本道久 長崎千裕	リサイクル圧延鋼材の表面割れに影響を及ぼす粒界浸潤性の評価方法およびそれに基づく表面割れ防止方法を提供する
26	2006-167178	木質ボードの製造方法	2006. 6. 16	瓦田研介 飯田孝彦 ほか3名	リサイクル木質チップやリサイクル木質繊維を主原料として製造した木質ボードにおいて、その製品から放散するホルムアルデヒド量が建築基準法で規制された厳しい規制値に合格し、かつ MDI 系化合物を接着剤に使用したときの生産コストを低減し、地球環境改善効果を有する木質ボードの製造方法
27	2006-325233	紙テープカバリング糸を用いたセラミック長繊維編物およびその製造方法	2006. 12. 1	樋口明久 ほか3名	セラミック長繊維もしくはアルミナ長繊維前駆体の周囲に紙テープを無燃りの状態で旋状に巻き付けるカバリング工程、紙テープカバリング糸を編成する工程、紙テープを焼却除去するとともにアルミナ長繊維前駆体をアルミナ長繊維に変成する焼成工程を採用することにより、編成時糸が接触する編機部品のサビ発生を抑制することができた。また毛羽の発生もなくなることができた
28	2007-079315	アーク発光分光による材料中の微量成分分析法	2007. 3. 26	佐々木幸夫	アーク発光分光分析装置にアルゴンと酸素の混合ガスを導入することによる金属材料中の炭素を主とした微量成分の定量分析
29	2007-303522	吸着槽交換時期を監視するシステム及びこれを具備する揮発性有機化合物廃ガス処理装置	2007. 11. 22	阪口文雄 武田有志	VOC ガス処理装置において、吸着体の効率的な交換や脱着が図ることのできる、吸着体による捕集不能となる状態の検出機構ならびに検出方法
30	2008-018066	マイクロバルブを有する微細流路	2008. 1. 29	伊東洋一 基 昭夫 ほか2名	微細流路内に磁力を用いて金属内包カーボンナノ粒子を固定・移動させることにより液体や気体の流れを制御(ON・OFF)させる技術
31	2008-022789	面標示物の除去装置及び路面標示物の除去方法	2008. 2. 1	小池茂幸	道路路面標示塗料をヒーターにより溶かし、ローラーブラシでかきとり、しかも残渣を効率よく回収することのできる道路の路面標示物の消去方法および装置
32	2008-054596	ガス濃度測定装置および測定方法、累積ガス量測定装置および測定方法、ガス除去装置における除去剤の除去限界類推装置および類推方法	2008. 3. 5	武田有志 ほか3名	管内を通過する VOC ガスの累積ガス量を一つのセンサで計測する機構とその方法
33	2008-127030	トルエン検出センサシステム及びトルエンの検出方法	2008. 5. 14	月精智子 ほか4名	トルエンが空气中に存在することを高感度かつ簡便に検出することができるトルエン測定システムおよびトルエンの検出方法

番号	出願番号 (登録番号)	名 称	出願日 (登録日)	発明者	内 容
34	2008-167551	多段式トリチウム濃縮装置、及びトリチウム濃縮方法	2008. 6. 26	斎藤正明 ほか1名	簡易な構造で試料水中のトリチウム濃度を効率的に所望の濃縮率にまで高めること
35	2008-332608	揮発性有機化合物ガス含有空気の吸脱着装置及び吸脱着方法	2008. 12. 26	阪口文雄 武田有志 佐藤俊彦 ほか1名	VOC ガスを含有する大風量かつ低濃度のVOC ガス含有空気から VOC ガスを吸脱着して回収するにあたり、小型でありながら効率よく VOC を回収する装置
36	2008-303347	生地加工方法	2008. 11. 28	木村千明 小林研吾 藤田 茂	合成繊維とセルロース系繊維とを組成繊維とする織物または編物から成る生地に透かし模様と凹凸模様とを同時形成するための生地加工方法
37	2009-042030	マグネシウム合金部材のせん断加工用金型およびせん断加工方法	2009. 2. 25	基 昭夫 ほか2名	マグネシウム合金は、常温での延性が乏しくせん断面が荒れるため、最適加工条件や工具形状を開発し、現行品に使用されているアルミニウム合金と同等のせん断面平滑度を得た
38	2009-042804	織物及び編物のプリーツ性試験方法とその装置	2009. 2. 25	田中みどり 岩崎謙次	伸長法プリーツ性試験方法の距離測定を目視から画像センサーによる方法に改善し、正確かつ効率的な試験が可能となる装置
39	2009-134114 【優先権主張】 基礎出願 2008-145511	編針及びその製造方法	2009. 6. 3	堀江 暁 森河和雄 三尾 淳 川口雅弘	金属糸などの難編成糸を編成可能とし、また、編成時に編針に発生するキズやさびを防止するために DLC 膜を施した編針とその製造方法
40	2009-213585	画像合成装置及び画像合成方法	2009. 9. 15	大平倫宏 ほか1名	取得順序未知の特徴に乏しい画像群に対するパノラマ画像合成装置および方法についての特許出願である。請求項では、合成後に取得漏れがあった際のアラーム機能についても記述
41	2009-285657	容量性リアクタンス素子と突入電流防止回路を組み合わせた高効率な交流 LED 点灯回路	2009. 11. 27	寺井幸雄 染谷克明 小林丈士	商用電源またはその他の交流電源を利用する高効率な高周波ノイズ発生のない、LED 点灯回路
42	2010-046922	活性炭及びその製造製法	2010. 3. 3	瓦田研介 井上 潤 萩原利哉 ほか1名	従来の煩雑な工程を経ずに容易な工程で、未利用バイオマス（特に、杉やひのき等の木質系未利用バイオマス）を原料として活用することができ、しかもコストパフォーマンスに優れた、高比表面積を有する活性炭およびその製造方法
43	2010-71902	揮発性有機化合物分解反応器	2010. 3. 26	紋川 亮 杉森博和 秋山恭子 ほか1名	VOC 分解反応器をガスの流れが均一になるような構造にすることで、分解反応に寄与しないデッドゾーンが生じることを回避することで分解効率を上げ、さらに反応器自体の製造コストを抑えることを可能とする VOC 分解反応器
44	2010-72806	工場排気ガス処理装置	2010. 3. 26	小島正行 平野康之 ほか2名	印刷工場、塗装工場、金属表面処理工場等から排出される、光化学スモッグの原因となる微小粒子物質、特に VOC および塗料、インクなどの高沸点有機化合物ならびにダスト等を、ろ布に担持した吸着剤を使って除去する。ハンドリング性に優れ、かつ吸着剤の消費量が少なく、また、吸着剤の再生が容易な排気ガス処理装置
45	2010-72807	工場排気ガスの2層ろ過装置	2010. 3. 26	小島正行 ほか2名	塗装、めっき、印刷等の各種工場の排気ガスに含まれるミスト、VOC、ダストなどの有害成分を、ろ布と2種類のろ過補助材を使って捕集する。ろ過補助材は未利用資源である木材を有効利用し、適宜回収、再生することで経済的なプロセスを確立
46	2010-163584	フィールド機器用データストレージシステム	2010. 7. 21	金田泰昌 入月康晴 佐野宏靖 ほか6名	記録済みのデータが外部から改変あるいは削除されたりする可能性を低減できる、フィールド機器用データストレージシステム
47	2010-248770	塗装物のパッチ式乾燥装置及びその操作方法	2010. 11. 5	小島正行 染川正一 秋山恭子 萩原利哉 ほか2名	判定作業の効率化を図り、被測定用半導体材料を面的に PN 判定する

2018(平成30)年度 年報

番号	出願番号 (登録番号)	名 称	出願日 (登録日)	発明者	内 容
48	2011-038925	オゾン濃度測定装置	2011. 2. 24	中村広隆 ほか6名	測定セルを通過する試料ガスが長い透過距離を移動すると透過中にオゾンが何度も紫外線に照射され、正しいオゾン濃度測定ができない。このため、窒化物系深紫外線半導体素子を使用した、正しい測定値が得られ、装置へのダメージを排除するオゾン濃度測定装置
49	2011-124782	有害化学物質低減木質ボードの製造方法と有害化学物質低減木質ボード	2011. 6. 3	濱野智子 瓦田研介 ほか2名	木質ボードにおいて、フェノール樹脂、メラミン樹脂、ユリア樹脂、イソシアネート樹脂等の石油系樹脂を接着剤に使用しながら接着耐久性や操作性を確保しつつシックハウス症候群の原因である有害化学物質を有意義な程度まで低減した木質ボード
50	2011-220895	塗装物の乾燥・焼付炉	2011. 10. 5	小島正行 藤井恭子 染川正一 萩原利哉 ほか1名	塗装物の乾燥・焼付炉に係り、特に中小規模の塗装工場内へ好ましく設置することができ、装置コストの低減および塗装物を乾燥・焼付する際の省エネに寄与する技術
51	2012-143083	テトラフルオロエチレンにより化学修飾されたポリエチレンおよびその製造方法	2012. 6. 26	榎本一郎 ほか3名	機能性プラスチックに関し、特に撥水性に優れた機能性ポリエチレン
52	2012-180829 【分割出願】 親出願 2008-131617	高強度ダイヤモンド膜工具	2012. 8. 17	横澤 毅 寺西義一 玉置賢次 片岡征二 ほか1名	耐欠損性を向上させることで破壊強度と耐摩耗性に優れ、かつ放電加工等の電気加工を主体とした研磨加工が可能な多結晶・単結晶の高強度ダイヤモンド膜工具やコーティング工具
53	2012-227142 【分割出願】 親出願 2009-520544	燃料用電池用セパレータプレートの製造方法及びそれを利用した燃料電池	2012. 10. 12	伊東洋一 上野博志 ほか1名	燃料電池のセパレータプレートにおける反応ガスの流通経路のパターンをスクリーン印刷により非印刷部分を設けつつ高精度に形成する
54	2012-257432	ライトパイプ	2012. 11. 26	横田浩之	発光の形状を点状に近似させ、発光の位置を任意とすることで、LEDを光源としつつフィラメント素子との相違を解消させてフィラメント素子の配光に近似させることができるライトパイプに関する
55	2013-192629	オゾン濃度測定装置	2013. 9. 18	武田有志 中村広隆 ほか3名	固体発光素子をチョップ発信させ計測する紫外線吸収式オゾン濃度測定装置

2) 外国特許出願

番号	出願番号 (登録番号)	名称(和名)	登録年月日	発明者	内 容
1	米国特許 第 5203901 号	結晶化ガラスの製造方法	1993. 4. 20	鈴木 蕃	下水汚泥焼却灰を原料に、天然の御影石または大理石より優れた特性を備えた結晶化ガラスを製造する方法
2	13/582112 【米国移行出願】 PCT/JP2011/054928	多孔質シリカの製造方法および多孔質シリカ	2012. 8. 31	渡辺洋人 ほか2名	多孔質シリカの製造方法および多孔質シリカに適用する有効な技術


3) PCT 出願

番号	出願番号	名 称	出願年月日	発明者	内 容
1	PCT/JP2009/058891 【PCT 優先権出願】 基礎出願 2008-127030	トルエン検出センサシステム及びトルエンの検出方法	2009. 7. 17	月精智子 ほか4名	トルエン検出センサシステムおよびトルエンの検出方法に関し、特に高感度かつ簡便にトルエンを検出することができる、トルエン検出センサシステムおよびトルエンの検出方法

(5) 実施許諾

番号	項目	番号	名称	実施許諾 企業数
1	特許	特許第 3812783 号	超音波振動付加型摩擦試験機	1
2	特許	特許第 4791746 号	無鉛硼珪酸塩ガラスフリット及びそのガラスペースト	1
3	特許	韓国第 10-2006-28002	無鉛硼珪酸塩ガラスフリット及びそのガラスペースト	1
4	特許	特許第 4394050 号	低摩擦性、耐摩耗性を向上させた金属板の製造方法	1
5	特許	特許第 5604094 号	防かび剤組成物、およびそれを使用した木材および木製品	1
6	特許	特許第 3779290 号	漆および植物繊維を用いた成形用材料、前記成形用材料を用いて得られる漆／植物繊維成形体	1
7	特許	特許第 5560066 号	防護服	1
8	特許	特許第 5302860 号	家畜骨残渣の処理方法	2
9	特許	特許第 5883287 号	防護帽、防護帽の使用法、防護服及び防護装置	1
10	特許	特許第 5892485 号	降水降下物などの自動蒸発濃縮器	2
11	特許	特許第 5308608 号	縮結体縮付け力安定化剤、これを用いた縮付け力安定化法、安定化剤を付着した縮結体構成部品	1
12	特許	特許第 3261676 号	電気ニッケルめっき浴	1
13	特許	特許第 4599529 号	放射線照射判別方法および放射線判別システム	1
14	特許	特許第 6081156 号	ハイドロゲル	1
15	特許	特許第 5422320 号	揮発性有機化合物分解用触媒と揮発性有機化合物の分解方法	1
16	特許	特許第 5414719 号	無機酸化物成形触媒とその製造方法	1
17	特許	特許第 4359537 号	立体製織体、金属繊維立体製織体及びそれらの製造方法	1
18	特許	特許第 5572459 号	4種のハロゲン及び硫黄分析用の標準物質及びその製造方法	1
19	特許	特許第 5717491 号	揮発性有機化合物用の担体触媒及びその製造方法	1
20	特許	特願 2013-074842	悪臭処理用担持触媒	1
21	特許	特許第 5579644 号	赤色ガラス	1
22	特許	特願 2014-031747	黒色合金メッキ皮膜	1
23	特許	特願 2012-214096	リング撚糸機、撚糸製造方法、織物製造方法、撚糸、織物および押圧スイッチ	1
24	特許	特許第 6157173 号	LED照明の分光分布設計方法	2
25	特許	特願 2016-153201	温度補正方法、温度補正プログラム、温度補正装置、及び座標測定機	1
26	特許	特願 2016-109516	多層グラフェン分散液並びに熱物性測定用黒化剤	1
27	特許	特願 2015-115101	画像取得装置及び画像取得方法並びに画像補正プログラム	1
28	特許	特願 2016-197054	X線CT装置、画像補正方法及び画像補正プログラム	1
29	特許	特許第 5388304 号	掲示板のための照明装置	1
30	特許	特許第 5803003 号	熱フィラメント CVD 装置及び成膜方法	1
31	特許	特願 2014-560827	メカニカルシールおよびその製造方法	1
32	特許	特願 2015-060009	ダイヤモンド薄膜の製造方法、熱フィラメント CVD 装置及びメカニカルシール	1
33	特許	特願 2017-021470	温度補正方法、温度補正プログラム、及び座標測定機	1
34	特許	特許第 6140607 号	成形用材料及びその製造方法	1
35	特許	特許第 6140608 号	成形用材料	1
36	特許	特願 2016-172301	ガス電子増幅器用電極、ガス電子増幅器及びガス電子増幅器用電極の製造方法	1
37	特許	特願 2017-227160	身体形状データ変換装置、身体形状データ変換方法およびプログラム	1
38	特許	特願 2017-167477	温度補正方法、温度補正プログラム、及び座標測定器	1
39	特許	PCT/JP2016/055825	周波数変換器。計測システム及び計測方法	1
40	特許	特願 2017-098856	偏光特性の測定方法および偏光特性測定装置	1
41	特許	特願 2017-252990	撮影システム及び画像処理装置並びに画像処理方法	1
42	特許	特許第 5632597 号	弦楽器、弦楽器の製造方法及び弦楽器製造装置	1

2018(平成30)年度 年報

番号	項目	番号	名称	実施許諾 企業数
43	特許	US 8, 729, 371	弦楽器、弦楽器の製造方法及び弦楽器製造装置	1
44	特許	特願 2018-117844	新規なポルフィリン誘導体、ポルフィリン誘導体の製造方法、ドナー材料、光電変換装置、および光電変換装置の製造方法	1
45	特許	特許第 6262401 号	ロッカーボギー	2
46	特許	中国 201680017191. X	ロッカーボギー	2
47	特許	米国 15/560. 372	ロッカーボギー	2
48	特許	欧州 16768869. 6	ロッカーボギー	2
49	実用新案	登録第 3149562 号	モバイル細工及びモバイル	1
50	実用新案	登録第 3170441 号	照明器具	1
51	実用新案	登録第 3171954 号	ブラジャー	1
52	意匠	登録第 1433084 号	ランプシェード	1
53	意匠	登録第 1439104 号	ランプシェード	1
54	意匠	登録第 1546747 号	ランプシェード	1
55	意匠	登録第 1596642 号	乗用自動車	1
56	意匠	意願 2018-018784	スタンド付き調味料用容器	1
57	商標	登録第 5358694 号		1
58	商標	登録第 5424369 号	サスティーモ【標準文字】	1

(5) 著作権の許諾

都産技研が発行する著作物の記事利用について以下のとおり掲載申請を許諾した。

著作物	許諾先	掲載先
東京都立産業技術研究センター ウェブサイト内アーカイブス「繊維製品の非破壊によるクレーム解析試験」顕微鏡試験「綿」「亜麻」の断面図 https://www.iri-tokyo.jp/site/archives/complaint-technique-s04-p02.html https://www.iri-tokyo.jp/site/archives/complaint-technique-s04-p04.html	Z プラス(株)	TBS テレビ「この差って何ですか？」2018年8月14日放送分
YouTube 東京都立産業技術研究センター「都産技研 金属 3D プリンター（金属粉末積層造形装置）による造形」 https://www.youtube.com/watch?v=5KVb69CSTXU	(株)いまじん	BS テレ東「田村淳の BUSINESS BASIC」2018年11月11日放送分
東京都立産業技術研究センター 「TIRI NEWS 10月号（平成30年度）」 (2018年10月1日発行)、pp. 6-7 「ユニバーサルファッション商品の企画開発研究会 身体を包み込む新発想で『スパイラルインナー』を開発しています」内写真	替地あやこ	「人間生活工学」Vol. 20 No. 1(通巻51号)2019年3月発行
テレビ番組内 東京都立産業技術研究センター協力映像	(株)美和企画	2021年度以降用教科書および関連する媒体
東京都立産業技術研究センター ウェブサイト内 本部アクセスマップ https://www.iri-tokyo.jp/site/access/honbu.html	(一社)色材協会	「色材協会誌」および色材協会ウェブサイトでの研究発表会の会告

また、著作物の複製（コピー）を適正に取り扱うために、2007（平成19）年度より公益社団法人日本複製権センターと契約している。

3.8.2 技術審査

都産技研では、東京都や公益財団法人東京都中小企業振興公社、区市、商工団体などから依頼を受け、新製品・新技術開発などの助成事業、技術表彰、認定等の技術審査のため、書類審査および審査委員の派遣を行っている。

2018（平成30）年度は31団体からの依頼により68事業の審査に携わり、延べ5,859件の技術審査を行った。

	実施主体	審査件名	延べ件数
東京都	産業労働局商工部	経営革新計画承認審査会	466
	産業労働局商工部	世界発信コンペティション（製品・技術（ベンチャー技術）部門）	535
	産業労働局商工部	新事業分野開拓者認定（トライアル発注）	203
	産業労働局商工部	文部科学大臣表彰創意工夫功労者賞	108
	その他		182
	小計（比率%）		1,494(25.5%)
(公財)東京都中小企業振興公社	助成課	(公財)東京都中小企業振興公社助成事業	1,370
	設備支援課	革新的事業展開設備投資支援事業	233
	取引振興課	医療機器産業参入促進助成事業	39
	その他		912
	小計（比率%）		2,554(43.6%)
区市	(公財)大田区産業振興協会	新製品・新技術支援事業	84
		大田区中小企業新製品新技術コンクール	128
	北区	新製品・新技術支援事業等	29
	品川区	メイドイン品川PR事業	9
		新製品・新技術開発促進事業等	43
	港区	新製品・新技術開発支援事業	25
	府中市	新製品・新事業支援	8
	その他		241
小計（比率%）		567(9.7%)	
団体等	東京商工会議所	勇気ある経営大賞等	70
	(公財)日本発明振興協会	発明大賞表彰	206
	(一財)機械振興協会	新機械振興賞	55
	東京都中小企業団体中央会	受注型中小製造業競争力強化支援事業	589
	多摩信用金庫	多摩ブルー・グリーン賞	90
	その他		234
	小計（比率%）		1,244(21.2%)
	合計（比率%）		5,859(100%)

3.8.3 海外展開技術支援

(1) 国際規格対応支援 広域首都圏輸出製品技術支援センター (MTEP)

広域首都圏輸出製品技術支援センター (以下、「MTEP (エムテップ)」という。) は、1都10県1市の運営機関が連携して中小企業のための海外展開支援サービスを提供する。

運営機関：都産技研、茨城県産業技術イノベーションセンター、栃木県産業技術センター、群馬県立産業技術センター、埼玉県産業技術総合センター、千葉県産業支援技術研究所、地方独立行政法人神奈川県立産業技術総合研究所、新潟県工業技術総合研究所、山梨県産業技術センター、長野県工業技術総合センター、静岡県工業技術研究所、横浜市工業技術支援センター

中小企業の海外規格対応への支援について円滑かつ適切な運営を進めるために、以下のとおり運営機関による各種会議を開催した。

No.	開催日	開催場所	会議等名	内容
1	10月19日	都産技研 本部	第12回MTEP事務局会議	・共同運営機関の海外展開支援の状況 ・MTEP規約について
2	1月18日	埼玉県産業技術総合センター	第7回MTEP運営委員会	・MTEP運営方針について ・各機関の海外展開支援事例報告

1) 専門相談員による技術相談

都産技研では、下表記載の専門相談員を置き、相談に対応した。

専門相談員氏名	技術分野
生島 博	知的財産全般、権利取得・管理・活用
石井 満	CEマーキング、各国認証制度、取扱説明書
板谷雅樹	航空機関連、宇宙衛星機器関連、米国規格
井原房雄	CEマーキング、低電圧指令、EMC指令
岡野雅一	RoHS指令、REACH規則
奥野克幸	中国規格、安全規格
忍足光史	各国薬事法規制
金田光範※1	機能安全 (自動車・電子機器)
木村隆夫	化学物質管理・法規制、SDS
元 淑華	EMC・安全・無線の各国認証
小西 颯※1	CEマーキング、医療機器指令
篠崎厚志	EMC、CEマーキング
福井 寛	EU化粧品規制
松浦徹也	RoHS指令、REACH規則、WEEE指令
松尾 涉	CEマーキング、低電圧指令、EMC指令
宮崎好明※2	CEマーキング、各国認証制度
森 浄	CEマーキング、低電圧指令、EMC指令
吉川 保	CEマーキング、機械指令

※1 2018 (平成30) 年9月まで (任期满了)

※2 2018 (平成30) 年8月から

2) 普及啓発活動

① 技術セミナー

都産技研主催の技術セミナーを 31 件開催した(5.1 技術セミナー、講習会一覧参照)。

- ・グローバル人材育成セミナー 5 件
- ・現場で役立つシリーズ 4 件
- ・海外規格精通シリーズ 1 件
- ・MTEP ミニ講座など 15 件
- ・MTEP V-learning 6 件

② MTEP 共同運営機関との連携セミナーおよびパートナーグループ会議

・MTEP 共同運営機関へ専門相談員を派遣し、連携セミナーを 4 件開催した。

No.	開催日	実施場所	名称
1	7月 4日	(地独)神奈川県立産業技術総合研究所 (溝の口支所)	RoHS/REACH に対応する自律的マネジメントシステムの構築
2	10月24日	山梨県産業技術センター	中小企業等国際規格対応支援事業セミナー 「RoHS 指令超入門講座」
3	11月16日	新潟県工業技術総合研究所	海外規格セミナー 「RoHS2 指令解説」
4	2月13日	新潟県工業技術総合研究所	海外規格セミナー 「機械安全とリスクアセスメント」

・海外規格・規制の中でも、特に「EMC」「RoHS」の最新動向や課題などについて、MTEP 共同運営機関と協議および意見交換をするため、パートナーグループ会議を 2 件開催した。

No.	開催日	実施場所	名称
1	1月11日	浜松工業技術支援センター	MTEP EMC パートナーグループ会議
2	1月17日	都産技研 本部	MTEP RoHS パートナーグループ会議

③ 他機関主催・共催イベントでの講演など

他機関主催・共催イベントへ専門相談員や都産技研職員を派遣し、セミナーを 9 件実施した。

No.	開催日	主催者	実施先の名称	実施場所
1	6月27日	(独)日本貿易振興機構	輸出のための認証取得支援ワークショップ (第 1 回)	(独)日本貿易振興機構本部
2	7月 5日	(独)日本貿易振興機構	輸出のための認証取得支援ワークショップ (第 2 回)	都産技研 本部
3	7月12日	(独)日本貿易振興機構	輸出のための認証取得支援ワークショップ (第 3 回)	(公財)東京都中小企業振興公社本社
4	9月 6日	(一社)東京環境経営研究所	RoHS (II) 指令が要求する CAS (Compliance Assurance System) によるフタル酸エステル類の移行管理と CAS の構築の進め方 (JASIS2018)	幕張メッセ
5	9月27日	(一社)日本分析機器工業会	平成 30 年度 第 1 回 環境規制関連セミナー	中央大学 駿河台記念館
6	10月 5日	(独)日本貿易振興機構	新輸出大国コンソーシアム事業	(独)日本貿易振興機構本部

No.	開催日	主催者	実施先の名称	実施場所
7	12月 7日	(一社)日本電気制御機器工業会	環境セミナー2018	AP 浜松町
8	12月14日	都産技研/板橋区/北区	技術セミナー 海外で通用する高品質な評価試験	板橋区役所
9	2月 8日	都産技研/港区	欧州向け製品輸出入門・中小企業人材育成塾グローバル研修	港区立商工会館

- ・独立行政法人中小企業基盤整備機構（近畿本部）が、関西圏の企業からの国際規格や海外規格などの「相談窓口」を試験的に開設する際、専門家選定などの協力を行った。

④ 海外規格情報の閲覧サービス

ウェブサーバーまたは冊子にて海外規格情報の閲覧サービスを提供した。
また、改正・更改した海外規格についても対応した。

- ・ウェブサーバーにて閲覧できる海外規格 IEC、ISO、JIS
- ・冊子にて閲覧できる海外規格 AMS、ASTM、EN、IEC、ISO、MIL など

⑤ MTEP メールニュース

海外規格セミナーや各種イベントの情報など、海外展開支援情報を提供する MTEP メールニュースを配信した。

配信回数 計 7 回

配信登録数 約 2,920 件

3) 相談実績

相談実績は以下のとおりである。

① 相談方法別（件）

相談方法		件数
技術相談	来 所	571
	電 話	126
	メール	759
	その他（テレビ会議など）	34
	小計	1,490
実地支援 A		14
実地支援 C		15
オーダーメイドセミナー		9
合計		1,528

② 相談企業所在地別（件）

	東京都	茨城県	群馬県	栃木県	埼玉県	千葉県
件数	1,003	38	21	9	91	39

	神奈川県 (内、横浜市)	山梨県	長野県	静岡県	新潟県	その他
件数	125 (58)	20	12	31	4	135

③ 相談企業規模別 (件)

中小企業	1,085
大企業	389
その他	54
合計	1,528

4) 刊行物

中小企業への技術情報提供のため、海外規格の概要をまとめた「海外規格テキスト」など、以下の刊行物を発行した。

① 海外規格解説テキスト CE マーキング応用シリーズ

No.	タイトル	発行年月	部数(部)
1	医療機器規則 (MDR)	2019年3月	500
2	体外診断用医療機器規則 (IVDR)	2019年3月	500

② 海外展開支援事例集

1	平成30年度版都産技研 MTEP 海外展開事例集	2019年3月	1,000
---	--------------------------	---------	-------

(2) 海外支援拠点 (バンコク支所)

2015 (平成 27) 年 4 月に設立した都産技研初の海外拠点であるバンコク支所では、ASEAN に展開する日系中小企業へ技術相談や技術セミナーを実施している。技術相談では都産技研本部とのテレビ会議システムなどを活用し、多様な技術的課題の解決を図った。

1) 技術相談

① タイにおける試験規格、製品不具合に対する対策方法、タイの試験機関の紹介など、多様な相談に対応した。現地からの海外規格認証に関する MTEP 専門相談員への相談には、テレビ会議システムを活用し解決を図った。技術相談および実施技術支援を計 283 件実施した。

主な相談事例

- ・タイにおける試験規格、海外規格認証の取得について
- ・製品不具合に対する対策方法
- ・日本との連携 (例：依頼試験を日本で実施。結果を基にタイで実地支援)
- ・現地スタッフの産業人材育成

② タイにおける試験機関の見学会 (ラボツアー)

現地で問い合わせの多いタイ国内における試験・校正の実施機関情報について、各機関が保有する施設・設備・サービスを見学するラボツアーを 6 回開催した。

回数	実施機関名	参加者数	開催日
第1回	NOE Asia Pacific Co., Ltd.	6名	7月6日
第2回	泰日経済技術振興協会 (TPA・ソーソーター)	9名	9月27日
第3回	Electrical Electronics Institute (EEI)	14名	10月17日
第4回	Thai German Institute (TGI)	17名	2月26日
第5回	KOBELCO RESEARCH INTERNATIONAL (THAILAND) CO., LTD (KRIT)	14名	3月5日
第6回	Thailand Institute of Scientific and Technological Research / Industrial Metrology and Testing Service Centre (TISTR / MTC)	8名	3月18日

2) 産業人材の育成

① 技術セミナー (遠隔セミナー)

現地日系企業の課題対応に資するテーマについて、本部と接続したテレビ会議システムを活用した遠隔セミナー「測定器具の使用方法和精度管理」と「金属材料の硬さ試験入門」を開催した。

② オーダーメイドセミナー

現地日系中小企業から寄せられる産業人材育成に関する相談に対応して、オーダーメイドセミナーを初めて開催した。

3) 産業交流、機関連携

① 企業交流会

現地日系企業間の交流推進を目的に、公益財団法人東京都中小企業振興公社タイ事務所と相互開催による企業交流会を4回開催した。バンコク支所では、「良い企業≠良い人材 海外採用競争に勝つ」と、「タイで導入する3Dデジタル技術のツール」の2回を開催した。(参加者延べ74名)

② ものづくり企業交流会

現地日系ものづくり企業への情報提供や参加企業間の交流を目的に、公益財団法人東京都中小企業振興公社と共催による「ものづくり企業交流会 2019 in バンコク 経営の現地化と幹部人材育成 ～これからの担う優秀な幹部人材が育つ会社とは～」を開催した。(参加者78名)

③ 共催セミナー

現地で事業活動を行っている埼玉県タイサポートデスクとの共催によるセミナー/ビジネス交流会「知っておきたいタイにおける輸入と商品展開」を初めて開催した。(参加者35名)

4) 展示会での周知活動

バンコク支所事業の周知活動としてタイ国内開催の展示会に出展した。

- ・Mfair Bangkok 2018 ものづくり商談会 6月
- ・METALEX 2018 11月

(3) 医療機器等の海外展開支援（国際化推進室）

都産技研は、2018（平成30）年11月にドイツ連邦共和国デュッセルドルフで開催された医療機器技術・部品展「COMPAMED 2018」への出展企業に対し、東京都からの委託事業として技術支援を実施した。主な活動は以下のとおりである。

1) 出展企業選定審査会への委員派遣

面接審査会 4月25、26日 会場：都産技研 本部
 総合審査会 5月8日 会場：東京都庁

2) 出展企業との技術相談

出展企業との技術相談で、医療機器に求められる試験方法やその性能評価方法、認証制度などについて対応した。

技術相談対応件数	165 件
依頼試験件数	505 件
機器利用件数	51 件
オーダーメイド開発支援件数	15 件

3) 医療機器技術・部品展「COMPAMED 2018」への職員派遣

展示会に職員2名を派遣し、出展企業からの技術相談などに対応した。

4. 多様な主体による連携

4.1 産学公金連携

4.1.1 東京イノベーションハブの活用

都産技研では、中小企業間の交流、企業と大学、学協会、研究機関などと交流・連携し、新たなビジネスを創出する場として約 400 m²のオープンスペースを本部に配置している。都産技研が主催する情報発信事業のほか、学協会が有するシーズや研究成果などを都内中小企業の製品化・事業化へ生かすための学協会連携事業などを開催し、産学公金連携事業を推進した。2018（平成 30）年度の取り組みは以下のとおりである。

(1) 都産技研主催

開催年月日	催事名
2018年 5月16日	東京都デザイン導入支援セミナー
2018年 5月25日	INNOVESTA!2018 ビジネスデー
2018年 7月 3日	神奈川県・東京都連携 MTEP セミナー 「RoHS/REACH に対応する自律的マネジメントシステムの構築 (導入編)」
2018年 7月12～13日	TIRI クロスミーティング 2018
2018年 8月21日	知的財産マッチング会事前勉強会
2018年 8月24日	INNOVESTA!2018 ファミリーデー
2018年 8月28日	(株)東京きらぼしフィナンシャルグループ見学会
2018年11月 9日	技術セミナー「プラスチックの話」
2019年 1月16日	技術セミナー「初心者のため電気用品安全法の概要と動向」
2019年 1月21日	医工連携セミナー 「新たな参入を促進・支援するための『医療機器産業と医工連携』」
2019年 1月29日	東京イノベーション発信交流会 2019
2019年 2月 8日	技術セミナー 「X線 CT 装置を用いたリバースエンジニアリング技術の高度化」
2019年 2月13日	2018 年度中小企業の IoT 化支援事業セミナー 「製造現場のデジタル化による新たな価値創出」
2019年 2月20日	第 34 回東京都異業種交流グループ合同交流会
2019年 2月28日	2018 年度ロボット産業活性化事業セミナー 「サービスロボット／協働ロボットの安全と規格適合」
2019年 3月15日	航空機産業への参入支援事業セミナー 「航空機産業へ中小企業が参入するために-東京の航空機産業支援-」
2019年 3月20日	【グローバル人材育成 欧州編】 医療機器規則(MDR)と体外診断用医療機器規則(IVDR)

(2) 都産技研共催

開催年月日	催事名	他主催者
2018年 6月21日	第30回木材塗装基礎講座	木材塗装研究会
2018年 7月25日	先端デバイス開発に関するコンソーシアム（講演会）	兵庫県立大学
2018年10月19日	信頼性・安全技術研究会	信頼性安全技術研究会
2018年11月27日	光学測定機セミナーおよび技術相談会	日本光学測定機工業会
2018年12月 4日	安全で省エネな社会の構築と中小企業支援	(一社)電気学会 東京都立産業技術研究センター・電気学会セミナー
2018年12月 6～7日	第35回 イオンクロマトグラフィー討論会	(公社)日本分析化学会 イオンクロマトグラフィー研究懇談会
2018年12月14日	工場向けワイヤレス IoT 講習会	総務省
2018年12月21日	研究者、技術者のための制振材料、音響材料計測評価、振動音響改正および適用方法	制振工学研究会 制振工学研究会 2018 技術交流会
2019年 1月 9日	講演会「電子技術の最前線」	東京工業大学
2019年 1月30～31日	第26回 超音波による非破壊評価シンポジウム	(一社)日本非破壊検査協会
2019年 3月 5日	2018年度 赤外線サーモグラフィ部門シンポジウム	(一社)日本非破壊検査協会
2019年 3月19日	第19回成形加工実践講座シリーズ 「二軸押出機による混合、混練の基礎」	(一社)プラスチック成形加工学会

(3) 都産技研後援

開催年月日	催事名	主催者
2018年10月 4～5日	Asian Pacific Prion Symposium 2018 (APPS2018)	アジア太平洋プリオン研究会
2018年11月 1日	第14回微粒化セミナー	(一社)日本エネルギー学会
2018年11月 2日	講演会「これからの社会を支える『低環境負荷技術』を考える」	(公社)日本セラミックス協会 資源・環境関連材料部会
2018年11月29～30日	第14回日本プラグフェスト	(一社)組込みシステム技術協会

4.1.2 マッチングの場の提供

企業が新たな顧客と出会う機会を提供し、製品化や事業化を促進することを目的に、ビジネスマッチング交流会「東京イノベーション発信交流会 2019」を開催した。都産技研の利用企業および都産技研と業務連携協定を締結している大学・研究機関、支援機関、行政機関、金融機関から推薦された企業が出展した。

2018(平成30)年度 年報

日時：2019（平成31）年1月29日（火）10:00～17:00

会場：都産技研 本部

後援：公益財団法人東京都中小企業振興公社

出展企業：55社 来場者：218名

◆プログラム概要◆

【基調講演】10:00～11:00

【展示会】11:00～17:00 出展企業55社が自社製品・技術を紹介

【技術シーズ発表会】13:30～16:15 都産技研および国立研究開発法人日本原子力研究開発機構、一般財団法人化学研究評価機構、国立研究開発法人産業技術総合研究所が保有技術シーズを紹介したほか、公益財団法人東京都中小企業振興公社による助成事業の紹介を行った。

4.1.3 異業種交流事業

技術革新の急速な進展とともに、消費者ニーズの多様化・高度化など、社会経済環境が大きく変化している中で、経営資源が十分ではない中小企業が発展していくためには、業種を越えて互いの技術力やノウハウを提供し合い、新分野進出への方向性を探っていく異業種交流が有効な手段の一つとなる。こうした交流を促進するために、新しい異業種交流グループを発足させる「グループ形成支援」と、既存グループ間の連携を促進する「グループ間交流支援」を行った。

(1) グループ形成支援

都産技研では、異業種交流グループ（旧称 技術交流プラザ）を1984（昭和59）年度から毎年発足させ、現在課題解決型と製品開発型を合わせ29グループ約400社の会員が活動している。2018（平成30）年度は課題解決型異業種交流グループの会員を新たに募集し、専門の助言者を配置して、7月から3月まで毎月1回の交流会を開催した。活動内容は、自社紹介、グループワーク、都産技研施設の見学、講演会などである。また、2016（平成28）年度に立ち上げた製品開発型異業種交流グループ（高齢者支援機器の開発）への活動支援も引き続き実施した。

異業種交流グループ名	開催日	開催回数	参加者数（延べ人数）
H30グループ（課題解決型）	7月～3月、各1回	9	128
高齢者支援機器開発グループ（製品開発型）	4月～8月、11月、2月、各1回	7	25

(2) グループ間交流支援

1) グループ協議会

既存グループが活動状況や計画を紹介することでグループ間相互の交流を促進するとともに、合同交流会の実施について検討し、第34回合同交流会の開催を決定した。

会議名	開催日	参加グループ数（参加者数）
グループ協議会	6月18日	16（19）

2) 合同交流会および合同交流会実行委員会

各グループ会員の交流を深めるために、都産技研異業種交流グループの全グループ会員が一堂に会する第34回合同交流会を、2019(平成31)年2月20日、本部にて開催した。開催に向けて、各グループから選任された委員による合同交流会実行委員会を設置し、実施内容を検討した。「人工知能と中小企業の未来観～もっと身近に人工知能!～」のテーマのもと、基調講演、製品展示会(28社/グループ)、企業プレゼンテーション(11社)を実施した。合同交流会および実行委員会の開催実績は以下のとおりである。

会議名(開催日)	開催回数	参加者数(延べ人数)
第34回合同交流会(2月20日)	1	171
合同交流会実行委員会など	4	66

3) 既存グループへの支援

自主運営に移行している既存の課題解決型27グループに対し、会議室の利用、講演依頼への対応、情報の提供などのグループ活動への支援を行うとともに、グループ会員からの相談に対応した。既存異業種交流グループが都産技研において定例会などを開催した実績は、以下のとおりである。

会議名	利用回数	参加者数(延べ人数)
定例会など	95	855

4.1.4 業種別交流会

業界が抱えている技術的な課題を含めたニーズを的確に把握し、各事業に反映するために業種別交流会を開催している。中小企業の技術力向上のために、業界の活動状況や技術的問題点、今後の取り組みなどについての情報や意見の交換を行った。

No.	業界名	開催年月日	企業等参加者数 (都産技研参加者数)	内容
1	多摩・区内繊維関連業界	2018年 7月20日	25 (7)	都産技研、東京都産業労働局商工部、(公財)東京都中小企業振興公社の事業説明。業界の現状、課題、計画および要望などを受けた後、意見交換。多摩テクノプラザ複合素材開発セクター見学。
2	東部金属熱処理工業組合	2018年 9月12日	25 (8)	金属熱処理業界の近況、都産技研の事業紹介、意見交換。航空機産業支援関連、エリクセン試験装置、振動摩擦摩耗試験装置見学。
3	東京都鍍金工業組合	2018年 10月17日	2 (10)	業界の現状、要望、課題を受け、都産技研の対応を説明。
4	東京温度検出端工業会	2018年 10月26日	22 (6)	都産技研事業の紹介および業界支援と今後の取り組みに向けた意見交換。業界要望に対する都産技研の対応を説明。
5	東京鼈甲組合連合会	2019年 3月14日	19 (3)	2018年度東京都受託研究を報告後、業界支援と今後の取り組みに向けた要望を受け、意見交換。城東支所の施設見学。

4.1.5 技術研究会

技術力および技術開発力の向上を目指す中小企業の技術者とともに、製品開発など技術情報の交換を積極的に行った。

No.	名 称	設立 年月	活 動 目 的	企業延べ 参加者数 (都産技研)	開催 回数
1	化学技術研究会	1986年 10月	化学技術の向上、相互の技術交換	66 (14)	5
2	静電植毛加工技術研究会	1987年 4月	静電植毛に関する知識と技術の向上、研究討論会などの開催、技術資料の収集	6 (2)	1
3	超音波応用懇談会	1988年 3月	超音波および周辺技術に関する知識と技術の向上、異業種間の交流など	119 (33)	10
4	PC 情報研究会	1989年 7月	パソコンを主体とする情報機器の高度利用技術の研究、講習会の開催など	46 (44)	22
5	締結問題研究会	1994年 2月	締結部品の製造に関する知識と技術の向上、講習会などの開催、技術資料の収集	62 (14)	6
6	トライボコーティング 技術研究会	1994年 11月	表面改質技術およびその評価法についての情報収集、情報交換、共同研究	86 (13)	4
7	東京都健康福祉研究会	1996年 4月	健康・福祉に関する機器・用具・用品の技術と応用、管理運用についての研究	56 (14)	6
8	信頼性安全技術研究会	1997年 4月	信頼性技術の向上、研究討論会・講演会などの開催、技術情報交換	185 (30)	10
9	粉末冶金技術研究会	1997年 4月	粉末冶金全般に関する技術について、情報収集、情報交換、共同研究などを実施	50 (4)	2
10	表面科学交流会	1998年 4月	めっき会社を中心とした企業の連携を強化し表面科学に関する見聞を広める	28 (3)	3
11	ユニバーサルファッション 製品の企画開発研究会	2001年 10月	ユニバーサルファッション製品および高齢者対応製品の開発支援・情報交換	68 (20)	13
12	循環型技術研究会	2002年 7月	循環型技術の情報交換や、異業種交流・産学公連携による技術開発の場として活動する	178 (8)	9
13	デザインマーケティング 技術研究会	2011年 4月	デザイナーのセルフマーケティングについて研究。地域地場産業との合同プロジェクト体制や営業技術の研究	41 (9)	5
14	塗膜性能評価研究会	2011年 10月	航空宇宙産業におけるサプライヤーチェーンの構築、マーケットの獲得	11 (11)	3
15	ガラス技術交流会	2012年 3月	広くガラス技術に関して、会員相互の交流や国際交流を推進することによる、技術者の活性化や新技術の理解習得など	114 (19)	5
16	感性工学研究会	2013年 1月	新しい工学技術分野としての感性工学について理解を深め、企業や研究者による製品の感性評価や感性工学技術の情報交換、会員相互による研究の協力体制の確立など	77 (9)	7
17	TIRI 情報セキュリティ 研究会	2015年 4月	サイバー攻撃の実態調査、生活ロボットへの組み込みシステム、中小企業向けセキュリティ簡易診断法開発、情報セキュリティに関する勉強会や普及促進活動	69 (12)	8
18	金属加工の潤滑技術研究会	2016年 1月	金属加工に用いられる潤滑剤の効果について議論・検証し、中小企業が抱える潤滑技術の課題を、相互の技術と知識により解決する	29 (9)	3
19	フィルム物性研究会	2018年 2月	新たな機能・価値を付与したフィルムプロダクトを創出し、ものづくりの現場の活性化を目指す	144 (34)	7

※2018（平成30）年度活動研究会のみ記載

4.2 行政等支援機関連携

4.2.1 協定・覚書締結一覧

大学研究機関、産業支援機関、行政機関、金融機関と協定、覚書などを締結し、産業振興および中小企業振興のための事業連携を図っている。2019（平成31）年3月31日現在の各機関との「協定書」、「覚書」の締結状況は以下のとおりである。

No.	機関名	協定書・覚書	締結年月日
1	(公財)東京都中小企業振興公社	協定書	2006年 4月 1日
		覚書	2007年 1月 4日
2	(一社)コラボ産学官	協定書	2006年 8月10日
		秘密保持契約書	2006年 9月 1日
3	産業技術大学院大学	協定書	2007年 2月26日
4	首都大学東京	業務協定書	2007年 3月15日
5	東洋大学 バイオ・ナノエレクトロニクス研究センター	協定書	2008年 4月 1日
6	長岡技術科学大学	協定書	2008年 8月26日
		覚書	2009年 8月 6日
7	新宿区	協定書	2008年 9月22日
8	東京都立多摩科学技術高等学校	覚書	2008年10月14日
9	芝浦工業大学	協定書	2009年 3月12日
		教育研究協力に関する協定	2009年11月10日
10	板橋区	業務連携に関する覚書	2009年 6月 3日
11	港区	協定書	2009年 7月16日
12	多摩信用金庫	たましん事業支援センターの 活用に関する覚書	2009年 7月16日
13	府中市	覚書	2010年 5月13日
14	(国研)産業技術総合研究所	協定書	2010年11月24日
15	北区	覚書	2011年 2月21日
16	(公財)まちみらい千代田	覚書	2011年 4月14日
17	品川区	協定書	2011年 6月 1日
18	東京都立産業技術高等専門学校	協定書	2011年 9月12日
19	江東区	協定書	2011年 9月14日
20	朝日信用金庫	協定書	2012年 1月27日
21	(一財)機械振興協会	協定書	2012年 3月 8日
22	(公財)日本発明振興協会	協定書	2012年 4月 9日
23	江東信用組合	協定書	2012年 6月 6日
24	東京電機大学	協定書	2012年 7月23日
25	明星学苑明星大学	協定書	2012年10月12日
26	(公財)東京都農林水産振興財団	協定書	2012年12月 7日
27	日野市	覚書	2013年 2月26日
28	昭島市	協定書	2013年 3月12日
29	城南信用金庫	覚書	2013年 3月13日
30	(一財)化学研究評価機構	協定書	2013年 3月21日
31	さわやか信用金庫	協定書	2013年 4月 1日
32	(一社)東京工業団体連合会	協定書	2013年 9月 5日
33	東京都商工会連合会	協定書	2013年10月22日
34	西武信用金庫	協定書	2013年10月28日
35	東京理科大学	協定書	2013年11月 5日
36	葛飾区	協定書	2013年11月26日

2018(平成30)年度 年報

No.	機関名	協定書・覚書	締結年月日
37	東京工業高等専門学校	協定書	2014年 3月26日
38	法政大学	協定書	2014年 4月11日
39	東京東信用金庫	協定書	2014年 6月 3日
40	芝信用金庫	協定書	2014年 6月11日
41	東京商工会議所	協定書	2014年 7月14日
42	青梅市	協定書	2014年 8月26日
43	青梅商工会議所	協定書	2014年 8月26日
44	千葉工業大学	協定書	2014年 9月30日
45	墨田区	協定書	2014年11月13日
46	タイ工業省	協定書	2014年11月25日
47	電気通信大学	協定書	2014年12月09日
48	荒川区	協定書	2015年 3月03日
49	泰日経済技術振興協会	協定書	2015年 4月24日
50	(一社)組込みシステム技術協会	協定書	2015年10月19日
51	(公財)台東区産業振興事業団	協定書	2015年11月05日
52	泰日工業大学	協定書	2016年 2月04日
53	亀有信用金庫	協定書	2016年 2月17日
54	信州大学	協定書	2016年 3月10日
		覚書	2016年 5月31日
55	(株)東京きらぼしフィナンシャルグループ	協定書	2016年 5月27日
56	江戸川区	協定書	2017年 3月29日
57	東京海洋大学	協定書	2017年 3月30日
58	東京農工大学	協定書	2017年 9月13日
59	兵庫県立大学	協定書	2018年 5月 1日
60	足立区	協定書	2018年 8月 6日
61	八王子市	協定書	2019年 3月27日

個別部署での協定締結

No.	機関名	協定書・覚書	締結年月日	連携部署
1	(株)日本政策金融公庫 大森支店	覚書	2013年10月 1日	城南支所
2	(株)日本政策金融公庫 立川支店	覚書	2013年10月30日	多摩テクノプラザ
3	(株)日本政策金融公庫 千住支店	覚書	2013年12月18日	城東支所
4	(株)日本政策金融公庫 江東支店	覚書	2014年 1月17日	墨田支所

4.2.2 区市町村などとの連携

地域の中小企業を支援している区市町村などとの連携強化に努め、産学公連携に関する技術相談支援の拡大をはじめ、都産技研利用企業への利用料助成制度の実施など、企業支援の充実を図った。2018（平成30）年度の主な取り組みは以下のとおりである。

(1) 区部での連携

1) 城東地域

機関名	連携事業
台東区	<ul style="list-style-type: none"> ・(公財)台東区産業振興事業団による都産技研利用助成の継続「試験研究機関活用支援助成金」 ・(公財)台東区産業振興事業団と墨田支所・生活技術開発セクターとの共催見学会（7月）

機関名	連携事業
墨田区	<ul style="list-style-type: none"> 都産技研利用助成の継続「依頼試験等利用補助」 スミファ(すみだファクトリーめぐり)へ参加(11月:都産技研墨田支所)
江東区	<ul style="list-style-type: none"> 都産技研利用助成の継続「都立産業技術研究センター利用料の一部補助」
荒川区	<ul style="list-style-type: none"> 都産技研利用助成の継続「試験研究機関活用支援事業」 連携技術相談の対応(1件) 連携会議および見学会を開催(5月) MACC サンアス会の見学会を実施(7月) 荒川区役所を訪問し、平成29年度「荒川区地域産業活性化研究補助金」に採択された研究についての成果報告および意見交換(8月)
足立区	<ul style="list-style-type: none"> 都産技研利用助成の継続「技術支援補助金」 連携会議および見学会を開催(5月) 協定締結(8月) 都産技研本部および城東支所見学会を実施(11月、12月) 「東京イノベーション発信交流会2019」への出展企業推薦(11月)
葛飾区	<ul style="list-style-type: none"> 都産技研利用助成の継続「製品性能試験費用補助事業」 葛飾区工業振興会議に参加(2回) 葛飾区産学公連携推進会議に参加(3回) 区内官公署(所)長連絡協議会に参加(2回) 「第34回葛飾区産業フェア」(10月)を後援し、実行委員会へ参加(6回) 「第5回町工場見本市2019」に出展(2月:東京国際フォーラム)
江戸川区	<ul style="list-style-type: none"> 都産技研利用助成の継続「産技研依頼試験等利用助成金」 連携技術相談の対応(9件) 連携会議および見学会を開催(4月) 「第20回産業ときめきフェア in EDOGAWA」を後援し、出展(11月:タワーホール船堀) 「東京イノベーション発信交流会2019」への出展企業推薦(11月)

2) 城南地域

機関名	連携事業
品川区	<ul style="list-style-type: none"> 都産技研利用助成の継続「東京都立産業技術研究センター利用料等助成」 連携技術相談の対応(27件) 連携会議および見学会を開催(4月) 品川産業支援交流施設(SHIP)の見学および連携会議(7月) 品川区の科学技術交流事業へ協力し、モンゴル国高等専門学校の見学に対応(8月/学生10名、教員1名) 品川区、目黒区、板橋区、江戸川区、北区、さいたま市合同開催「ものづくり商談会」へ出展し、事業紹介および技術相談対応(9月:品川産業支援交流施設「SHIP」) 「東京イノベーション発信交流会2019」への出展企業推薦(11月) 「SHINAGAWA イノベーションフォーラム2019 in 五反田パレー」を後援し、IoT事業の紹介および都産技研のチリンロボットを出展(1月:大崎ブライトコアホール)
大田区	<ul style="list-style-type: none"> 「第11回大田区加工技術展示商談会」へ出展し、事業紹介(7月:大田区産業プラザPi0) 羽田空港跡地第1ゾーン整備事業説明会に参加(10月) 「第8回おおた研究・開発フェア」を後援し、出展(10月:大田区産業プラザPi0) 「第23回おおた工業フェア」へ出展し、事業紹介および技術相談対応(2月:大田区産業プラザPi0) 地域未来促進法地域経済牽引促進協議会に参加(3月)

2018(平成30)年度 年報

3) 城北地域

機関名	連携事業
北区	<ul style="list-style-type: none"> 都産技研利用助成の継続「依頼試験等補助事業」、「産学連携研究開発支援事業」 北区・板橋区・都産技研共催セミナー「海外で通用する高品質な評価試験」を開催（12月：参加者14名）
板橋区	<ul style="list-style-type: none"> （公財）板橋区産業振興公社による都産技研利用助成の継続「公的試験研究機関等利用助成金」、「産学公連携研究開発支援事業助成金」 連携技術相談の対応（15件） 連携会議および見学会を開催（4月） 「第22回いたばし産業見本市」を後援し、実行委員を派遣（3回）および出展（11月） 「東京イノベーション発信交流会2019」への出展企業推薦（11月） 北区・板橋区・都産技研共催セミナー「海外で通用する高品質な評価試験」を開催（12月：参加者14名）

4) 城西地域

機関名	連携事業
世田谷区	<ul style="list-style-type: none"> 都産技研利用助成の継続「東京都立産業技術研究センター利用補助金」
練馬区	<ul style="list-style-type: none"> 練馬産業見本市「ねりま EXP02018」へ出展し、事業紹介および技術相談に対応（10月：としまえん屋内館）

5) 都心・副都心地域

機関名	連携事業
千代田区	<ul style="list-style-type: none"> （公財）まちみらい千代田による都産技研利用助成の継続「マネジメント・サポートデスク」
港区	<ul style="list-style-type: none"> 都産技研利用助成の継続「新技術活用支援事業補助金」 連携会議および見学会を開催（8月） 都産技研・港区共催セミナー「欧州向け製品輸出入門・中小企業人材育成塾グローバル研修「CEマーキング入門+改正RoHS指令入門」セミナーを開催（2月：参加者36名）
新宿区	<ul style="list-style-type: none"> 「東京イノベーション発信交流会2019」への出展企業推薦（11月）
文京区	<ul style="list-style-type: none"> 文京区「中小企業サポートブック2018」に、都産技研を支援機関として紹介

(2) 多摩地域での連携

機関名	連携事業
八王子市	<ul style="list-style-type: none"> 都産技研利用助成の継続「小規模企業産学連携促進補助金」、「産学連携による研究・開発費等補助金」 八王子市産業支援機関担当者会議に参加（5月） 連携会議を開催（10月、12月） 協定締結（3月）
青梅市	<ul style="list-style-type: none"> おうめものづくり支援事業専門家会議に参加（3回） 「第51回青梅産業観光まつり」へ出展（11月：永山公園グラウンド）
府中市	<ul style="list-style-type: none"> 第29回府中市工業技術展「ふちゅうテクノフェア」へ出展（10月：府中市市民活動センタープラッツ）
昭島市	<ul style="list-style-type: none"> 都産技研利用助成の継続「昭島市ものづくり産業技術支援事業補助金」 「第50回昭島市産業まつり」へ出展（11月：昭島市民会館）
日野市	<ul style="list-style-type: none"> 都産技研利用助成の継続「日野市ものづくり産業開発支援事業」 日野おもてなしロボットプロジェクト会議へ出席（6月） 「東京イノベーション発信交流会2019」への出展企業推薦（11月）
羽村市	<ul style="list-style-type: none"> 都産技研利用助成の継続「羽村市地域イノベーション創出事業助成制度」

4.2.3 金融機関との連携

機関名	連携事業
多摩信用金庫	<ul style="list-style-type: none"> ・「東京イノベーション発信交流会 2019」への出展企業推薦（11月） ・「第16回多摩ブルー・グリーン賞」選考委員会へ委員派遣（3回） 表彰式に参加（12月） ・「第18回たま工業交流展」を共同主催し、多摩テクノプラザが出展 多摩テクノプラザビジネスデーも同時開催（2月）
さわやか信用金庫	<ul style="list-style-type: none"> ・連携技術相談対応（10件） ・「第14回ビジネスフェア」を後援し、当日相談対応を実施（10月）
朝日信用金庫	<ul style="list-style-type: none"> ・情報誌 Asahi News にて、都産技研の事業紹介「利用料金の助成制度」（8月） ・情報誌 Asahi News による PR 協力（4件） ・「東京イノベーション発信交流会 2019」への出展企業推薦（11月）
城南信用金庫	<ul style="list-style-type: none"> ・個別訪問（8件） ・「城南同業種交流会」に参加し、技術シーズ紹介および個別相談対応（5月、11月） ・「2018“よい仕事おこし”フェア」へ出展（9月）
西武信用金庫	<ul style="list-style-type: none"> ・「第19回ビジネスフェア」へ出展（11月：東京ドームシティープリズムホール） ・「東京イノベーション発信交流会 2019」への出展企業推薦（11月）
東京東信用金庫	<ul style="list-style-type: none"> ・「ひがしんビジネスフェア 2018」へ出展（11月） ・「METALEX2018」にて都産技研ブース内に東信推薦企業が出展（11月：バンコク BITEC）
芝信用金庫	<ul style="list-style-type: none"> ・連携技術相談対応（2件）
亀有信用金庫	<ul style="list-style-type: none"> ・連携技術相談対応（2件） ・「東京イノベーション発信交流会 2019」への出展企業推薦（11月）
(株)東京きらぼし フィナンシャルグ ループ	<ul style="list-style-type: none"> ・専用相談シートによる連携相談（33件） ・行員向け都産技研本部見学会を実施（8月、見学者39名） ・TIRI NEWS 9月号「都産技研 連携機関紹介」にて連携事業を紹介 ・東京きらぼしFG・公社・川崎市等主催「知的財産マッチング会」 （11月：川崎市コンベンションホール） 都産技研シーズ紹介（3件）、個別相談に職員を1名派遣し、2社を対応 ・「東京イノベーション発信交流会 2019」への出展企業推薦（11月） ・行員向け都産技研城南支所見学会を実施（1月、見学者27名）
青梅信用金庫	<ul style="list-style-type: none"> ・「第18回 あおしんビジネス支援マッチング大会」へ出展（10月）
シグマバンク グループ	<ul style="list-style-type: none"> ・「第10回ビジネス交流会」へ出展（8月）
(一社)東京都信 用金庫協会	<ul style="list-style-type: none"> ・2019年優良企業表彰制度へ選考委員を派遣（3月）
(株)日本政策金融 公庫	<ul style="list-style-type: none"> ・公的支援制度補助金セミナーに参加（2月）

4.2.4 大学・研究機関等との連携

大学や研究機関などと各種事業や共同研究に取り組み、連携事業を推進した。

機関名	連携事業
首都大学東京	<ul style="list-style-type: none"> ・連携会議を定例化（年6回） ・都産技研本部見学会を開催し、連携に向け設備、研究、事業紹介を実施（5月） ・多摩テクノプラザ見学会を開催し、学長らとの懇談会（6月）、研究者技術交流会（2月）を実施 ・首都大学東京施策提案発表会にて2件の発表（6月：都庁） ・「TIRI クロスミーティング 2018」で研究発表1件（7月） ・共同研究成果による国際学会発表をプレス発表（8月） ・首都大学東京システムデザインフォーラムを後援し、都産技研ロボット関連事業を紹介（10月：首都大） ・第2回首都大学東京技術懇親会（ロボット/IoT編）（主催：首都大学東京、(株)東京きらぼしフィナンシャルグループ）を後援し、中小企業へのIoT化支援事業を紹介（12月） ・日野キャンパス視察と学長との懇談会（2月）
産業技術大学院大学	<ul style="list-style-type: none"> ・「オープンインスティテュート（OPI）企画経営委員会」へ委員派遣（月1回程度） ・「東京イノベーション発信交流会 2019」の「連携機関の支援事業紹介」にてパネル展示・資料配布（1月） ・「第14回臨海地区産学官連携フォーラム」にて助教が講演（2月：(国研)産業技術総合研究所臨海副都心センター）
東京都立産業技術高等専門学校	<ul style="list-style-type: none"> ・都立産技高専運営協力者委員として1名派遣し、特別授業を実施（7月） ・「TIRI クロスミーティング 2018」にて研究発表1件（7月） ・「東京イノベーション発信交流会 2019」にてパネル展示、資料配布（1月）
東京都立多摩科学技術高等学校	<ul style="list-style-type: none"> ・科学技術アドバイザーとして1名派遣し、科学技術に関する特別授業を実施（7月）
東京理科大学	<ul style="list-style-type: none"> ・連携相談1件 ・「イノベスタ 2018 ビジネスデー」の「連携機関紹介」にてパネル展示・資料配布（5月） ・金属3Dプリンタ技術交流会を実施（12月）
電気通信大学	<ul style="list-style-type: none"> ・連携相談1件 ・「超スマート社会」プロジェクト全体会議への参加（年4回） ・文部科学省データ関連人材育成プログラム事業の「データアントレプレナーコンソーシアム」の連携機関に、都産技研が加盟（8月） ・第34回東京都異業種交流グループ合同交流会にて教授が基調講演（2月）
東京電機大学	<ul style="list-style-type: none"> ・「イノベスタ 2018 ビジネスデー」の「連携機関紹介」にてパネル展示・資料配布（5月） ・「TIRI クロスミーティング 2018」にて研究発表1件（7月）
千葉工業大学	<ul style="list-style-type: none"> ・イノベスタ 2018 ビジネスデーの「連携機関紹介」にてパネル展示・資料配布（5月）
芝浦工業大学	<ul style="list-style-type: none"> ・「東京イノベーション発信交流会 2019」にてパネル展示、技術シーズを2件紹介（1月）
信州大学	<ul style="list-style-type: none"> ・「信州大学 近未来埋め込み型歩行アシストサイボーグプロジェクト」に加盟 ・「東京イノベーション発信交流会 2019」への出展企業推薦（11月） ・生活技術開発セクターの見学会を開催し、技術交流を実施（3月）
東京農工大学	<ul style="list-style-type: none"> ・「第12回臨海地区産学官連携フォーラム」に准教授が講演（5月：アジアスタートアップオフィス MONO） ・連携技術相談1件
東京工業大学	<ul style="list-style-type: none"> ・都産技研・東京工業大学共同主催講演会「電子技術の最前線」を実施（1月）
東邦大学	<ul style="list-style-type: none"> ・共同研究成果を特許出願し（8月）、第67回日本分析化学会にて成果発表したことをプレス発表（10月）
拓殖大学	<ul style="list-style-type: none"> ・共同研究を開始したことをプレス発表（2月）
兵庫県立大学	<ul style="list-style-type: none"> ・先端デバイス開発に関するコンソーシアム（講演会）を共催（7月、51名）

機関名	連携事業
東洋大学パイ オ・ナノエレクトロニクス研究 センター	「イノベスタ 2018 ビジネスデー」の「連携機関紹介」にてパネル展示・資料配布（5月）
(国研)産業技術 総合研究所	<ul style="list-style-type: none"> ・連携相談1件 ・「第12回臨海地区産学官連携フォーラム」を共催（5月：アジアスタートアップオフィス MONO） ・新規分野の技術連携開始のため情報交換会を実施（8月、10月） ・「1都3県1市における次世代自動車産業分野の連携支援計画/経産省」の参画機関として相談の連携を開始（8月） ・「第13回臨海地区産学官連携フォーラム」を共催（10月：都産技研） ・共同技術支援プロジェクト「東京ベイイノベーションフォーラム」を共催（参加企業7社、12月：(国研)産業技術総合研究所臨海副都心センター） ・「第14回臨海地区産学官連携フォーラム」を共催（2月：(国研)産業技術総合研究所臨海副都心センター） ・連携協議会を実施（3月）
(公財)東京都農 林水産振興財団	<ul style="list-style-type: none"> ・連携相談1件 ・連携会議にて研究連携紹介、技術分野紹介、意見交換を実施（5月） ・2013-2014年度共同研究成果に基づいた品種登録について意見交換会の実施（7月）
(公財)日本発 明振興協会	・「第44回発明大賞表彰事業」を後援、委員派遣（12月：東京）
(一財)機械振興 協会	・「東京イノベーション発信交流会 2019」への出展企業推薦（11月）
(一財)化学研究 評価機構	<ul style="list-style-type: none"> ・「2018年度 JCII 標準化調査研究成果発表会」を後援（8月：東京、9月：大阪） ・JCII・TIRI 連携推進会議（11月） ・「東京イノベーション発信交流会 2019」にてパネル展示、技術シーズを1件紹介（1月）
(一社)首都圏 産業活性化協会	<ul style="list-style-type: none"> ・技術連携交流会会議へ出席（6月） ・「女性研究者シーズ集 vol.2」、「大学技術工房 70 vol.8」へ計15件の研究紹介を掲載（7月） ・「地域イノベ・技術連携交流会」にて研究成果を4件発表（10月） ・地域イノベ・技術連携協議会に出席（11月：東京）
(一社)組込み システム技術協 会	<ul style="list-style-type: none"> ・組込みシステム技術協会関東支部会にて、事業および TKF 活動を紹介（5月：東京、参加者50名） ・都産技研と組込みシステム技術協会の連携セミナー「中小企業のためのサイバーセキュリティ入門」を共催（6月、参加者16名） ・「Embedded Technology 2018/IoT Technology 2018」を協賛（11月：パシフィコ横浜） ・「第14回日本プラグフェスト」を後援（11月） ・IoT 高度化委員会 WG との意見交換会（2月）
(一社)コ ラボ 産学官	<ul style="list-style-type: none"> ・イノベスタ 2018 ビジネスデーの「連携機関紹介」にてパネル展示・資料配布（5月） ・「東京イノベーション発信交流会 2019」への出展企業推薦（11月）
東京都商工 会 連合会	<ul style="list-style-type: none"> ・多摩地域ものづくり人材確保支援協議会に委員として職員を派遣 ・東京都商工会連合会第57回通常総会参加（5月：東京） ・「東京イノベーション発信交流会 2019」への出展企業推薦（11月） ・東京 IoT 研究会観光 IoT ワーキンググループとの連携会議（12月）

機関名	連携事業
東京商工会議所	<ul style="list-style-type: none"> ・東京商工会議所葛飾支部評議員会へ出席（2回） ・東京商工会議所大田支部役員会・評議会に出席（7月：東京） ・「東京イノベーション発信交流会 2019」への出展企業推薦（11月） ・都産技研本部見学会を開催し、意見交換を実施（12月） ・「東京イノベーション発信交流会 2019」のPR協力として、「東商テクノネット事業・メール情報」にて配信（1月） ・「産学公連携相談窓口」事業の継続 連携相談対応 10件および参画機関会議へ出席し、意見交換を実施（3月：東京）
青梅商工会議所	<ul style="list-style-type: none"> ・「東京イノベーション発信交流会 2019」への出展企業推薦（11月）
(独)情報処理推進機構	<ul style="list-style-type: none"> ・第3回 STAMP ワークショップを後援（12月）
総務省	総務省関東総合通信局「工場向けワイヤレス IoT 講習会」を共催（12月）

4.2.5 首都圏公設試験研究機関との連携

2002（平成 14）年度、東京都、埼玉県、千葉県、神奈川県のお公設試が連携し、都域の枠にとらわれず、域内中小企業の技術支援を行うために、首都圏公設試験研究機関連携体（以下、「TKF」という。）を設立した。2008（平成 20）年度からは横浜市も参加し、5 機関体制となった。また、公設試では 2011（平成 23）年度より長野県、2013（平成 25）年度より栃木県、群馬県、山梨県、山梨県富士工業技術センター、さらに 2014（平成 26）年度には茨城県、静岡県、2015（平成 27）年度には新潟県がオブザーバー機関として参加している。

連携 5 機関：都産技研、埼玉県産業技術総合センター、千葉県産業支援技術研究所、地方独立行政法人神奈川県立産業技術総合研究所、横浜市工業技術支援センター

オブザーバー機関：関東経済産業局、東京都産業労働局商工部、国立研究開発法人産業技術総合研究所、茨城県産業技術イノベーションセンター、栃木県産業技術センター、群馬県立産業技術センター、新潟県工業技術総合研究所、山梨県産業技術センター、長野県工業技術総合センター、静岡県工業技術研究所

TKF ではウェブサイト「首都圏テクノナレッジ・フリーウェイ」の運営や、「IT・情報」、「高分子材料」、「デザイン」、「バイオ技術」、「ロボット技術」の技術分野における研究員の情報交換を目的としたパートナーグループの活動、研究員の相互派遣活動（TKF ミニインターンシップ）を通じて、相互の交流を進めている。

(1) 首都圏公設試連携推進会議

連携の具体的な方向性などを検討するために、定期的に首都圏公設試連携推進会議を開催している。2018（平成 30）年度からは広域首都圏輸出製品技術支援センター事務局会議および運営委員会も兼ねた会議を開催している。また、年に 1 度 TKF 事業の成果発表の場として TKF フォーラムを開催し、連携の充実を図ってきた。2015（平成 27）年度からは TKF フォーラムを一般公開し（TKF オープンフォーラム）、中小企業に対する情報提供の場、交流の場としている。

No.	開催年月日	開催場所	参加機関	出席者数
1	2018年 7月17日※	ホテルポートプラ ザちば (千葉県産業支援 技術研究所)	連携5機関、オブザーバー機関、一般参加者	107名
2	2018年 10月19日	都産技研	連携5機関、オブザーバー機関	45名
3	2019年 1月18日	埼玉県産業技術総 合センター	連携5機関、オブザーバー機関	50名

※TKF オープンフォーラムとして開催した。

(2) 他機関での発表

他機関で実施する研究発表会に、都産技研の職員を派遣して広く技術の普及活動を行った。発表実績は以下のとおりである。また、産学連携による研究成果の実用化を目指した国立研究開発法人科学技術振興機構が主催する「新技術説明会」に、公設試験研究機関として初参加した。2018(平成30)年度は「ものづくり技術 新技術説明会」として、都産技研、埼玉県産業技術総合センター、千葉県産業支援技術研究所、地方独立行政法人神奈川県立産業技術総合研究所、栃木県産業技術センター、山梨県産業技術センター、静岡県工業技術研究所の合計7機関が参加した。

No.	開催年月日	発表タイトル	発表者	主催機関	大会等の名称
1	2018年 5月17日	マグネシウム合金切削屑の 無加圧焼結による再生	岩岡 拓	科学技術振興機 構、都産技研、 他6機関	ものづくり技術 新技術説明会
2	2018年 5月17日	架橋速度を調整したゲニ ン/コラーゲン・ゼラチン ゲルの開発	成田武文	科学技術振興機 構、都産技研、 他6機関	ものづくり技術 新技術説明会
3	2018年 5月17日	亀裂検知用eテキスタイル の開発	窪寺健吾	科学技術振興機 構、都産技研、 他6機関	ものづくり技術 新技術説明会
4	2018年 7月17日	中小企業の試作評価時にお けるIoT導入事例の紹介 ～従来の評価システムをよ り安価に、より簡単に～	横田浩之	千葉県産業支援 技術研究所	平成30年度オープ ンリサーチフォーラ ム
5	2018年 7月17日	生活技術開発セクターにお ける健康福祉研究シーズの 紹介～着用により上半身の 筋トレを計測するパーソ ナルトレーナースーツほか～	後濱龍太	千葉県産業支援 技術研究所	平成30年度オープ ンリサーチフォーラ ム
6	2018年 7月17日	X線CTを用いた3次元画像か らの空隙率測定方法の開発	大平倫宏	千葉県産業支援 技術研究所	平成30年度オープ ンリサーチフォーラ ム
7	2018年 9月27日	多孔質体を用いた遠心ポン プの開発	小西 毅	埼玉県産業技術 総合センター	平成30年度オープ ンラボ
8	2018年 10月24日	RoHS指令に対応したフタル 酸エステル類の分析方法お よび移行性の検討	平井和彦	(地独)神奈川県 立産業技術総合 研究所	KISTEC Innovation Hub 2018
9	2018年 10月26日	多孔性窒素ドーパカーボン を白金触媒担体として用い た金属空気電池および燃料 電池用電極触媒	立花直樹	(地独)神奈川県 立産業技術総合 研究所	KISTEC Innovation Hub 2018

No.	開催年月日	発表タイトル	発表者	主催機関	大会等の名称
10	2018年 10月26日	木粉を基材とした複合材料によるAM造形への試み (Additive Manufacturing)	酒井日出子	(地独)神奈川県立産業技術総合研究所	KISTEC Innovation Hub 2018
11	2018年 10月26日	促進耐候試験における熱処理木材の表面割れ発生とその防止	村井まどか	(地独)神奈川県立産業技術総合研究所	KISTEC Innovation Hub 2018
12	2018年 12月14日	都産技研の取り組み紹介 -CNF シートの基礎物性を中心に-	佐野 森	(株)島津製作所(京都)、(地独)京都市産業技術研究所	第2回・CNFに係る公設試研究者向けの勉強会

4.2.6 公益財団法人東京都中小企業振興公社等との連携

(1) 公益財団法人東京都中小企業振興公社との連携

都内中小企業の振興を図るため、2006（平成 18）年、公益財団法人東京都中小企業振興公社と協定を締結し、各種事業を協力して実施している。

都産技研の城東、城南の各支所長がそれぞれ東京都城東地域中小企業振興センター、東京都城南地域中小企業振興センターのセンター長を兼任し、技術支援および経営支援を統轄する体制を整えている。また、産業サポートスクエア・TAMA では、「産業サポートスクエア・TAMA 運営協議会」を設置し、中小企業振興の総合的支援および事業運営を協力して実施している。

種別	連携事業
講座・セミナー・フォーラム	<ul style="list-style-type: none"> ・「輸出のための認証取得支援ワークショップ」を共催（全3回/計154名参加） ・第1回東京都デザイン導入支援セミナー「中小企業が取り組む新商品開発」に協力（5月：都産技研本部/参加者86名） ・都産技研等主催連携イベント「中小企業のためのサイバーセキュリティ入門」に、公社設備支援課が事業紹介「サイバーセキュリティ対策促進助成金のご案内」（6月） ・「東京手仕事」プロジェクト商品開発海外輸出セミナー（7月） ・公社多摩支社連携「デジタルファブ리케이션の動向」3DAM等見学、3D-CAD入門のオーダーメイドセミナー開催（7月） ・公社IoTセミナーinバンコク（7月） ・第3回IoTセミナー「中小企業を強くするためのAI活用法セミナー」を共催（12月、参加者104名） ・中小企業のIoT化支援事業セミナーを後援（2月、参加者93名）
交流会・マッチング会	<ul style="list-style-type: none"> ・バンコクにおいて企業交流会を共催（4回） ・「TIRI クロスミーティング2018」（7月）、「東京イノベーション発信交流会2019」（1月）にて、公社助成事業説明を実施 ・「新技術創出交流会」に出展（9月） ・都産技研・(国研)産業技術総合研究所共同技術支援プロジェクトへ公社から企業3社推薦（11月） ・東京きらぼしFG・公社・川崎市等主催「知的財産マッチング会」（11月：川崎市コンベンションホール） 都産技研シーズ紹介（3件）、個別相談に職員を1名派遣し、2社を対応 ・「東京イノベーション発信交流会2019」（1月） 公社より出展企業4社推薦および公社コーディネーター、ビジネスナビゲーターなどがマッチングに協力 ・公社主催「知的財産マッチング会」（3月：板橋区立文化会館） 都産技研シーズ紹介（4件）、個別相談に職員1名派遣し、2社を対応

種別	連携事業
連携支援	<ul style="list-style-type: none"> ・連携技術相談の対応（3件） ・「事業化チャレンジ道場」事業に協力し、溶融積層造形装置による試作品造形に関するオーダーメイド開発支援を実施（8件） ・「東京手仕事」プロジェクトへ商品開発アドバイザーを派遣し、伝統工芸品の商品開発を支援 ・異業種交流グループの運営について意見交換（11月） ・冊子「東京都立産業技術研究センター、東京都中小企業振興公社、連携支援事例のご紹介」を作成し配布（3月）
人材育成	<ul style="list-style-type: none"> ・公社新入職員座談会（5月：都産技研本部） ・公社取引担当者連絡会議および多摩支社新入職員向けの多摩テクノプラザ見学会を実施（8月、見学者15名） ・共同で東京きらぼしFGの見学を受け入れ、両法人の事業説明を実施（1月、見学者27名）
広報活動	<ul style="list-style-type: none"> ・都産技研メールニュースに公社事業の記事を14回掲載 ・公社メールマガジンに都産技研事業の記事を13回掲載 ・公社アーガスに技術解説の連載記事を4回掲載 ・広域多摩イノベーションプラットフォーム（IPF）のメール配信および公社ウェブサイトへの掲載による「東京イノベーション発信交流会2019」のPR協力 ・公社印刷物送付サービスによる「東京都異業種交流グループ」会員募集の協力

※表中の「公社」は、公益財団法人東京都中小企業振興公社を指す。

(2) 医療機器産業参入支援

2017（平成29）年度から東京都の委託を受けて、ものづくり中小企業の医療機器開発・事業化を技術面から支援する、「医工連携コーディネーター事業」を推進している。本事業では、都産技研、東京都医工連携HUB機構、公益財団法人東京都中小企業振興公社の3機関が協力し、各機関の特徴を活かした支援体制を整えている。都産技研では、臨床・研究機関、製販企業などの関連機関からのシーズやニーズを、ものづくり中小企業に展開していくことで、ビジネスマッチングを支援している。2018（平成30）年度の主な事業は、以下のとおり。

1) マッチング事業

- ・都産技研医工連携コーディネーターを7名に委嘱
- ・イベント派遣10件、企業コンタクト数延べ530件（うち、訪問、来所などによる面談20社、延べ40件）
- ・平成30年度戦略的基盤技術高度化支援事業（経済産業省）にマッチング案件の「差圧を用いた無電源で吊るさず携帯性・操作性に優れ移動制限のないポータブル補液ポンプの開発」が採択
- ・医療機器等開発着手支援助成事業（公社）にマッチング案件の「オゾン水洗浄消毒装置開発の着手」が採択

2) 情報収集

- ・TIRIクロスミーティング2018から、本事業用に都産技研のシーズ23件を抽出
- ・その他、各種セミナーへの派遣およびセミナー参加者へのコンタクトを実施

3) 情報提供

- ・事業案内リーフレットの製作 3,000部（2,000部を産業交流展2018で配布。1000部は都産技研医工連携コーディネーター事業で配布）
- ・都産技研医工連携セミナーを2回開催

- 第1回「医療機器産業と医工連携」(1月21日：受講者数39名：都産技研本部)
- 第2回「成功事例から学ぶ医工連携」(3月13日：受講者数27名：都産技研本部)



(医工連携事業スキーム)

4.2.7 産業技術連携推進会議

産業技術連携推進会議は、全国の公設試および国が相互に連携し、効率的な事業運営を図るために、機関相互の情報交換や連絡調整、国への要望などの議題で開催されている。産業技術連携推進会議の組織には、技術分野別の部会、分科会、研究会があり、技術情報の交換、共同研究、現地研修、研究発表などの活動が行われている。

2018(平成30)年度の参加実績および各会議において、都産技研の事業紹介や研究成果発表などを行った実績は以下のとおりである。

(1) 参加実績

No.	開催年月日	会議名	開催場所
1	2018年 5月18日	ナノテクノロジー・材料部会 繊維分科会 関東・東北地域連絡会総会	山梨県産業技術センター
2	2018年 6月3日	第14回地域交流ワークショップ 「地域の課題への挑戦」	北九州国際コンベンションゾーン(福岡県)
3	2018年 6月7～8日	ナノテクノロジー・材料部会 繊維分科会総会	沖縄県市町村自治会館
4	2018年 6月7～8日	製造プロセス部会 第25回表面技術分科会	KKRホテル大阪 (地独)大阪産業技術研究所
5	2018年 6月20日	製造プロセス部会 第9回3Dものづくり特別分科会	都産技研 本部
6	2018年 6月21日	製造プロセス部会 IoTものづくり分科会	(国研)産業技術総合研究所 臨海副都心センター
7	2018年 6月28～29日	ライフサイエンス部会 第23回デザイン分科会	道総研プラザ(北海道)

No.	開催年月日	会議名	開催場所
8	2018年 10月 2～ 3日	ライフサイエンス部会医療福祉技術分科会 第 20 回医療福祉技術シンポジウム 第 3 回人間生活工学研究会	広島大学 広仁会館
9	2018年 10月 4～ 5日	製造プロセス部会 第 10 回 3D ものづくり特別分科会	北海道立総合研究機構 工業試験場
10	2018年 10月 4～ 5日	ナノテクノロジー・材料部会 ガラス材料技術分科会 第 12 回ガラス材料技術分科会総会・研修会	都産技研 本部、城南支所
11	2018年 10月11～12日	ナノテクノロジー・材料部会 セラミックス分科会第 65 回総会	石川県工業試験場
12	2018年 10月18～19日	情報通信・エレクトロニクス部会 情報技術分科会 第 12 回音・振動研究会	(地独)神奈川県立産業技術総合研究所
13	2018年 10月31日	ナノテクノロジー・材料部会 高分子分科会関東地区連絡会議	都産技研 本部
14	2018年 11月 1日	製造プロセス部会 第 2 回 IoT ものづくり分科会	(地独)神奈川県立産業技術総合研究所
15	2018年 11月 1～ 2日	情報通信・エレクトロニクス部会 第 14 回電子技術分科会 第 19 回高機能材料・デバイス研究会 第 19 回実装・信頼性技術研究会	山梨県産業技術センター
16	2018年 11月 1～ 2日	知的基盤部会 第 23 回電磁環境分科会 第 28 回 EMC 研究会	ニューウェルンティ宮崎 宮崎県工業技術センター
17	2018年 11月 1～ 2日	製造プロセス部会 第 26 回塗装工学分科会	マイホテル竜宮 (岩手県)
18	2018年 11月 8～ 9日	情報通信・エレクトロニクス部会 第 16 回組込み技術研究会	ビッグアイ (福島県)
19	2018年 11月15日	ライフサイエンス部会 第 24 回デザイン分科会	埼玉県立近代美術館
20	2018年 11月15～16日	ナノテクノロジー・材料部会 第 56 回高分子分科会	仙台市中小企業活性化センター
21	2018年 11月15～16日	ナノテクノロジー・材料部会 第 12 回木質科学分科会	(地独)青森県産業技術センター
22	2018年 12月 5～ 6日	知的基盤部会 計測分科会年会 形状計測研究会	山形テレサ
23	2018年 12月 6日	知的基盤部会 計測分科会年会 形状計測研究会 3D3 プロジェクト全体研究会 関東甲信越静地域部会計測技術研究会	山形テレサ
24	2018年 12月 6日	知的基盤部会 計測分科会年会 第 50 回 温度・熱研究会	山形テレサ
25	2018年 12月 6日	知的基盤部会 計測分科会 第 3 回光放射計測研究会	山形テレサ
26	2018年 12月 6日	知的基盤部会 分析分科会年会 第 61 回分析技術共同研究検討会 第 50 回分析技術討論会	山形テレサ
27	2018年 12月13～14日	情報通信・エレクトロニクス部会 情報技術分科会 情報通信研究会	明德館ビル (秋田県)
28	2019年 1月11日	知的基盤部会電磁環境分科会 第 16 回関東甲信越静 EMC 研究交流会 MTEP (広域首都圏輸出製品技術支援センター) EMC パートナーグループ会	静岡県工業技術研究所
29	2019年 1月30～31日	環境・エネルギー部会 分科会 研究会合同総会	都産技研 本部
30	2019年 2月 6～ 7日	ナノテクノロジー・材料部会総会	(国研)産業技術総合研究所 つくばセンター

2018(平成30)年度 年報

(2) 発表実績

No.	開催年月日	発表タイトル	発表者	場所	会議の名称
1	2018年 6月 3日	テレプレゼンスロボットを活用したバーチャル観光システムの開発	森田裕介	北九州国際コンベンションゾーン（福岡県）	第14回地域交流ワークショップ 「地域の課題への挑戦」
2	2018年 6月 7日	ナノテクノロジー・材料部会 繊維分科会の事業報告と事業計画について	樋口明久	沖縄県市町村自治会館	ナノテクノロジー・材料部会 繊維分科会総会
3	2018年 6月28日	都民参加で学校や住宅地の防災デザインを研究 ～中小・ベンチャー企業の防災製品開発に活用～	森 豊史	道総研プラザ（北海道）	ライフサイエンス部会 第23回 デザイン分科会
4	2018年 10月 2日	公設試験研究機関人間生活工学 機器データベース DHuLE へのお誘い	大島浩幸	広島大学 広仁会館	ライフサイエンス部会医療福祉技術分科会 第20回医療福祉技術シンポジウム 第3回人間生活工学研究会
5	2018年 10月 2日	シート型圧力分布測定装置を用いた座位時殿部の内部状態推定に関する基礎的検討	村上知里	広島大学 広仁会館	ライフサイエンス部会医療福祉技術分科会 第20回医療福祉技術シンポジウム 第3回人間生活工学研究会
6	2018年 10月 4日	AM バイオリンの設計と製作	横山幸雄	北海道立総合研究機構 工業試験場	製造プロセス部会 第10回3Dものづくり特別分科会
7	2018年 10月 4日	熱強化ガラスの破損事故解析	上部隆男	都産技研 本部、城南支所	ナノテクノロジー・材料部会 ガラス材料技術分科会 第12回ガラス材料技術分科会総会・研修会
8	2018年 10月11日	東北・北海道・関東甲信越静セラミックス技術交流会の活動状況報告および業界の現状について	吉野 徹	石川県工業試験場	ナノテクノロジー・材料部会 セラミックス分科会第65回総会
9	2018年 10月18日	背景騒音下で聴感される異音に対する印象評価	宮入 徹	(地独)神奈川県立産業技術総合研究所	情報通信・エレクトロニクス部会 情報技術分科会 第12回音・振動研究会
10	2018年 11月 1日	MEMS 技術支援事業の業務改善活動	宮下惟人	山梨県産業技術センター	情報通信・エレクトロニクス部会 第14回電子技術分科会 第19回高機能材料・デバイス研究会、第19回実装・信頼性技術研究会
11	2018年 11月 1日	積層セラミック技術を用いたガスセンサの開発	山岡英彦	山梨県産業技術センター	情報通信・エレクトロニクス部会 第14回電子技術分科会 第19回高機能材料・デバイス研究会、第19回実装・信頼性技術研究会
12	2018年 11月 2日	遠方界測定と簡易測定	滝沢耕平	ニューウェルシティ宮崎 宮崎県工業技術センター	知的基盤部会 第23回電磁環境分科会 第28回 EMC 研究会
13	2018年 11月 2日	平面電波吸収体の活用法に関する検討	小畑 輝	ニューウェルシティ宮崎 宮崎県工業技術センター	知的基盤部会 第23回電磁環境分科会 第28回 EMC 研究会
14	2018年 11月 2日	促進耐候試験における熱処理木材の表面割れ発生とその防止	村井まどか	マイホテル竜宮（岩手県）	製造プロセス部会 第26回塗装工学分科会

No.	開催年月日	発表タイトル	発表者	場所	会議の名称
15	2018年 11月 8日	「中小企業の IoT 化支援事業」と IoT 支援サイトの紹介	大原 衛	ビッグアイ (福島県)	情報通信・エレクトロニクス部会 第 16 回組込み技術研究会
16	2018年 11月 8日	都産技研における高速シリアル通信試験と製品開発支援	岡部 忠	ビッグアイ (福島県)	情報通信・エレクトロニクス部会 第 16 回組込み技術研究会
17	2018年 11月15日	安全に脱衣可能な防護服の開発	加藤貴司	埼玉県立近代美術館	ライフサイエンス部会 第 24 回デザイン分科会
18	2018年 11月15日	国際標準指定色を用いた識別しやすい色の研究	角坂麗子	埼玉県立近代美術館	ライフサイエンス部会 第 24 回デザイン分科会
19	2018年 12月 5日	CMM の測定戦略の違いによる不確かさの検証	三浦由佳	山形テレサ	知的基盤部会 計測分科会年会 形状計測研究会
20	2018年 12月 5日	現場環境における三次元測定機の高度化-レーザ干渉測長器を用いた温度補正の評価-	大西 徹	山形テレサ	知的基盤部会 計測分科会年会 形状計測研究会
21	2018年 12月 6日	直流抵抗器校正における信頼性向上への取り組み	倉持幸佑	山形テレサ	知的基盤部会 計測分科会年会 第 50 回温度・熱研究会
22	2018年 12月 6日	都産技研における熱電対の不均質評価への取り組み	佐々木正史	山形テレサ	知的基盤部会 計測分科会年会 第 50 回 温度・熱研究会
23	2018年 12月 6日	TKF ミニインターンシップの紹介と試験所間比較の取り組み (II)	沼尻治彦	山形テレサ	知的基盤部会 計測分科会年会 第 50 回 温度・熱研究会
24	2018年 12月 6日	中小企業の照明製品試作評価時における IoT 導入事例のご紹介	横田浩之	山形テレサ	知的基盤部会 計測分科会 第 3 回光放射計測研究会
25	2018年 12月 6日	都産技研における全光束測定に関する不確かさの算出方法	秋葉拓也	山形テレサ	知的基盤部会 計測分科会 第 3 回光放射計測研究会
26	2018年 12月 6日	公設試間巡回試験結果報告	澁谷孝幸	山形テレサ	知的基盤部会 計測分科会 第 3 回光放射計測研究会
27	2018年 12月13日	「中小企業の IoT 化支援事業」と IoT 支援サイトの紹介	仲村将司	明德館ビル (秋田県)	情報通信・エレクトロニクス部会 情報技術分科会 情報通信研究会
28	2019年 1月11日	東京都立産業技術研究センターの近況報告	佐々木秀勝	静岡県工業技術研究所	知的基盤部会電磁環境分科会第 16 回関東甲信越静 EMC 研究交流会 および MTEP EMC パートナーグループ会
29	2019年 1月30日	品質保証推進センターの取り組み	沼尻治彦	都産技研 本部	環境・エネルギー部会・分科会・研究会合同総会
30	2019年 2月 7日	H30 年度ガラス材料技術分科会活動報告	田中 実	(国研)産業技術総合研究所 つくばセンター	ナノテクノロジー・材料部会総会

4.2.8 学協会連携事業

学協会が有するシーズを都内中小企業のものづくりに活かすため、中小企業と学協会との連携を推進する学協会連携事業を実施した。2018 (平成 30) 年度に実施した事業は以下のとおりである。

2018(平成30)年度 年報

No.	開催年月日	連携学協会	連携事業
1	2018年 5月31日	(一社)繊維評価技術協議会	ISO9001 最新動向セミナー 「ISO9001:2015 対応のケアレスミス、ヒューマンエラー防止」
2	2018年 6月21日	木材塗装研究会 (色材協会・木材加工技術協会)	第 30 回木材塗装基礎講座
3	2018年 9月 4日	マテリアルライフ学会	表面－界面物性研究会 2018 年秋期講演会
4	2018年10月 4～ 5日	アジア太平洋プリオン研究会	Asian Pacific Prion Symposium 2018 (APPS2018)
5	2018年11月 1日	(一社)日本エネルギー学会	第 14 回微粒化セミナー
6	2018年11月 2日	(公社)日本セラミックス協会資源・環境関連材料部会	講演会「これからの社会を支える『低環境負荷技術』を考える」
7	2018年11月 9日	高機能トライボ表面プロセス部会	「大電力パルススパッタリング (HiPIMS) 技術の基礎」セミナー
8	2018年11月20日	日本食品照射研究協議会	第 54 回日本食品照射研究協議会教育講演会 研究発表会
9	2018年11月26日	(一社)日本非破壊検査協会	第 2 回保守検査ミニシンポジウム
10	2018年11月27日	(一社)日本光学会偏光計測制御技術研究グループ	「偏光応用技術」第 14 回偏光計測研究会
11	2018年11月27日	日本光学測定機工業会	光学測定機セミナー 技術相談会
12	2018年12月 4日	(一社)電気学会 東京都立産業技術研究センター・電気学会セミナー	安全で省エネな社会の構築と中小企業支援
13	2018年12月 6～ 7日	(公社)日本分析化学会 イオンクロマトグラフィー研究懇談会	第 35 回イオンクロマトグラフィー討論会
14	2018年12月 6日	(一社)表面技術協会	表面熱処理の基礎と応用
15	2018年12月20～21日	制振工学研究会 制振工学研究会 2018 技術交流会	研究者、技術者のための制振材料、音響材料計測評価、振動音響改正および適用方法
16	2018年12月26～27日	(特非)パルテノン研究会	ハードウェア設計自動化技術に関する研究発表会 ハードウェア記述言語 NSL 講習会
17	2019年 1月18日	(特非)FPGA コンソーシアム	東京 FPGA カンファレンス 2019 with プログラマブルデバイスプラザ
18	2019年 1月25日	日本材料試験技術協会	第 277 回材料試験技術シンポジウム
19	2019年 1月30～31日	(一社)日本非破壊検査協会	第 26 回超音波による非破壊評価シンポジウム
20	2019年 3月 5日	(一社)日本非破壊検査協会	2018 年度赤外線サーモグラフィ部門シンポジウム
21	2019年 3月 5日	マテリアルライフ学会	表面－界面物性研究会 2019 年春期講演会
22	2019年 3月 6日	(一社)日本塑性加工学会 金型分科会	型材の高度化と革新技術-次世代産業に向けての金型技術基盤探索-
23	2019年 3月19日	(一社)プラスチック成形加工学会	第 19 回成形加工実践講座シリーズ 「二軸押出機による混合、混練の基礎」

5. 東京の産業を支える産業人材の育成

5.1 技術セミナー・講習会

中小企業等の技術力向上と振興を図ることを目的として、環境・エネルギー、生活技術・ヘルスケア、機能性材料、安全・安心、ものづくり要素技術などの各分野の最新技術、トピックスをテーマとした各種技術セミナー・講習会を開催した。

(1) 技術セミナー・講習会

名称	担当部署	受講 (名)	規模		
			日数	時間	開催 初日
●技術セミナー					
環境・エネルギー					
騒音の基礎～測定・評価・音質改善～	光音技術 G	35	1	4	6/15
測光の基礎の基礎 照明製品スペックシートの読み方から照度シミュレータの簡単な使い方まで	光音技術 G	17	1	3	7/6
吸音・遮音材料の評価と予測	光音技術 G	26	1	3.5	7/24
生産工程のモットイナイ改善～モットイナイの見える化と改善で、経営を飛躍的に向上させる～	環境技術 G	21	1	6	10/31
ガラス製品の基礎知識	環境技術 G	22	1	4	3/4
生活技術・ヘルスケア					
X線CT装置を用いたリバースエンジニアリング技術の高度化	バイオ応用技術 G	50	1	4	2/8
景品表示法・医薬品医療機器等法を踏まえた生体計測による生活製品評価入門	生活技術開発 S	32	1	3.5	8/2
日射環境試験の基礎	生活技術開発 S	13	1	2	12/4
機能性材料分野					
プラスチックの話	表面・化学技術 G	33	1	4	11/9
ESR（電子スピン共鳴）を用いた材料の評価法	バイオ応用技術 G	9	1	3	12/11
多孔質材料の触媒関連分野への応用	先端材料開発 S	24	1	4	10/30
安全・安心分野					
初心者のための電気用品安全法の概要と動向	電気電子技術 G	69	1	2	1/16
海外で通用する高品質な評価試験	実証試験 S	14	1	3.75	12/14
【グローバル人材育成（製品安全編）】 製品安全における電気安全の考え方と進め方(実務編)	電子・機械 G	15	1	3.5	10/3
ものづくり要素技術					
若手技術者のための金属加工技術シリーズ（第1回） 鉄鋼材料と非鉄金属材料編	機械技術 G	45	1	4	9/14
若手技術者のための金属加工技術シリーズ（第2回） 塑性加工と切削・研削編	機械技術 G	48	1	4	9/21
若手技術者のための金属加工技術シリーズ（第3回） 溶接・接合と破断面の見方編	機械技術 G	38	1	4	9/28

2018(平成30)年度 年報

名称	担当部署	受講 (名)	規模		
			日数	時間	開催 初日
ジュネーブモーターショー・ミラノサローネ質感デザイン最前線	デザイン技術 G	34	1	4	5/29
2019 年春夏 / 商品展開に重要なカラートレンド情報	デザイン技術 G	35	1	4	6/11
成長する会社は☑が良い！世界のイノベーション最前線	デザイン技術 G	29	1	3.5	6/25
パリモーターショー質感デザイン最前線	デザイン技術 G	12	1	4	11/6
カラートレンドとは何か / 2019 年秋冬に向けたレディースウェアカラートレンド	デザイン技術 G	18	1	4	11/8
感性工学による製品評価法【入門編】 筋電・心電図～表情分析	デザイン技術 G	25	1	4	2/27
ダイヤモンド工具入門～切削加工を中心に～	城南支所	16	1	2.5	1/31
初心者のためのやさしい破断面の見方	城南支所	46	1	3	8/23
電動車両ユニットのマルチマテリアル化の動向 - 材料の適用事例と環境試験機器の紹介 -	城南支所	13	1	2.5	2/27
機器分析の基礎	城南支所	14	1	3	3/28
金属腐食の基礎	複合素材開発 S	25	1	3	12/14
技術セミナー	28 件	778	28	99.75	
●講習会					
環境・エネルギー					
騒音測定の基礎	光音技術 G	12	1	6	7/3
2次元複屈折計測とその活用事例	光音技術 G	5	1	3	10/11
VOC 排出抑制と計測技術	環境技術 G	2	1	2	10/12
生活技術・ヘルスケア					
化粧品のレオロジー測定の基礎	バイオ応用技術 G	6	1	2.5	8/10
におい分析と官能評価	生活技術開発 S	6	1	3.5	10/18
におい分析と官能評価 (第 2 回)	生活技術開発 S	6	1	3.5	2/26
機能性材料					
プラスチック射出成型シミュレーション入門	表面・化学技術 G	9	1	5	5/22
プラスチック材料の測定入門	表面・化学技術 G	6	1	5	7/26
プラスチック射出成型シミュレーション入門	表面・化学技術 G	9	1	5	10/10
有機合成の基礎技術	先端材料開発 S	4	1	5	7/3
スクリーン印刷とフレキシブルデバイス(入門編)	先端材料開発 S	5	1	6.5	2/27
微粒子分散体とその評価方法(入門編)	先端材料開発 S	4	1	2	2/28
多孔質材料解析	先端材料開発 S	4	1	3	3/5
安全・安心					
電気製品の試験方法	電気電子技術 G	10	1	2	6/14
振動試験入門～試験概要と試験規格～	機械技術 G	10	1	4	6/15
非破壊検査入門	機械技術 G	10	1	7	10/19

名称	担当部署	受講 (名)	規模		
			日数	時間	開催 初日
体験で学ぶはじめての材料分析	表面・化学技術 G	9	1	5	3/1
RoHS 指令に対応した六価クロム測定実習	環境技術 G	6	1	4	12/11
金属材料の硬さ試験入門	実証試験 S	4	1	3	6/13
重大事故防止のためのねじ締結体設計の基礎 (第1回)	実証試験 S	11	1	3	9/18
金属材料の硬さ試験入門	実証試験 S	5	1	3	11/7
重大事故防止のためのねじ締結体設計の基礎 (第2回)	実証試験 S	12	1	3	12/18
ロボット用ミドルウェアを活用したソフトウェア開発入門【RTミドルウェア編】	ロボット開発 S	9	1	4	7/24
ロボット用ミドルウェアを活用した自律走行ソフトウェア入門【ROS編】	ロボット開発 S	8	2	12	3/14
【多摩テクノプラザでスタートアップ (EMC 試験編)】 イミュニティ試験	電子・機械 G	7	1	4	6/15
【多摩テクノプラザで入門 (EMC 試験編)】 エミッション測定	電子・機械 G	15	1	3.5	6/28
【多摩テクノプラザでレベルアップ (電子製品開発編)】 近傍界ノイズ測定と解析	電子・機械 G	7	1	4	9/27
ものづくり要素技術					
MEMS 技術 I リソグラフィ	電気電子技術 G	4	1	4	6/22
鉛フリーはんだ付け習会 (技術者・監督者向け)	電気電子技術 G	15	1	5.75	9/7
MEMS 技術 II エッチング	電気電子技術 G	4	1	4	9/12
絶縁設計の基礎的な考え方-低圧系統内機器 (JIS C60664-1 の読み解き方)-	電気電子技術 G	10	1	4	2/7
発注者のためのめっき入門-めっき技術の基礎-	表面・化学技術 G	5	1	5.5	2/8
ガラス製品の破損事故解析	環境技術 G	13	1	4	3/12
開発・設計のための実践プロジェクトマネジメント	情報技術 G	22	1	6	7/5
パソコンを活用した実用熱設計講座	情報技術 G	20	1	6	8/3
品質工学による製品開発期間の短縮	情報技術 G	23	1	6	10/10
mruby による組込み機器開発入門	情報技術 G	4	1	3	11/22
Python・OpenCV・Chainer を利用した画像処理入門	情報技術 G	20	1	6	1/21
SoC 向けデジタル回路設計入門 (VHDL・Intel®編)	情報技術 G	4	1	6	3/8
商品企画のためのパッケージデザイン入門	デザイン技術 G	20	1	4	9/11
初心者のためのグラフィック入門	デザイン技術 G	5	1	4	11/27
3D-CAD 入門 (第1回)	3Dものづくり S	10	1	5.5	4/25
3D-CAD 入門 (第2回)	3Dものづくり S	10	1	5.5	6/27
3D-CAD 入門 (第3回)	3Dものづくり S	10	1	5.5	8/8
CAE 入門～シミュレーションによる構造解析～	3Dものづくり S	3	1	5	9/26
測定器具の使用方法和精度管理	3Dものづくり S	12	1	6	10/12
3D-CAD 入門 (第4回)	3Dものづくり S	10	1	5.5	10/17

2018(平成30)年度 年報

名称	担当部署	受講 (名)	規模		
			日数	時間	開催 初日
3D-CAD 入門 (第 5 回)	3D ものづくり S	10	1	5.5	12/12
3D-CAD 入門 (第 6 回)	3D ものづくり S	10	1	5.5	2/6
熱拡散率測定 (H30 年度第 1 回、累計第 13 回)	実証試験 S	13	1	6	7/19
計測器の精度管理と不確かさ評価	実証試験 S	20	1	4.5	2/1
熱拡散率測定 (H30 年度第 2 回、累計第 14 回)	実証試験 S	16	1	6	3/7
製品開発のための製品・材料の強度評価法入門	実証試験 S	10	1	4	3/20
異物分析のための赤外分光分析	城東支所	6	1	3	9/28
ファイバーレーザー加工入門	城東支所	6	1	3	3/19
グラフィックデザイン入門	城東支所	4	1	3	3/27
現場で役立つ形状評価入門	城南支所	6	1	3	11/9
【多摩テクノプラザでスタートアップ】 3D-CAD 入門	電子・機械 G	8	1	5	6/14
【多摩テクノプラザでスタートアップ】 表面粗さ測定	電子・機械 G	6	1	4	6/26
【多摩テクノプラザで入門(電子製品開発編)】 はじめての電子回路設計	電子・機械 G	12	1	4	7/6
【多摩テクノプラザでレベルアップ(機械系試験編)】 現場環境における三次元測定	電子・機械 G	5	1	4	7/13
【多摩テクノプラザでスタートアップ(電子製品開発編)】 基板設計入門	電子・機械 G	12	1	4	7/20
炭素繊維強化プラスチック入門(成形実習と強度評価)	電子・機械 G	8	1	5	9/21
静電植毛加工技術	複合素材開発 S	15	1	3.5	6/28
X 線 CT 装置を用いた繊維強化複合材料の観察技術	複合素材開発 S	8	1	3.5	11/22
サービスロボット事業化交流会プログラム					
ROS 自律移動入門～3 日で作る自律移動ロボット～	プロジェクト事業化 推進室	5	3	12	8/30
案内ロボット Libra 用対話シナリオ・ソフトウェア開発実習	ロボット開発 S	2	1	4	11/6
中小企業への IoT 化支援事業					
工場向けワイヤレス IoT 講習会(総務省関東総合通信局共催)	IoT 開発 S	62	1	5.5	12/14
IoT 導入ハンズオン講習会	IoT 開発 S	15	1	2	9/7
講習会	69 件	684	72	314.75	

(2) 広域首都圏輸出製品技術支援センター (MTEP) セミナー

名称	担当部署	受講 (名)	規模		
			日数	時間	開催 初日
MTEP ミニ講座 CE マーキング超入門(第 1 回)	国際化推進室	14	1	2	4/26
INNOVESTA!2018 MTEP 海外展開特別セミナー「海外展開 における知財戦略の重要性」	国際化推進室	58	1	1	5/25
MTEP ミニ講座 RoHS 指令超入門(第 1 回)	国際化推進室	17	1	2	5/28

名称	担当部署	受講 (名)	規模		
			日数	時間	開催 初日
MTEP ミニ講座 CE マーキング超入門(第2回)	国際化推進室	13	1	2	6/14
【現場で役立つシリーズ】 実践 混合物の安全データシート(SDS)作成方法	国際化推進室	21	1	3.5	7/2
神奈川県・東京都連携 MTEP セミナー【RoHS/REACH に対応する自律的マネジメントシステムの構築】(導入編)	国際化推進室	201	1	4	7/3
輸出のための認証取得支援ワークショップ	国際化推進室	89	3	10.5	7/5
MTEP ミニ講座 RoHS 指令超入門(第2回)	国際化推進室	16	1	2	7/31
MTEP ミニ講座 CE マーキング超入門(第3回)	国際化推進室	15	1	2	8/31
MTEP ミニ講座 RoHS 指令超入門(第3回)	国際化推進室	11	1	2	9/14
【グローバル人材育成 欧州編】 EU 化粧品規制入門	国際化推進室	19	1	2	10/2
【海外規格精通シリーズ】 医療機器 QMS ISO13485	国際化推進室	16	1	4	10/26
MTEP ミニ講座 CE マーキング超入門(第4回)	国際化推進室	13	1	2	11/2
MTEP ミニ講座 RoHS 指令超入門(第4回)	国際化推進室	16	1	2	11/7
【現場で役立つシリーズ】 実践 RoHS 指令が求める技術文書作成方法	国際化推進室	24	1	4	11/30
【グローバル人材育成 知財編】 海外ビジネスのための知財戦略	国際化推進室	7	1	2	12/7
MTEP ミニ講座 CE マーキング超入門(第5回)	国際化推進室	12	1	2	1/9
MTEP ミニ講座 RoHS 指令超入門(第5回)	国際化推進室	19	1	2	1/23
欧州向け製品輸出入門・中小企業人材育成塾グローバル研修「CE マーキング入門+改正 RoHS 指令入門」	国際化推進室	36	1	4.5	2/8
【グローバル人材育成 欧州編】 計測・制御機器のための CE マーキング入門	国際化推進室	10	1	3	2/27
MTEP ミニ講座 CE マーキング超入門(第6回)	国際化推進室	7	1	2	3/6
【現場で役立つシリーズ】 実践 CE マーキング機械指令とリスクアセスメント	国際化推進室	15	1	3.5	3/11
MTEP ミニ講座 RoHS 指令超入門(第6回)	国際化推進室	22	1	2	3/15
【グローバル人材育成 欧州編】 医療機器規則(MDR)と体外診断用医療機器規則(IVDR)	国際化推進室	28	1	3	3/20
【現場で役立つシリーズ】 実践 RoHS 指令が求める技術文書作成方法	国際化推進室	30	1	4	3/27
MTEP V-learning CE マーキング入門	国際化推進室	27	1	1.5	-
MTEP V-learning EMC 指令入門(EMC 指令の入門と事例)	国際化推進室	23	1	1.5	-
MTEP V-learning 機械指令入門(欧州 CE マーキングの制度へ機械指令 2006/42/EC)	国際化推進室	22	1	1.5	-
MTEP V-learning 低電圧指令入門	国際化推進室	22	1	1.5	-
MTEP V-learning RoHS 指令入門	国際化推進室	28	1	1.5	-
MTEP V-learning 中国規格入門	国際化推進室	19	1	1.5	-
MTEP セミナー	31 件	870	33	82	

2018(平成30)年度 年報

(3) その他のセミナー

名称	担当部署	受講 (名)	規模		
			日数	時間	開催 初日
●バンコクセミナー					
音の可視化による工場の設備不良等を検知するソリューションの活用”NOE Asia Pacific Co.,Ltd.”	バンコク支所	6	1	2	7/6
第2回 Tokyo SME and TIRI 企業交流会 in Bangkok 「良い企業≠良い人材 海外採用競争に勝つ」	バンコク支所	29	1	3	9/14
ラボツアー「泰日経済技術振興協会(TPA・ソーソートー)」	バンコク支所	9	1	2	9/27
ラボツアー「Electrical Electronics Institute(EEI)」	バンコク支所	14	1	2	10/17
遠隔セミナー「測定器具の使用方法和精度管理」	バンコク支所	5	1	2	10/25
遠隔セミナー「金属材料の硬さ試験入門」	バンコク支所	4	1	2	11/8
埼玉県タイサポートデスク共催セミナー「知っておきたいタイにおける輸入と商品展開」	バンコク支所	35	1	3	11/30
第4回 Tokyo SME and TIRI 企業交流会 in Bangkok「タイで導入する3D デジタル技術のツール」	バンコク支所	5	1	3	2/22
ラボツアー「Thai German Institute (TGI)」	バンコク支所	17	1	2	2/26
ものづくり企業交流会 2019 in バンコク	バンコク支所	78	1	4	2/27
ラボツアー「Kobelco Research International (Thailand) Co., Ltd.(KRIT)」	バンコク支所	14	1	2	3/5
ラボツアー「Thailand Institute of Scientific and Technological Research (TISTR)」	バンコク支所	8	1	2.5	3/18
●連携セミナー、サービスロボット事業化交流会プログラム、中小企業のIoT化支援事業セミナー等					
クラウド&セキュリティセミナー	IoT 開発 S	35	1	3.5	7/19
IoT×観光ワーキングオープンセミナー	IoT 開発 S	38	1	3	8/27
中小企業を強くするための AI 活用法セミナー (東京都中小企業振興公社共催)	IoT 開発 S	104	1	3	12/25
製造現場のデジタル化による新たな価値創出セミナー	IoT 開発 S	93	1	2.5	2/13
東京イノベーション発信交流会	交流連携室	218	1	4	1/29
戦略的マーケティング入門-新規事業の捉え方-	技術経営支援室	12	1	3	3/22
航空機産業への参入支援事業セミナー「航空機産業へ中小企業が参入するために-東京の航空機産業支援-」	開発企画室	75	1	4	3/15
2018年度 ロボット産業活性化事業セミナー「サービスロボット/協働ロボットの安全と規格適合」	プロジェクト事業推進部	94	1	3.5	2/28
医工連携セミナー 新たな参入を促進・支援するための「医療機器産業と医工連携」	交流連携室	48	1	3.5	1/21
第2回医工連携セミナー「成功事例から学ぶ医工連携」	交流連携室	23	1	3.5	3/13
中小企業のためのサイバーセキュリティ入門(都産技研・JASA 連携イベント)	情報技術 S	16	1	3	6/29
初めてでも取り組める「人にやさしいものづくり入門」	生活技術開発 S	29	1	1.5	1/24
その他セミナー	24 件	1,009	24	67.5	

※ G:「グループ」の略、S:「セクター」の略

5.2 オーダーメイドセミナー

時期・内容など、依頼者の個別のニーズに合わせたセミナーを随時実施した。

2018（平成30）年度は83件実施した。

担当	実施 件数	主な指導内容
国際化推進室	9	CE マーキング、改正 RoHS 指令の社内向けセミナー、 EN62368-1 への対応
バンコク支所	1	ローカルスタッフ向けめっき基礎セミナー（タイ語直訳付 き）
電気電子技術グループ	1	鉛フリーはんだ付け講習会
機械技術グループ	5	ドライプレス加工の基礎と現状、やさしい破断面の見方
表面・化学技術グループ	7	低圧スプレーガンおよびスプレーガン洗浄機の VOC 発生状 況の測定、スパッタ製膜方法と装置の説明
環境技術グループ	3	ガラスの基礎知識とガラス製品のトラブル事例
バイオ応用技術グループ	1	照射食品検知法の研修
情報技術グループ	2	小型コンピュータを利用した画像処理方法
デザイン技術グループ	18	自社ブランド育成研修、TOKYO 起業塾、アパレル生産工程 の体験、AdobePremierePro を用いた動画編集方法
プロジェクト事業化推進室	1	ROS 自律移動入門
IoT 開発セクター	1	Arduino 開発入門
先端材料開発セクター	4	銅ダイカスト欠陥解析、粉末混合成形と体積抵抗値測定方 法
総合支援課	5	特許情報調査セミナー、展示会用ポスター
電子・機械グループ	5	デジタルファブリケーションの動向、アンテナ設計支援を 目的とアンテナモデリング 3次元 CAD 習得セミナー
複合素材開発セクター	20	テキスタイルアドバイザー実習、繊維製品の製造工程
計	83	

5.3 講師・委員等の派遣

5.3.1 委員等の派遣

高度な専門知識を持つ職員を、大学、学術団体、産業界、行政機関など 120 機関へ評価委員や専門委員として、合計 162 名派遣した。

主な派遣機関は以下のとおりである。

内閣府

国立研究開発法人産業技術総合研究所

公益財団法人日本発明振興協会

公益社団法人日本鑄造工学会

公益財団法人東京都中小企業振興公社

独立行政法人日本学術振興会

一般社団法人日本繊維機械学会

一般社団法人日本非破壊検査協会

一般財団法人日本規格協会

一般財団法人機械振興協会 など

5.3.2 講師等の派遣

大学との連携強化や社会への知的貢献を目的として、高度な専門知識を持つ職員を大学、学術団体、産業界、行政機関など 34 機関へ非常勤講師や指導員として、合計 50 名派遣した。

主な派遣機関は以下のとおりである。

環境省

芝浦工業大学

首都大学東京

成城大学

多摩美術大学

東京学芸大学

東京都市大学

法政大学

東京都鍍金工業組合

公益社団法人日本分析化学会 など

5.4 インターンシップなどの受け入れ

5.4.1 インターンシップの受け入れ

職業体験による職業意識の向上と、公設試の業務について理解を深めてもらうことを目的にインターンシップを実施した。2018（平成30）年度は1大学より6名を受け入れた。

	受け入れ相手先	人数	受け入れ部署	受け入れ期間
1 首都大学 東京	都市環境学部 建築学科	1	光音技術グループ	2018年 9月 3日 ～2018年 9月 7日
	理学部物理学科	1		
	都市環境学部 環境応用化学科	1	環境技術グループ	
	都市環境学部 環境応用化学科	1		
	システムデザイン学部 機械システム工学科	1	城南支所	2018年 8月27日 ～2018年 8月31日
	システムデザイン学部 航空宇宙システム工学科	1		

5.4.2 研修学生の受け入れ

大学・大学院の学生を一定期間受け入れ、人材育成や専門技術の習得に寄与した。2018（平成30）年度は12大学より延べ29名の研修学生を受け入れた。

	受け入れ相手先	人数	受け入れ部署	受け入れ期間
1	東京電機大学 理工学部生命理工学系	2	バイオ応用技術グループ	2018年 4月 6日 ～2018年 6月30日
2	東京大学大学院 工学系研究科宇宙工学専攻	3	電気電子技術グループ	2018年 4月 6日 ～2019年 3月31日
3	東京学芸大学 教育学部技術科	1	実証試験セクター	2018年 5月15日 ～2019年 3月31日
4	東京学芸大学 教育学部技術科	1	表面・化学技術グループ	2018年 5月15日 ～2019年 3月31日
5	奈良女子大学大学院 人間文化研究科数物科学専攻	1	経営企画室 電気電子技術グループ	2018年 6月18日 ～2019年 3月31日
6	千葉工業大学 工学部機械サイエンス学科	1	表面・化学技術グループ	2018年 6月20日 ～2019年 3月31日
7	千葉工業大学大学院 工学研究科機械サイエンス専攻	2	表面・化学技術グループ	2018年 6月20日 ～2019年 3月31日
8	千葉工業大学大学院 工学研究科工学専攻	2	表面・化学技術グループ	2018年 6月20日 ～2019年 3月31日

2018(平成30)年度 年報

	受け入れ相手先	人数	受け入れ部署	受け入れ期間
9	東京大学 工学部航空宇宙工学科	1	電気電子技術グループ	2018年 6月26日 ～2019年 3月31日
10	東京電機大学大学院 理工研究科生命理工学専攻	1	バイオ応用技術グループ	2018年 7月 1日 ～2019年 3月31日
11	東京電機大学 理工学部生命理工学系	1	バイオ応用技術グループ	2018年 7月 1日 ～2019年 3月31日
12	東京農工大学 農学部環境資源科学科	1	環境技術グループ 生活技術開発セクター	2018年 7月 9日 ～2019年 1月31日
13	成蹊大学 理工学部物質生命理工学科	2	環境技術グループ	2018年 7月 9日 ～2019年 3月31日
14	椙山女学園大学 生活科学部生活環境デザイン学科	1	実証試験セクター	2018年 7月18日 ～2019年 3月31日
15	立教大学 理学部物理学科	1	経営企画室 電気電子技術グループ	2018年 7月18日 ～2019年 3月31日
16	東京学芸大学 教育学部理化教育専攻	1	環境技術グループ	2018年 7月19日 ～2019年 3月31日
17	東京大学大学院 工学系研究科機械工学専攻	1	表面・化学技術グループ	2018年 7月26日 ～2019年 2月28日
18	立教大学 理学部物理学科	2	経営企画室 電気電子技術グループ	2018年 7月26日 ～2019年 3月31日
19	拓殖大学 工学部デザイン学科	1	デザイン技術グループ	2018年 8月31日 ～2019年 3月31日
20	明星大学 理工学部総合理工科	1	複合素材開発セクター	2018年 9月28日 ～2019年 3月31日
21	首都大学東京大学院 システムデザイン研究科インダストリアルアート学域	2	電子・機械グループ	2019年 1月25日 ～2019年 3月31日

6. 情報発信・情報提供の推進

6.1 イベント開催

研究・技術開発により得られた成果および企業と共同で行った製品化の結果などを広く中小企業や都民に紹介するために、施設公開や講演会などを開催した。

6.1.1 TIRI クロスミーティング

都産技研の技術シーズや研究成果を発信する「TIRI クロスミーティング」を2018（平成30）年7月12・13日に開催した。都産技研だけでなく、企業や他機関と実施した共同研究成果や連携機関からの発表などを行った。2日間で基調講演・特別発表などを5テーマ、パネルディスカッションを1テーマ、口頭発表を74テーマ実施し、440名の参加があった。口頭発表後には、パネルおよび成果品の展示を行い、来場者と発表者の交流を図った。

2018（平成30）年7月12日（木）

<基調講演>

「競争しない競争戦略～競争しないで利益率を上げる方法～」

早稲田大学ビジネススクール 教授 山田英夫 氏

<特別発表／IoT>

「0円でつながるクラウド見積りネットワーク」

月井精密株式会社 代表取締役 Natori High Precision Thailand CO., LTD. CEO

株式会社NVT 代表取締役 名取磨一 氏

「ウェアラブルIoTによる高齢者の自立支援サービスの現状と今後」

株式会社Moff 代表取締役 高萩昭範 氏

<パネルディスカッション／IoT>

「中小・ベンチャー企業目線のIoT導入～データ取得と可視化で他社と差をつける～」

モデレーター

名古屋商科大学大学院マネジメント研究科ビジネススクール 教授

Center for Entrepreneurship, Director 澤谷由里子 氏

パネリスト

・月井精密株式会社 代表取締役 Natori High Precision Thailand CO., LTD. CEO

株式会社NVT 代表取締役 名取磨一 氏

・株式会社Moff 代表取締役 高萩昭範 氏

・都産技研 プロジェクト事業推進部 特命担当部長 櫻井政孝

<IoT> 東京イノベーションハブ

題目	所属	発表者名
IoT・ロボットの活用・導入支援の取り組みについて	茨城県工業技術センター	若生進一
「中小企業のIoT化支援事業」紹介	IoT開発セクター	大原 衛

2018(平成30)年度 年報

<ものづくり要素技術> 会議室 531・研修室 243・研修室 244

題 目	所 属	発表者名
セラミックAMの実用化に向けた基礎技術の確立	株式会社アスペクト	青山英史
AMによる造形品の表面性状評価	城南支所	古杉美幸
高速造形プロセスによる金属AMの機械的性質	3Dものづくりセクター	大久保 智
アウトラインパスを組み合わせた金属AM造形品の表面研磨	3Dものづくりセクター	藤巻研吾
磁粉探傷の高精度化と反磁界係数	機械技術グループ	伊藤 清
可搬型超音波探傷器による加工変質層評価法の検討	機械技術グループ	西村信司
レーザー焼結造形品の強度異方性へレーザー出力が与える影響についての考察	城東支所	木暮尊志
マグネシウム合金の機械的性質におよぼす集合組織の影響	実証試験セクター	小船論史
ICP-MSによる生体用金属材料からの溶出元素の評価	城南支所	湯川泰之
レーザーアブレーションICP-MSによる樹脂材料中の有害元素濃度の定量	城南支所	湯川泰之
LA-ICPMS法による鉛フリーはんだ実装部の鉛の分析	先端材料開発セクター	林 英男
固体標準物質を必要としないLA-ICP-MS分析法の開発	先端材料開発セクター	林 英男
パルス放電を用いたGD-MSによるセラミックス中の微量不純物定量法の開発	城南支所	山田健太郎
商品展示用ディスプレイ向け静電植毛加工技術と評価方法の検討	電子・機械グループ	長谷川 孝
弾性率変化を用いた高効率研削砥石の検討	電子・機械グループ	鈴木悠矢
三次元測定機における不確かさ推定	3Dものづくりセクター	中西正一
大径平面の簡易測定法の検討	3Dものづくりセクター	中村弘史
ポイントクラウドデータを用いた幾何公差検証	産業技術総合研究所	佐藤 理

<環境・エネルギー> 研修室 241

題 目	所 属	発表者名
RoHS 指令に対応したフタル酸エステル類の分析方法	環境技術グループ	平井和彦
止まり穴を有するクロムめっき製品に対応した新規六価クロム抽出法の提案	城東支所	安藤恵理
めっき用薬剤が亜鉛排水処理に与える影響	環境技術グループ	森久保 諭
ダイヤモンドコーテッド金型によるステンレス鋼板のドライしごき加工とトライボ特性	城南支所	玉置賢次
メタクリル樹脂用ジクロロメタン代替接着剤の検討	表面・化学技術グループ	安田 健
複層ガラス再資源化技術の開発	先端材料開発セクター	小林宏輝
促進耐候試験における熱処理木材の表層劣化とその防止	表面・化学技術グループ	村井まどか

<機能性材料> 会議室 233

題 目	所 属	発表者名
非晶質炭酸カルシウムの結晶化技術とその応用	環境技術グループ	吉野 徹
成形性および耐食性に優れる Mg 合金/Al クラッド板材の開発	実証試験セクター	小船論史
異方性を考慮した Ti-15V-3Cr-3Sn-3Al 合金板の成形限界線図	機械技術グループ	奥出裕亮
キセノンフラッシュアナライザーによる比熱容量測定の実証	実証試験セクター	佐々木正史
ナノグラフェン系 EL 材料のバンド構造解析	城南支所	藤巻康人
酸化チタン系インジウムフリー透明導電膜の開発	先端材料開発セクター	小川大輔
担体との相互作用を利用した金属空気電池および燃料電池用触媒層の白金使用量の低減	先端材料開発セクター	立花直樹

2018 (平成 30) 年 7 月 13 日 (金)

＜基調講演／機能性材料＞

「日本発！石から生まれた紙・プラスチックの代替となる新素材とは」

株式会社 TBM 開発本部エンジニア 平池佑介 氏

＜特別発表／生活技術・ヘルスケア＞

「睡眠で企業の健康経営を支援する」

株式会社 O: (オー) Founder/CEO 谷本潤哉 氏

＜生活技術・ヘルスケア＞ 会議室 531

題 目	所 属	発表者名
ハプティクス型触覚デバイスの開発	生活技術開発セクター	島田茂伸
行動観察を用いた生活製品に対する外国人の潜在ニーズ抽出研究	デザイン技術グループ	橋本みゆき
生体高分子の成型法を革新する配向コラーゲン線維ゲルの連続吐出法	バイオ応用技術グループ	柚木俊二
自公転式攪拌技術を利用した組織培養	東京電機大学	村松和明
背景騒音下で聴感される異音の気になり度合評価に関する研究	光音技術グループ	宮入 徹

＜機能性材料＞ 会議室 233

題 目	所 属	発表者名
機能性セラミック微粒子の分散技術開発	先端材料開発セクター	小林宏輝
微細カーボンナイトライド系光触媒の開発	先端材料開発セクター	染川正一
線維組織の配向評価法のための偏光計測システムの開発	光音技術グループ	海老澤瑞枝
太陽による熱の年間制御に向けた選択的反射材の開発	光音技術グループ	磯田和貴
低分子有機薄膜太陽電池用の有機半導体材料としてのポルフィリン錯体の創製	先端材料開発セクター	小汲佳祐
電磁界ソフトを活用した誘電体材料によるビーム幅制御の検討	電子・機械グループ	福田純子
AM材料として応用可能な木粉を基材とした複合材料の開発	デザイン技術グループ	酒井日出子

＜安全・安心＞ 研修室 241・研修室 243

題 目	所 属	発表者名
ナットを用いないねじ締付け時の座面摩擦係数測定方法の検討	城東支所	櫻庭健一郎
ラグスクリュー接合の締付け破壊性状と締付けトルク	実証試験セクター	松原独歩
超音波疲労試験の最適試験片形状の提案	実証試験セクター	新垣 翔
豪雨災害危険箇所UAV調査技術の開発	デザイン技術グループ	森 豊史
小型PMモータ用ドライバの試作事例	電気電子技術グループ	西澤裕輔
レーザ焼結による造形物の電気的絶縁性能評価	電気電子技術グループ	新井宏章
ノッチフィルタとスイッチ回路を用いた放射ノイズ発生源探査手法の提案	電子・機械グループ	佐野宏靖
広角カメラ映像からの人物姿勢認識手法	情報技術グループ	三木大輔
より高機能なデジタル回路合成を可能とする高位合成手法の開発	情報技術グループ	岡部 忠
属性ベース暗号を利用した安全なファイル共有方法の開発	情報技術グループ	大平倫宏
挟み込み構造のワイヤレス給電アンテナの開発	電子・機械グループ	秋山美郷
電子線殺菌における卵殻と卵内部の線量評価法の開発	バイオ応用技術グループ	片岡憲昭
国際標準指定色を用いた識別しやすい色の研究	デザイン技術グループ	角坂麗子

＜ロボット＞ 東京イノベーションハブ

題 目	所 属	発表者名
T型ロボットベースの安定性向上とその解析	ロボット開発セクター	坂下和広
バッテリー内蔵型ロボットでの充電方式の調査・検討	プロジェクト事業化推進室	佐藤 研
モジュール化とシステム化に基づくサービスロボットの開発	首都大学東京	久保田直行
自律移動案内ロボットの試験システムの構築	ロボット開発セクター	村上真之

題 目	所 属	発表者名
現場実装に向けたロボットプラットフォームの開発	東京工業高等専門学校	多羅尾 進
動的混雑環境における案内ロボットの自己位置推定	ロボット開発セクター	佐々木智典
複数センサを活用した人認識コンポーネントの省電力化	ロボット開発セクター	中村佳雅
多言語案内ロボットの施設利用と実証実験結果について	ロボット開発セクター	武田有志

＜ものづくり要素技術＞ 研修室 244

題 目	所 属	発表者名
CFRPによるロボット部品の試作	電子・機械グループ	谷口昌平
プリント技術を用いた炭素繊維強化プラスチックの機械的物性制御	複合素材開発セクター	武田浩司
CFRP製緩み止めナットの開発	ハードロック工業株式会社	小林孝明
炭素繊維強化プラスチック適用に向けた成形技術	明星大学	小山昌志
スクリーン印刷による機能性パターンニング	先端材料開発セクター	並木宏允
東京染小紋型紙の微細加工	技術経営支援室	岡田明子
繊維製品評価のための標準白布の仕上げ条件の適正化	複合素材開発セクター	小柴多佳子

6.1.2 施設公開

都産技研の主要施設、設備を中小企業および都民に公開し、各種事業の理解を得るとともに、産業技術の普及を図ることを目的に各事業所で施設公開を開催している。

城東支所は葛飾区の産業イベント、城南支所は大田区の産業イベントと同時開催した。多摩テクノプラザは、産業サポートスクエア・TAMA の各支援機関のイベントと同時開催した。墨田支所は、墨田区内企業への認知度向上と地域貢献を目的に「スミファ」へ参加した。

本部、墨田支所および多摩テクノプラザでは、入場者の職層、年齢層を設定し、ビジネスデー、ファミリーデーとして、内容を変えて開催した。

事業所	公開日	日数	入場者数(名)
本部 (INNOVESTA ! 2018)			
ビジネスデー	2018年 5月25日(金)	1日間	414
ファミリーデー	2018年 8月24日(金)	1日間	393
城東支所	2018年10月19日(金)～21日(日)	3日間	3,800
墨田支所 生活技術開発セクター			
ファミリーデー	2018年11月18日(日)	1日間	113
ビジネスデー	2019年 1月24日(木)	1日間	70
城南支所	2018年10月25日(木)～26日(金)	2日間	249
多摩テクノプラザ (多摩テクノフェア)			
ファミリーデー	2018年10月27日(土)	1日間	2,538
ビジネスデー	2019年 2月22日(金)	1日間	111
	計	11日間	7,688

(1) 本部 (INNOVESTA ! 2018)

1) ビジネスデー (5月25日)

特別講演 (3 テーマ)、海外展開特別セミナー (1 テーマ)、ワークショップ (9 テーマ)、製品開発支援ラボ入居企業の紹介 (4 企業)、連携機関 (ポスター展示 20 件、資料配布 24 件)、見学・実演・体験 (33 テーマ) など

- 2) ファミリーデー (8月24日)
工作教室 (12テーマ)、サイエンスショー (2公演)、ワークショップ (2テーマ)、見学 (7テーマ) など
 - 3) 両日開催
ロボット開発セクター開発ロボット展示
- (2) 城東支所
- 1) 展示・実演・体験
各種工作機械の展示、ビー玉コースターの展示、アメリカンフラワー作り、ストラップキーホルダー作り
 - 2) クイズラリーによる装置などの見学 (記念品贈呈)
 - 3) 同時開催
第34回葛飾区産業フェア「いいね! えっ! これも葛飾」(工業・商業・観光展)
主催: 葛飾区、葛飾区産業フェア運営委員会、東京商工会議所葛飾支部
- (3) 墨田支所 生活技術開発セクター
- 1) ビジネスデー (1月24日)
 - ・無料セミナー「初めてでも取り組める『人にやさしいものづくり入門』—企業での実践方法と“使いやすさ”の第三者認証制度—
 - ・生活動作計測スタジオの公開
 - ・事業・機器紹介 (施設見学): 反発弾性試験機、サーモグラフィ、マイクロスコープなど
 - 2) ファミリーデー (11月18日)
施設見学: 日射環境試験室、3Dプリンター、サーモグラフィなど
ワークショップ: 熱転写プリント、ネームタグ作成
 - 3) 同時開催 (ファミリーデー)
スミファ —素材×技術×人 つながる—
主催: スミファ実行委員会 (11月17・18日開催。都産技研は18日のみ参加)
共催: 墨田区
- (4) 城南支所
- 1) 展示・実演・体験
三次元レーザー加工機で製作した試作品の提供、光造形システムのテクノロジー、電子顕微鏡での50万倍の世界、恒温恒湿室による低温環境の体験など
 - 2) スタンプラリーによる装置の見学 (記念品贈呈)
 - 3) 同時開催
第8回おおた研究・開発フェア
主催: 大田区、公益財団法人大田区産業振興協会
- (5) 多摩テクノプラザ (多摩テクノフェア)
- 1) ファミリーデー (10月27日)
ワークショップ (2テーマ)、体験工作 (3テーマ)、科学技術教室「ハイテク航空宇

- 宙工学と『ペーパープレーンの制作』、設備・装置の実演（4テーマ）
- 2) 「産業サポートスクエア・TAMA ウェルカムデー」企画（10月27日）
各施設を回るスタンプラリー（記念品贈呈）、各支援機関紹介パネル展示（正門隣ポケットパーク）
- 3) ファミリーデーと同時開催
産業サポートスクエア・TAMA ウェルカムデー
主催：公益財団法人東京都中小企業振興公社多摩支社、東京都商工会連合会、
公益財団法人東京都農林水産振興財団、東京都立多摩職業能力開発センター
- 4) ビジネスデー（2月22日）
技術セミナー（2テーマ）、ミニ講習会（5テーマ）、自社技術開発に役立つミニセミナー（4テーマ）、市場導入のための特別セミナー（2テーマ）
- 5) ビジネスデーと同時開催
第18回たま工業交流展

6.1.3 産業交流展

産業交流展は、首都圏（東京都、埼玉県、千葉県、神奈川県）に事業所を有する中小企業などの優れた技術や製品を、分野を越えて一堂に展示する首都圏最大規模の見本市であり、国内外への販路開拓による受発注の拡大、情報収集・情報交換などを促進することを目的とする展示会である。実行委員会の一員として企画運営に参画するとともに、出展を行った。

開催日：2018（平成30）年11月14日（水）～11月16日（金）

会場：東京ビッグサイト東4・5・6ホール

同時開催：世界発信コンペティション表彰式、東京都経営革新優秀賞表彰式、
東京の中小企業魅力発見ツアー、ビジネスマッチング in 東京など

主催：産業交流展2018実行委員会

出展内容：首都圏テクノネットワークゾーン

事業および成果の展示紹介、製品開発支援ラボ入居企業8社出展
TKF、つくば市ほか連携機関の出展

次世代ロボットゾーン

ロボット産業活性化事業の紹介、案内ロボットのデモンストレーション

6.1.4 その他イベント

「サイエンスアゴラ2018」に出展し、タッチラリーに協力するとともに、以下のプログラムを実施した。

開催日：2018（平成30）年11月9日（金）～11日（日）

※都産技研は10日（土）、11日（日）参加

会場：テレコムセンタービル

プログラム：IoT支援サイトの見学

主催：国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）

6.2 見学

都内の中小企業、商工関連業界、学校、自治体などからの要望に応じて、見学・視察を受け入れた。都産技研の役割および各種事業や研究成果、機器などを紹介し、知名度向上と産業技術の普及に努めている。

2018（平成30）年度施設見学受け入れ件数・見学者数

庁舎	本部	城東	墨田	城南	多摩テクノプラザ	合計
件数（件）	178	6	27	10	25	246
見学者数（名）	1,651	73	198	118	272	2,312

都産技研本部では、来所者に都産技研の事業を分かりやすく PR するため、従来の展示品を一新し、所内見学ルートを整備した（3月。4月より新見学ルートの運用を開始）。

- ・ TIRI NEWS の当月号のポスターを掲示。また、過去の記事からピックアップした 2 事例を展示品とともに紹介
- ・ 「IoT とは何か」をわかりやすく伝えるため、スマートホームをテーマに、家電など家の中の「モノ」がインターネットとつながる体験ができるコーナーを設置
- ・ 休憩スペースにて、都産技研の利用の流れや支援メニューおよび支援事例をパネル展示
- ・ 都産技研の技術支援メニューを利用して製品化、事業化を達成した製品を展示し、支援内容に関する日本語と英語による音声案内タブレットを設置
- ・ 都産技研の支所をパネル展示にて紹介

6.3 展示会出展およびセミナーの開催

6.3.1 展示会出展

研究開発・技術開発の成果および企業と共同して行った製品化事例などを、広く中小企業や都民に紹介するため、都産技研は展示会や講演会などを主催するとともに、外部の展示会にも出展した。パネル展示、試作品、デモ実演、模型などを活用し、技術移転を推進した。加えて、依頼試験や機器利用などの事業紹介を行い、都産技研の認知度向上および利用拡大に努めた。

(1) 東京都・区市関連

No.	展示会名	主催	開催月日	場所	出展内容
1	Tokyo ふしぎ祭（サイ） エンス 2018	東京都	4月21日	日本科学未来館	ホバークラフト工作教室
2	第 11 回大田区加工技術 展示商談会	大田区、(公財) 大田区産業振興 協会、(一社)大 田工業連合会	7月 6日	大田区産業プラザ Pi0	事業・設備等の紹介、プレ ゼン「先端計測加工ラボの 活用によるものづくり支 援」
3	ものづくり商談会	品川区、目黒 区、板橋区、江 戸川区、北区、 さいたま市	9月 4日	品川区産業支援交流 施設「SHIP」	都産技研の支援事業の紹 介、相談対応
4	新技術創出交流会	(公財)東京都中 小企業振興公社 多摩支社	9月19～20日	パレスホテル立川	多摩テクノプラザ技術シー ズ紹介

2018(平成30)年度 年報

No.	展示会名	主催	開催月日	場所	出展内容
5	第29回府中市工業技術展 ふちゅうテクノフェア	府中市、むさし 府中商工会議所	10月19～20日	府中市市民活動セン タープラッツ	多摩テクノプラザ事業紹介
6	第34回葛飾区産業フェア	葛飾区、東京商 工会議所葛飾支 部、葛飾区産業 フェア運営委員 会	10月19～21日	テクノプラザかつし か/東京都城東地域 中小企業振興センタ ー	城東支所事業紹介、城東支 所施設公開同時開催
7	練馬産業見本市 ねりま EXPO 2018	練馬区	10月21日	としまえん屋内館	都産技研事業・設備の紹介
8	第8回 おおた研究開発フェア	大田区、(公財) 大田区産業振興 協会	10月25～26日	大田区産業プラザ Pi0	城南支所の研究紹介、城南 支所施設公開同時開催
9	第51回 青梅産業観光まつり	青梅商工会議所	11月 3～ 4日	青梅市永山公園グラ ウンド	組紐実演
10	第22回 いたばし産業見本市	いたばし産業見 本市実行委員会	11月 8～ 9日	板橋区立東板橋体育 館	都産技研・IoT 支援サイト 事業紹介
11	第50回 昭島市産業まつり	昭島市	11月10～11日	KOTORI ホール(市 民会館)・公民館	体験工作教室
12	第20回 産業ときめきフェア in EDOGAWA	江戸川区	11月16～17日	タワーホール船堀	城東支所紹介
13	品川情報クラスターフェ ア	品川区	1月31日	大崎ブライトコアホ ール	ロボットデモ展示
14	第23回 高度技術・技能展 おおた工業フェア	大田区、(公財) 大田区産業振興 協会、(一社)大 田工業連合会	1月31日～ 2月 1日	大田区産業プラザ Pi0	城南支所事業・研究紹介
15	ライフ・ワーク・ バランス EXPO 東京 2019	東京都	2月 7日	東京国際フォーラム	ロボットデモ展示
16	第5回町工場見本市 2019	葛飾区、東京商 工会議所葛飾支 部	2月19～20日	東京国際フォーラム	城東支所事業紹介
17	第18回たま工業交流展	たま工業交流展 実行委員会	2月21～22日	東京都立多摩職業能 力開発センター	都産技研事業・設備事業紹 介、多摩テクノプラザ技術 シーズ紹介

(2) 金融機関関連

No.	展示会名	主催	開催月日	場所	出展内容
1	城南同業種交流会(プラス チック成型加工業関連)	城南信用金庫	5月29日	城南信用金庫本店	プラスチック成型加工に関 する都産技研研究紹介
2	第10回 シグマバンクグループ ビジネス交流会	シグマバンクグ ループ	8月 3日	東武ホテルレバント 東京	都産技研事業・設備紹介
3	2018 “よい仕事おこし” フェア	城南信用金庫	9月19～20日	東京国際フォーラム	都産技研事業・設備紹介
4	第18回あおしんビジネス 支援マッチング大会	青梅信用金庫	10月17日	フォレスト・イン昭 和館	多摩テクノプラザ技術シー ズ紹介
5	第19回ビジネスフェア	西武信用金庫	11月 6日	東京ドームシティ プリズムホール	多摩テクノプラザ技術シー ズ紹介
6	城南同業種交流会(プレ ス板金加工業)	城南信用金庫	11月 6日	城南信用金庫本店	プレス板金加工に関する都 産技研研究紹介
7	ひがしんビジネスフェア 2018	東京東信用金庫	11月16日	両国国技館	都産技研事業・設備紹介

(3) 民間団体その他

No.	展示会名	主催	開催月日	場所	出展内容
1	ワイヤレス・テクノロジー・パーク 2018	(国研)情報通信研究機構、YRP 研究開発推進協会 ほか	5月23～25日	東京ビッグサイト	電気電子技術グループ・電子・機械グループ研究開発事例紹介
2	第3回サービスロボット開発技術展	ロボット開発技術展実行委員会	6月7～8日	インテックス大阪	ロボット産業活性化事業紹介、公募型共同研究開発ロボット展示
3	ANEX 2018 (アジア不織布産業総合展示会・会議)	アジア不織布協会、日本不織布協会	6月6～8日	東京ビッグサイト	複合素材開発セクター事業紹介
4	JPCA Show 2018	(一社)日本電子回路工業会	6月6～8日	東京ビッグサイト	情報技術グループ研究開発事例紹介
5	第5回 Mfair Bangkok 2018 ものづくり商談会	Factory Network Asia (Thailand) Co., Ltd./Reed Tradex Co., Ltd.	6月20～22日	Bangkok International Trade & Exhibition Centre (BITEC)	バンコク支所事業紹介
6	メンテナンス・レジリエンス TOKYO 2018	(一社)日本能率協会	7月18～20日	東京ビッグサイト	ロボット産業活性化事業紹介、公募型共同研究開発ロボット展示
7	エヌプラス	(一社)プラスチック工業技術研究会	9月26～28日	東京ビッグサイト	複合素材開発サイト成果事例、事業紹介
8	第28回 INTERMEASURE 2018	(一社)日本計量振興協会	9月26～28日	東京ビッグサイト	実証試験セクター事業紹介、平成28年度共同研究成果紹介
9	システムデザインフォーラム 2018	首都大学東京	10月3日	首都大学東京 日野キャンパス	ロボットデモ展示
10	地域イノベ・技術連携交流会	(一社)首都圏産業活性化協会	10月5日	中野サンプラザ	多摩テクノプラザ技術シーズ紹介
11	Bio Japan 2018	(株)JTB コミュニケーションデザイン ほか	10月10～12日	パシフィコ横浜	医療機器分野の研究・シーズ紹介
12	CEATEC JAPAN 2018	(一社)日本エレクトロニクスショー協会	10月16～19日	幕張メッセ	情報技術グループ研究紹介、AI/ビッグデータ分野の製品や技術に関する都産技研研究紹介
13	Japan Robot Week 2018	(一社)日本ロボット工業会、(株)日刊工業新聞社	10月17～19日	東京ビッグサイト	ロボット産業活性化事業紹介、公募型共同研究開発ロボット展示
14	CSJ 化学フェスタ	(公社)日本化学会	10月24日	タワーホール船堀	先端材料開発セクター研究紹介、事業紹介
15	63rd FRP CON-EX 2018	(一社)強化プラスチック協会	10月25～26日	日本大学理工学部 駿河台校舎1号館	複合素材開発セクター研究事例紹介、設備紹介
16	けいはんな情報通信フェア 2018	けいはんな情報通信フェア実行委員会、(国研)情報通信研究機構(NICT)、(株)国際電気通信基礎技術研究所(ATR) ほか	10月25～27日	けいはんなプラザ	ロボット産業活性化事業紹介、都産技研開発ロボット展示
17	計測展 2018 OSAKA	(一社)日本電気計測器工業会	11月7～9日	グランキューブ大阪	実証試験セクター事業紹介、平成28年度共同研究成果紹介

2018(平成30)年度 年報

No.	展示会名	主催	開催月日	場所	出展内容
18	Embedded Technology 2018	(一社)組込みシステム技術協会、(株)JTB コミュニケーションデザイン	11月14～16日	パシフィコ横浜	情報技術グループとIoT 開発セクターの研究・支援事例紹介
19	METALEX 2018	ReedTradex Co.,Ltd	11月21～24日	Bangkok International Trade & Exhibition Centre (BITEC)	バンコク支所事業紹介
20	第3回ロボデックス	リード エグジビション ジャパン(株)	1月16～18日	東京ビッグサイト	ロボット産業活性化事業紹介、公募型共同研究開発ロボット展示
21	東京 FPGA カンファレンス 2019 with プログラマブルデバイスプラザ	(特非)FPGA コンソーシアム	1月18日	都産技研 本部	都産技研事業紹介、FPGA 研究紹介
22	JFlex 2019	(株)JTB コミュニケーションデザイン	1月30日～2月1日	東京ビッグサイト	複合素材開発セクター事業・研究開発事例紹介
23	TCT Japan 2019	(株)JTB コミュニケーションデザイン	1月30日～2月1日	東京ビッグサイト	3Dものづくりセクターを中心とした3D造形事業紹介
24	SURTECH 2019	(株)JTB コミュニケーションデザイン	1月30日～2月1日	東京ビッグサイト	表面・化学技術グループ、環境技術グループ研究紹介
25	第9回化粧品開発展	リード エグジビション ジャパン(株)	1月30日～2月1日	幕張メッセ	バイオ応用技術グループを中心とする化粧品業界への開発支援メニューの紹介
26	インバウンドマーケット EXPO 2019	(一社)日本能率協会、(一社)日本ホテル協会、(一社)日本旅館協会、(一社)国際観光日本レストラン協会、(公社)国際観光施設協会	2月19～22日	東京ビッグサイト	ロボット産業活性化事業紹介、公募型共同研究開発ロボット展示

航空機産業への参入支援事業における展示会出展情報は、「2.4.4 航空機産業への参入支援事業」を参照。

6.3.2 ものづくりセミナー

区市町村との連携を深め、地域に密着した産業振興・技術支援を行うため、展示会において、都産技研の研究成果や事業を普及する「ものづくりセミナー」を開催した。

[ロボットセミナー in 府中]

第29回府中市工業技術展 ふちゅうテクノフェアにおいて、「ロボット開発を支援する都産技研の取り組み」をテーマに開催した。

開催日：2018（平成30）年10月19日（金）

会場：府中市市民活動センタープラッツ 5階 バルトホール

No.	題目	発表者名	所属
1	「電動アシスト人力車」～開発から完成まで～	佐藤 研	プロジェクト事業化推進室
2	(地独)東京都立産業技術研究センターのロボット産業活性化事業	武田有志	ロボット開発セクター

6.4 刊行物

都産技研で発行する刊行物は、技術移転、成果の普及など情報の発信機能を果たし、中小企業などへの技術情報提供に貢献している。研究発表の要旨を記載した「TIRI クロスミーティング 2018 概要集」などの刊行物や研究事業の普及に向けた各種冊子およびリーフレットを発行した。

6.4.1 刊行物

2018（平成30）年度に発行した冊子は以下のとおりである。

登録番号	タイトル	発行年月	部数（増刷含む）
都産技 30-1	事業案内（冊子）の改訂	2018年4月	5,000
都産技 30-4	東京ロボット産業支援プラザ試験設備ご利用案内	2018年5月	500
都産技 30-2	平成29年度年報	2018年6月	400
都産技 30-3	Business Guide of Bangkok Branch	2018年6月	300
都産技 30-5	TIRI クロスミーティング 2018 概要集	2018年7月	1,000
都産技 30-6	城南支所事業案内の改訂	2018年9月	2,000
都産技 30-7	事業案内（冊子）の改訂	2018年10月	6,100
都産技 30-9	東京都異業種交流グループ 平成30年度グループ交流カルテ	2018年11月	50
都産技 30-11	平成30年度技術シーズ集	2018年11月	1,500
都産技 30-12	デザイン技術グループ成果事例集の改訂	2018年11月	2,000
都産技 30-13	技術相談ご利用ガイドの改訂	2018年11月	3,000
都産技 30-14	次世代産業分野参入に向けた生産性向上支援のご紹介	2018年11月	2,000
都産技 30-10	東京イノベーション発信交流会 2019	2018年12月	2,000
都産技 30-15	電子・機械グループ成果事例集	2019年1月	1,000
都産技 30-17	平成30年度都産技研活用事例集	2019年1月	4,000
都産技 30-18	海外規格解説テキスト 医療機器規則（MDR）	2019年3月	500
都産技 30-19	海外規格解説テキスト 体外診断用医療機器規則（IVDR）	2019年3月	500
都産技 30-20	東京都立産業技術研究センター・東京都中小企業振興公社 連携支援事例のご紹介	2019年3月	1,000
都産技 30-21	平成30年度版都産技研 MTEP 海外展開事例集	2019年3月	1,000
都産技 30-22	城東支所活用事例集	2019年3月	1,000
都産技 30-23	平成30年度都産技研の利用に関する調査 アウトカム評価報告書	2019年3月	200

（発行年月順）

6.4.2 年報

前年度に実施した試験・研究・調査の成果や普及・技術移転業務の実績などを公開・報告するために2017（平成29）年度の年報を発行した。

6.4.3 TIRI NEWS

「TIRI NEWS」は、都産技研が保有する技術シーズや幅広い支援事業の発信を目的に発行する技術情報誌である。A4判、12ページ、カラー印刷で、毎月約4,600部を発行している。中小企業および各関係機関733件（3月号）へ送付したほか、各種展示会やイベント、施設見学者などに配布した。また、ウェブサイトには、ウェブブックおよびPDF資料として掲載

している。

2018（平成 30）年度は、デザイン・レイアウトの大幅なリニューアルを行い掲載写真数を増やすとともに、専門家以外の読者にも分かりやすい文章に改め、読者の満足度向上に努めた。

6.5 都産技研ウェブサイト

都産技研は、事業・成果を広く紹介するために、ウェブサイトによる情報発信を行っている。随時内容を更新して効果的な情報提供と使いやすさの向上に努めた。コンテンツマネジメントシステムの活用により、コンテンツの迅速な更新を行うとともに、アクセシビリティに配慮したページ作成を実施している。2018（平成 30）年度は、新たに以下の取り組みを行った。

(1) 外部サイト運用の見直し（採用情報サイト）

委託経費削減の観点から、採用情報サイトを都産技研ウェブサイト内に構築し、情報提供を開始した。2019 年度以降に実施する TIRI クロスミーティングなどのイベントサイトについても、都産技研ウェブサイト内に構築予定である。

(2) 動画コンテンツの拡充

ウェブサイトへの動画掲載のために、動画配信サイト YouTube を使用している。所有する YouTube チャンネルについて名称と URL を設定し、周知を開始した。

チャンネル名 都産技研チャンネル

チャンネル URL <https://www.youtube.com/c/TIRICHANNEL/>

2018（平成 30）年度には、2 件の動画を新規に掲載した。

- ・都産技研 3D プリンターでバイオリン、その設計と製作 - Design and fabrication of 3D printed violin -
- ・都産技研 スクリーン印刷の工程

(3) 都産技研ウェブサイトの常時 SSL 化

ウェブサイトのセキュリティ向上のため、都産技研ウェブサイトの常時 SSL 化を実施した。2018（平成 30）年 12 月より、都産技研ウェブサイトアクセス時に表示されるすべてのページについて、http 接続で閲覧しようとした際に自動的に https 接続に変更となる。

なお、都産技研が所有しているドメインは以下のとおりである。

東京都立産業技術研究センター URL <https://www.iri-tokyo.jp/>

採用情報サイト URL <https://saiyou.iri-tokyo.jp/>

※2018（平成 30）年 12 月で採用情報の提供を終了。上記 URL にアクセスすると、都産技研ウェブサイト内「採用情報」ページに転送される。

首都圏テクノナレッジフリーウェイ URL <https://tkm.iri-tokyo.jp/>

DHuLE（デュール） URL <https://www.dhule.jp/>

ロボット産業活性化事業 URL <https://tiri-robot.jp/>

INNOVESTA！ URL <https://tiri-innovesta.jp/>

TIRI クロスミーティング URL <https://www.tosangiken-seika.jp/>

中小企業の IoT 化支援事業 URL <https://iot.iri-tokyo.jp/>

(4) 都産技研公式ツイッターの活用

都産技研公式ツイッターにて、都産技研ウェブサイトの新着情報を随時発信した。

6.6 都産技研メールニュース

都産技研メールニュースを週1回程度配信し、技術セミナー・講習会の募集や刊行物の紹介、各種イベント開催案内、連携機関からのお知らせなど、最新の技術支援情報を提供している。技術セミナー受講者やイベント参加者などから配信希望を募り、登録を随時行っている。配信登録・解除・配信先変更の要望に速やかに対応できるよう、登録・解除フォームをウェブサイト内に新設した。

配 信 数：約 14,800 件 2019（平成 31）年 3 月 29 日現在

発行回数：55 回

6.7 マスコミ報道

2018（平成 30）年度の各種マスコミ報道は以下のとおりである。

(1) プレス発表

No.	発表日	発表内容
1	4月 2日	東京都立産業技術研究センター新理事の就任について
2	4月 9日	(H30 年度) 中小企業の IoT 化支援事業 公募型共同研究 事業説明会の開催
3	4月 9日	(H30 年度) 東京都ロボット産業活性化事業 共同開発テーマの募集説明会を開催
4	4月26日	ロボット産業活性化事業 「サービスロボット事業化交流会」 会員企業募集/全体会議開催のお知らせ
5	5月 2日	東京都立産業技術研究センターと兵庫県立大学が協定を締結 ー産学公・地域連携活動の活性化および産業振興を推進ー
6	5月23日	中小企業と技術の出会いの場「TIRI クロスミーティング 2018」開催
7	5月23日	レーザー加工機による染小紋用型紙加工技術の開発
8	5月23日	サービスロボットの開発支援拠点「東京ロボット産業支援プラザ」機器利用・依頼試験サービス開始のお知らせ
9	6月 7日	多角的偏光イメージングシステムの開発～画像センシング展 2018 に出展～
10	6月26日	INNOVESTA!2018 ファミリーデー開催 都産技研施設公開 イノベスタ (Innovation+Festa)
11	7月 4日	UAV (ドローン) で地形を 3D 化、豪雨防災に活用 ～地域ハザードマップの作成や、災害時の情報収集に活用～
12	7月 4日	静電植毛加工の高品質化を実現
13	8月 7日	東京都立産業技術研究センターと足立区が協定を締結 ー産業振興事業・セミナーの連携により地域産業を活性化ー
14	8月21日	3D プリンターでバイオリン、その設計と製作 都産技研 3D ものづくり関連設備・技術を集結した動画を公開
15	8月21日	有機薄膜太陽電池の製品化に向けた安定供給可能な新規機能性材料の開発
16	8月31日	障害者スポーツ研究開発推進事業 公募型共同研究 トップアスリート向け競技用義足の新モデルを開発
17	9月13日	新規製品・サービス開発と IoT 利活用を支援する「IoT 支援サイト」オープン
18	9月28日	中小企業の IoT 化支援事業 公募型共同研究事業 テーマ決定
19	9月28日	東京都ロボット産業活性化事業 公募型共同研究開発事業 テーマ決定
20	10月11日	変異原性を有するニトロ化合物の環境中微量分析法の開発
21	10月16日	日本初、西武新宿駅構内で、自律移動型の AI 監視カメラ搭載警備ロボット実証実験を開始 ～名称は「Perseusbot (ペルセウスロボット)」に決定!～
22	11月 8日	「生活動作計測スタジオ」を整備・新機器導入 ー新たな製品・サービスの創出を促進ー

2018(平成30)年度 年報

No.	発表日	発表内容
23	12月27日	(H30年度) 東京都ロボット産業活性化事業 「物流業界」「外食・食品業界」で利用するロボットシステムの開発・実証事業者の決定
24	1月23日	法規制対応のための亜鉛めっき排水処理技術の開発
25	1月28日	(H30年度) 中小企業のIoT化支援事業 公募型共同研究の募集を開始します
26	2月13日	豪雨警戒センサーの共同研究開発を実施 都民への調査をもとに、産学公連携で防災システムを構築
27	3月1日	株式会社はくばく×地方独立行政法人東京都立産業技術研究センター×GMOクラウド株式会社 生産現場におけるAI・IoT技術の三者共同研究・実証実験開始 ～製造業の現場の生産性向上を実現するIoT製品の普及促進へ～
28	3月19日	東京都立産業技術研究センターと八王子市が業務連携協定を締結

(2) テレビ・ラジオ報道

月別のテレビ・ラジオ報道件数は以下のとおりである。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
件数	0	0	1	1	1	1	1	0	0	0	0	0	5

(3) 撮影協力

月別の撮影協力件数は以下のとおりである。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
件数	1	0	2	1	4	2	1	0	1	0	1	0	13

(4) 新聞報道

月別の新聞掲載件数は以下のとおりである。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
件数	10	22	5	11	11	6	16	17	5	10	7	9	129

(5) 雑誌・広報誌報道

月別の雑誌・広報誌掲載件数は以下のとおりである。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
件数	3	4	1	0	3	2	2	1	3	0	1	1	21

(6) ウェブ報道

月別のWeb掲載件数は以下のとおりである。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
件数	122	246	66	156	35	9	126	235	100	17	96	51	1,259

6.8 図書室

試験、研究、相談などの事業実施において、技術資料の収集・活用は不可欠である。都産技研では、国内外の専門誌・図書・技術文献などを購入するとともに、2ヶ月に1回程度企画展示を行い、蔵書の充実を行っている。2018（平成30）年度は、本部図書室の雑誌配列を50音順にし、図書室活用の利便性を向上したほか、カビ被害のあった多摩テクノプラザ資料室資料約15,000冊の燻蒸やクリーニング作業を実施した。

また、本部図書室は中小企業者らに公開して、調査研究活動に活用されている。外部利用者数は、延べ1,018名であった。図書システムで登録・管理している蔵書数は次のとおりである。

2018（平成30）年度図書管理数

蔵書種類	本部（城東・城南を含む）	多摩テクノプラザ	墨田支所
和書（冊）	16,393	3,671	2,767
洋書（冊）	1,253	78	121
和文雑誌（種）	512	82	86
欧文雑誌（種）	40	14	10

ほかに、欧文雑誌電子ジャーナル版10誌を、2017（平成29）年度に引き続き年間契約した。

企画展示図書の内容は以下のとおりである。

2018（平成30）年度企画展示図書

月	テーマ
4月	航空機産業参入と中小企業
5月	中小企業とIoT
6月	
7月	
8月	中小企業白書・小規模企業白書 2018年版
9月	特集 「生産性向上」
10月	GDPR（一般データ保護規則）と情報管理
11月	
12月	RPA：業務自動化導入を考える
1月	
2月	モビリティ革命：変革する自動車業界
3月	～CASE、MaaS、自動運転、EV～

7. 業務運営

7.1 組織運営

2016（平成 28）年度からの第三期中期計画の着実な実施と、都産技研の業務運営および中小企業の動向を踏まえ、新たな組織体制での 2018（平成 30）年度版「都産技研戦略ロードマップ」を策定し、ウェブサイトで公開した。また、効率的な事業運営のための業務改革の推進や、職員育成のための各種研修を行った。

7.1.1 都産技研戦略ロードマップ

中小企業の技術支援を通じた産業振興を図り、技術支援の実施にあたってきめ細かいサービスを提供することを目的として、中長期的な視点に立った戦略的な事業展開のための「都産技研戦略ロードマップ」を策定し、公開版をウェブサイトに掲載した。

また、第三期中期計画の着実な達成を目指し、研究開発活動の強化による中小企業の新事業展開を見据えた改訂を行った。

- (1) 事業戦略ロードマップ：現行事業と今後新たに取り組むべき事業を明確にしたもの
- (2) 事業運営ロードマップ：都産技研の運営に関わる取り組みを明確にしたもの
- (3) 重点4分野ロードマップ：注力する技術分野を明確にしたもの

7.1.2 業務改革

所内各部門が業務運営の改善および効率化を図るための業務改革活動に取り組んだ。管理部門への要望なども含め、合計 36 件について取り組みを実施した。実施済みおよび継続中の代表的な取り組み内容は以下のとおりである。

代表的な取り組み内容

事業	取り組み内容
依頼試験	業務フローの作成による業務手順の平準化、機器カルテを活用した相談業務の効率化
機器利用	お客さま目線（ニーズ先行型）のパンフレット作成、城東支所活用事例集の作成・発行
研究推進	研究データベースの運用体制構築、サイボウズを活用した情報共有の効率化
管理運営	依頼試験・機器利用担当者検索システムの充実、入札方法の改善

7.1.3 人材育成

職員の能力開発を促進するため、各種職員研修を実施した。

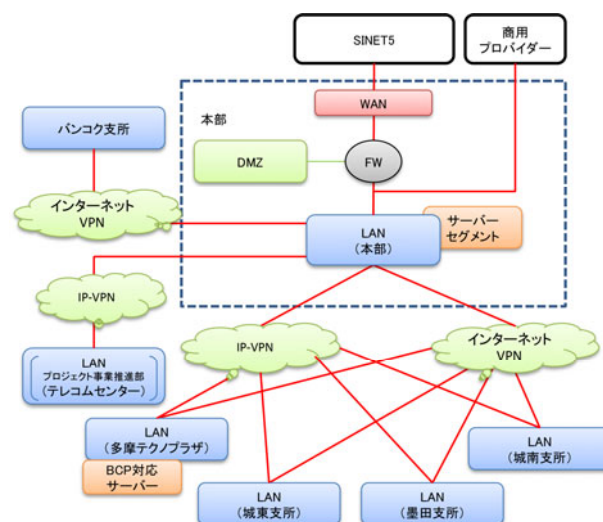
- (1) 新任研修：新規採用および転入職員に対する事業説明など受講者 35 名、14 日
- (2) 職層別研修：職層ごとに必要な知識の習得や実務研修など受講者 76 名、22 日
- (3) 専門研修：職務上必要な専門知識の習得 60 回
- (4) 派遣研修：中小企業大学校など外部機関における研修 214 名
大学院博士課程 3 件
- (5) 出向研修：東京都庁への派遣 1 件

7.2 都産技研情報システム

7.2.1 概要

情報ネットワークの基盤とともに、ウェブ閲覧、メール、ファイル共有、ファイル転送などのサービスを提供した。

本部、多摩テクノプラザ、城東支所、墨田支所、城南支所、バンコク支所およびプロジェクト事業推進部をネットワークで接続している。組織全体でサービスを共有することにより、試験・研究・技術支援などの産業支援業務および各種事務の効率向上に寄与した。



7.2.2 業務運営

(1) ネットワーク機能の概要

学術情報ネットワーク（SINET5）および民間プロバイダー経由のインターネット接続、5拠点をつなぐ拠点間通信網で構成されており、ウィルス対策、不正侵入対策、不正端末対策などの機能を有している。

(2) 提供サービスの概要

- ・一般ユーザー環境（ファイル共有サーバー、ウェブサイト閲覧、メール、認証印刷、ファイル転送機能など）
- ・グループウェア（予定表、施設予約、掲示板、汎用申請機能など）
- ・メールアーカイブシステム
- ・メール受付共有システム
- ・内部向け情報サーバー（簡易利用手順、FAQなどの掲載）
- ・産業支援業務システム（技術相談・依頼試験・機器利用等事業管理）
- ・首都圏テクノナレッジフリーウェイ
- ・外部公開サイト
- ・東京都地域結集型研究開発プログラム成果報告サイト
- ・採用情報サイト ※2018（平成30）年12月まで
- ・地方独立行政法人公設試験研究機関情報連絡会
- ・予約状況表示システム、環境試験機オンライン予約
- ・図書管理システム（蔵書検索、NACSIS連携）
- ・総務システム（庶務事務・人事管理事務）
- ・財務システム（購買・資産管理事務）
- ・拠点間テレビ会議・映像配信システム
- ・薬品管理システム

(3) その他

- ・アカウント数 約490アカウント
- ・ネットワーク接続情報端末数 約2,300台

7.3 業務実績報告書と業務実績評価

7.3.1 業務実績報告書の提出

2017（平成 29）年度における業務実績報告書を、東京都が設立する地方独立行政法人東京都立産業技術研究センターの業務運営並びに財務及び会計に関する規則第六条に基づき、2018（平成 30）年 6 月 22 日に東京都地方独立行政法人評価委員会へ提出した。

7.3.2 業務実績評価

東京都地方独立行政法人評価委員会は、地方独立行政法人法第二十八条の規定に基づき、東京都が設立した地方独立行政法人東京都立産業技術研究センターについて、2017（平成 29）年度における業務の実績に関する事業年度評価を行った。

全体評価の総評は以下のとおりであった。

○2017（平成 29）年度業務実績評価

総 評

第三期中期目標期間の 2 年目を迎えた東京都立産業技術研究センター（以下、「都産技研」という。）は、重点技術分野である「環境・エネルギー」、「生活技術・ヘルスケア」、「機能性材料」、「安全・安心」に関する研究開発を実施するとともに、さまざまな支援事業において製品化につながる成果が生まれている。また、東京都の施策と連携して、新たに「中小企業の IoT 化支援事業」、「航空機産業への参入支援事業」、「障害者スポーツ研究開発推進事業」の取り組みを開始した。

3D ものづくりセクターでは、3D 技術を活用して、多様で独自性の高い製品開発を後押しするとともに、新たにセラミック AM の基礎技術を確立するなど、技術の進展を見据えて積極的に取り組んでおり高く評価できる。

実証試験セクターでは、依頼試験と機器利用の合計実績が過去最高となり高く評価できる。また、同セクターの品質保証推進センターにおいて、信頼性および品質の確保のために、品質専任担当者を設置し、JCSS および JNLA の品質マニュアルや品質記録、実績を一元管理し、国際規格対応試験の支援体制を充実したことも評価できる。

ロボット産業活性化事業については、公募型共同研究開発事業などを通じてさまざまな分野で活用するサービスロボットの開発支援を実施するとともに商業施設などで案内ロボットの実証実験を行い、実用化へ向けた事例が多く確認され評価できる。

技術相談や依頼試験は高水準を維持している。また、都産技研では、利用者の利便性向上および業務効率化の観点から、依頼試験から機器利用サービスに移行を促しており、機器利用サービスの実績は過去最高となった。

複合素材開発セクターは、都産技研が培ってきた繊維加工技術などを発展させて、高機能繊維材料や繊維強化材料による製品開発を支援している。同セクターは、多摩テクノプラザに開設して 2 年目を迎え、依頼試験と機器利用の合計実績が前年度から大きく増加しており評価できる。

中小企業の海外展開のための技術支援では、広域首都圏輸出製品技術支援センター（MTEP）の相談実績は過去最高を達成した。中小企業に対する国際規格対応試験の実施や新たに航空機産業支援室を開設し、中小企業の航空機産業参入への支援を行うなど、中小企業の海外展開を支援している。

このように、都産技研は地方独立行政法人のメリットを生かし、産業動向を見据えた機動性

の高い組織運営や、中小企業ニーズに合致した柔軟な業務運営を積極的に図り、成果を上げていることは評価できる。

今後も、都産技研の基本理念である、ニーズオリエンティドな事業運営、事業化を見据えた技術支援、産業育成に直結する研究開発の3本柱に基づき、中小企業の製品化・事業化につながる研究開発の推進および国内外の市場ニーズを的確に捉えた製品開発を支える技術支援のより一層の充実を図り、中小企業の発展に寄与することを期待する。

都産技研の支援事例について、追跡調査の充実を図るなど、製品化の費用対効果や事業化の経済効果などをより一層把握するよう努めてほしい。また、都産技研の貢献度や成果を効果的に情報発信することにより、都産技研のプレゼンスが向上し、さまざまな支援事業がさらに活性化することを期待したい。

7.4 施設整備

都内中小企業の技術の向上とその成果の普及を図る上で、事業実施のために必要となる施設の整備を行った。本部においては、2016（平成28年）4月から5ヶ年の第三期中期計画の実施にあたり各種施設整備を実施した。

7.4.1 本部

施設整備・修繕工事 合計 37 件

1	(仮称) IoT 支援サイト整備その2 建築工事	20	本部 4E05 室・東京ロボット産業支援プラザ1 階電源設備改修工事
2	(仮称) IoT 支援サイト整備その2 機械設備工事	21	音響関連室自動搬送装置等部品交換
3	(仮称) IoT 支援サイト整備その2 電気設備工事	22	排気除害設備ポンプ等交換
4	(仮称) IoT 支援サイト、東京ロボット産業支援プラザ電話設備増移設	23	上水用量水器交換
5	環境試験室動力盤改修工事	24	液体窒素発生装置修繕
6	環境試験室冷却水配管改修工事	25	圧縮空気供給設備フィルター等交換
7	第二非破壊検査室放射線防護施設整備工事	26	電極式蒸気加湿器部品交換
8	第二非破壊検査室放射線防護施設電気設備工事	27	2 階環境試験室 PHS アンテナ増設工事
9	展示リニューアル準備建築工事	28	本部ほか転倒防止対策工事
10	展示リニューアル準備機械設備工事	29	1 階金属材料加工室ほか電話設備工事
11	展示リニューアル準備電気設備工事	30	1E01、3C14 ガスボンベ導入対応工事
12	監視カメラ更新工事	31	サーバー室系統空調機修繕
13	2N05 衛生設備改修工事	32	耐火被覆塗装補修工事
14	本部電話設備増移設	33	厨房系統ガス配管ほか修繕
15	冷却塔排水管路量水器交換	34	空調機運転モード追加工事
16	3W01-2 デザイン支援室倉庫飛散防止フィルム設置工事	35	屋上電気配管補修工事
17	喫煙スペース設置工事	36	誘導灯・非常灯補修工事
18	5N08 純水配管改修工事	37	2E05 ほかガスボンベ容器連結管交換
19	空調用温水ポンプ修繕		

7.4.2 城東支所

施設整備・修繕工事 合計 15 件

1	地下1階ポンプおよび圧力タンク交換修理	9	振興センター3階廊下改修工事その他
2	排水処理装置第2ポンプ交換修理	10	冷却塔更新工事
3	振興センター空調用電磁弁交換修理	11	排気ガラリ工事
4	冷却塔修理	12	ドアクローザー取替修理
5	振興センター2階トイレおよび流し台バルブ修理	13	3階男子トイレ修理
6	振興センター2・3階防水改修工事	14	3階廊下改修工事その他
7	排煙器点検修理	15	エレクトロニクス測定室空調機増設工事
8	振興センター水道メータ交換		

7.4.3 墨田支所 生活技術開発セクター

施設整備・修繕工事 合計 7 件

1	生活動作計測スタジオ整備建築工事	5	空調機修繕
2	生活動作計測スタジオ整備機械設備工事	6	サーバー室系統空調機更新
3	生活動作計測スタジオ整備電気設備工事	7	脱臭装置修繕
4	恒温恒湿室冷凍機圧縮器交換		

7.4.4 城南支所

施設整備・修繕工事 合計 8 件

1	加湿器・空調機部品交換	5	恒温恒湿用空調機部品交換
2	加湿器蒸気シリンダ交換	6	1階光造形室内蒸気加湿器移設
3	室外熱交換器高圧水洗浄	7	自動制御機器部品交換
4	空調機部品交換・洗浄	8	光造形室改修

7.4.5 多摩テクノプラザ

施設整備・修繕工事 合計 16 件

1	繊維応用試験室排煙ダンパー補修	9	A棟倉庫扉電気錠取付
2	D棟306号室ロスナイ補修	10	A棟材料強度試験室加湿器ホース取替
3	B棟自然換気装置補修	11	給湯器修理
4	A棟屋上非常用ディーゼル発電機制御基板取替	12	放送設備ノイズ障害除去
5	クレジットカード決済端末専用アナログ電話回線敷設	13	自動火災警報装置蓄電池取替
6	空調設備保温	14	A棟空調用加湿器部品取替
7	C棟自動ドア補修	15	A棟恒温恒湿用加湿器部品取替
8	A棟職員通用口電気錠取替	16	恒温恒湿用チラー点検整備

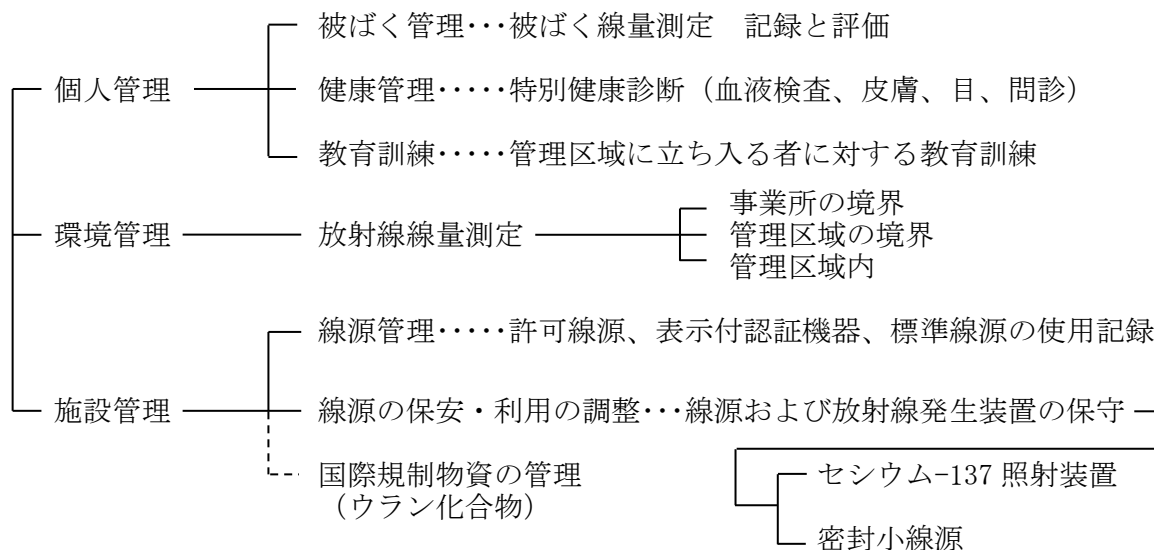
※城東支所、城南支所、多摩テクノプラザは、東京都から建物管理を受託しており、受託費により施設整備を行っている。

7.5 安全衛生管理

7.5.1 放射線安全管理

放射性同位元素・放射線を取り扱う公設事業所として、職員の安全確保と社会的責任を果たすため、放射線障害防止法関連法令の規定に基づく個人管理、施設・線源管理、環境測定などの放射線管理を実施した。

(1) 本部放射線施設における放射線管理の概要



(2) 本部における放射線施設の概要

1) 使用許可 2011（平成23）年1月17日付許可済み（許可証番号 使第5725号）

許可内容

放射線管理区域：第一非破壊検査室、第二非破壊検査室

許可線源：4種（6個）

ガンマ線照射装置（Cs-137:81.4 TBq×3個）

（未保有）密封小線源（Co-60:370 MBq、Co-60:37 MBq、Cs-137:37 MBq）

※2018（平成30）年3月現在

2) 表示付認証機器 2011（平成23）年10月27日届出

ガンマ線標準照射線量線源 Co-60:10 MBq、Cs-137:10 MBq、Cf-252:3.7 MBq

ガスクロマトグラフ用線源 Ni-63:370 MBq

(3) 個人管理

1) 被ばく管理

① 放射線管理対象者

単位：人

	職員	外来者	合計
放射線業務従事者	22	0	22
一時立入者	37	561	598
合計	59	561	620

② 被ばく測定結果

全員 0.1 ミリシーベルト未満であった。

【参考】法定被ばく限度 放射線業務従事者： 50 ミリシーベルト/年
 100 ミリシーベルト/5年
 一時立入者： 1 ミリシーベルト/年

2) 放射線健康診断

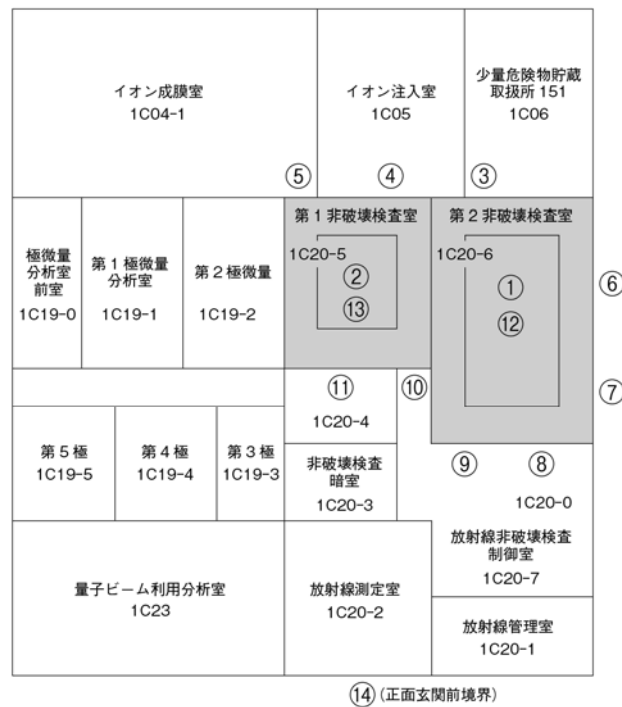
放射線業務従事者を対象に法定項目について実施したところ、全員異常は認められなかった。

3) 教育訓練

- ① 初めて管理区域に立ち入る前の教育訓練・・・3名
 - ② 管理区域に立ち入った後の教育訓練（再教育）・・・22名
- 訓練内容
- ・放射線の基礎
 - ・放射線安全取り扱いに関する法律
 - ・放射線の人体影響
 - ・放射線安全取り扱いの実際

(4) 環境測定

毎月 1 回、ガンマ線照射装置を稼働状態にして、管理区域内（下図①、②）、管理区域境界（③～⑬）、事業所境界（⑭）における 1 センチメートル線量当量率を測定した。測定結果はいずれの月も測定点①～⑬については 0.5 マイクロシーベルト/h 以下、⑭については 0.1 マイクロシーベルト/h 以下であった。



- ⑫ 上階（研修室 243）右
- ⑬ 上階（研修室 243）左
- ：放射線管理区域

【参考】

- (1) 人が常時立ち入る場所（管理区域内）における線量限度：
実効線量で1ミリシーベルト/週（40 h）＝25 マイクロシーベルト/h
- (2) 管理区域の境界における線量限度：
実効線量で1.3ミリシーベルト/3月（40 h×13週）＝2.5 マイクロシーベルト/h
- (3) 事業所の境界における線量限度：
実効線量で250 マイクロシーベルト/3月＝0.116 マイクロシーベルト/h
- (5) 線源などの使用管理
 - 1) 線源等の搬入および搬出：実績なし
 - 2) 線源等使用状況

照射装置名	使用件数		
	研究等	依頼試験等	計
ガンマ線照射装置	32	97	129
表示付認証機器（ガンマ線源）	0	32	32
ガスクロマトグラフ用線源	0	0	0

- (6) 安全点検
管理区域について以下の安全点検を実施し、安全が確保されていることを確認した。
 - 1) 線源等使用者による始業・終業時における日常点検（毎日）
 - 2) 線源の保管状況の点検（毎週）
 - 3) 放射線取扱主任者および安全管理責任者による施設・設備、線源の管理状況、法定帳簿の記帳・保管など、放射線管理全般についての点検（6月ごと）
 - 4) 地震（震度5弱以上）直後の安全点検 ※2018（平成30）年度は該当なし

7.5.2 安全衛生管理

- (1) 安全衛生委員会
本部において、安全衛生に関する事項を調査審議するため、労働安全衛生関係法令に基づき、安全衛生委員会を開催した。
- (2) 衛生委員会
多摩テクノプラザにおいて、衛生に関する事項を調査審議するため、労働安全衛生関係法令に基づき、衛生委員会を開催した。
- (3) 安全衛生推進部会
安全衛生推進部会ごとに職場の状況に応じた自主的な安全衛生活動を実施した。

<安全衛生推進部会>

- | | |
|------------------|--------------|
| ① 企画・総務部会 | ⑤ 城東部会 |
| ② 開発第一部・第二部会 | ⑥ 墨田部会 |
| ③ 開発第三部・技術開発支援部会 | ⑦ 城南部会 |
| ④ プロジェクト事業推進部会 | ⑧ 多摩テクノプラザ部会 |

【構成員】

・部会長

- | |
|-------------------------------|
| ①～④：各部の部長、室長、上席研究員、課長の中から1名選出 |
| ⑤～⑦：各支所長 |
| ⑧：多摩テクノプラザ 総合支援課長 |

・安全衛生推進員

- | |
|--|
| ①～④：各部内の室・グループ・セクター・課ごとに1名ずつ選出 |
| ⑤～⑦：各支所の管理係から1名、技術支援係から1～3名程度選出 |
| ⑧：総合支援課から1名、電子・機械グループ、複合素材開発セクターから1名ずつ選出 |

・その他部会長が指名した者

【活動内容】

- ・月1回以上、安全衛生推進部会を開催
- ・災害ポテンシャルの摘出と排除を実施
- ・安全衛生上の課題検討と排除を実施

(4) 安全衛生手帳

安全衛生手帳を活用して安全に関する基本的な知識を習得し、日常業務の安全化に努めた。

(5) 法令などに基づく活動

労働安全衛生関係法令に基づき、健康診断、ストレスチェック、健康相談、保護具の適正配布、作業主任者らの適正配置、作業環境測定、施設整備などを実施した。

(6) 健康づくり活動

職員の健康促進のため、健康習慣のきっかけづくりを支援する「健康づくり活動」を2回実施した(6月1日～30日、10月1日～31日)。2018(平成30)年度は全職員対象に「階段等の積極的な活用」および「ラジオ体操の実施」を推奨し、職員の健康状態把握のきっかけづくりを支援した。

(7) メンタルヘルス

管理職向けラインケア研修および全職員向けセルフケア研修(Eラーニング)を行った。

(8) 安全な作業に関する研修

新規採用者向けに、実験室などで安全に業務に取り組むための基本的な研修を実施した。また、安全衛生教育として有機溶剤取扱業務安全衛生教育を実施した。

7.5.3 リスクマネジメント

第三期中期計画（2016 年度～2020 年度）に基づき、リスクマネジメント活動を実施している。
2018（平成 30）年度は、地方独立行政法人東京都立産業技術研究センター業務方法書第 16 条に基づき、間接部門を対象として、業務フローのリスクの洗い出しを行った。また、緊急連絡網として緊急時メーリングリストを作成し、管理職による試行を実施した。

7.5.4 化学物質等管理

(1) 化学物質等の管理

2008（平成 20）年度より運用されている薬品管理支援システム（IASO）で管理している。
化学物質等を取り扱うすべての部署に対し安全点検を行い、取り扱いおよび保管状況について確認した（7 月 17 日～8 月 29 日）。

在庫管理のための薬品棚卸しを実施した（3 月 14～19 日）。

「化学物質等取扱要綱」等の規程類を改正した。

(2) 化学物質等のリスクアセスメント

労働安全衛生法に基づき、リスクアセスメント対象物質（673 物質）を取り扱う作業を行う際には、事前にリスクアセスメントを実施している（総数 1,284 件）。

2018（平成 30）年度は 563 件のリスクアセスメントを実施した。

(3) 取扱者向け研修

化学物質等取扱者研修「化学物質のリスクアセスメントおよび薬品類の取り扱い方法」を実施した。（2 月 26 日）・・・受講者 84 名

7.6 情報開示

「東京都情報公開条例」（第二条）、「東京都個人情報の保護に関する条例」（第二条）に基づき、「地方独立行政法人東京都立産業技術研究センターが行う情報公開事務に関する要綱」および「地方独立行政法人東京都立産業技術研究センター保有個人情報開示・訂正・利用停止事務取扱要綱」等を制定・施行している。

2018（平成 30）年度は、情報公開請求 0 件、個人情報の開示請求 0 件であった。

資 料

1 沿革

1921 (大正10年) 10月	東京府立東京商工奨励館 (東京都立工業奨励館の前身) 設立
1924 (大正13年) 8月	東京市電気研究所 (東京都電気研究所の前身) 設立
1927 (昭和 2) 年 3月	東京府立染色試験場 (東京都立繊維工業試験場の前身) 設立
1959 (昭和34) 年 7月	東京都立アイソトープ総合研究所設立
1970 (昭和45) 年12月	東京都立工業奨励館と東京都電気研究所を統合し、東京都立工業技術センター設立
1991 (平成 3) 年 7月	城東地域中小企業振興センター発足
1996 (平成 8) 年 2月	城南地域中小企業振興センター発足
1997 (平成 9) 年 4月	東京都立工業技術センターと東京都立アイソトープ総合研究所を統合し、東京都立産業技術研究所として発足
2000 (平成12) 年 4月	東京都立産業技術研究所に東京都立繊維工業試験場を統合
2002 (平成14) 年 4月	多摩中小企業振興センター発足
2006 (平成18) 年 4月	城東地域中小企業振興センター、城南地域中小企業振興センター、多摩中小企業振興センターの技術支援部門を統合し、地方独立行政法人東京都立産業技術研究センターとして発足
2010 (平成22) 年 2月	多摩テクノプラザ開設 多摩支所および八王子支所閉鎖
2011 (平成23) 年 3月	駒沢支所閉鎖
2011 (平成23) 年 9月	西が丘本部閉鎖
2011 (平成23) 年10月	本部を江東区青海に移転
2015 (平成27) 年 4月	バンコク支所開設

2 施設

(1) 本部 2011 (平成 23) 年 10 月 3 日業務開始

所在地 東京都江東区青海二丁目 4 番 10 号

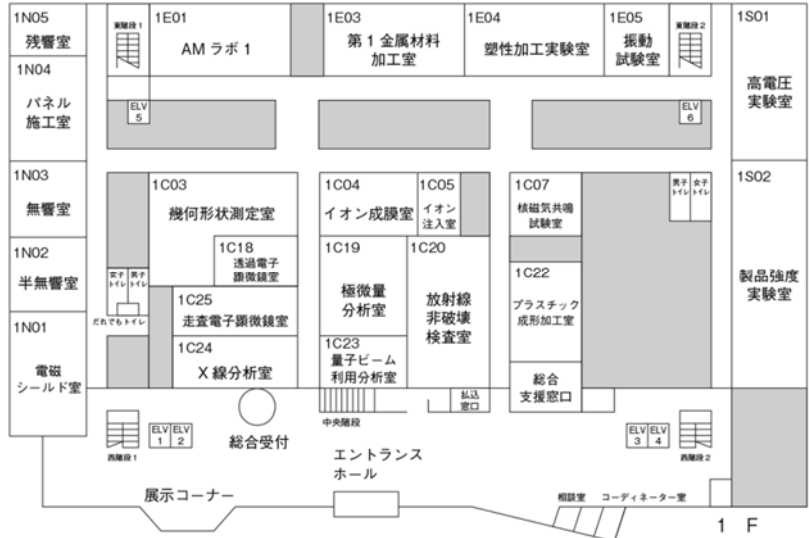
敷地面積 14,519.35 m²

建築面積 8,573.38 m²

延床面積 33,129.80 m² (本体建屋 : 33,032.30 m²、付属建屋 : 97.50 m²)

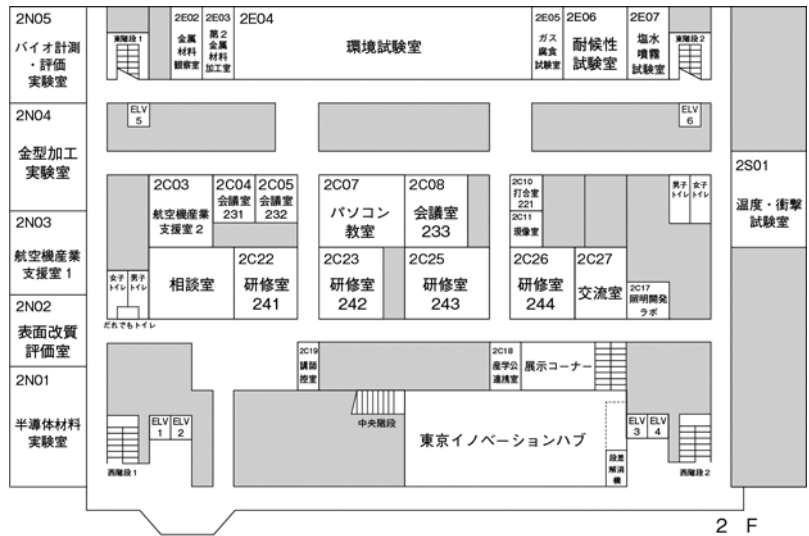
1 階

総合受付
総合支援窓口
払込窓口
コーディネーター室
相談室
AM (3D プリンター) ラボ 1



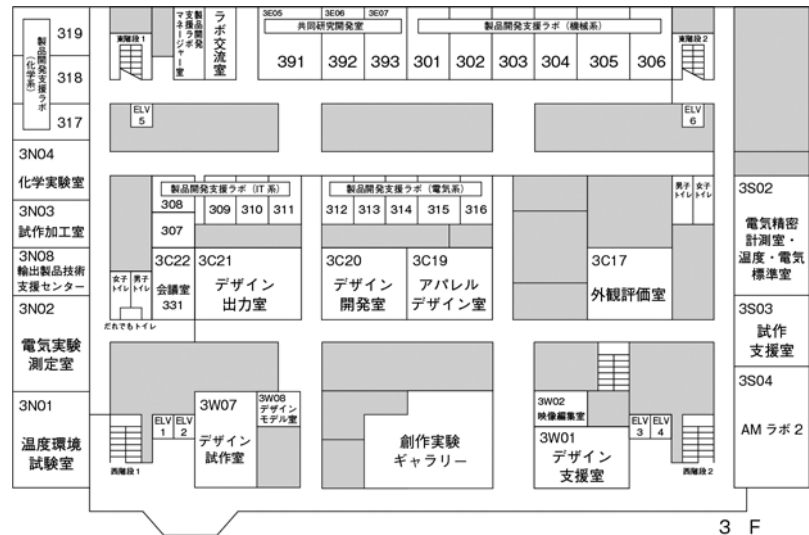
2 階

東京イノベーションハブ
研修室・会議室
航空機産業支援室

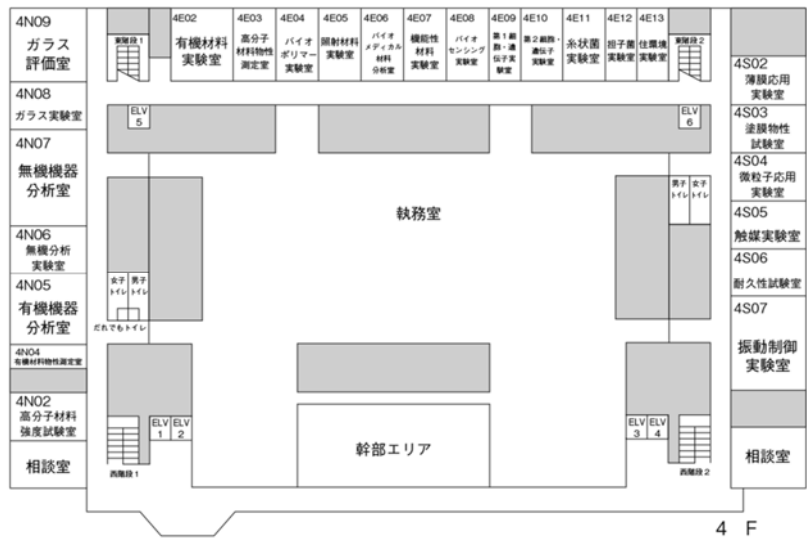


3 階

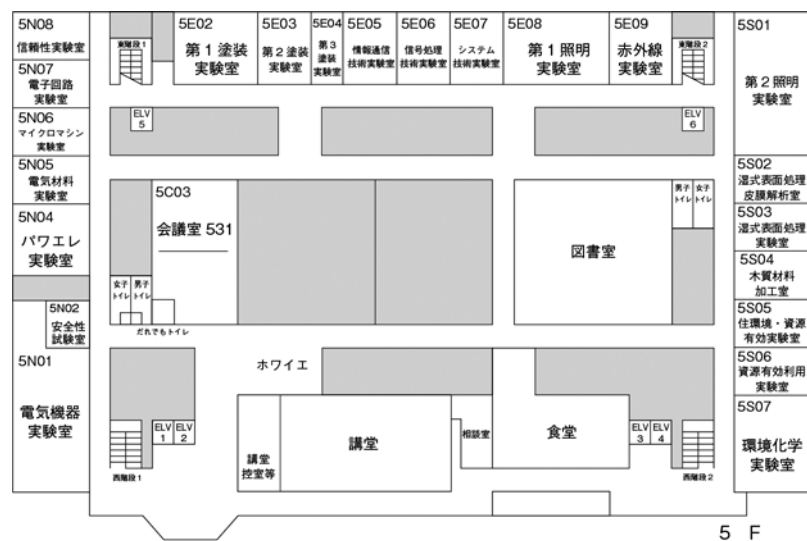
創作実験ギャラリー
製品開発支援ラボ
共同研究開発室
輸出製品技術支援センター
電気実験測定室
AM (3D プリンター) ラボ 2



4階
執務室
相談室



5階
講堂
図書室
会議室
相談室
食堂



○本部建物内訳

名称	建物		内容
	構造	面積	
塔屋	鉄骨鉄筋コンクリート造 (一部、鉄骨造)	121.95 m ²	機械室など
5階		6,397.80 m ²	講堂、図書室、会議室、食堂など
4階		6,719.04 m ²	執務室など
3階		6,352.55 m ²	製品開発支援ラボ、AMラボ2など
2階		6,170.43 m ²	東京イノベーションハブ、実証試験セクターなど
1階		7,081.91 m ²	総合支援窓口、AMラボ1など
地階		188.62 m ²	一般廃棄物処理施設など
付属建屋		鉄筋コンクリート造	97.50 m ²
合計		33,129.80 m ²	

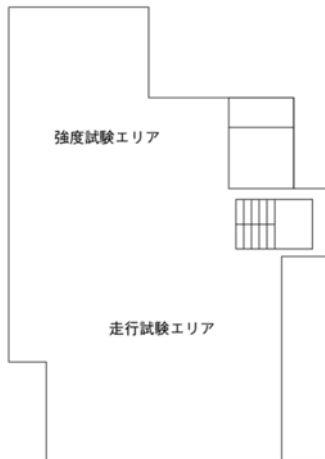
2018(平成30)年度 年報

<東京ロボット産業支援プラザ>

所在地 東京都江東区青海二丁目5番10号 (テレコムセンタービル内)

使用面積 2,334.46 m² 延床面積 158,050.18 m²

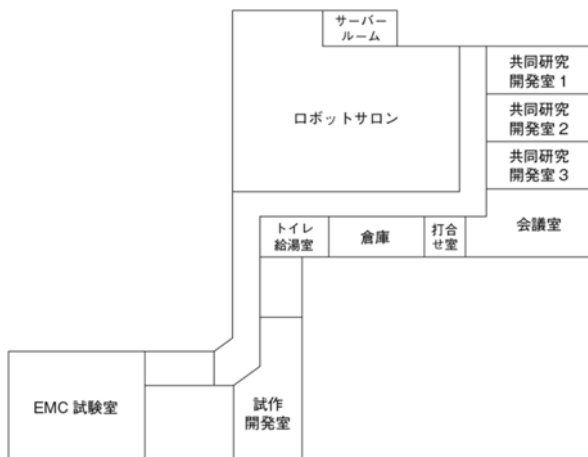
1階



2階



3階



○東京ロボット産業支援プラザ建物内訳

名称	建物		内容
	構造	面積	
3階	鉄筋コンクリート造	882.62 m ²	EMC試験室、試作開発室、会議室、共同研究開発室
2階	鉄筋コンクリート造	524.18 m ²	執務室、疑似実証実験スペース
1階	鉄筋コンクリート造	927.66 m ²	走行試験エリア、強度試験エリア
合計		2334.46 m ²	

＜IoT 支援サイト＞

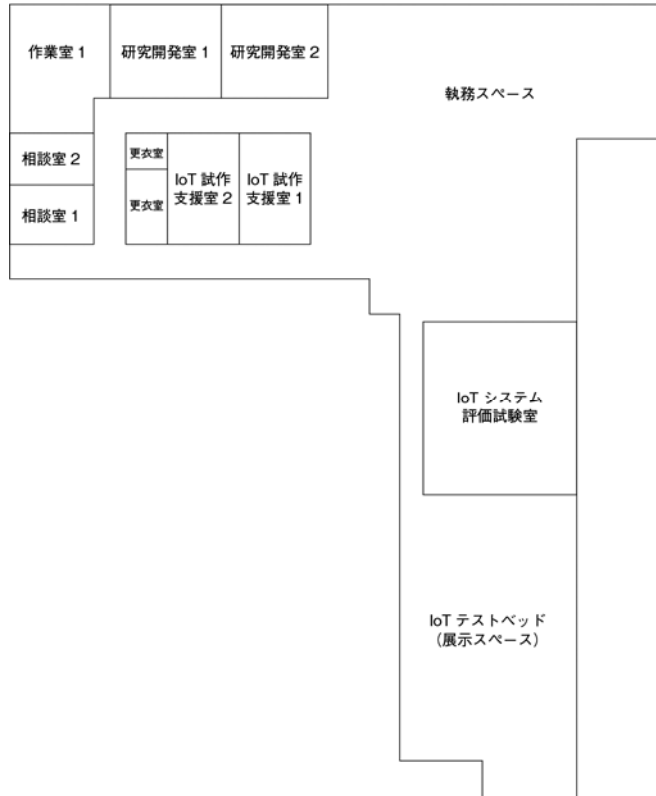
所在地 東京都江東区青海二丁目 5 番 10 号（テレコムセンタービル内）

使用面積 954.25 m² 延床面積 158,050.18 m²

2 階



3 階



○IoT 支援サイト建物内訳

名称	建物		内容
	構造	面積	
3 階	鉄筋コンクリート造	705.08 m ²	執務スペース、研究開発室、相談室、IoT システム評価試験室、IoT テストベッド（展示スペース）
2 階	鉄筋コンクリート造	249.17 m ²	多目的研修室
合計		954.25 m ²	

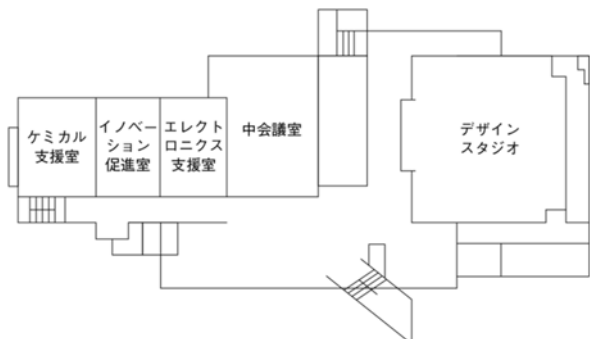
2018(平成30)年度 年報

(2) 城東支所

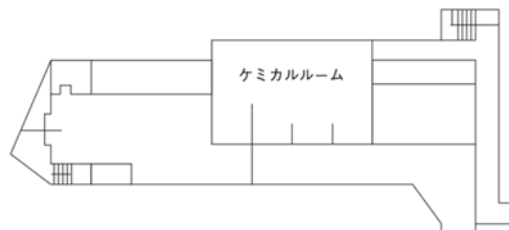
所在地 東京都葛飾区青戸七丁目2番5号(城東地域中小企業振興センター内)

使用面積 1,564.82 m² 延床面積 4,402.90 m²

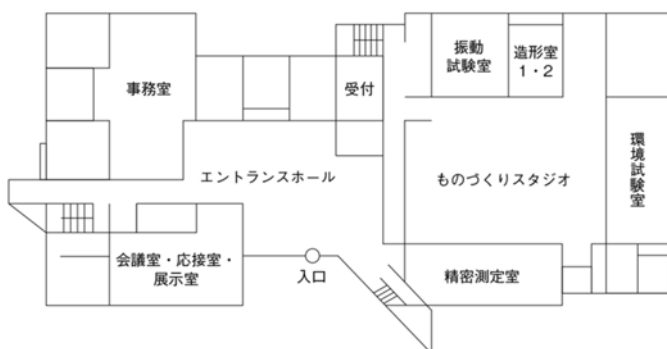
2階



地階



1階

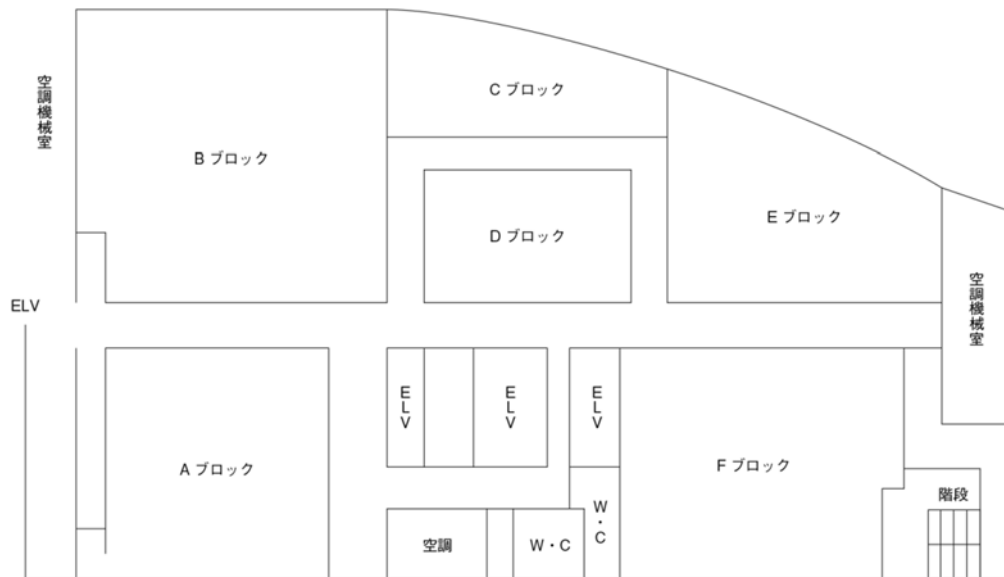


○城東支所建物内訳

名称	建物		内容
	構造	面積	
2階	鉄筋コンクリート造	654.02 m ²	デザインスタジオ、中会議室、エレクトロニクス支援室、イノベーション促進室、ケミカル支援室
1階	鉄筋コンクリート造	728.80 m ²	事務室、会議室・応接室、ものづくりスタジオ、エレクトロニクス測定室、精密測定室、環境試験室
地階	鉄筋コンクリート造	182.00 m ²	ケミカルルーム
合計		1,564.82 m ²	

(3) 墨田支所 生活技術開発セクター

所在地 東京都墨田区横網一丁目6番1号(国際ファッションセンタービル12階)

使用面積 1,920.02 m² 延床面積 47,565.60 m²

○墨田支所建物内訳

名称	建物		内容
	構造	面積	
Aブロック	鉄骨	296.46 m ²	総合受付、相談コーナー、図書室、応接室、会議室、セミナー室
Bブロック	鉄骨	417.65 m ²	生活空間計測スタジオ、生活製品開発ラボ、染色加工試験室、品質評価試験室、安全技術評価室、耐光性試験室、クリーニング試験室
Cブロック	鉄骨	118.62 m ²	高度観察システム室、生活科学試験室
Dブロック	鉄骨	123.00 m ²	恒温恒湿室、官能検査室、デザイン室
Eブロック	鉄骨	218.31 m ²	被服科学試験室、生活環境試験室、日射フィールド試験室
Fブロック	鉄骨	310.49 m ²	執務室、生活動作計測スタジオ
その他		435.49 m ²	通路、空調機械室など
合計		1,920.02 m ²	

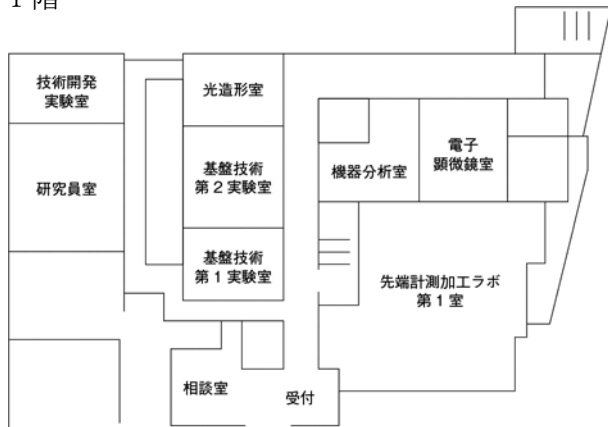
2018(平成30)年度 年報

(4) 城南支所

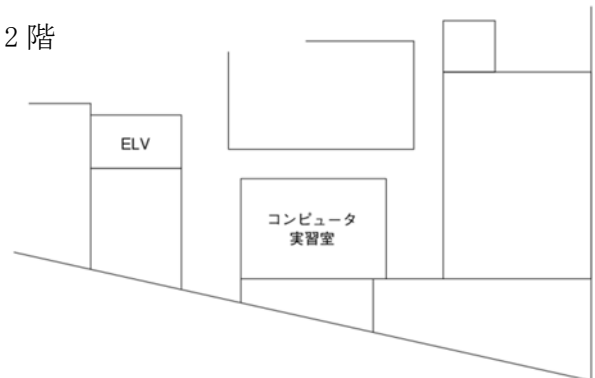
所在地 東京都大田区南蒲田一丁目 20 番 20 号 (城南地域中小企業振興センター内)

使用面積 2,668.52 m² 延床面積 8,054.61 m²

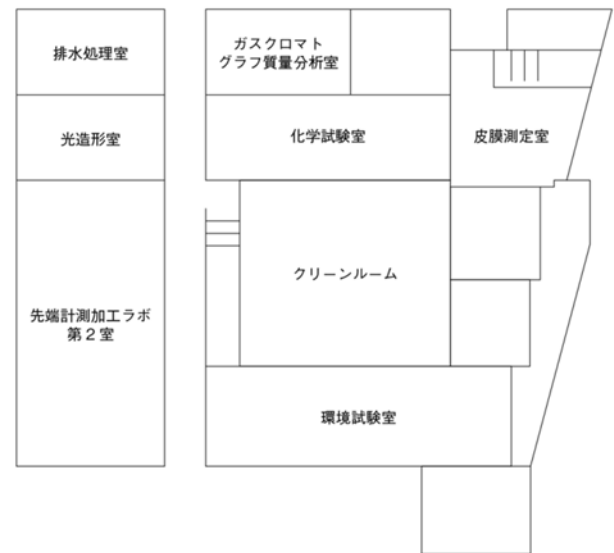
1 階



2 階



地階



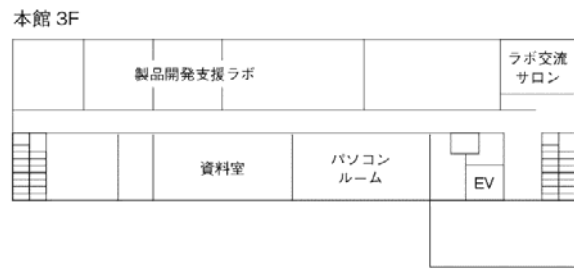
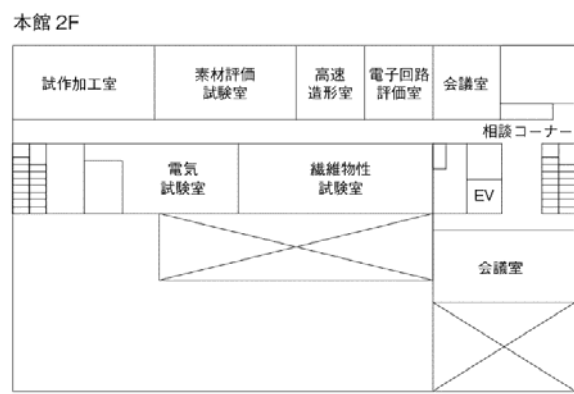
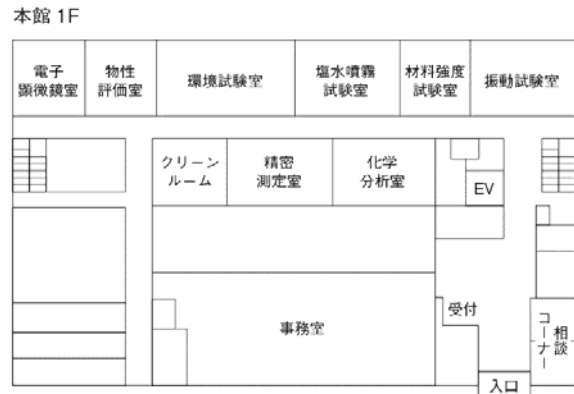
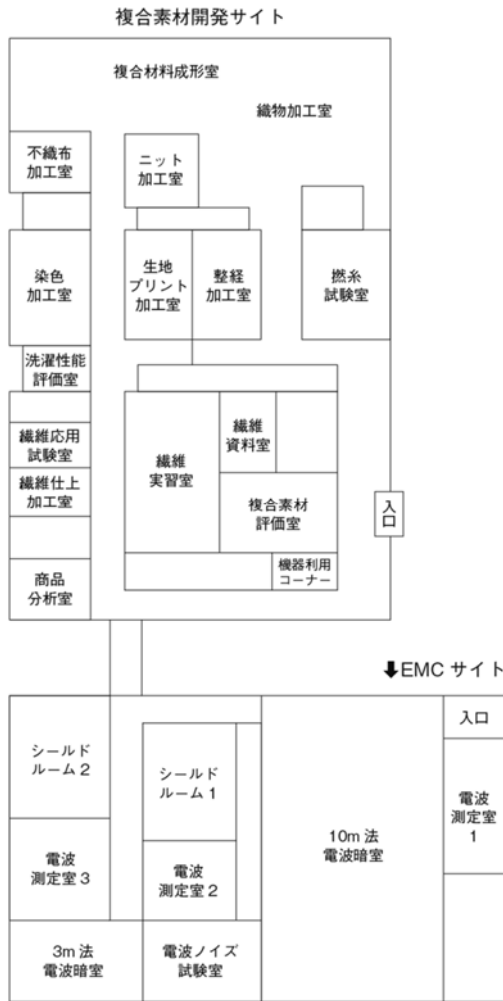
○城南支所建物内訳

名称	建物		内容
	構造	面積	
3階	鉄筋コンクリート造	246.94 m ²	事務室など
2階	鉄筋コンクリート造	108.24 m ²	コンピュータ実習室
1階	鉄筋コンクリート造	1,292.68 m ²	受付、先端計測加工ラボ第一室、電子顕微鏡室、機器分析室、光造形室、各種実験室、研究員室
地階	鉄筋コンクリート造	1,020.66 m ²	先端計測加工ラボ第二室、ガスクロマトグラフ質量分析室、化学試験室、皮膜測定室、クリーンルーム、環境試験室
合計		2,668.52 m ²	

(5) 多摩テクノプラザ

所在地 東京都昭島市東町三丁目6番1号 (産業サポートスクエア・TAMA 内※)

使用面積 6,120.10 m² (産業サポートスクエア・TAMA 延床面積 9,258.64 m²)



○多摩テクノプラザ建物内訳

名称	建物		内容
	構造	面積	
テクノプラザ本館 (A棟)	鉄筋コンクリート造 地上3階建	3,353.53 m ²	事務室、振動試験室、環境試験室、塩水噴霧試験室、精密測定室、電子顕微鏡室、化学分析室、高速造形室、素材評価試験室、会議室、製品開発支援ラボ
複合素材開発サイト EMCサイト (B棟)	鉄骨造 地上1階建	2,766.57 m ²	染色加工室、複合材料成形室、複合素材評価室、繊維実習室、10m法電波暗室、3m法電波暗室、シールドルーム、電波ノイズ試験室
合計		6,120.10 m ²	

※C棟：東京都商工会連合会 D棟：(公財)東京都中小企業振興公社多摩支社

3 東京都地方独立行政法人評価委員会試験研究分科会

東京都地方独立行政法人評価委員会は、東京都が設立する地方独立行政法人の業務実績に関する評価などを行う組織であり、そのうち試験研究分科会は、都産技研についての評価を行う。2018（平成30）年度、試験研究分科会が4回開催された。

○2018（平成30）年度試験研究分科会開催概要

	開催月日	概 要
第1回	6月25日	・2017（平成29）年度業務実績報告について都産技研から説明し、質疑応答ならびに意見聴取した。
第2回	7月25日	・2017（平成29）年度業務実績評価について事務局から説明し、質疑応答ならびに意見聴取した。
第3回	8月2日	・2017（平成29）年度業務実績評価（案）について事務局から説明し、評価案のとおり決定した。 ・2017（平成29）年度財務諸表および利益処分（案）について事務局から報告した。
第4回	3月28日	・2019年度年度計画について都産技研から説明し、質疑応答ならびに意見聴取した。

4 地方独立行政法人東京都立産業技術研究センター憲章

都産技研が社会において活動していく上で、法人の考え方や姿勢を明確にするために、基本理念とその理念を実現するための行動指針ならびに行動基準を「憲章」として、2007（平成 19）年 12 月 1 日に策定した。役職員に憲章を印刷したカードを携帯させ、都産技研全体のものとする活動を進め、憲章の精神を実現するために精励して業務に取り組んでいる。

地方独立行政法人東京都立産業技術研究センター憲章

「明日の暮らしと産業を支えるために」

<基本理念>

－私たちの使命－

産業を担う東京の中小企業を科学技術で支え、すべての人々の生活に貢献することが私たちの使命です

－私たちの理想－

地球を取り巻く課題を常に意識し、未来を見つめ、日々の努力と英知をもって果敢に挑みつづけることが私たちの理想です

－私たちの信条－

すべての人々の喜びと安心を大切にし、豊かな創造力と優れた技術に基づく公正なサービスを提供することが私たちの信条です

<行動指針>

私たちは、基本理念の精神を実現するために、以下の指針に従って行動します

1. 誠実であり続けます（誠実）
2. 科学技術で社会に貢献します（技術）
3. 環境保護に取り組みます（環境）
4. 活気に満ちた健全な職場をつくります（活力）
5. 自らの向上に努めます（研鑽）
6. 適正に業務を行います（適正）
7. 情報を適切に取り扱います（情報）

役員は、率先垂範して憲章を実現するために行動します

5 環境方針

都産技研は環境に配慮した業務運営の指針となる環境方針を、2009（平成 21）年 1 月 1 日に制定した。環境にとってよい活動やサービスの提供、継続的取り組み、環境負荷の低減、法令遵守、環境目標などについて、それを行う意思を明らかにした。

地方独立行政法人東京都立産業技術研究センター環境方針

「技術の力で環境改善と産業の発展を支えます」

< 基本理念 >

地方独立行政法人東京都立産業技術研究センターは、健康で安全な環境と持続的発展可能な社会を次世代に継承するため、環境への配慮を経営上の最重要課題のひとつと位置付け、日々の努力と英知をもって環境改善に取り組みます。

< 基本方針 >

1. 環境負荷の低減、環境改善につながる研究開発・技術支援を積極的に行います。
2. 省資源・省エネルギー化を推進し、CO₂と廃棄物の削減に努めます。
3. 職員全員の環境問題に関する意識の向上を図ります。
4. 環境に関する法令、条例、規則等を遵守します。
5. 環境目標を策定し、定期的な見直しを行うことにより、継続的に改善を進めます。

この環境方針を内外に公表し、都民・中小企業の理解と協力を得ながら実施していきます。

6 リスクマネジメントに関する基本方針

都産技研におけるリスクマネジメントに関して必要な事項を定め、リスク顕在化防止および危機対応等を行い、都産技研の事業運営の堅実化およびステークホルダーの損失の最小化を図るため、2011（平成23）年1月23日、リスクマネジメントに関する基本方針を制定した。

リスクマネジメントに関する基本方針

地方独立行政法人東京都立産業技術研究センター（以下、「都産技研」という。）は、都内中小企業のニーズに対応した技術支援を行い、もって都民生活の向上に寄与するために、都民の皆様からのご理解と高い信頼が得られるよう、高品質な経営の確立を目指します。

適正かつ効率的な経営を実現するために、都産技研は有効な内部管理体制を構築し、事業に関連する危機及び災害などの様々なリスクに対応するためのリスクマネジメントに関する体制を整備し、その充実、強化に努めていきます。

リスクとは、それが顕在化することによって、事業目的の達成に望ましくない影響を与える可能性、または可能性のある要因と定義します。

都産技研のリスクマネジメントは、以下の事項を達成目標として活動します。

1. 役職員一人ひとりが、高い業務品質の維持・改善を通じて、リスクの顕在化防止に努めます。（品質）
2. リスクを特定、評価し、適切に対策を行うことでリスクの顕在化を未然に防ぎます。（防止）
3. リスクが顕在化した場合は、責任ある行動により、被害の最小化及び速やかな回復を図ります。（回復）
4. リスクマネジメントを通じて、リスク対応能力の継続的向上を図ります。（向上）
5. 都産技研に関係する全ての人や組織の安全及び健康に配慮した業務を行います。（安全）
6. 高い倫理感を持って業務を遂行し、法令、規程類及びそれらの精神を理解し遵守します。（遵守）

理事長はリスクマネジメント活動の責任者として、これを統括します。

都産技研では、以上の方針及びリスクマネジメントに関係する諸規程に基づき、リスクマネジメントを確実に実行することで、都内中小企業への技術支援に貢献してまいります。

7 第三期中期計画

地方独立行政法人法（平成 15 年法律第 118 号）第 26 条の規定に基づき、東京都知事から指示を受けた平成 28 年 4 月 1 日から平成 33 年 3 月 31 日までの 5 年間における地方独立行政法人東京都立産業技術研究センター（以下「都産技研」という。）の中期目標を達成するための計画（以下「中期計画」という。）を、以下のとおり定める。

都産技研は、平成 18 年 4 月地方公設試験研究機関で初めて地方独立行政法人化し、デザインセンターや企業の要望に応じたオーダーメイド型の支援事業を新たに展開するなど事業の幅を広げるとともに、こうした技術支援に適した組織変更を行うなど、法人の経営判断に基づく機動性の高い組織運営や柔軟かつ迅速な業務運営を積極的に推進し東京の産業の発展と都民生活の向上に寄与してきた。

第二期中期計画期間では、平成 23 年度江東区青海に開設の本部において高度な技術開発に対する支援を新たに開始するなど事業を拡充・強化して都内中小企業の製品化や事業化などものづくり中小企業の総合的支援を行った。

第三期中期計画期間では、第二期中期計画期間で得られた事業成果を有効活用しつつ、研究開発活動によって東京の成長産業支援を図るとともに、開発型中小企業支援をより充実させる。第二期に開設した広域首都圏輸出製品技術支援センター（MTEP）事業並びに海外拠点事業により、都内中小企業の海外展開等に対する技術支援をさらに推し進めていく。

具体的には、

1 研究開発活動による東京の成長産業支援

東京の将来の活力を支える成長産業分野である「環境・エネルギー」、「生活技術・ヘルスケア」、「機能性材料」、「安全・安心」の 4 分野の研究開発活動によって中小企業の新事業への展開などを促進する。また、今後の少子高齢化対策並びに生活の質の向上対策として期待されているロボット産業の活性化事業を推進する。

2 プロダクトイノベーションの推進による開発型中小企業の支援

3D デジタル技術を活用した高度なものづくり支援及び新製品開発の要となる材料技術開発を支援する。また、急激に発展する技術革新に対応する取組として、開発期間の短縮を求められている都内中小企業に対し効率的な製品開発ができる場を提供することにより、製品開発や事業化のスピードアップに貢献する。

3 中小企業の海外展開を支える技術支援

経済のグローバル化等への中小企業の対応を支援するため、国際規格に即した製品開発等に関する情報提供や相談体制の確保に努めるとともに、海外展開する中小企業に対する現地技術支援を進め、都内中小企業の国際競争力の強化や海外展開に貢献する。

4 多様な機関との交流連携の推進

産学公連携によって中小企業と大学、学協会、研究機関との連携を推進する。公設試験研究機関が相互に連携・補完して広域的に中小企業の技術支援を実施する。中小企業振興公社等の経営支援機関と連携して技術と経営の両面から総合的な支援に努める。

5 高度な産業人材の育成

新製品・新技術開発、高度化する研究開発や製造技術において、ものづくりの上流工程である製品の企画・設計を担う中小企業の技術者の育成を行う。中小企業の海外展開事業必須となるグローバル人材の育成に着手する。

I 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置

1 東京の産業発展と成長を支える研究開発の推進

1-1 基盤研究

機械、電気・電子、情報、化学、バイオ等の基盤技術分野に対する基盤研究を着実に実施するとともに、中小企業の技術ニーズを踏まえ、付加価値の高い新製品・新サービス開発や技術課題の解決に役立つ技術シーズの蓄積、今後発展が予想される技術分野の充実、都民生活の向上に資する研究を基盤研究として取り組む。

なかでも、今後の成長が期待される4つの技術分野を重点として、新産業育成を図る研究に取組み、都内中小企業による新しいサービスの創出に貢献する。

ア) 環境・エネルギー分野

大都市特有の課題である環境浄化に関する技術開発に取り組み、国際競争力を有する環境浄化技術を開発するとともに、再生可能エネルギーなどの研究開発により新エネルギー創出に貢献する。

イ) 生活技術・ヘルスケア分野

感性工学などに基づいた生活技術を応用して、サービス産業の支援を行う。東京に集積している健康・医療・福祉機器産業に対して、先端技術を活用した研究開発によって支援を行う。

ウ) 機能性材料分野

幅広い産業への波及効果が高い高機能性材料の開発に取り組み、航空機産業や素材産業などの成長産業に対する中小企業の参入を支援する。

エ) 安全・安心分野

システム安全に基づいた高信頼性技術の開発を行い、製品の安全性向上を支援する。少子高齢化社会で必要となるサービスロボットの安全性評価技術を開発し、信頼性の高いロボット開発を支援する。

基盤研究の成果は、都産技研の技術レベルの向上、対応技術分野の充実、新たな依頼試験項目の追加など中小企業への技術支援につなげていくほか、中小企業との共同研究の実施や外部資金導入研究にも発展させていく。基盤研究の成果を基に、事業化・製品化された件数、

共同研究に発展した件数、外部資金導入研究に採択された件数を合わせて、第三期中期計画期間中に100件を目標とする。

1-2 共同研究

基盤研究で得られた研究成果を効率的かつ効果的に実用化へつなげていくため、独自の技術やノウハウを有し意欲のある中小企業や業界団体、大学、研究機関と協力して、共同研究に積極的に取り組む。共同研究の実施により、第三期中期計画期間中に製品化又は事業化に至った件数については、33件を目標とする。

共同研究機関の共同研究による製品化・事業化を把握できる仕組みを導入する。

1-3 外部資金導入研究・調査

都産技研が保有する研究成果を基に、科学技術研究費や産業振興を目的とする外部資金等に積極的に応募し採択を目指す。外部資金を導入した研究・調査を実施した成果をもって、中小企業のニーズや社会的ニーズの解決に応じていく。外部資金導入研究・調査の採択件数については、第三期中期計画期間中に70件を目標とする。

1-4 ロボット産業活性化事業

今後の少子高齢化対策並びに生活の質の向上対策として期待されているロボット産業の活性化事業を実施し、中小企業や大学との共同研究を通じた事業化・産業化を推進する。また、ロボット産業の活性化に必要な産業人材を育成する。

1-5 生活関連産業の支援

クールジャパン製品に代表されるように、生活関連製品の付加価値向上の重要性が増していることから、感性工学など新たな産業技術にもとづく開発促進および製品評価に係る技術支援サービスを実施する。

2 中小企業の製品・技術開発、新事業展開を支える技術支援

2-1 技術的課題の解決のための支援

(1) 技術相談

ものづくりの基盤的技術分野の技術支援ニーズのみならず、環境、生活技術、安全・安心など都市課題の解決に向けた幅広い技術支援に取り組む。

本部に設置した総合支援窓口の取組みを継続し、複数技術分野にまたがる相談への一括対応などサービス機能の総合化を図り、お客様へのワンストップサービスを継続する。

中小企業の現場での支援が必要な場合は、職員や専門家を現地に派遣する実地技術支援を実施する。都産技研が保有していない技術分野の相談があった場合は、専門家への委嘱あるいは他の試験研究機関や大学へ紹介するなどお客様の利便性向上に努める。

技術相談件数については、第三期中期計画期間の最終年度である平成32年度の年間実績120,000件を目標とする。

(2) 依頼試験

製品の品質・性能証明や事故原因究明など都内中小企業の技術的課題の解決及び高品質、高性能、高安全性など付加価値の高いものづくりを支援できるよう、依頼試験の充実を図るとともに、効果的な技術的アドバイスを実施する。JIS等に定めのない分析・評価など、お客様の個別の試験ニーズに対しては、オーダーメイド試験により柔軟に対応する。

膨大かつ多様な試験ニーズに対応するため、首都圏公設試験研究機関連携体（以下「TKF」という。）に参加している近隣の公設試験研究機関と連携し、お客様の相互紹介を行うなどのサービスを実施する。

中小企業の海外取引の拡大や高度化する製品開発に伴って必要となる品質証明に関するニーズに対応し、公的試験研究機関としての信頼の維持向上を図るため、機器の保守・更新、校正管理をより適切に行う。試験所認定を受けた登録分野の技術支援を実施することで、依頼試験の高品質化を進める。

高付加価値な製品の開発に必要な高度かつ多様な試験ニーズに対応するため、試験項目の追加等を適宜行うとともに、全国の公設試験研究機関にはない都産技研の特徴ある技術分野（非破壊透視試験、音響試験、照明試験等）については、試験精度の向上や試験内容の充実を図るなど一層高品質なサービスの提供に努める。都産技研の特徴ある技術分野が依頼試験全体に占める割合については、第三期中期計画期間の最終年度である平成 32 年度の年間実績で 23%を目標とする。

2-2 開発型中小企業の支援

(1) 機器利用サービスの提供

中小企業では導入が困難な測定機器や分析機器を整備し、中小企業における新製品・新技術開発のために機器の直接利用のサービスを提供する。利用に際しては、職員の豊富な知識を活かして、的確な機器利用に関する指導・助言を行う。

高度な先端機器についても、利用方法習得セミナーを開催して機器利用ライセンスを発行する制度により、中小企業の機器利用の促進を図る。

都産技研ホームページ（以下、「都産技研 HP」という。）を活用し、利用可能情報を提供するなど、機器利用に際しての利便性向上を図る取り組みを継続する。

(2) 高付加価値製品の開発支援

アディティブマニュファクチャリング設備による試作・製作支援、三次元 CAD データ作成等のデジタルエンジニアリング支援を行うための「3D ものづくりセクター」を開設し、3D 技術やリバーズエンジニアリングを活用した製品開発を総合的に支援する。「3D ものづくりセクター」における依頼試験と機器利用の総件数については、第三期中期計画期間の最終年度である平成 32 年度の年間実績 21,100 件を目標とする。

機能性材料、環境対応製品など先端材料製品の開発に用いる高度先端機器を集中配置した「先端材料開発セクター」を開設し、中小企業による高度な研究開発や技術課題の解決を支援する。「先端材料開発セクター」における依頼試験と機器利用の総件数については、第三期中期計画期間の最終年度である平成 32 年度の年間実績 7,600 件を目標とする。

産業用繊維や炭素繊維などの複合素材の開発を支援するため、多摩テクノプラザに「複合素材開発セクター」を開設し、成長産業へ参入を希望する中小企業の支援を行う。「複合素材開発セクター」における依頼試験と機器利用の総件数については、第三期中期計画期間の最終年度である平成 32 年度の年間実績 19,500 件を目標とする。

中小企業が自社製品を開発する際の上流工程の技術課題解決に対応するため、オーダーメイド開発支援を実施し、新製品や新技術の開発を支援する。オーダーメイド開発支援の件数については、第三期中期計画期間の最終年度である平成 32 年度の年間実績 450 件を目標とする。

新製品・新技術開発を目指す中小企業の研究・実験スペースへのニーズに対応するため、本部の製品開発支援ラボ 19 室に加えて多摩テクノプラザの製品開発支援ラボ 5 室を引き続き利用に供する。

共同研究企業が無料で利用可能な共同研究開発室を 3 室設置し、共同研究の成果を活用した迅速な製品の開発を促進する。

(3) 製品の品質評価支援

中小企業の安全で信頼性の高い製品開発のために必要な温湿度、振動、衝撃、劣化、ノイズ等の試験を行う際に、技術相談、依頼試験、機器利用を一貫して支援することができるよう、環境試験機器を「実証試験セクター」に集約し、迅速かつ効率的な試験サービスを提供する。「実証試験セクター」における依頼試験と機器利用の総件数については、第三期中期計画期間の最終年度である平成 32 年度の年間実績 48,000 件を目標とする。

2-3 新事業展開、新分野開拓のための支援

(1) 技術経営への支援

中小企業が自社の「技術力」を強力な経営基盤として活用し、戦略的な事業展開や技術経営手法の導入等に活かしていけるよう、公益財団法人東京都中小企業振興公社（以下、「中小企業振興公社」という。）などの経営支援機関と連携して、セミナーの開催や企業への実地技術支援等を行う。

都産技研の成果として蓄積した優れた新技術や技術的知見を、中小企業の技術開発や製品開発に活かすため、知的財産権の出願やそれらを活用する使用許諾を推進する。第三期中期計画期間中に都産技研の知的財産権を中小企業等へ実施許諾する件数については、30 件を目標とする。

(2) 技術審査への貢献

東京都や自治体、経営支援機関等が実施する中小企業等への助成や表彰などの際に行われる技術審査に積極的に協力する。

公的試験研究機関として公平・公正・中立な審査を効率的に行えるよう、学会や展示会などでの最新の技術情報の収集・研究や研修等の実施により審査スキルの向上に努める。

2-4 中小企業の海外展開を支える技術支援

(1) 国際規格対応への支援

中小企業が製品輸出や海外進出などを行う際に、相手国の規格への適合性を確認するための測定や分析の必要性などの情報が中小企業に十分に提供されていない現状を踏まえ、国際規格に関する相談や国際規格の動向に関するセミナーを実施し、海外展開を目指す都内中小企業を支援する。

中小企業の海外展開等で必要となる国際規格に対応した試験により都内中小企業の海外展開支援をすすめる。第三期中期計画期間の最終年度である平成 32 年度の年間実績 4,000 件を目標とする。

(2) 海外支援拠点による支援

今後の市場拡大が期待される海外に展開する中小企業に対し現地技術支援を実施するとともに、海外の現地情報を都内中小企業へ情報提供し海外展開支援を実施する。

3 多様な主体による連携の推進

3-1 産学公金連携による支援

本部に開設した「東京イノベーションハブ」において、中小企業と大学、学協会、研究機関との連携を促進するセミナーや交流会、展示会を開催し、産学公連携支援を推進する。

公立大学法人首都大学東京（以下「首都大学東京」という。）など豊富な技術シーズを有する大学や研究機関と中小企業とのマッチングの場を提供する。

企業同士の連携に意欲のある企業に対して、異業種交流会や技術研究会の設立支援、業界団体との業種別交流会の開催等を継続実施し、単独企業では困難な技術的課題の解決や新製品・新技術開発を促進する。

中小企業の製品開発や事業化が円滑に進むよう、金融機関など支援機関と連携した取り組みを行う。

3-2 行政及び他の支援機関との連携による支援

区市町村やそれらの自治体が運営する中小企業支援機関が開催する展示会及びセミナーへの参加の要請や、職員派遣の要請等にきめ細かく対応することで、地域における産業振興の取組みに貢献するとともに都産技研の利用促進を図る。

公設試験研究機関が相互に連携・補完して広域的に中小企業の支援を実施している TKF の活動を継続することにより、広域的なワンストップサービスを確保し、中小企業への技術支援の充実を図る。

都産技研を利用した中小企業において、製品化や事業化の際に生じる開発資金の調達、販路の開拓などが円滑に進められるよう、中小企業振興公社等の経営支援機関と連携して技術と経営の両面から総合的な支援に努める。

4 東京の産業を支える産業人材の育成

4-1 技術者の育成

新技術、産業動向、国際化対応などに関するセミナーや実践に役立つ講習会の開催により、中小企業の新製品・新サービスの創出を担う人材育成を進めるとともに、研究開発や製造技術の高度化を担う中小企業の産業人材の育成を支援する。

4-2 関係機関との連携による人材育成

首都大学東京をはじめとする大学、学術団体、業界団体、行政機関等が実施している産業人材育成の取組みに対して、職員の講師派遣、インターンシップによる学生の受入れなどで積極的に協力する。

サービス業や卸売業・小売業においても、製品の製造や品質管理に関する知識を有する人材育成が必要となっていることを踏まえ、都産技研の設備や人材を活かした実践的なセミナーを実施する。

個別企業や業界団体等の人材育成ニーズに対して、希望に対応したカリキュラムを編成するオーダーメイドセミナーを実施し、人材育成ニーズにきめ細かく対応する。

4-3 海外展開に必要なグローバル人材の育成

中小企業が海外へ事業を展開する際には現地の経営環境や市場動向に詳しい人材の育成が必要であることを踏まえ、金融機関などの連携締結機関の情報や他の産業支援機関を活用した実践的なセミナーを実施する。

5 情報発信・情報提供の推進

5-1 情報発信

東京都、区市町村、中小企業振興公社、商工会議所、商工会などの支援機関等が実施する講演会、イベント・展示会への参加を通じ、都産技研の事業を積極的にPRし利用拡大につなげる。

都産技研が開催する研究発表会と、TKF参加の各公設試験研究機関等が行う研究発表会の間で、相互に発表者を派遣し合うなど、多様な連携により研究機関が保有する技術シーズや研究成果を広く中小企業に発信する。

5-2 情報提供

中小企業の製品開発や生産活動に役立つ以下の情報をインターネットや技術情報誌等の広報媒体により速やかに提供する。

- ・ 研究開発の成果
- ・ 保有する技術情報やノウハウ
- ・ 依頼試験や設備機器の利用に関する情報
- ・ 産業人材育成に関するセミナー開催情報
- ・ 共同研究や受託研究の公募に関する情報
- ・ 最近の国内外の技術動向等に関する情報

II 業務運営の改善及び効率化に関する事項

1 組織体制及び運営

1-1 機動性の高い組織体制の確保

都内各地の産業特性を考慮しながら、社会経済情勢や中小企業の変化する技術ニーズに的確に対応できる機動性の高い執行体制を確保するため、地方独立行政法人のメリットを活かした柔軟かつ迅速な経営判断により、組織体制を弾力的に見直していく。

1-2 適正な組織運営の確保

地方独立行政法人法の主旨に則った事業経費の適切な執行管理を行うとともに、事業別のセグメント管理により、各事業において投入した経営資源と事業効果を検証し、技術支援事業と研究開発事業とのバランスの取れた事業執行をめざすなど、都内中小企業に対して高品質な技術支援サービスを安定的かつ継続的に提供する適切な組織運営を実施する。

1-3 職員の確保・育成

技術革新の著しい産業や技術に対し将来を見据えた中長期的な視点に立って、必要とされる技術を適時に中小企業に対して提供できるよう、大学訪問などの積極的なリクルート活動により優秀な研究職員を計画的に採用する。

地方独立行政法人の機動的で柔軟な組織運営に必要な事務職員についても、計画的に確保していく。

地方独立行政法人の任用・給与制度の特徴を活かして、公平な業績評価とその昇給等への適切な反映により、職員一人ひとりのモチベーションを高めるとともにそのレベルアップを進め、組織運営の効率化や、技術支援及び研究開発の水準の向上を図る。

中小企業のグローバル化を適切に支援していくため、職員の海外での学会参加による情報収集などを通じて国際規格の相談に対応できる職員の確保・育成に努める。

1-4 情報システム化の推進・情報セキュリティ対策の徹底

ネットワークやインターネット、人事・庶務システムなどの都産技研の業務運営に欠かせない情報システム基盤を活用し、情報システムの利便性向上、業務の効率化、セキュリティの向上等を図る。

テレビ会議システムによる遠隔相談等を実施し、お客様へのサービスの向上に努める。

海外展開を支援する海外支所とのネットワーク化を推進し、利便性及びセキュリティの向上を図る。

2 業務運営の効率化と経費節減

2-1 業務改革の推進

お客様へのサービスの向上、業務の効率化、経費の削減等を目的として、組織と職員からの提案による業務内容や処理手続きの見直し等の業務改革を推進し、外部機関や専門家の活用も含め高い経営品質の実現や利用者満足度の向上を目指す。

2018(平成30)年度 年報

2-2 財政運営の効率化

標準運営費交付金（プロジェクト的経費を除く。）を充当して行う業務については、中小企業ニーズの低下した業務の見直しや複数年契約の推進等により、毎年度平均で前年度比一パーセントの財政運営の効率化を図る。

Ⅲ 財務内容の改善に関する事項

1 資産の適正な管理運用

安全かつ効率的な資金運用管理を推進し、建物、施設については、計画的な維持管理を行うとともに、設備機器については校正・保守・点検を的確に行うことにより国内規格や国際規格に適合する測定等が確実に実施できるよう管理運用する。

2 剰余金の適切な活用

的確な経営判断に基づき、新しい事業の開始、研究開発の推進、設備の更新・導入などにより、都内中小企業に提供するサービス水準の向上を図るとともに、事業実績や成果の向上につながるよう、剰余金を有効に活用する。

Ⅳ 予算（人件費の見積りを含む。）、収支計画及び資金計画 別紙

Ⅴ 短期借入金の限度額

1 短期借入金の限度額

15 億円

2 想定される理由

運営費交付金の受入れ遅滞及び予見できなかった不測の事態の発生等により、緊急に借入れの必要が生じることが想定される。

Ⅵ 重要な財産を譲渡し、又は担保に供しようとするときは、その計画 なし

Ⅶ 剰余金及び積立金の使途

1 剰余金の使途

当該中期目標期間の決算において剰余金が発生した場合、中小企業支援の充実、研究開発の質の向上、法人の円滑な業務運営の確保又は施設・設備の整備及び改善に充てる。

2 積立金の使途

前期中期目標期間の最終年度において地方独立行政法人法第 40 条第 1 項又は第 2 項の処理を行ってなお積立金があるときは、その額に相当する金額のうち設立団体の長の承認を受けた金額について、中期計画の剰余金の使途に規定されている、中小企業支援の充実、研究開発の質の向上、法人の円滑な業務運営の確保又は施設・設備の整備及び改善に充てる。

Ⅷ その他業務運営に関する重要事項

1 施設・設備の整備と活用

業務の確実な実施と機能向上のための施設・設備の整備を計画的に実施する。

実施に当たっては、東京都からの施設整備補助金等の財源を確保し、先端技術への対応や省エネルギー対策を含めた総合的・長期的観点に立った整備・更新を適切に行う。

2 危機管理対策の推進

個人情報や企業情報、また製品開発等の職務上知り得た秘密については、適正な取扱いと確実な漏洩防止を図るために、全職員の受講を必須とする研修を実施する。

健全な事業活動の確保や事故・事件の未然防止を図るため、環境保全や規制物質管理、労働安全衛生に関する法令を遵守し、危険物、毒劇物の管理と取扱い、災害に対する管理体制を確保するとともに、防災訓練等の実施や職員に対する意識向上のための研修を実施する。

震災の発生や新興感染症の流行などに備え、対応策を定めるとともに、万が一発生した場合には、被害拡大の防止に向けた対策を実施する。

緊急事態の発生を想定し、対策委員会の設置、緊急連絡網の設定、通報訓練の実施等をマニュアルとしてまとめるなど、迅速な情報伝達・意思決定に向けた管理体制の整備を図る。

3 社会的責任

3-1 情報公開

公共性を有する法人として、運営状況の一層の透明性を確保するため、都産技研 HP や刊行物の発行等により経営情報の公開に取り組む。

事業内容や事業運営状況に関する情報開示請求については、規則に基づき迅速かつ適正に対応する。

3-2 環境への配慮

法人の社会的責任を踏まえ、省エネルギー対策の推進、CO₂削減等、「環境方針」に沿った取組により環境負荷の低減や環境改善に配慮した業務運営を行う。

3-3 法人倫理

都民から高い信頼性を得られるよう、「地方独立行政法人東京都立産業技術研究センター憲章」等を踏まえ、法令遵守を徹底するとともに、職務執行に対する中立性と公平性を確保しつつ、高い倫理観を持って業務を行う。

予算（人件費の見積を含む。）、収支計画および資金計画

1. 予算

平成 28 年度～平成 32 年度予算

(単位：百万円)

区 分	金 額
収入	
運営費交付金	30,665
(うち標準運営費交付金効率化係数対象分)	22,875
(うち標準運営費交付金効率化係数対象外分)	984
(うち特定運営費交付金分)	6,806
施設整備費補助金	50
自己収入	6,216
事業収入	3,536
補助金収入	300
外部資金研究費等	500
その他収入	1,880
積立金取崩	462
計	37,393
支出	
業務費	27,523
試験研究経費	8,124
外部資金研究経費等	500
東京緊急対策	61
ロボット産業活性化	3,603
役職員人件費	15,234
一般管理費	9,870
計	37,393

[人件費の見積り]

中期目標期間中、総額 14,823 百万円支出する。(退職手当は除く。)

※金額については見込みであり、今後、変更する可能性がある。

2. 収支計画

平成 28 年度～平成 32 年度収支計画

(単位：百万円)

区 分	金 額
費用の部	39,548
經常費用	39,548
業務費	23,798
試験研究経費	5,062
外部資金研究経費等	500
役職員人件費	15,234
東京緊急対策	61
ロボット産業活性化	2,940
一般管理費	9,172
減価償却費	6,579
収入の部	39,548
經常収益	39,548
運営費交付金収益	27,003
事業収益	3,536
外部資金研究費等収益	500
補助金収益	50
その他収益	1,880
資産見返運営費交付金等戻入	6,331
資産見返補助金等戻入	233
資産見返物品受贈額戻入	1
資産見返寄付金等戻入	13
純利益	0
総利益	0

※金額については見込みであり、今後、変更する可能性がある。

3. 資金計画

平成 28 年度～平成 32 年度資金計画

(単位：百万円)

区 分	金 額
資金支出	37,393
業務活動による支出	32,969
投資活動による支出	4,424
資金収入	37,393
業務活動による収入	36,931
運営費交付金による収入	30,665
事業収入	3,536
外部資金研究費等による収入	500
補助金等による収入	350
その他の収入	1,880
前期中期目標期間よりの繰越金	462

※金額については見込みであり、今後、変更する可能性がある。

8 平成 30 年度計画

地方独立行政法人法（平成 15 年法律第 118 号）第 26 条の規定に基づき、東京都知事から認可を受けた平成 28 年 4 月 1 日から平成 33 年 3 月 31 日までの 5 年間における地方独立行政法人東京都立産業技術研究センター（以下、「都産技研」という。）の中期計画を達成するための平成 30 年度の業務運営に関する計画を、以下のとおり定める。

I 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置

1 東京の産業発展と成長を支える研究開発の推進

1-1 基盤研究

機械、電気・電子、情報、化学、バイオ等の基盤技術分野に対する基盤研究を着実に実施するとともに、中小企業の技術ニーズを踏まえ、付加価値の高い新製品・新サービス開発や技術課題の解決に役立つ技術シーズの蓄積、今後発展が予想される技術分野の強化、都市課題の解決や都民生活の向上に資する研究を基盤研究として取り組む。

なかでも、今後の成長が期待される環境・エネルギー、生活技術・ヘルスケア、機能性材料、安全・安心技術分野を重点研究として取り組むほか、組織・分野横断的な研究プロジェクトを実施し、新たなイノベーションを協創することで、都内中小企業による新しいサービスの創出に貢献する。

また、これまでの基盤研究において得られた研究成果を事業化・製品化及び共同研究への実施や外部資金導入研究の採択へ発展させる。

1-2 共同研究

(1) 実用化を見据えた共同研究の実施

基盤研究で得られた研究成果を効率的かつ効果的に実用化へつなげていくため、独自の技術やノウハウを有し意欲のある中小企業や業界団体、大学、研究機関と協力して、共同研究に積極的に取り組むとともに、成果展開へつなげる。

具体的には、年度当初及び年度途中で研究テーマを公募により設定し、研究を実施する。また、共同研究機関の共同研究による製品化・事業化を把握する取組みを継続する。

(2) 中小企業への IoT 化支援事業

IoT 技術の中小企業への導入・普及を図るため、中小企業との共同研究を通して、工場等への IoT 技術の導入や IoT 関連製品の開発および人工知能（AI）技術の応用による新規事業参入を支援する。

1-3 外部資金導入研究・調査

都産技研が保有する研究成果を基に、科学技術研究費や産業振興を目的とする外部資金等に積極的に応募し採択を目指す。

(1) 提案公募型研究

技術開発の要素が大きい経済産業省や文部科学省などの提案公募型事業へ積極的に応募し、採択を目指すとともに、採択された研究を確実に実施する。

未利用外部資金の調査を行い、申請可能なものを抽出して積極的に申請する。

(2) 地域結集型研究

第二期に完了した製品化研究に基づき、これまでに得られた研究成果の事業化を推進する。

2018(平成30)年度 年報

1-4 ロボット産業活性化事業

今後の少子高齢化対策並びに生活の質の向上対策として期待されているロボット産業の活性化事業を実施し、中小企業や大学との共同研究を通じた事業化・産業化を推進する。

公募型研究開発事業を推進し、ロボット技術の製品化・事業化を促進する。

1-5 生活関連産業の支援

生活関連産業の付加価値向上を目的とした技術支援サービスを拡充するため、人間の特性や感性に考慮した生活支援製品の開発を継続する。

2 中小企業の製品・技術開発、新事業展開を支える技術支援

2-1 技術的課題の解決のための支援

(1) 技術相談

中小企業等に対し、職員の専門的な知識に基づく技術相談を実施し、製品開発支援や技術課題の解決を図る。

- ①お客様への確かな技術相談を提供するため、本部の実施体制を継続する。
- ②総合支援窓口の取組みにより、料金収納及び成績証明書の発行窓口の統合や複数技術分野にまたがる相談への一括対応などサービス機能の総合化を継続する。
- ③幅広い技術相談ニーズに的確に対応するため専門相談員を設置し、中小企業の技術開発を支援する。
- ④ものづくりに関連するサービス産業等の技術分野の相談について積極的に対応する。
- ⑤中小企業の現場での支援が必要な場合は、職員や専門家を現地に派遣する実地技術支援を実施する。
- ⑥都産技研の保有していない技術については、他の試験研究機関や大学、専門知識を有する外部専門家を活用して課題の解決を図り、利用者の要望に応える。
- ⑦協定締結機関と連携した技術相談体制を継続および拡充する。
- ⑧震災による電力不足に対応するため、都内および被災地中小企業の節電や省エネルギーに関する技術相談や実地技術支援を継続実施する。

(2) 依頼試験

製品等の品質・性能の評価や、事故原因究明など中小企業の生産活動に伴う技術課題の解決を目的として、依頼試験を実施する。

- ①導入した機器を活用し、高品質、高性能、高安全性など付加価値の高いものづくりを支援できるよう、依頼試験の充実を図る。
- ②JIS 等に定めのない分析・評価など、お客様の個別の試験ニーズに対しては、オーダーメイド試験により柔軟に対応する。
- ③首都圏公設試験研究機関連携体（以下、「TKF」という。）に参加している近隣の公設試験研究機関と連携した試験実施体制を継続する。
- ④本部の品質保証推進センターにおいて、電気、温度、長さの3分野の計量法認定事業者（JCSS）、照明、鉄鋼・非鉄金属の2分野の試験所認定事業者（JNLA）として校正および試験業務を継続実施する。

- ⑤多摩テクノプラザ EMC サイトにおいて、EMC 分野の試験所認定事業者（VLAC）として試験業務を継続実施する。
- ⑥都産技研の特徴的な技術分野である非破壊検査、照明、音響、高電圧、ガラス技術、環境・防かび、放射線技術、高速通信、めっき・塗装複合試験、光学特性計測技術分野において、試験精度の向上や試験範囲の拡充など一層高品質なサービスを実施する。
- ⑦中小企業ニーズ及び最新の技術動向等に基づき、試験・研究設備及び機器の導入・更新を実施する。
- ⑧公的試験研究機関としての信頼の維持向上を図るため、機器の保守・更新、校正管理をより適切に行う。
- ⑨震災による電力不足に対応するため、中小企業の省エネルギー、高効率化に関する製品開発を促進する依頼試験を継続実施する。
- ⑩原子力発電所の事故に伴い、工業製品等の放射線量測定試験を継続実施する。

2-2 製品開発、品質評価のための支援

(1) 機器利用サービスの提供

- ①中小企業では導入が困難な測定機器や分析機器を整備し、中小企業における新製品・新技術開発のために機器利用のサービスを提供する。
- ②機器の操作方法のアドバイスや、測定データの説明、課題解決のための的確な指導・助言を行う。
- ③高度な先端機器は利用方法習得セミナーを開催して、機器利用ライセンス制度により利用可能な機器を拡張する。
- ④都産技研ホームページを活用し、機器利用可能情報の提供を継続する。また、インターネット経由での予約申し込み受付を継続する。
- ⑤城東支所においては地域に密着した高付加価値ものづくり支援を強化し、墨田支所においてはサービス産業等への技術支援サービスを継続し、城南支所においては先端ものづくり産業支援を継続するなど、地域の特徴を活かす支援を実施する。

(2) 高付加価値製品の開発支援

- ①アディティブマニュファクチャリング設備による試作・製作支援、三次元 CAD データ作成等のデジタルエンジニアリング支援を行うため、本部の「3D ものづくりセクター」を拠点とし、3D 技術やリバーズエンジニアリングを活用した製品開発を総合的に支援する。
- ②機能性材料、環境対応製品など先端材料製品の開発に用いる高度先端機器を集中配置した本部の「先端材料開発セクター」を拠点とし、中小企業による高度な研究開発や技術課題の解決を支援する。
- ③産業用繊維や炭素繊維などの複合素材の開発を支援する多摩テクノプラザの「複合素材開発セクター」を拠点とし、成長産業へ参入を希望する中小企業の支援を行う。
- ④中小企業が自社製品を開発する際の上流工程の技術課題解決に対応するため、オーダーメイド開発支援を継続する。
- ⑤新製品・新技術開発を目指す中小企業に対する支援施設として「製品開発支援ラボ」を本部に 19 室、多摩テクノプラザに 5 室を引き続き提供する。
- ⑥共同研究企業が無料で利用可能な共同研究開発室を 3 室引き続き提供し、迅速な製品の開発を促

進する。

⑦製品開発支援ラボと共同研究開発室の入居者による製品化・事業化を支援するため、共同利用の試作加工室を提供するとともに、技術経営相談などにも幅広く対応できる人材を配置する。

(3) 製品の品質評価支援

本部の「実証試験セクター」を活用し、中小企業の安全で信頼性の高い製品開発を支援するために、技術相談、依頼試験、機器利用をワンストップで効率的に技術支援する。

特に、温湿度、機械、電気試験分野において、各種規格に対応した質の高い試験を継続させる。

2-3 新事業展開、新分野開拓のための支援

(1) 技術経営への支援

①公益財団法人東京都中小企業振興公社（以下、「中小企業振興公社」という。）の経営支援部門等他の機関との連携を活用して、新事業分野への展開を図るとともに、セミナーの開催や企業への実地技術支援等を行う。

②研究の成果として得た新技術に関して知的財産の出願に努めるとともに、使用許諾を推進し中小企業支援に活用する。

(2) 技術審査への貢献

①東京都や自治体、経営支援機関等が実施する中小企業等への助成や表彰などの際に行われる技術審査に積極的に協力する。

②審査・評価の公平かつ中立な実施と、精度の維持向上を図るため、最新の技術情報の収集・研究や研修等の実施により審査スキルの向上に努める。

③技術審査事業を通じた産業振興への貢献度把握を継続する。

2-4 中小企業の海外展開を支える技術支援

(1) 国際規格対応への支援

①広域首都圏輸出製品技術支援センター（MTEP）を支援拠点として、中小企業が製品輸出や海外進出を行う際に必要な国際規格への適合性などの技術情報を提供する。

②海外展開を目指す中小企業を支援するため、輸出製品に関する相談体制や情報提供を拡充するとともに、海外取引に関する技術セミナーを開催する。

③中小企業の海外展開等で必要となる国際規格に対応した試験により、都内中小企業の海外展開支援を継続する。

④本部の「航空機産業支援室」において、中小企業の航空機産業への参入を技術的に支援するため、試作部品の技術検証を支援するほか、航空機に使用される国際規格に準拠した試験を実施する。

(2) 海外支援拠点による支援

①タイ王国に開設したバンコク支所で海外進出した企業への現地技術支援事業を実施する。

②海外の現地情報を都内中小企業へ情報提供し、海外展開支援を実施する。

3 多様な主体による連携の推進

3-1 産学公金連携による支援

- ①本部において、産学公連携の拠点となる「東京イノベーションハブ」を活用し、中小企業と大学、学協会、研究機関、金融機関等との連携を促進するセミナーや交流会、展示会を開催する。
- ②公立大学法人首都大学東京（以下、「首都大学東京」という。）など豊富な技術シーズを有する大学や研究機関と中小企業とのマッチングの場を提供する。
- ③企業同士の連携に意欲のある企業に対して、異業種交流会を1グループ立ち上げるとともに、既存グループの活動支援を実施する。
- ④業界団体との業種別交流会を開催し、研究成果や新技術等の情報提供及び技術ニーズの収集を行う。
- ⑤中小企業の技術者等で構成する技術研究会を通じて、共同で技術的課題の解決を図る。

3-2 行政及び他の支援機関との連携による支援

- ①区市町村との連携強化に努め、地域における産業振興の取組みに貢献するとともに都産技研の利用促進を図る。
- ②首都圏の公設試験研究機関が相互に連携・補完して広域的に中小企業の支援を実施している TKF の活動を継続することにより、広域的なワンストップサービスを確保し、中小企業への技術支援の充実を図る。
- ③都産技研を利用した中小企業において、製品化や事業化の際に生じる開発資金の調達、販路の開拓などが円滑に進められるよう、中小企業振興公社等の経営支援機関と連携した事業を実施する。
- ④東京都との「放射性物質等による災害時等対応に関する協定」に基づき、放射能測定試験を継続実施する。

4 東京の産業を支える産業人材の育成

4-1 技術者の育成

新技術、産業動向、国際化対応などに関するセミナーや実践に役立つ講習会の開催により、中小企業の新製品・新サービスの創出を担う人材育成を進めるとともに、整備した機器を活用し、研究開発や製造技術の高度化を担う中小企業の産業人材の育成を支援する。

4-2 関係機関との連携による人材育成

首都大学東京をはじめとする大学、学術団体、業界団体、行政機関等が実施している産業人材育成の取組みに対して、職員の講師派遣、インターンシップによる学生の受入れなどで積極的に協力する。

サービス業や卸売業・小売業の従事者向けにおいても、都産技研の設備や人材を活かした実践的なセミナーを実施する。

個別企業や業界団体等の人材育成ニーズに対して、希望に対応したカリキュラムを編成するオーダーメイドセミナーを実施し、人材育成ニーズにきめ細かく対応する。

4-3 海外展開に必要なグローバル人材の育成

中小企業が海外へ事業を展開する際には現地の経営環境や市場動向に詳しい人材の育成が必要であることを踏まえ、金融機関などの連携締結機関の情報や他の産業支援機関を活用した実践的なセミナ

一を試行する。

5 情報発信・情報提供の推進

5-1 情報発信

東京都、区市町村、中小企業振興公社、商工会議所、商工会などの支援機関等が実施する講演会、イベント・展示会への参加を通じ、都産技研の事業を積極的にPRし利用拡大につなげる。

都産技研が開催する研究発表会と、首都大学東京やTKF参加の各公設試験研究機関等が行う研究発表会の中で、相互に発表者を派遣し合うなど、多様な連携により研究機関が保有する技術シーズや研究成果を広く中小企業に発信する。

5-2 情報提供

研究開発の成果や最近の技術動向等に関する情報など、中小企業の製品開発や生産活動に役立つ情報をインターネットや技術情報誌等の広報媒体により速やかに提供する。

本部の公開図書室等を活用し、中小企業に役立つ技術資料等を公開する。

II 業務運営の改善及び効率化に関する事項

1 組織体制及び運営

1-1 機動性の高い組織体制の確保

- ①事業動向等を踏まえ組織の見直しを継続的に実施し、各事業の効率的な執行体制を確保する。
- ②既存組織体制にとらわれず、適時プロジェクトチームを設置するなど、ニーズに柔軟に対応する。

1-2 適正な組織運営の確保

- ①事業別のセグメント管理を活用することにより、各事業において投入した経営資源と事業効果の検証を継続する。
- ②都内中小企業に対して高品質な技術支援サービスを安定かつ継続的に提供する適切な組織運営を継続する。
- ③中期目標等に基づき法令等を遵守しつつ業務を行い、都産技研のミッションを有効かつ効率的に果たすため、内部統制体制の整備・運用を行う。

1-3 職員の確保・育成

- ①将来必要となる技術開発や多くの中小企業が抱える課題を解決する研究開発の強化に向けて、専門性の高い優秀な技術職員を計画的に採用する。
- ②地方独立行政法人の機動的で柔軟な組織運営に必要な事務職員について、計画的に確保する。
- ③公平な業績評価とその昇給等への適切な反映により、職員一人ひとりのモチベーションを高めるとともにそのレベルアップを進め、組織運営の効率化や、技術支援及び研究開発の水準の向上を図る。
- ④中小企業の国際化を適切に支援していくため、職員の海外での学会参加による情報収集など国際規格の相談に対応できる職員の育成を継続する。

1-4 情報システム化の推進・情報セキュリティ対策の徹底

ネットワークやインターネット、人事・庶務システムなどの都産技研の業務運営に欠かせない情報システム基盤を活用し、情報システムの利便性向上、業務の効率化、セキュリティの向上等を図る。

テレビ会議システムによる遠隔相談など情報システムを活用した利便性の向上に努める。

海外展開を支援する海外支所とのネットワーク化を推進し、利便性及びセキュリティの向上を図る。

2 業務運営の効率化と経費節減

2-1 業務改革の推進

お客様へのサービスの向上、業務の効率化、経費の削減等を目的として、組織と職員からの提案により、業務内容や処理手続きの見直等の業務改革を推進し、外部機関の活用も含め高い経営品質の実現や利用者満足度の向上を目指す。

2-2 財政運営の効率化

標準運営費交付金（プロジェクト的経費を除く。）を充当して行う業務については、中小企業ニーズの低下した業務の見直しや複数年契約の推進による効率化を進める。

Ⅲ 財務内容の改善に関する事項

1 資産の適正な管理運用

安全かつ効率的な資金運用管理を推進し、建物、施設については、計画的な維持管理を行うとともに、設備機器については校正・保守・点検を的確に行うことにより国内規格や国際規格に適合する測定等が確実に実施できるよう管理運用する。

2 剰余金の適切な活用

的確な経営判断を行い、新しい事業の開始、研究開発の推進、設備の更新・導入などにより、都内中小企業に提供するサービス水準の向上を図るとともに、事業実績や成果の向上につながるよう、剰余金を有効に活用する。

Ⅳ 予算（人件費の見積りを含む。）、収支計画及び資金計画

別紙

Ⅴ 短期借入金の限度額

1 短期借入金の限度額

15 億円

2 想定される理由

運営費交付金の受入れ遅滞及び予見できなかった不測の事態の発生等により、緊急に借入れの必要が生じることが想定される。

Ⅵ 重要な財産を譲渡し、又は担保に供しようとするときは、その計画

なし

VII 剰余金及び積立金の使途

1 剰余金の使途

決算において剰余金が発生した場合、中小企業支援の充実、研究開発の質の向上、法人の円滑な業務運営の確保又は施設・設備の整備及び改善に充てる。

2 積立金の使途

前期中期目標期間の最終年度において地方独立行政法人法第40条第1項又は第2項の処理を行ってなお積立金があるときは、その額に相当する金額のうち設立団体の長の承認を受けた金額について、中期計画の剰余金の使途に規定されている、中小企業支援の充実、研究開発の質の向上、法人の円滑な業務運営の確保又は施設・設備の整備及び改善に充てる。

VIII その他業務運営に関する重要事項

1 施設・設備の整備と活用

- ①業務の確実な実施と機能向上のための施設・設備の整備を計画的に実施する。
- ②実施に当たっては、東京都からの施設整備補助金等の財源を適切に確保し、策定する長期保全計画に基づき総合的・長期的観点に立った整備・更新を行う。

2 危機管理対策の推進

第一期中に策定した「リスクマネジメントに関する基本方針」に基づき、内部危機管理体制の整備を継続する。

- ①個人情報や企業情報、また製品開発等の職務上知り得た秘密については、適正な取扱いと確実な漏洩防止のために、全職員の受講を必須とする研修を実施する。
- ②環境保全や規制物質管理、労働安全衛生に関する法令を遵守し、危険物、毒劇物の管理と取扱い、災害に対する管理体制を確保するとともに、防災訓練等の実施や職員に対する意識向上のための研修を実施する。
- ③震災の発生や新興感染症の流行などに備え、対応策を定めるとともに、万が一発生した場合には、被害拡大の防止に向けた対策を実施する。
- ④緊急事態の発生を想定し、対策委員会の設置、緊急連絡網の設定、通報訓練の実施等をまとめたマニュアルを活用し、迅速な情報伝達・意思決定に向けた管理体制を継続する。

3 社会的責任

3-1 情報公開

公共性を有する法人として、運営状況の一層の透明性を確保するため、都産技研ホームページや刊行物の発行等により経営情報の公開に取り組む。

事業内容や事業運営状況に関する情報開示請求については、規則に基づき迅速かつ適正に対応する。

3-2 環境への配慮

法人の社会的責任を踏まえ、省エネルギー対策の推進、CO2削減等、「環境方針」に沿った取組みにより環境負荷の低減や環境改善に配慮した業務運営を行う。

3-3 法人倫理

都民から高い信頼性を得られるよう、「地方独立行政法人東京都立産業技術研究センター憲章」等を踏まえ、法令遵守を徹底するとともに、職務執行に対する中立性と公平性を確保しつつ、高い倫理観を持って業務を行う。

予算（人件費の見積を含む。）、収支計画および資金計画

1. 予算

平成 30 年度 予算

(単位：百万円)

区 分	金 額
収入	
運営費交付金	6,332
施設整備費補助金	10
自己収入	1,242
事業収入	706
補助金収入	60
外部資金研究費等	100
その他収入	376
積立金取崩	90
計	7,674
支出	
業務費	5,650
試験研究経費	1,621
外部資金研究経費等	100
東京緊急対策	12
ロボット産業活性化	872
役職員人件費	3,045
一般管理費	2,024
計	7,674

[人件費の見積り]

平成 30 年度、2,960 百万円支出する。(退職手当は除く。)

※金額については見込みであり、今後、変更する可能性がある。

2. 収支計画

平成 30 年度 収支計画

(単位：百万円)

区 分	金 額
費用の部	7,924
經常費用	7,924
業務費	4,930
試験研究経費	1,011
外部資金研究経費等	100
役職員人件費	3,045
東京緊急対策	12
ロボット産業活性化	762
一般管理費	1,741
減価償却費	1,253
収入の部	7,924
經常収益	7,924
運営費交付金収益	5,479
事業収益	706
外部資金研究費等収益	100
補助金収益	10
その他収益	376
資産見返運営費交付金等戻入	1,206
資産見返補助金等戻入	43
資産見返物品受贈額戻入	0
資産見返寄付金等戻入	3
純利益	0
総利益	0

※金額については見込みであり、今後、変更する可能性がある。

3. 資金計画

平成 30 年度 資金計画

(単位：百万円)

区 分	金 額
資金支出	7,674
業務活動による支出	6,671
投資活動による支出	1,004
資金収入	7,584
業務活動による収入	7,584
運営費交付金による収入	6,332
事業収入	706
外部資金研究費等による収入	100
補助金等による収入	70
その他の収入	376
前期中期目標期間よりの繰越金	0

※金額については見込みであり、今後、変更する可能性がある。

9 職員名簿

理事長	奥村 次徳	国際化推進室	
理事	長谷川 裕夫	室長(兼務)	大泉 幸乃
理事	近藤 幹也	輸出製品技術支援センター	
監事	宮内 忍	センター長	城 照彰
経営企画部		副主任研究員	萩原 利哉
部長	大泉 幸乃	副主任	仁田 千鶴
首席研究員	片桐 正博	研究員(ワイド)(兼務)	井原 房雄
首席研究員	瓦田 研介	バンコク支所	
首席研究員	阿保 友二郎	支所長(兼務)	阿保 友二郎
経営企画室		主任研究員	浦崎 香織里
室長	竹内 由美子	主任研究員(ワイド)	須間 賢二
上席研究員	大久保 一宏	総務部	
企画調整係		部長	新田 裕人
係長	堀江 暁	総務課	
副主任研究員	山中 寿行	課長	伊藤 健悟
副主任	梅津 晴香	庶務係	
情報システム係		係長	佐藤 達哉
係長	北原 枢	主事	淡路 和江
副主任研究員	近藤 崇	主事	神野 裕太
副主任研究員	志水 匠	主事	五十嵐 智美
研究員	坂井 哲也	主事(ワイド)	堀越 孝雄
広報係		主事(ワイド)	熊田 吉広
係長	市川 啓子	人事給与係	
副主任研究員	池田 紗織	係長	亀田 晴子
交流連携室		副主任	佐藤 岳
室長	荒川 豊	副主任	菅原 信恵
上席研究員	内田 聡	副主任	井上 崇
産業交流係		主事	木邑 真也
係長	中村 広隆	調整係	
副主任研究員	藤井 恭子	係長	直井 亮介
副主任研究員	許 琛	主事	工藤 佳子
技術管理係		財務会計課	
係長	水野 裕正	課長(ワイド)	清水 一弥
主任研究員(ワイド)(兼務)	山本 克美	経理係	
主任研究員(ワイド)(兼務)	伊東 洋一	係長	山崎 幸枝
主任研究員(ワイド)(兼務)	澤近 洋史	副主任	時岡 裕美
研究員(ワイド)	斎藤 正明	主事	秦 由梨加
技術経営支援室		主事	児山 由美子
室長	山田 一徳	主事	大谷 広輝
技術振興係		主事	金子 一
係長(兼務)	山田 一徳	主事	木岡 由希子
副主任研究員	岡田 明子	主事	長尾 美代子
研究員(ワイド)	榎本 博司	主事	原 聡美
主事(ワイド)	廣野 晃代	出納係	
相談支援係		係長	細井 武人
係長	菅谷 紘子	主任	青木 陽子
主任研究員(ワイド)	山本 克美		
主任研究員(ワイド)	伊東 洋一		
主任研究員(ワイド)	澤近 洋史		
副主任研究員	植松 卓彦		
研究員(ワイド)	鈴木 隆司		
研究員(ワイド)	西野 義典		

2018(平成30)年度 年報

環境安全管理室

室長 高橋 宏栄
 上席研究員(兼務) 櫻井 昇
 担当係長 清水 高志

施設係

係長 小山 正徳
 主事 市川 崇
 主事 藤野 敦子
 研究員(ワイド) 武藤 利雄
 主事(ワイド) 鈴木 光由
 主事(ワイド) 北原 喜敏
 主事(ワイド) 土屋 敏夫

開発本部

本部長(兼務) 長谷川 裕夫

開発企画室

室長 五十嵐 美穂子
 開発企画係
 係長 中田 修
 主任研究員 渡部 友太郎
 主任研究員(ワイド) 長坂 浩志
 副主任研究員 永田 晃基
 副主任 和田 雅明
 主事 渡辺 彩
 主事(ワイド) 田村 明子

プロジェクト企画係

係長 高崎 英承
 副主任研究員 長尾 梨紗
 副主任研究員(ワイド)(兼務) 久慈 俊夫
 副主任 高橋 千秋
 副主任 入川 涼

開発第一部

部長 小林 丈士

電気電子技術グループ

グループ長 上野 武司
 主任研究員 重松 宏志
 主任研究員 藤原 康平
 副主任研究員 黒澤 大樹
 副主任研究員 時田 幸一
 副主任研究員 西澤 裕輔
 副主任研究員 小宮 一毅
 副主任研究員 新井 宏章
 副主任研究員 山岡 英彦
 副主任研究員 太田 優一
 副主任研究員 渡部 雄太
 副主任研究員(兼務) 近藤 崇
 副主任研究員(兼務) 永田 晃基
 研究員 須藤 翼
 研究員 宮下 惟人
 研究員 武内 陽子
 研究員 滝沢 耕平
 研究員(ワイド) 梶ヶ谷 正美
 研究員(ワイド) 伊達 修一

機械技術グループ

グループ長 青沼 昌幸
 主任研究員 中村 健太
 副主任研究員 中村 勲
 副主任研究員 小西 毅
 副主任研究員 岩岡 拓
 副主任研究員 西村 信司
 副主任研究員 岩田 雄介
 副主任研究員(ワイド) 奥出 裕亮
 研究員 伊藤 清
 研究員 猿渡 直洋
 研究員 齋藤 庸賀
 研究員 國枝 泰博
 研究員 小林 旦
 研究員 片桐 嵩

光音技術グループ

グループ長 岩永 敏秀
 主任研究員 服部 遊
 主任研究員 海老澤 瑞枝
 副主任研究員 渡辺 茂幸
 副主任研究員 西沢 啓子
 副主任研究員 澁谷 孝幸
 副主任研究員 磯田 和貴
 副主任研究員 宮入 徹
 研究員 秋葉 拓也
 研究員 平 健吾
 研究員 山下 雄也
 研究員(ワイド) 神田 浩一

開発第二部

部長 木下 稔夫

表面・化学技術グループ

グループ長 川口 雅弘
 主任研究員 寺西 義一
 主任研究員 竹村 昌太
 主任研究員 安田 健
 主任研究員 村井 まどか
 副主任研究員 樋口 智寛
 副主任研究員 木下 健司
 副主任研究員 菊池 有加
 副主任研究員 徳田 祐樹
 副主任研究員 桑原 聡士
 研究員 佐野 森
 研究員 石田 祐也
 研究員(ワイド) 篠田 勉
 研究員(ワイド) 佐熊 範和
 研究員(ワイド) 土井 正
 研究員(ワイド) 小坂 幸夫

環境技術グループ

グループ長 梶山 哲人
 主任研究員 中澤 亮二
 主任研究員 小沼 ルミ
 主任研究員 田熊 保彦
 副主任研究員 濱野 智子
 副主任研究員 平井 和彦
 副主任研究員 吉野 徹
 副主任研究員 井上 研一郎
 研究員 森久保 諭
 研究員 宮宅 ゆみ子
 研究員 亀崎 悠
 研究員 榎本 大佑
 研究員 小林 真大
 研究員 (ワイド) 上部 隆男

バイオ応用技術グループ

グループ長 櫻井 昇
 主任研究員 中川 清子
 主任研究員 柚木 俊二
 主任研究員 八谷 如美
 主任研究員 大藪 淑美
 主任研究員 月精 智子
 副主任研究員 河原 大吾
 副主任研究員 中川 朋恵
 副主任研究員 永川 栄泰
 副主任研究員 畑山 博哉
 副主任研究員 成田 武文
 副主任研究員 (ワイド) 関口 正之
 研究員 瀧本 悠貴
 研究員 片岡 憲昭
 研究員 木下 真梨子
 研究員 奥 優
 研究員 佐野 栄宏
 研究員 干場 隆志
 研究員 (ワイド) 外立 貴宏
 研究員 (ワイド) (兼務) 武藤 利雄

開発第三部

部長 中村 優

情報技術グループ

グループ長 入月 康晴
 主任研究員 大平 倫宏
 主任研究員 金田 泰昌
 主任研究員 阿部 真也
 主任研究員 岡部 忠
 副主任研究員 富山 真一
 副主任研究員 三木 大輔
 研究員 吉次 なぎ
 研究員 鈴木 聡
 研究員 上田 啓市

デザイン技術グループ

グループ長 木村 千明
 主任研究員 加藤 貴司
 副主任研究員 酒井 日出子
 副主任研究員 (ワイド) 平山 明浩
 研究員 森 豊史
 研究員 角坂 麗子
 研究員 橋本 みゆき
 研究員 福原 悠太

生活技術開発セクター

セクター長 山口 美佐子
 主任研究員 添田 心
 主任研究員 島田 茂伸
 主任研究員 飛澤 泰樹
 副主任研究員 山田 巧
 副主任研究員 山口 隆志
 副主任研究員 佐々木 直里
 副主任研究員 後濱 龍太
 副主任研究員 大島 浩幸
 副主任研究員 村上 知里
 研究員 西田 葵
 研究員 (ワイド) 山崎 真由美
 研究員 (ワイド) 松本 晴美

プロジェクト事業推進部

部長 三尾 淳
 特命担当部長 櫻井 政考

プロジェクト事業化推進室

室長 (ワイド) 倉持 昌尚
 上席研究員 (兼務) 青沼 昌幸
 主任研究員 佐藤 研
 主任研究員 (兼務) 中村 健太
 主任研究員 (兼務) 島田 茂伸
 主任研究員 (兼務) 松原 独歩
 主任研究員 (兼務) 西川 康博
 副主任研究員 小林 祐介
 副主任研究員 (兼務) 中村 勲
 副主任研究員 (兼務) 西村 信司
 副主任研究員 (兼務) 奥出 裕亮
 研究員 吉村 僚太
 研究員 (兼務) 猿渡 直洋
 プロジェクト事業技術員 大泉 悟
 プロジェクト事業技術員 佐藤 宏
 プロジェクト事業技術員 木村 正二郎

ロボット開発セクター

セクター長 武田 有志
 主任研究員 益田 俊樹
 主任研究員 (ワイド) 坂下 和広
 副主任研究員 佐々木 智典
 副主任研究員 森田 裕介
 副主任研究員 村上 真之
 研究員 中村 佳雅
 プロジェクト事業技術員 松本 正雄
 プロジェクト事業技術員 鈴木 薫
 プロジェクト事業技術員 渡辺 公一

IoT 開発セクター

セクター長 大原 衛
 主任研究員 中川 善継
 主任研究員 (兼務) 大平 倫宏
 主任研究員 (兼務) 金田 泰昌
 主任研究員 (兼務) 阿部 真也
 主任研究員 (兼務) 岡部 忠
 副主任研究員 仲村 将司
 副主任研究員 横田 浩之
 副主任研究員 根本 裕太郎
 副主任研究員 (兼務) 富山 真一
 副主任研究員 (兼務) 平野 康之
 主事 富岡 愛
 プロジェクト事業技術員 浮谷 俊一
 プロジェクト事業技術員 綾部 豊樹
 プロジェクト事業技術員 浜口 忠彦
 プロジェクト事業技術員 佐藤 樹

2018(平成30)年度 年報

事業化支援本部 本部長（兼務）	近藤 幹也	地域技術支援部 部長（兼務）	樋口 明久
技術開発支援部 部長	清水 研一	城東支所 支所長	飯田 孝彦
3Dものづくりセクター セクター長	紋川 亮	管理係 係長	中村 孝
主任研究員	横山 幸雄	副主任（兼務）	山本 大輔
主任研究員	中西 正一	主事（ワイド）	堀 菜美
主任研究員	山内 友貴	技術支援係 係長	櫻庭 健一郎
主任研究員	藤巻 研吾	主任研究員	陸井 史子
副主任研究員	中村 弘史	主任研究員	小野澤 明良
副主任研究員	小林 隆一	主任研究員	木暮 尊志
研究員	村上 祐一	副主任研究員	豊島 克久
研究員	千葉 浩行	副主任研究員	小金井 誠司
研究員	大久保 智	副主任研究員	安藤 恵理
研究員	三浦 由佳	副主任研究員	上野 明也
先端材料開発セクター セクター長	林 英男	副主任研究員（ワイド）	秋山 正
主任研究員	森河 和雄	副主任研究員（ワイド）	中島 敏晴
主任研究員	柳 捷凡	研究員（ワイド）	横山 俊幸
主任研究員	渡邊 禎之	墨田支所 支所長（兼務）	山口 美佐子
主任研究員	染川 正一	管理係 主事	網野 智文
副主任研究員	渡辺 洋人	城南支所 支所長	田中 実
副主任研究員	林 孝星	管理係 係長	石上 知子
研究員	小川 大輔	副主任	山本 大輔
研究員	立花 直樹	技術支援係 係長	玉置 賢次
研究員	小林 宏輝	主任研究員	清水 綾
研究員	小汲 佳祐	主任研究員	藤巻 康人
研究員	並木 宏允	副主任研究員	湯川 泰之
研究員	三柴 健太郎	副主任研究員	樋口 英一
研究員	小西 敏功	副主任研究員	平野 康之
研究員（ワイド）（兼務）	佐熊 範和	副主任研究員	竹澤 勉
実証試験セクター セクター長	福田 良司	副主任研究員	山田 健太郎
主任研究員	佐々木 正史	副主任研究員	井上 潤
主任研究員	松原 独歩	副主任研究員	石堂 均
主任研究員（ワイド）	山本 哲雄	研究員	古杉 美幸
副主任研究員	小船 諭史	研究員（ワイド）	杉山 正彦
副主任研究員	田中 真美		
副主任研究員	倉持 幸佑		
副主任研究員（ワイド）	三上 和正		
研究員	新垣 翔		
研究員	林 夢愛子		
研究員（ワイド）	森口 正夫		
研究員（ワイド）	シモンオスタン 佐泳子		
品質保証推進センター センター長	沼尻 治彦		
主任研究員（兼務）	中西 正一		
主任研究員（兼務）	佐々木 正史		
主任研究員（兼務）	松原 独歩		
副主任研究員（兼務）	澁谷 孝幸		
副主任研究員（兼務）	中村 弘史		
副主任研究員（兼務）	小船 諭史		
副主任研究員（兼務）	倉持 幸佑		
研究員（兼務）	秋葉 拓也		
研究員（兼務）	三浦 由佳		
研究員（兼務）	新垣 翔		
研究員（ワイド）（兼務）	森口 正夫		

多摩テクノプラザ		
所長		樋口 明久
総合支援課		
課長		水元 和成
管理係		
係長		多田 信之
副主任		金子 真由美
主事 (ワイド)		清水 美代子
主事 (ワイド)		井上 寛也
連携支援係		
係長		藤田 薫子
副主任研究員 (ワイド)		薬師寺 千尋
研究員		山本 清志
研究員 (ワイド)		小山 秀美
研究員 (ワイド)		小山 元子
電子・機械グループ		
グループ長		谷口 昌平
主任研究員		大西 徹
主任研究員		西川 康博
主任研究員		高橋 文緒
主任研究員		佐野 宏靖
副主任研究員		長谷川 孝
副主任研究員		高松 聡裕
副主任研究員		鈴木 悠矢
副主任研究員		高橋 俊也
副主任研究員		佐々木 秀勝
副主任研究員 (ワイド)		久慈 俊夫
研究員		福田 純子
研究員		秋山 美郷
研究員		小畑 輝
研究員 (ワイド)		井原 房雄
複合素材開発セクター		
セクター長		上野 博志
主任研究員		宇井 剛
主任研究員		小柴 多佳子
主任研究員		峯 英一
主任研究員		窪寺 健吾
副主任研究員		杉森 博和
副主任研究員		唐木 由佑
副主任研究員		武田 浩司
副主任研究員 (ワイド)		朝倉 守
研究員		渡辺 世利子
研究員 (ワイド)		池田 善光
研究員 (ワイド)		岩崎 謙次
顧問		
		原田 晃
		鈴木 雅洋

2019年3月31日現在

※ (ワイド) はワイドキャリアスタッフの略

※本年報から転載する場合には、前もって都産技研に連絡の上、了承を得てください。
本年報の内容は、ウェブサイトでもPDFファイルをご覧いただくことができます。
都産技研ウェブサイト：<https://www.iri-tokyo.jp/>

都産技 2019-1

地方独立行政法人東京都立産業技術研究センター
2018（平成30）年度 年報
2019年9月5日発行
ISSN1882-157X

発行 地方独立行政法人東京都立産業技術研究センター
経営企画部 経営企画室
〒135-0064 東京都江東区青海 2-4-10
TEL 03-5530-2521
FAX 03-5530-2536
URL <https://www.iri-tokyo.jp>

印刷所 日経印刷株式会社
〒102-0072 東京都千代田区飯田橋 2-15-5
TEL 03-6758-1001
FAX 03-3263-5814

平成30(2018)年度 年報
2019年9月



古紙配合率 70%
白色度 70%の再生紙を使用しています

石油系溶剤を含まないインキを使用しています